

唐
堀
B
遺
跡

唐 堀 B 遺 跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一七

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



2017

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

唐堀 B 遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジと長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジとを結ぶ総延長約80kmに及ぶ自動車専用の地域高規格道路です。この事業は、群馬県の「はばたけ群馬・県土整備プラン」で示された「7つの交通軸構想」のうちの「吾妻軸」に属し、関越自動車道と上信越自動車道とを結ぶ新たな交通体系として、吾妻地域の活性化に寄与することが期待されています。

この上信自動車道の8箇所の整備区間の一つである吾妻西バイパスは、吾妻郡東吾妻町大字厚田から大字松谷に至る約7kmの区間で、平成21年3月に整備区間に指定され、目下、事業完了を目指して事業が鋭意進められているところです。

吾妻郡東吾妻町大字三島に所在する当遺跡は、平成25年の群馬県教育委員会による埋蔵文化財の試掘調査によって、事業対象地において埋蔵文化財の包蔵が確認されたため、群馬県県土整備部と群馬県教育委員会との間での調整を経まして、平成26年8月から平成27年12月にかけて当事業団が発掘調査を実施しました。その結果、弥生時代と近世の遺構が発見され、このたび、発掘調査の成果をまとめ、発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県中之条土木事務所、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会、地元関係者の方々などに多大なるご指導とご協力を賜りました。ここに篤く御礼を申し上げますとともに、本書が地域における歴史の解明に役立てられますことを願ひまして、序といたします。

平成29年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 中野三智男

例 言

1. 本書は、平成26～27年度上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴い発掘調査された唐堀B遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字三鳥字唐堀3363-1、3364-4、B3363-3、B3363-6、B3363-12、3364-1、3396-1、3397-3、3398-2、3399、3400、3401、3402、3403、3404-1、B3405-7、B甲3405-1、C3405-1、B甲3406、3439、B3440、3441、B3442、B3445、B3446、B3447、B3448-1、C3448-1、B3448-2、B3449、B3451、C3451、B3454、3459、3460、B3471、B3472、3479他に所在する。
3. 事業主体は群馬県中之条土木事務所(平成25～28年度)、群馬県上信自動車道建設事務所(平成29年度～)である。
4. 調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。
5. 発掘調査の期間と体制は次のとおりである。

(平成26年度)

履行期間：平成26年8月1日～平成27年1月31日

調査期間：平成26年8月1日～平成26年10月31日

調査担当：関根慎二(上席専門員・調査統括)、松村和男(主任調査研究員)、相京建史(専門調査役)

遺跡掘削工事請負：株式会社シン技術コンサル北関東支店

地上測量委託：技研コンサル株式会社

(平成27年度)

履行期間：平成27年5月8日～平成28年3月31日

調査期間：平成27年6月1日～平成27年12月31日(唐堀遺跡と通算)

調査担当：長澤典子(主任調査研究員)、飯田陽一(専門調査役)

遺跡掘削工事請負：歴史の杜・吉澤建設・南波建設 吾妻地区埋蔵文化財遺跡掘削工事経常共同企業体

地上測量委託：株式会社測研

6. 整理事業の期間と体制は次のとおりである。

(平成28年度)

履行期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

整理期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

整理担当：高島英之(専門員(総括))、田村博(主任調査研究員)

(平成29年度)

履行期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

整理期間：平成29年4月1日～平成29年4月30日

整理担当：高島英之(専門員(総括))

7. 本書作成担当は次のとおりである。

編集・本文執筆：高島英之・田村博

遺物観察：石器・石製品—津島秀章(資料2課長(総括))

縄文・弥生土器—石坂茂(専門調査役)
土師器・須恵器—神谷佳明(専門調査役)
中近世陶磁器・土器—大西雅広(上席専門員・資料統括(平成28年度)、調査1課長(平成29年度))
金属製品—関邦一(補佐(総括)(平成28年度)、専門調査役(平成29年度))

デジタル編集 : 齊田智彦(主任調査研究員(平成28年度)、主任調査研究員・資料統括(平成29年度))

遺物写真撮影 : 石器・石製品—津島秀章
縄文・弥生土器—石坂茂
土師器・須恵器—田村博
中近世陶磁器・土器—大西雅広
金属器—関邦一

遺物保存処理 : 関邦一

8. 石材同定は飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。
9. 出土遺物および写真・図面等記録類は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。
10. 発掘調査および報告書作成には、次の関係機関、諸氏にご助言をいただいた。

群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会

凡 例

1. 本報告書に用いた遺構名称は、発掘調査時の名称を踏襲した。
2. 本報告書に用いた座標・方位は、すべて国家座標第IX系(世界測地系)による。主軸方位等の計算にもこれを用いた。
3. 本報告書の遺構図版縮尺は以下のとおり。ただし、遺構によってはこの限りではない。


遺構平面図 溝・畑・道路1/80、竪穴住居・掘立柱建物・櫛1/60、井戸・土坑・ピット・1/40、
配石・竪1/30。

遺構断面図 溝1/40、その他は平面図と同じ。

4. 本報告書の遺物図版縮尺は以下のとおり。ただし、遺物によってはこの限りではない。

縄文土器・弥生土器1/4・土師器・須恵器・中近世陶磁器・石器(石鏃以外)・石製品1/3、金属器1/2、
石器(石鏃)・銭貨1/1。

5. 本報告書のスクリーントーン表現は以下のとおり。

焼土  炭化物  灰  攪乱  石器磨面  石器滑らか面 

6. 本報告書における遺構等の略称は以下のとおり。

住…竪穴住居、掘・掘立…掘立柱建物、道…道路、井…井戸、土…土坑、P・ピ…ピット、カクラン…攪乱
配…配石

7. 本報告書中の遺構断面図の標高値は、原則として断面図下に「L=〇〇m」のように表記した。
8. 本報告書における土層断面図及び遺物観察表に記した色調表現は、農林水産省水産技術事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修1988『新版標準土色帳』によった。
9. 本報告書におけるテフラ(火山噴出物)の略号は以下のとおり(テフラの名称は町田洋・新井房夫1992『火山灰アトラス』東京大学出版会による)。

As-A…浅間A、As-Kk…浅間粕川、As-B…浅間B、As-C…浅間C、As-YP…浅間板鼻黄色、As-0k2…浅間大窪沢2、
As-0k1…浅間大窪沢1

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
挿図・表・写真図版目次	
第1章 調査に至る経緯、経過と方法	1
第1節 上信自動車道吾妻西バイパスについて	1
第2節 調査に至る経緯	2
第3節 発掘調査の経過	4
1. 平成26年度の発掘調査	4
2. 平成27年度の発掘調査	4
第4節 発掘調査の方法	6
1. 座標の設定	6
2. 調査の方法	6
3. 遺構測量	6
4. 遺構写真撮影	6
第5節 整理事業の経過と方法	7
1. 平成28年度の整理事業	7
2. 平成29年度の整理事業	7
第2章 周辺の環境	8
第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	8
1. 旧石器時代	8
2. 縄文時代	8
3. 弥生時代	12
4. 古墳時代	12
5. 奈良・平安時代	12
6. 中・近世	13
第3節 基本土層	13
第3章 遺構と遺物	16
第1節 1～4区1面の遺構と遺物	16
1. 掘立柱建物	16
2. 柵	29
3. 畑	35
4. 道路	40
5. 溝	42
6. 土坑	51
7. ビット	106
第2節 2～4区2面の遺構と遺物	117
1. 整穴住居	117
2. 溝	129
3. 土坑	135
4. ビット	141
第3節 5区1面の遺構と遺物	146
1. 畑	146
2. 溝	149
3. 土坑	150
第4節 5区2面の遺構と遺物	151
1. 畑	151
2. 溝	151
3. 配石	153
4. 土坑	154
第5節 5区3面の遺構と遺物	154
1. 溝	154
2. 配石	155
3. 井戸	156
4. 土坑	156
5. ビット	161
第6節 遺構外出土遺物	164
1. 2・4区遺構外出土遺物	164
2. 5区遺構外出土遺物	165
第4章 調査成果の整理とまとめ	168
第1節 各調査区、遺構確認面ごとの調査状況	168
第2節 検出された遺構について	169
検出ビット一覧表	
遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図	上信自動車道計画路線図	1	第64図	192・193号土坑	106
第2図	道路の位置	2	第65図	3区1面ビット-1	106
第3図	上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各道跡位置図	3	第66図	3区1面ビット-2	107
第4図	調査区設定図	5	第67図	3区1面ビット-3	108
第5図	周辺地形分類図	9	第68図	3区1面ビット-4	109
第6図	周辺道跡分布図	10	第69図	3区1面ビット-5	110
第7図	1区及び3区基本土層模式図	11	第70図	3区1面ビット-6	111
第8図	1号掘立柱建物	17	第71図	3区1面ビット-7	112
第9図	2号掘立柱建物	17	第72図	3区1面ビット-8	113
第10図	3号掘立柱建物	18	第73図	3区1面ビット-9	114
第11図	4号掘立柱建物	19	第74図	4区1面ビット-1	115
第12図	5号掘立柱建物	20	第75図	4区1面ビット-2	116
第13図	6号掘立柱建物	21	第76図	1号住居	118
第14図	7・8号掘立柱建物	23	第77図	1号住居・出土遺物	119
第15図	9号掘立柱建物	26	第78図	2号住居	121
第16図	10号掘立柱建物	27	第79図	2号住居断面・P1-16土層断面	122
第17図	11号掘立柱建物	27	第80図	2号住居P17-22土層断面・出土遺物	123
第18図	15号掘立柱建物	28	第81図	3号住居・出土遺物	124
第19図	16号掘立柱建物	30	第82図	4号住居	126
第20図	1・2号櫓	31	第83図	4号住居が・榎方・P1-11土層断面	127
第21図	3～5号櫓	33	第84図	4号住居遺物出土状況・出土遺物	128
第22図	6・7号櫓、7号櫓出土遺物	34	第85図	5号住居	130
第23図	1号畑	36	第86図	5号住居出土遺物-1	131
第24図	2～4・7号畑	37	第87図	5号住居出土遺物-2	132
第25図	9・10号畑	38	第88図	5号溝	133
第26図	11・12号櫓	39	第89図	22号溝	133
第27図	15号畑	40	第90図	25号溝・出土遺物	134
第28図	16・17号畑	40	第91図	34・44・72・73・81・96・119・125・132号土坑	137
第29図	1号道路	41	第92図	133・140・142・147・152・155号土坑、142号土坑出土遺物	139
第30図	1～3号溝	43	第93図	197・198号土坑	140
第31図	4・6～8・10・11号溝	45	第94図	194～196号土坑	141
第32図	9号溝	46	第95図	2区2面ビット-1	141
第33図	12～19号溝	49	第96図	2区2面ビット-2	142
第34図	20号溝	51	第97図	3区2面ビット-1	142
第35図	21号溝	51	第98図	3区2面ビット-2	143
第36図	1～4・6～8号土坑	56	第99図	3区2面ビット-3	144
第37図	5・9～17号土坑	57	第100図	3区2面ビット-4	145
第38図	19～23号土坑	58	第101図	4区2面ビット	146
第39図	18・41号土坑	59	第102図	18～20号畑	147
第40図	24～31・33号土坑	62	第103図	27号溝	149
第41図	35～37・39号土坑	63	第104図	27号溝出土遺物	150
第42図	40・42・43号土坑	64	第105図	200号土坑	150
第43図	45・46・58・59号土坑	68	第106図	21号畑	152
第44図	47～49・51・55～57号土坑	69	第107図	26号溝	153
第45図	60～65号土坑	70	第108図	3号配石	153
第46図	66～69・103号土坑	72	第109図	199号土坑	154
第47図	70・71・74号土坑	76	第110図	23号溝・出土遺物	155
第48図	75～80・82～84号土坑	77	第111図	2号配石	156
第49図	85～94号土坑	78	第112図	2号井戸・出土遺物	157
第50図	95・97・98号土坑	79	第113図	201～208号土坑	159
第51図	99～102号土坑	81	第114図	210・211号土坑	160
第52図	104・110～112・116号土坑	84	第115図	209・212号土坑、209号土坑出土遺物	161
第53図	105～109・121号土坑	85	第116図	5区3面ビット-1	162
第54図	113～115・117・118号土坑	86	第117図	5区3面ビット-2	163
第55図	120・122～124・126号土坑	88	第118図	5区3面ビット出土遺物	164
第56図	127・129・134～138号土坑	90	第119図	2・4区道橋外出土遺物	164
第57図	139・141・143～145・149号土坑	92	第120図	5区道橋外出土遺物-1	165
第58図	151・153・154号土坑	93	第121図	5区道橋外出土遺物-2	166
第59図	156～167号土坑	98	第122図	5区道橋外出土遺物-3	167
第60図	168～175号土坑	99	付図1	唐堀B道跡1～4区1面全体図	
第61図	20・31・57・76号土坑出土遺物	100	付図2	唐堀B道跡1～4区2面全体図	
第62図	176～183号土坑	103	付図3	唐堀B道跡5区1～3面全体図	
第63図	184～191号土坑	105			

表 目 次

第1表	検出遺構面対応表	6	第4表	遺構ごとの検出調査区及び確認面検出数	15
第2表	周辺の道跡	11	第5表	検出ピット一覧表	174
第3表	確認面ごとの調査区別遺構検出数	15	第6表	遺物観察表	179

写真目次

PL. 1	1	1区全景(北東から)	3	16号土坑全景(南から)
	2	2区全景(北西から)	4	16号土坑全景(北から)
PL. 2	1	2区全景(北西から)	5	17号土坑、2掘P3全景(東から)
	2	2区全景(北西から)	6	18(右)・41(左)号土坑全景(南から)
	3	2区全景(北西から)	7	19号土坑全景(西から)
	4	2区全景(南東から)	8	20号土坑、122号ピット全景(南から)
	5	2区全景(東から)	PL. 12	1 21号土坑、1掘P3(右)と2掘P5・6(左)全景(北東から)
	6	2区調査風景(北西から)	2	2号掘立柱建物P5(左)・6(右)全景(北から)
	7	3区調査全景(南西から)	3	22号土坑全景(南から)
	8	3区調査風景(東から)	4	23号土坑全景(南から)
PL. 3	1	3区全景(東から)	5	24号土坑全景(西から)
	2	3区全景(東から)	6	24(左)・25(右)号土坑全景(西から)
PL. 4	1	4区全景(北東から)	7	26号土坑全景(東から)
	2	4区全景(北東から)	PL. 13	1 27号土坑全景(西から)
	3	4区全景(北東から)	2	28(左)・31(右)号土坑全景(北から)
	4	4区全景(北西から)	3	30号土坑全景(南から)
	5	4区全景(北西から)	4	31号土坑遺物出土状況(西から)
	6	4区調査風景(東から)	5	33号土坑全景(北から)
	7	4区調査風景(東から)	6	39・102号土坑(左)と79・83号土坑(右)全景(東から)
PL. 5	1	5区全景(南から)	7	35号土坑全景(北から)
	2	5区西側全景(南東から)	PL. 14	1 35(奥)・36(右)・37(左)号土坑全景(東から)
	3	5区西側全景(東から)	2	40号土坑全景(東から)
	4	5区北西隅全景(東から)	3	41(右)・18(左)号土坑全景(北から)
	5	5区東側全景(東から)	4	42号土坑全景(東から)
	6	5区東側全景(東から)	5	42(奥・右)・77(奥・左)・78(手前)号土坑全景(東から)
	7	5区東側全景(東から)	PL. 15	1 43号土坑全景(東から)
PL. 6	1	1(内側)・2(外側)号掘立柱建物全景(北から)	2	43号土坑全景(西から)
	2	10(右)・11(左)号掘立柱建物全景(北から)	3	44号土坑全景(南から)
	3	15(手前)・16(奥)号掘立柱建物全景(東から)	4	45(右)・58(左)号土坑(東から)
	4	16号掘立柱建物全景(東から)	5	46号土坑全景(西から)
	5	1号燵全景(西から)	6	47号土坑、10掘P1全景(西から)
	6	1号燵全景(東から)	7	48号土坑全景(南から)
	7	1号燵全景(南から)	8	49号土坑全景(南から)
PL. 7	1	2・3号燵全景(南から)	PL. 16	1 51号土坑全景(東から)
	2	2・3号燵全景(南から)	2	55号土坑全景(南から)
	3	4号燵全景(南東から)	3	56号土坑全景(南から)
	4	7号燵全景(南から)	4	57号土坑全景(南から)
	5	9号燵全景(東から)	5	58(奥・左)・45(奥・右)・50(手前)号土坑全景(東から)
	6	10号燵全景(南から)	6	60号土坑全景(南から)
	7	16(奥)・17(手前)号燵全景(東から)	7	61号土坑、129・212号ピット全景(東から)
	8	1号道路全景(西から)	8	62号土坑全景(南から)
PL. 8	1	1(左)・2(右)号溝全景(南から)	PL. 17	1 63(手前・左)・64(手前・右)号土坑全景(南から)
	2	3号溝全景(西から)	2	67号土坑全景(北から)
	3	4号溝全景(東から)	3	65号土坑全景(南から)
	4	6(左)・7(右)号溝全景(西から)	4	68(手前)・69(奥)号土坑全景(南から)
PL. 9	1	9号溝全景(西から)	5	69号土坑全景(南から)
	2	11号溝全景(東から)	6	70号土坑全景(南から)
	3	1区15号燵、12～19号溝全景(東から)	7	71号土坑全景(東から)
PL. 10	1	20号溝全景(西から)	PL. 18	1 74号土坑全景(南から)
	2	21号溝全景(北東から)	2	75(左)・80(右)号土坑全景(南から)
	3	3号土坑全景(北から)	3	76号土坑全景(東から)
	4	6(奥)・7(手前)号土坑、40号ピット全景(北から)	4	76号土坑全景(東から)
	5	8号土坑、9号ピット全景(北から)	5	78号土坑、199号ピット全景(東から)
	6	12号土坑全景(南から)	6	79(左)・83(右)号土坑全景(東から)
PL. 11	1	13(奥)・15(手前)号土坑全景(南東から)	7	82号土坑全景(南から)
	2	13(右)・14(左)・15(中央)号土坑全景(北から)	8	83号土坑全景(東から)

PL. 19	1	84号土坑全景(西から)		7	169号土坑全景(南から)
	2	85(手前)・86(奥・左)・87(奥・右)号土坑全景(南から)	PL. 28	1	170号土坑全景(南から)
	3	85号土坑全景(南から)		2	171号土坑全景(西から)
	4	86号土坑全景(南から)		3	172号土坑全景(南から)
	5	87号土坑全景(南から)		4	173号土坑全景(南から)
	6	88号土坑全景(南から)	PL. 29	1	174号土坑全景(西から)
	7	89号土坑全景(南から)		2	175号土坑全景(南から)
	8	90号土坑、9欄P 1 全景(西から)		3	176号土坑全景(北から)
PL. 20	1	91号土坑全景(西から)		4	177号土坑全景(南から)
	2	92号土坑全景(南から)		5	178号土坑全景(南西から)
	3	93号土坑全景(南から)		6	179号土坑全景(西から)
	4	94(手前)・62(奥)号土坑全景(南から)		7	181号土坑全景(西から)
	5	95号土坑全景(西から)		8	183号土坑全景(北から)
	6	97号土坑全景(北から)	PL. 30	1	180号土坑全景(南から)
	7	98(左)・97(右)号土坑全景(北から)		2	182号土坑全景(北から)
PL. 21	1	99号土坑全景(南から)		3	186号土坑全景(東から)
	2	100号土坑全景(南から)		4	189号土坑全景(東から)
	3	101号土坑全景(南から)	PL. 31	1	184号土坑全景(東から)
	4	102号土坑全景(南から)		2	185号土坑全景(東から)
	5	103号土坑全景(南から)		3	187号土坑全景(東から)
	6	104号土坑全景(南から)		4	188号土坑全景(南東から)
	7	106号土坑全景(西から)		5	190号土坑全景(南から)
	8	107(右)・108(左)号土坑全景(西から)		6	191号土坑全景(南西から)
PL. 22	1	109号土坑北側全景(南から)	PL. 32	1	192号土坑全景(南から)
	2	110号土坑全景(南から)		2	193号土坑全景(北西から)
	3	111号土坑全景(西から)		3	4区調査風景(東から)
	4	112号土坑全景(西から)		4	1・2(右)・3(左)号ピット全景(北から)
	5	113(手前)・114(奥)号土坑全景(西から)		5	1(右)・2(左)号ピット全景(北から)
	6	115号土坑全景(西から)		6	5号ピット全景(北から)
	7	116号土坑、198号ピット全景(南から)		7	6号ピット全景(北から)
PL. 23	1	117(左)・118(右)号土坑全景(北から)	PL. 33	1	7号ピット全景(東から)
	2	120号土坑全景(北から)		2	8号ピット全景(南から)
	3	121(奥・左)・107(手前・右)・108(手前・左)号土坑全景(西から)		3	11号ピット全景(北から)
	4	121号土坑全景(西から)		4	13号ピット全景(東から)
	5	122号土坑全景(西から)		5	17号ピット全景(北から)
	6	123号土坑全景(西から)		6	19号ピット全景(南から)
	7	124号土坑全景(南から)		7	25号ピット全景(南から)
PL. 24	1	127号土坑全景(北から)		8	26号ピット全景(南から)
	2	129号土坑全景(西から)		9	31号ピット全景(南から)
	3	134号土坑全景(南から)		10	40号ピット全景(東から)
	4	135号土坑全景(南から)		11	61号ピット全景(南から)
	5	136(手前)・137(中央)・138(奥)号土坑全景(西から)		12	66号ピット全景(南から)
	6	136号土坑全景(西から)		13	68～75号ピット全景(西から)
	7	137号土坑全景(西から)		14	68号ピット全景(西から)
PL. 25	1	138号土坑西側全景(西から)		15	69号ピット全景(西から)
	2	139号ピット全景(東から)	PL. 34	1	70号ピット全景(西から)
	3	139号土坑、7欄P 2、15欄P 8 全景(北から)		2	73号ピット全景(西から)
	4	141号土坑全景(南から)		3	78号ピット全景(南から)
	5	143号土坑全景(西から)		4	79号ピット全景(南から)
	6	144号土坑全景(東から)		5	80号ピット全景(南から)
	7	145号土坑全景(東から)		6	82号ピット全景(南から)
	8	149号土坑全景(南東から)		7	83号ピット全景(南から)
PL. 26	1	151号土坑全景(南から)		8	84号ピット全景(南から)
	2	153号土坑全景(東から)		9	85号ピット全景(南から)
	3	154号土坑全景(南から)		10	87号ピット全景(南から)
	4	156号土坑全景(西から)		11	88号ピット全景(南から)
	5	157(右)・158(左)号土坑全景(西から)		12	90号ピット全景(南から)
	6	158号土坑全景(西から)		13	93号ピット全景(東から)
	7	159号土坑全景(西から)		14	96号ピット全景(東から)
	8	160号土坑全景(西から)		15	97号ピット全景(東から)
PL. 27	1	161号土坑、379号ピット全景(南から)	PL. 35	1	98号ピット全景(東から)
	2	161号土坑全景(南から)		2	99号ピット全景(東から)
	3	162号土坑全景(東から)		3	102号ピット全景(東から)
	4	165号土坑全景(南から)		4	103号ピット全景(東から)
	5	166号土坑全景(南から)		5	104号ピット全景(東から)
	6	167号土坑全景(南から)		6	105号ピット全景(南から)

	7	107号ビット全景(南から)		13	227号ビット全景(南から)
	8	109号ビット全景(南から)		14	230号ビット全景(東から)
	9	110号ビット全景(南から)		15	232号ビット全景(東から)
	10	112号ビット全景(南から)	PL. 40	1	233号ビット全景(東から)
	11	113号ビット全景(南から)		2	234号ビット全景(東から)
	12	114号ビット全景(南から)		3	235号ビット全景(東から)
	13	115号ビット全景(南から)		4	237号ビット全景(東から)
	14	116号ビット全景(南から)		5	240号ビット全景(南から)
	15	117号ビット全景(南から)		6	241号ビット全景(南から)
PL. 36	1	118号ビット全景(南から)		7	244号ビット全景(南から)
	2	119号ビット全景(南から)		8	245号ビット全景(南から)
	3	120号ビット全景(南から)		9	246号ビット全景(南から)
	4	121号ビット全景(南から)		10	247号ビット全景(南から)
	5	122号ビット全景(南から)		11	248号ビット全景(南から)
	6	123号ビット全景(南から)		12	250号ビット全景(南から)
	7	124号ビット全景(東から)		13	251号ビット全景(西から)
	8	127号ビット全景(南から)		14	252号ビット全景(西から)
	9	128号ビット全景(東から)		15	255号ビット全景(西から)
	10	129号ビット全景(東から)	PL. 41	1	256号ビット全景(西から)
	11	131号ビット全景(西から)		2	257号ビット全景(西から)
	12	132号ビット全景(東から)		3	262号ビット全景(南から)
	13	133号ビット全景(東から)		4	266号ビット全景(西から)
	14	134号ビット全景(東から)		5	269号ビット全景(南から)
	15	135号ビット全景(東から)		6	273号ビット全景(西から)
PL. 37	1	136号ビット全景(東から)		7	279号ビット全景(南から)
	2	137号ビット全景(東から)		8	286号ビット全景(南から)
	3	138号ビット全景(東から)		9	289号ビット全景(南から)
	4	141号ビット全景(南から)		10	292号ビット全景(南から)
	5	142号ビット全景(東から)		11	300号ビット全景(南から)
	6	143号ビット全景(南から)		12	308号ビット全景(西から)
	7	146号ビット全景(南から)		13	309号ビット全景(西から)
	8	147号ビット全景(南から)		14	310号ビット全景(西から)
	9	148号ビット全景(東から)		15	313号ビット全景(西から)
	10	152号ビット全景(西から)	PL. 42	1	314号ビット全景(西から)
	11	160号ビット全景(南から)		2	316号ビット全景(西から)
	12	164号ビット全景(南から)		3	317号ビット全景(西から)
	13	172号ビット全景(南から)		4	322号ビット全景(西から)
	14	178号ビット全景(南から)		5	325号ビット全景(西から)
	15	179号ビット全景(南から)		6	329号ビット全景(西から)
PL. 38	1	181号ビット全景(南から)		7	331号ビット全景(西から)
	2	185号ビット全景(東から)		8	335号ビット全景(西から)
	3	188号ビット全景(西から)		9	344号ビット全景(西から)
	4	190号ビット全景(南から)		10	347号ビット全景(西から)
	5	191号ビット全景(南から)		11	353号ビット全景(西から)
	6	193号ビット全景(南から)		12	354号ビット全景(南から)
	7	197号ビット全景(東から)		13	355号ビット全景(東から)
	8	199号ビット全景(北から)		14	356号ビット全景(西から)
	9	200号ビット全景(東から)		15	361号ビット全景(西から)
	10	200(手前)・212(奥)号ビット全景(東から)	PL. 43	1	362号ビット全景(東から)
	11	201号ビット全景(東から)		2	363号ビット全景(南から)
	12	202号ビット全景(南から)		3	364号ビット全景(南から)
	13	203号ビット全景(南から)		4	365号ビット全景(南から)
	14	204号ビット全景(南から)		5	366号ビット全景(南から)
	15	205号ビット全景(南から)		6	367号ビット全景(南から)
PL. 39	1	207号ビット全景(南から)		7	368号ビット全景(東から)
	2	209号ビット全景(南から)		8	369号ビット全景(東から)
	3	210号ビット全景(南から)		9	370号ビット全景(南から)
	4	213号ビット全景(東から)		10	371号ビット全景(北から)
	5	216号ビット全景(西から)		11	372号ビット全景(北から)
	6	217号ビット全景(西から)		12	373号ビット全景(北から)
	7	218号ビット全景(西から)		13	373(手前)・374(奥)号ビット全景(北から)
	8	219号ビット全景(東から)		14	374号ビット全景(北から)
	9	220号ビット全景(東から)		15	376号ビット全景(北から)
	10	222号ビット全景(東から)		1	377号ビット全景(南から)
	11	225号ビット全景(東から)	PL. 44	2	378号ビット全景(南から)
	12	226号ビット全景(南から)		3	379号ビット全景(南から)

	4	380号ビッド全景(南から)		5	425号ビッド全景(北西から)
	5	381号ビッド全景(南から)		6	426号ビッド全景(南西から)
	6	382号ビッド全景(南から)		7	1区調査風景(西から)
	7	386号ビッド全景(南から)		8	1区調査風景(北西から)
	8	387号ビッド全景(南から)		9	81号ビッド全景(東から)
	9	397号ビッド全景(南から)		10	155号ビッド全景(西から)
	10	398号ビッド全景(南から)		11	156号ビッド全景(西から)
	11	399号ビッド全景(西から)	PL. 54	1	157号ビッド全景(西から)
	12	403号ビッド全景(南から)		2	161号ビッド全景(西から)
	13	404号ビッド全景(南から)		3	162(手前)・163(奥)号ビッド全景(西から)
	14	405号ビッド全景(南から)		4	163号ビッド全景(西から)
	15	406号ビッド全景(南から)		5	167号ビッド全景(西から)
PL. 45	1	407(左)・408(右)号ビッド全景(南から)		6	194号ビッド全景(西から)
	2	410号ビッド全景(南から)		7	195号ビッド全景(南から)
	3	411号ビッド全景(南から)		8	196号ビッド全景(南から)
	4	412(左)・413(右)号ビッド全景(南から)		9	231号ビッド全景(東から)
	5	414号ビッド全景(東から)		10	236号ビッド全景(東から)
	6	415号ビッド全景(南から)		11	238号ビッド全景(東から)
	7	416号ビッド全景(東から)		12	239号ビッド全景(南から)
	8	417号ビッド全景(南から)		13	242号ビッド全景(南から)
	9	418号ビッド全景(南から)		14	264号ビッド全景(東から)
	10	419(左)・420(右)号ビッド全景(南から)		15	265号ビッド全景(南から)
PL. 46	1	1号住居全景(南から)	PL. 55	1	268号ビッド全景(南から)
	2	1号住居掘方全景(南から)		2	270号ビッド全景(南から)
	3	1号住居跡全景(南から)		3	272号ビッド全景(南から)
	4	1号住居遺物(No.1)出土状況(北西から)		4	274号ビッド全景(南から)
	5	1号住居遺物(No.1)出土状況(西から)		5	275号ビッド全景(南から)
PL. 47	1	2号住居全景(南から)		6	276号ビッド全景(南から)
	2	2号住居掘方全景(南から)		7	277号ビッド全景(南から)
	3	2号住居遺物(No.1~4)出土状況(南から)		8	278号ビッド全景(南から)
	4	3号住居掘方全景(南から)		9	280号ビッド全景(南から)
	5	3号住居跡全景(南から)		10	281号ビッド全景(南から)
PL. 48	1	3号住居全景(南から)		11	282号ビッド全景(南から)
	2	4号住居全景(南から)		12	283号ビッド全景(南から)
PL. 49	1	4号住居掘方全景(南から)		13	284号ビッド全景(南から)
	2	4号住居1号跡全景(南から)		14	287号ビッド全景(南から)
	3	4号住居2号跡全景(東から)		15	288号ビッド全景(南から)
	4	4号住居遺物(No.1)出土状況(南から)			
	5	4号住居遺物(No.1)出土状況(南から)	PL. 56	1	290号ビッド全景(南から)
	6	5号住居掘方全景(南から)		2	291号ビッド全景(南から)
	7	5号住居跡全景(南から)		3	294号ビッド全景(南から)
	8	5号住居跡出土状況(南から)		4	295号ビッド全景(南から)
PL. 50	1	5号住居全景(南から)		5	296号ビッド全景(南から)
	2	5号住居上面露出土状況1(東から)		6	297号ビッド全景(南から)
	3	5号住居上面露出土状況2(東から)		7	298号ビッド全景(南から)
	4	5号住居上面露・遺物等出土状況(東から)		8	299号ビッド全景(南から)
	5	5号溝全景(南から)		9	301号ビッド全景(西から)
PL. 51	1	22号溝全景(東から)		10	304号ビッド全景(西から)
	2	44号土坑全景(北から)		11	305号ビッド全景(西から)
	3	72号土坑全景(南から)		12	318号ビッド全景(西から)
	4	81号土坑全景(西から)		13	319号ビッド全景(西から)
	5	96号土坑全景(西から)		14	320号ビッド全景(西から)
	6	119号土坑全景(北から)		15	321号ビッド全景(西から)
	7	125号土坑全景(西から)	PL. 57	1	323号ビッド全景(西から)
PL. 52	1	133号土坑全景(北から)		2	326号ビッド全景(西から)
	2	140号土坑全景(西から)		3	327号ビッド全景(西から)
	3	142号土坑全景(南から)		4	330号ビッド全景(西から)
	4	152号土坑全景(南から)		5	332号ビッド全景(西から)
	5	155号土坑全景(南から)		6	333号ビッド全景(西から)
	6	194号土坑全景(南から)		7	334号ビッド全景(西から)
	7	195号土坑全景(南から)		8	337号ビッド全景(西から)
	8	196号土坑全景(北から)		9	338号ビッド全景(西から)
PL. 53	1	197号土坑全景(南から)		10	339号ビッド全景(西から)
	2	198号土坑全景(北から)		11	340号ビッド全景(西から)
	3	423号ビッド全景(南西から)		12	341号ビッド全景(西から)
	4	424号ビッド全景(南西から)		13	342号ビッド全景(西から)
				14	343号ビッド全景(西から)

	15	345号ビット全景(西から)		4	210号土坑全景(東から)
PL. 58	1	346号ビット全景(西から)		5	210号土坑遺物出土状況(東から)
	2	348号ビット全景(西から)		6	211号土坑全景(西から)
	3	349号ビット全景(西から)		7	211号土坑遺物出土状況(西から)
	4	350号ビット全景(西から)	PL. 62	1	212号土坑全景(西から)
	5	351号ビット全景(西から)		2	212号土坑遺物出土状況(北から)
	6	352号ビット全景(西から)		3	433号ビット全景(東から)
	7	359(手前・右)・360(手前・左)号ビット全景(南から)		4	434号ビット全景(東から)
	8	358号ビット全景(南から)		5	435号ビット全景(東から)
	9	359号ビット全景(南から)		6	436号ビット全景(東から)
	10	360号ビット全景(南から)		7	437(左)・438(右)号ビット全景(南から)
	11	428号ビット全景(西から)		8	439号ビット全景(西から)
	12	429号ビット全景(西から)		9	440号ビット全景(南西から)
	13	430号ビット全景(南東から)		10	441号ビット全景(南西から)
	14	431号ビット全景(東から)		11	442号ビット全景(南西から)
	15	432号ビット全景(東から)		12	443号ビット全景(西から)
PL. 59	1	18～20号燵全景(南から)		13	444号ビット全景(南西から)
	2	18号燵全景(南から)		14	445号ビット全景(南西から)
	3	19号燵全景(南から)	PL. 63	1	446号ビット全景(南から)
	4	20号燵全景(南から)		2	447(左)・448(右)号ビット全景(西から)
	5	200号土坑全景(北から)		3	449号ビット全景(西から)
	6	200号土坑遺物出土状況(北から)		4	450号ビット全景(西から)
	7	199号土坑全景(南東から)		5	451号ビット全景(西から)
	8	2号配石東側遺物出土状況(南から)		6	452号ビット全景(西から)
PL. 60	1	23号溝全景(東から)		7	453号ビット全景(南から)
	2	2号井戸全景(北から)		8	5区調査風景(東から)
	3	201号土坑全景(西から)		9	5区調査風景(東から)
	4	202号土坑全景(南から)	PL. 64	7	号櫓。20・31・57・76号土坑、1～3号住居出土遺物
	5	203(左)・204(右)号土坑全景(南から)	PL. 65	4	・5号住居出土遺物(1)
	6	206号土坑全景(東から)	PL. 66	5	号住居(2)、25号溝、142号土坑出土遺物
	7	207号土坑全景(西から)	PL. 67	23・27号溝、5区3面ビット、2・4区遺構外、	
PL. 61	1	207号土坑遺物出土状況(西から)		5	区遺構外出土遺物(1)
	2	208号土坑全景(南から)	PL. 68	5	区遺構外出土遺物(2)
	3	209号土坑全景(東から)			

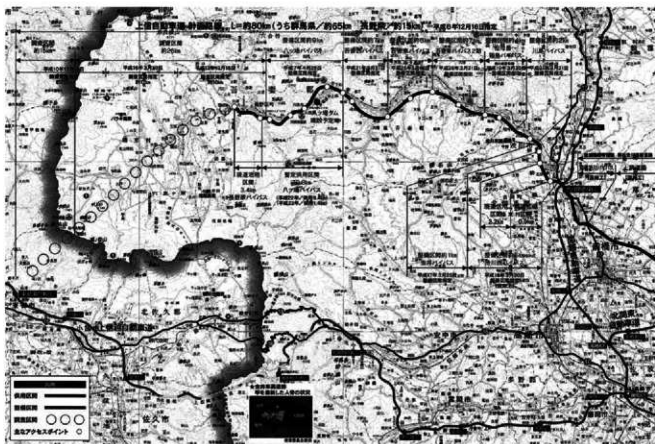
第1章 調査に至る経緯、経過と方法

第1節 上信自動車道 吾妻西バイパスについて

上信自動車道(国道145・353号バイパス)は、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへと至る総延長約80km(群馬県約65km、長野県約15km)の地域高規格道路として、平成6年12月16日に計画路線の指定を受けた。この道路は、群馬県の「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」における「吾妻軸」として位置づけられ、関越自動車道と上信越自動車道を連携し、吾妻地域の活性化支援に大きく寄与することが期待され、起点となる関越自動車道渋川伊香保インターチェンジの東側に続く前橋渋川バイパスや上武道路を含めた地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」とともに、本県の広域的ネットワークを形成する重要路線である。

この上信自動車道は、起点から県境までを渋川西バイパス(国施工区間約5km)、金井バイパス(約1km)、川島バイパス(約2km)、祖母島～箱島バイパス(約4km)、吾妻東バイパス2期(約7km)、吾妻東バイパス(約6km)、吾妻西バイパス(約7km)、ハッ場バイパス(約9km)の各整備区間と、さらに調査区間(約26km)とに分かれている。この中には、既に現道活用や暫定供用されている区間もある。

吾妻西バイパスは、国道145号バイパスの一部となる整備区間の一つで、東吾妻町大字厚田(吾妻東バイパスとの接続地点)から東吾妻町大字松谷(供用が開始されているハッ場バイパスとの接続地点)までの区間であり、途中には吾妻川を渡る橋梁も含まれる。また、この整備区間は東吾妻町大字厚田、三島、岩下、松谷に位置し、特に三島地区は吾妻川を挟んだ対岸に標高802.6mの奇岩・怪岩に覆われた岩櫃山を望み、さらには四戸古墳



第1図 上信自動車道計画路線図(群馬県HP「上信自動車道」より引用 <http://www.pref.gunma.jp/contents/100010158.pdf>)

群(町指定史跡昭和47年指定)や唐堀遺跡(昭和55年調査縄文時代晩期)、三島根古屋城(中世城郭)といった埋蔵文化財があることでも知られている地区である。

第2節 調査に至る経緯

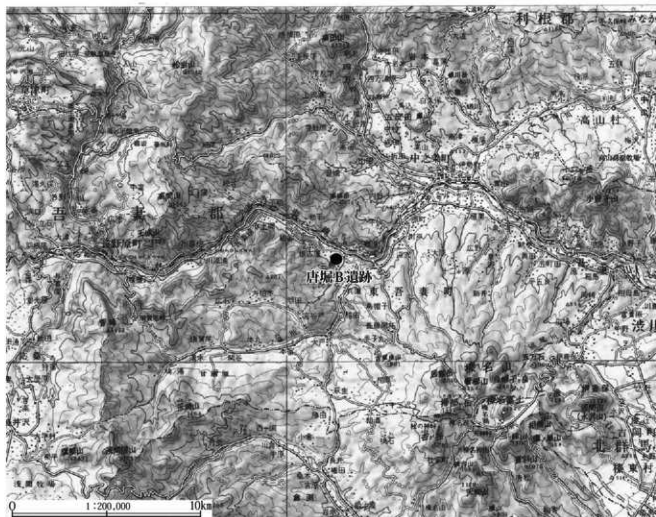
吾妻西バイパスは、平成21年3月31日に整備区間の指定を受け、その後、路線測量、関係機関との調整や地元への協力要請を経て、用地取得等の工事着工準備が進められた。

対象地における文化財の取り扱いについては、平成23年5月13日に工事を監理する群馬県県土整備部建設企画課から群馬県教育委員会文化財保護課に、当該区間における埋蔵文化財の有無と取扱について照会があった。これを受けた県教育委員会文化財保護課では、平成23年6月3日に、工事対象箇所における埋蔵文化財包蔵の有無

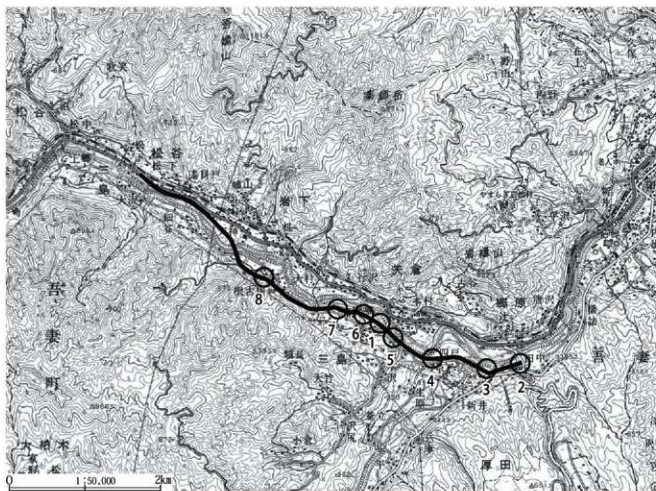
を明確にするため、試掘調査が必要である旨回答した上で、調査範囲と調査面積の確定、調査期間や経費算定のため、用地取得の終わった箇所ごとに順次、試掘調査を行い、埋蔵文化財の包蔵を確認した。その結果は逐次、県中之条土木事務所に通知され、協議の結果、工事計画等の変更が不可能なことから、工事対象範囲に包蔵される埋蔵文化財について、やむを得ず発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査は、群馬県教育委員会 の指導のもと、群馬県中之条土木事務所を委託者、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を受託者として委託契約を締結し、発掘調査事業が実施されることとなった。

吾妻西バイパスの最初の発掘調査は平成25年8月からの原田中村遺跡、同年9月からの四戸遺跡の順で着手され、その後、各遺跡の発掘調査が断続的に進められており、発掘調査は現在も進行中である。



第2図 遺跡の位置(国土地理院1/200,000地勢図「長野」平成24年5月1日発行を使用)



第3図 上信自動車道吾妻西バイパスの路線と各遺跡位置図(国土地理院1/50000地形図「草津」中之条を使用)

- | | | | | |
|---------|----------|--------|--------|----------|
| 1 唐堀B遺跡 | 2 厚田中村遺跡 | 3 新井遺跡 | 4 四戸遺跡 | 5 万木沢B遺跡 |
| 6 唐堀遺跡 | 7 唐堀C遺跡 | 8 根古屋城 | | |

本遺跡の発掘調査は、群馬県中之条土木事務所と群馬県教育委員会文化財保護課との協議を踏まえ、文化財保護課による試掘調査と調整を経て実施が決定された。平成25(2013)年11月11日付け中土第32200-18号にて中之条土木事務所長より県教育委員会事務局文化財保護課長あて当該箇所の試掘調査依頼があり、それを承けて、同年12月17日～19日及び平成26(2014)年8月11日～12日に県教育委員会文化財保護課が試掘・確認調査を実施し、遺構の存在を確認した。それを承けて、県教育委員会文化財保護課は、同年1月15日付け文財第706-89号及び9月8日付け文財第706-46号にて中之条土木事務所長にあてて、工事対象地においては工事に先立って発掘調査が必要であることを回答した。

これによって、県教育委員会と県土整備部との間での調整を経て、工事を実施するに当たって、現状における

遺跡の保存が困難であることから、やむを得ず発掘調査による記録保存の措置をとることが合意された。その後、発掘調査の実務を行う公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を交えての協議が進められ、当該地における埋蔵文化財の発掘調査は、県中之条土木事務所の委託を受けた公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することが決せられた。

先述の通り、本遺跡の調査範囲の確定のための試掘調査は、群馬県教育委員会文化財保護課により、前記の平成25年12月17～19日に11ヶ所、平成26年8月12日に2ヶ所のトレンチを設定し実施された。その結果、As-Kk・As-Bの堆積、縄文時代から平安時代の遺構が確認されたことから、群馬県教育委員会文化財保護課は本調査が必要と判定した。

第3節 発掘調査の経過

発掘調査は、平成26(2014)年度の8月～10月の間と、翌平成27(2015)年度に6月から12月にかけての7ヶ月間(唐堀遺跡と通算)で、合計7745.5m³を対象として実施した。

1. 平成26年度の発掘調査

平成26年度の発掘調査は、8月1日から10月31日にかけての3ヶ月間実施した。

調査面は軽石を含む黒褐色土層(Ⅲ層、基本土層は第2章第3節参照)の下面を第1面(中近世面)とし、その下のぶい黄褐色土層(As-B、Ⅳ層)と黒褐色土層(Ⅴ層)を除去した面を第2面(弥生時代～平安時代)、さらに下のぶい黄褐色土層(Ⅵ層)と黒褐色土層(Ⅶ層)を除去した面を第3面(縄文時代)とした。第3面から遺構は確認されなかった。発掘調査は8月5日に着手し、10月31日に終了した。

平成26年9月26日には、唐堀地区住民を対象に唐堀B遺跡文化財説明会を開催した。

2. 平成27年度の発掘調査

平成27年度の発掘調査は、6月から12月にかけての7ヶ月間(唐堀遺跡と通算)、実施した。調査区は道路や地形により東から1～6区と設定した。これにより、平成26年度調査区は3区と改めて設定された。調査面は基本的に平成26年度調査区と同じだが、5区のみは他の調査区の面と整合していない。なお、1区の第2・3面、2・4区の第3面、及び6区からは遺構は確認されなかった。

発掘調査は6月8日から1区、11日から2区、12日から4区、7月7日から5区の順にそれぞれ着手し、9月24日に一時終了した。その後、12月7日から再開し、3区及び6区の調査を行い、12月9日に終了した。

なお、平成28年度中に、唐堀遺跡の調査の傍ら、前年度までの未買収箇所について確認調査を実施したが、遺構・遺物は全く検出されなかったので、当遺跡の発掘調査は、平成27年度までの調査ですべて終了したことになる。

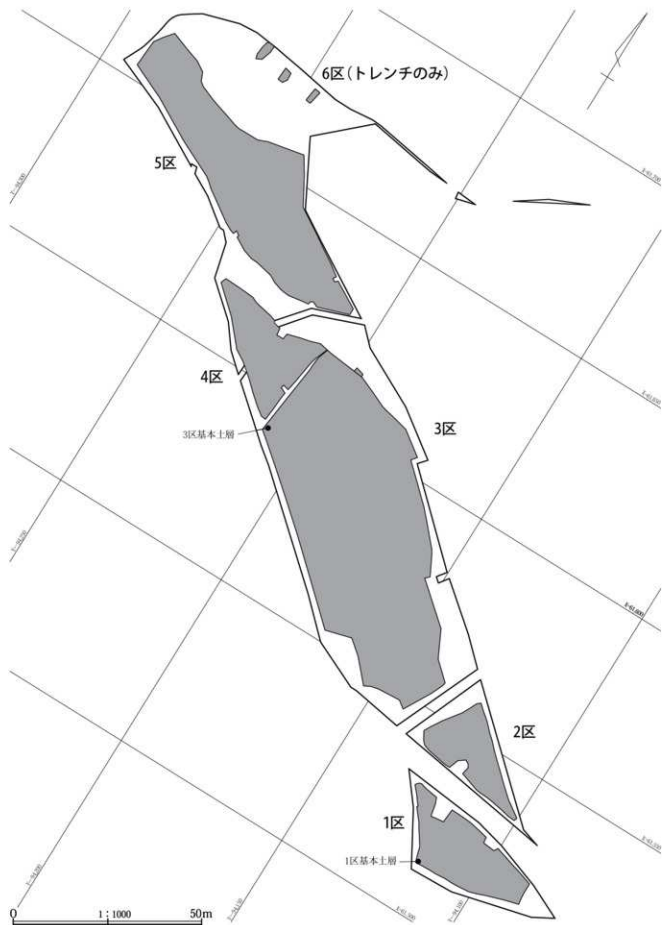
調査日誌抄

平成26年度

8月1～5日	発掘調査事務所設置、調査準備。
8月5日	3区調査着手。
9月26日	唐堀地区住民対象文化財説明会開催。
10月23日	3区調査終了。
10月24日	3区埋め戻し開始。
10月28日	3区埋め戻し終了。
10月31日	発掘調査事務所撤収。

平成27年度

6月1～5日	発掘調査事務所設置、調査準備。
6月8日	1区調査着手。
6月11日	2区調査着手。
6月12日	4区調査開始。
6月22日	1区調査終了。
7月7日	2区調査終了、5区調査着手。
7月14日	4区調査終了。
7月15日	4区埋め戻し。
7月24日	1・2区埋め戻し開始。
7月27日	1・2区埋め戻し終了。
9月18日	5区調査終了。
9月24日	5区埋め戻し。
12月7日	3区(北)調査開始。
12月8日	3区(北)調査終了、埋め戻し。
12月9日	6区確認調査、埋め戻し。唐堀B遺跡調査終了。



第4図 調査区設定図

第1表 検出遺構面対表

	1区	2区	3区	4区	5区	6区
近世～	1面				1面	トレンチのみ
中近世					2面	
弥生時代後期以降	(3面)					
弥生時代後期以前					(3面)	

※括弧付きの面は遺物のみ出土で遺構なし(全体図、遺構図なし)

第4節 発掘調査の方法

1. 座標の設定

発掘調査に用いた座標は世界測地系(日本測地系2000平面直角座標Ⅸ区)であり、10m×10mを基本とし設定した。遺構図中の座標については、座標値の下3桁を「X軸-Y軸」の順で記し、「X=61600、Y=94200」の場合、「600-200」のように表記した。

2. 調査の方法

調査の方法は文化庁文化財保護部監修、国立文化財機構奈良文化財研究所編『発掘調査のてびき』に準じた。

表土除去は基本的にバックフォアを主体とした重機により行った。

表土除去後、平面精査及び遺構確認を行った。確認された遺構は、埋没土層確認用ベルトを任意に設定し、発掘作業員が移植鋤等で掘削し、遺構断面及び平面測量及び写真撮影等を行い、実測図及び写真によって記録した。

発掘調査によって録られた遺構・遺物にかかる記録類は、写真については、デジタルカメラで撮影されたものはデジタルデータとして、またフィルムによって記録されたものはフィルムおよび検索用の焼き付け写真として保管し、整理作業に備えた。

遺構番号は、調査区に関わらず、本遺跡全体における通し番号とした。

また、調査過程において出土した遺物については、出土した遺構ごとに出土地点を記録し、整理・集約した上で、洗浄および出土遺跡・遺構・出土地点等に関するデータを注記する作業を業者委託し、業者から提出を受け

た成果品については、発掘調査担当者が逐次、点検・照合し、受領した。

調査終了後の埋め戻しの作業は、基本的にバックフォアを主体とする重機によって行った。

3. 遺構測量

遺構図は遺構断面及び平面実測図とも縮尺1/20を基本とし、遺構の状況に応じて適宜、縮尺1/10・1/40とした。

遺構平面実測図の作成に当たっては、指名競争入札によって落札した測量会社にデジタル測量を委託し、データを収録したCD-ROM及び打ち出し図面の提出を受けた。

遺構断面実測図は、原則として発掘現場における発掘作業員によってアナログ実測で作成されたものを元に、測量会社にデジタルデータ化を委託し、遺構平面実測図と同様、データを収録したCD-ROMおよびデジタルデータによって作成された打ち出し図面の提出を受けた。

上記、委託先測量会社により作成されたデジタルデータ成果品およびアナログ実測された原因等は、調査記録として保存されている。

4. 遺構写真撮影

発掘調査において、すべての遺構の写真は発掘調査担当者が分担任して撮影した。竪穴住居等主要な遺構については、iso400プロローニー版モノクロフィルムを6×7cm判サイズで撮影し、撮影記録はネガフィルムの状態で保存し、焼き付け写真を貼付したフィルムの検索台帳を作成した。

また、発掘調査の過程で、調査の進捗状況の記録、及びすべての遺構について、デジタルカメラで撮影を行い、DVD-ROMに撮影データを保存し、検索用データを作成した。

また、調査記録として、遺構ごとに土層断面、遺物出土状態、遺構全景等の撮影を行い、さらに必要に応じて遺構の各部分について、検出および調査の状況について微細な接写を行っている。

第5節 整理作業の経過と方法

整理作業は、平成28年度に平成28年4月から平成29年3月までの12ヶ月間、平成29年度に平成29年4月1ヶ月間、計13ヶ月間にわたって実施した。

1. 平成28年度の整理作業

平成28年度の整理作業は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの12ヶ月間、群馬県中之条土木事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

発掘現場で録られた遺構平面図・断面図によって、遺構図面の点検・修正・整合・編集を行い、発掘調査報告書に掲載する図をデジタルデータとして作成した。

出土遺物については、発掘調査時に洗浄・注記をすべて終えており、遺物を選別、接合・復元し、その後、必要に応じて順次、写真撮影、実測及びトレース、採拓等の作業を実施した。

発掘調査時に撮影された各種遺構写真は、発掘調査報告書に掲載するものを選別し、写真図版の編集を行った。

また、これらの作業と並行して、本文原稿・遺物観察表等の執筆を順次進めていった。

なお、平成28年4月1日～9月30日の間と平成29年1月1日～3月31日の間を資料部資料2課専門員(総括)高島英之が整理業務を担当し、平成28年10月1日～12月31日の間は同課主任調査研究員田村博が担当した。

2. 平成29年度の整理作業

平成29年度の整理作業は、4月1日から4月30日までの1ヶ月間、群馬県上信自動車道建設事務所の委託を受けて、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団がこれに当たることとなった。

前年度から継続して発掘調査報告書の編集作業を行い、遺構図・遺物図・遺構写真・遺物写真・本文原稿・遺物観察表等のレイアウトを作成した後にデジタル編集

を行い、本報告書の原稿を作成した。

作成された原稿は、指名競争入札によって落札した業者に委託され、印刷・製本の業務を実施する。なお、業者委託した印刷業務の推移の中で、原稿の校正作業を実施し、完成後、納品を受け、納品された発掘調査報告書は、検品の上、完了検査を実施し、活用に資するために関係各機関へ発送する作業を行う。

また、これらの作業と並行して、調査及び整理業務の過程で作成された遺構・遺物の各種図面・写真等の記録類を収納する作業を実施した。

なお、整理作業実施中に、前年度までの未買収箇所において遺構・遺物が確認されなかったことが判明したため、整理の対象となる調査記録及び出土遺物は、平成27年度末までの調査成果によることが確定した。

発掘調査及び整理業務の過程で作成された遺構・遺物にかかる各種図面及び写真等の調査記録資料は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに収納・保管されている。

参考文献(第1章)

- 群馬県2007『はばたけ群馬・県土整備プラン2008～2017』
 群馬県2013『はばたけ群馬・県土整備プラン2013～2022』
 群馬県2014『はばたけ群馬プラン・第14次群馬県総合計画・重点プロジェクト(平成26年4月1日改訂)』
 群馬県県土整備部道路整備課(道路企画室)2013『群馬がはばたくための7つの交通輪軸』
 群馬県県土整備部道路整備課2014『地域高規格道路上信自動車道』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2014『年報』33
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『年報』34
 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2016『年報』35
 群馬県ホームページ <http://www.pref.gunma.jp/>
 マッピングぐんま <http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top>

第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

唐堀B遺跡は、吾妻郡東吾妻町の北部、JR吾妻線矢倉駅から南西に0.4km、吾妻郡東吾妻町大字三島に所在する。吾妻郡東吾妻町は、平成18年3月27日に吾妻郡吾妻町と東村が合併して成立した。

吾妻郡東吾妻町は榛名山の北に位置し、町域の北・西・南には1,000m級の嶺が連なり、吾妻川・温川・深沢川などが流れる。『平成27年度群馬県市町村要覧』によると、産業別人口構成は第1次産業が15.8%、第2次産業が25.8%、第3次産業が58.4%であり、近年は畜産業がやや盛んである。また、平成28年以降、岩棚城跡などが人気の観光地として急速に注目されるようになった。

東吾妻町周辺の地形を概観すると、吾妻川を挟み南側に榛名山・浅間隠山、北側に岩櫃山・吾嬬山などが聳えている。

吾妻川は鳥居峠付近を源流とし、吾妻郡内を西から東へと流れる。吾妻川沿いには河岸段丘が発達しており、上位段丘面群(養原面・成田原面)・中段丘面(新巻面)・下位段丘面(中之条面)・最下位段丘面群(伊勢町面群)に分類される。これら段丘面のうち、上位段丘面群に下部～上部ローム層が、中段丘面に中部～上部ローム層が、下位段丘面に上部ローム層が堆積している。最下位段丘面群にはローム層が堆積していない。なお、国指定名勝吾妻峽は、吾妻郡東吾妻町大字松谷の雁ヶ沢川との合流地点付近から吾妻郡長野原町大字川原湯のハツ場ダム建設予定地の東側付近にかけての約4kmにわたる峡谷部分である。

榛名山は掃部ヶ岳(1,449m)を最高峰とする複式成層火山であり、山頂部にはカルデラ・カルデラ湖・中央火口丘など、山体斜面には熔岩ドームや爆裂火口が存在する。また、6世紀にはHr-FA・Hr-FPの火山灰を噴出した2度の噴火が発生している。

榛名山北側山麓の大部分は火山麓扇状地であり、大谷沢川・深沢川・寺沢川・大泉寺川・泉沢川・奥田川などの放射谷が山体を挟んでいる。泉沢川以西では、火山麓

扇状地原面の一部が保存されている。榛名山以外の周辺の山地は、急峻な地形を呈している。また、唐堀B遺跡の南西約28kmに位置する浅間山の火山活動(As-C、As-B、As-Aなどの火山灰を噴出)は現代でも活発であり、吾妻郡域を中心に群馬県全域にさまざまな影響を与えている。

唐堀B遺跡は、北に吾妻川と東に温川とに囲まれた河岸段丘(最下位段丘面群)上に位置する。温川は唐堀B遺跡の東約1.5kmで吾妻川に合流する。唐堀B遺跡の南は急傾斜～一般傾斜の山地であり、複雑で急峻な地形を呈している。吾妻川を挟んだ対岸はJR吾妻線矢倉駅前であるが、公共施設や商業施設などが特に集中しているわけではない。

第2節 歴史的環境

吾妻郡域では、国指定名勝吾妻峽より西側のハツ場ダム建設予定地においては数多くの遺跡が発掘調査されている。これに対し、本遺跡周辺において確認されている遺跡は少なく、文献史料もまた、特に中世以前がきわめて少ない状況にある。

1. 旧石器時代

唐堀B遺跡周辺においては、旧石器時代の遺跡は確認されていない。

2. 縄文時代

本遺跡周辺においては、縄文時代草創期～早期の遺跡は確認されていない。

前期になると少ないながらも集落が確認されるようになる。また、本遺跡に隣接する唐堀遺跡(第6図2)からは後期～晩期の集落と水場遺構が確認されており、土偶や岩版、耳飾なども出土している。また、郷原遺跡(第6図20)からは前期～後期の集落が確認されており、国指定重要文化財のハート形土偶も出土している。その他、上郷A遺跡(第6図範圍外)からは中期の集落、上郷岡原遺跡(第6図範圍外)からは中期から後期にかけての集落



第5図 周辺地形分類図(国土交通省国土政策局国土情報課5万分の1都道府県土地分類基本調査(中之条)を一部改変)



第6図 周辺道跡分布図(国土地理院1/25,000地形図「群馬原町」平成9年9月1日発行を使用)

第2表 周辺の道跡

	道 跡	旧石	縄文	弥生	古墳	奈平	中世	近世	種別・概要	文 献
1	唐堀B道跡		○	○	○	○	○	○	集落。	本報告書
2	唐堀道跡		○		○				散布地。	3報告書刊行予定
3	唐堀C道跡		○			○			集落、その他。	報告書刊行予定
4	根小屋道跡		○			○			その他、不明。	報告書刊行予定
5	根小屋B道跡						○	○	集落。	報告書刊行予定
6	根小屋城跡(三島根小屋城、根古屋城)						○		城館。	1,11,13,20,21
7	細谷E道跡			○					散布地。	報告書刊行予定
8	万木沢道跡				○				散布地。	
9	万木沢B道跡		○			○			集落、墓その他。	報告書刊行予定
10	上反道跡		○						散布地。	1,11
11	四戸道跡		○		○	○	○	○	集落。	報告書刊行予定
12	四戸の古墳群(岩島村13～38号古墳)				○				古墳。町史跡。古墳26基。	2,11,12,14
13	峰道跡				○				散布地。	
14	生原道跡			○					散布地。古墳。古墳2基。	9,11
15	石村下古墳(岩島村42号古墳)				○				古墳。	11,12
16	上古墳(岩島村43号古墳)				○				古墳。	12
17	平道跡				○				散布地。	
18	新井道跡		○	○	○	○			集落。	報告書刊行予定
19	厚田中村道跡							○	その他。	報告書刊行予定
20	郷原道跡		○			○	○		集落、散布地。国重要文化財「ハート形土偶」出土。縄文住居12・竪穴式遺構2・土坑48。古墳住居1、奈良・平安住居1、中世溝5など。	4,7,10,11
21	郷原城跡						○		城館。	
22	清龍院跡(古屋館、古谷館)						○		社寺。	13,20,21
23	古谷道跡			○					散布地。	1
24	岩瀬山麓の集道跡			○					墓その他。町史跡。	2,11,15～18
25	岩瀬城跡		○				○		散布地。城館。町史跡。	1,2,5,11,13,18～21
26	岩瀬城跡北側遺構群						○		集落。城館。縄文住居2・土坑11、中世堀4など。	6
27	岩下城跡							○	城館。	1,11,13,20,21
28	前畑道跡		○	○	○	○	○	○	集落、散布地。墓その他。縄文土坑1、弥生土坑9、古墳住居11、奈良・平安住居13、中世墓坑4、近世竪穴式遺構2など。	8,10,11
29	帆古墳				○				古墳。	11
30	北湯道跡		○						散布地。	
31	赤坂道跡				○				散布地。	11
32	妙山の石組かまど				○				集落。県史跡。	11,15
33	天神道跡			○	○				散布地。	
34	弁天湖道跡		○						散布地。	

文献

- 1 吾妻教育会1929『群馬県吾妻郡誌』
- 2 吾妻教育会1936『群馬県吾妻郡誌追録(第1輯)』
- 3 吾妻町教育委員会1983『唐堀道跡』
- 4 吾妻町教育委員会1985『郷原道跡』
- 5 吾妻町教育委員会1992『吾妻町指定史跡岩瀬城跡保存整備計画策定報告書』
- 6 吾妻町教育委員会1994『岩瀬城跡北側遺構群道跡』
- 7 吾妻町教育委員会1998『郷原道跡』
- 8 吾妻町教育委員会1998『前畑道跡』
- 9 吾妻町教育委員会1998『生原道跡』
- 10 吾妻町教育委員会2006『町内道跡Ⅱ』
- 11 岩島村誌編集委員会1971『岩島村誌』
- 12 群馬県1938『上毛古墳総覧』
- 13 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城館跡』
- 14 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史(資料編)3』
- 15 群馬県史編さん委員会1986『群馬県史(資料編)2』
- 16 杉原任介1967『群馬県岩瀬山における弥生時代の墓誌』『考古学集刊(第3巻)第4号』東京考古学会
- 17 轟直行2014『岩瀬山麓の集道跡で採取された瓦子式土器の破片』『考古学集刊(第10号)』明治大学文学部考古学研究室
- 18 原町誌編纂委員会1960『原町誌』
- 19 東吾妻町教育委員会2016『岩瀬城跡』
- 20 山崎一1972『群馬県古城址の研究』下 群馬県文化事業振興会
- 21 山崎一・山口武夫1972『吾妻郡城址史』西毛新聞社

が確認されている。

3. 弥生時代

本遺跡周辺においては、弥生時代前期および後期の遺跡は確認されていない。

中期の遺跡としては、「岩櫃山式土器」の標式遺跡である岩櫃山鷹の巣遺跡(第6図24)や前畑遺跡(第6図28)などから再葬墓が確認されている。前畑遺跡は吾妻川の河岸段丘の最下位段丘面群上に立地する一次埋葬地であり、また、岩櫃山鷹の巣遺跡は岩櫃山の岸壁に立地する二次埋葬地と考えられている。

本遺跡は弥生時代後期の住居が検出された遺跡として、この地域においては画期的な発見となった。

4. 古墳時代

本遺跡周辺においては、古墳時代前期の遺跡は少ない。天神遺跡(第6図33)からは前期の遺物が出土しているほか、温川上流の宿遺跡(第6図範囲外)からは前期の集落が確認されるとともに石田川式土器も出土している。また、3世紀後半には浅間山が噴火し、火山灰As-Cが降下している。

中期以降になると遺跡数は増加する。前畑遺跡(第6図28)からは中期～後期の集落が確認されている。また、姉山の石組かまど(第6図32)は、緩斜面に立地する竪穴住居に構築された山石利用の石組かまどであり、吾妻川流域の古墳時代から平安時代にかけて特徴的なものである。

古墳については、唐櫃B遺跡周辺において前期～中期の古墳は確認されていない。後期の帆古墳(第6図29)は群馬県最西端の古墳である。四戸の古墳群(第6図12)からは26基の古墳が確認されている。

5. 奈良・平安時代

律令制下において、群馬県域はほぼ上野国の領域に当たっており、国内には「碓氷・片岡・甘楽・多胡・緑野・那波・群馬・吾妻・利根・勢多・佐位・新田・山田・邑楽」の14郡が置かれた(当初は13郡、和銅4(711)年に多胡郡設置で14郡)。吾妻郡には「長田、伊勢、太田」の3郷が確認できる。また、吾妻郡中之条町大字市城付近は官牧の「市代牧」に比定されている。

本遺跡周辺においては、奈良・平安時代の遺跡は少ない。前畑遺跡(第6図28)からは古墳時代から平安時代まで継続して集落が確認されている。上郷A遺跡(第6図範囲外)・上郷B遺跡(第6図範囲外)・細谷B遺跡(第6図範囲外)からは平安時代の集落が確認されている。金井鹿寺(第6図範囲外)は7世紀後半から9世紀前半にかけての寺院跡であり、上野国佐位郡家に隣接し、佐位郡の郡領層が建立した寺院と考えられる伊勢崎市上植木鹿寺と同范の軒丸瓦が採取されている。

また、本遺跡の発掘調査と同じ、上信自動車道吾妻西バイパスの建設事業に伴って平成25年度から行われている東吾妻町三島の四戸遺跡の発掘調査において、平成27年12月に、9世紀後半の竪穴住居(2区51号住居)から奈良三彩短頸壺が出土した。この遺跡は、JR吾妻線欠倉駅から南へ1kmの吾妻川右岸の標高410m前後の段丘上にある。弥生時代中期後半及び後期の竪穴住居、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴住居をはじめ、中世から近世に至る多くの遺構が調査された。

奈良三彩短頸壺が出土した竪穴住居は、この遺跡で古墳時代から平安時代に至る遺構が最も密集する場所に位置している。奈良三彩短頸壺は、南東側に甕が作りつけられた方形の竪穴住居の西の隅で、床面の直上から口の部分を上にして出土した。出土した時には、口の部分の一部が欠けていたが、その後、欠けた部分もすぐ近くから出土し、ほぼ完全な形に復元することができた。

この奈良三彩短頸壺は、8世紀後半ごろに作成されたものとみられている。大きさは、高さ18.7cm、口径13.0cm、胴幅25.0cm、底径13.9cm。表面の模様は網目状で、緑色をベースに、白および黄色の釉薬をかけて作られている。

これまで、群馬県内では、26箇所の遺跡から奈良三彩が出土しているが、高さ5cmくらいの小型のものがほとんどであった。このような大型の壺は、史跡上野国分寺跡(前橋市・高崎市)と中1遺跡(藤岡市)から出土しているものの、いずれも破片であり、完全なものとしては、今回、この四戸遺跡から出土したものが県内では初めてである。

このような完全な形の大型の奈良三彩短頸壺は、全国的にもきわめて珍しく、これで7例目である。他の6例は、いずれも国の重要文化財に指定されている。また、発掘調査によって出土したことや、竪穴住居から出土し

たものとしては、全国で初めてである。

6. 中・近世

浅間山火山灰As-B軽石を降下させた天仁元(1108)年の浅間山の噴火後、上野国内では荘園開発への動きが活発になる。吾妻郡域においては、12世紀末頃に吾妻氏(前吾妻氏)が台頭する。『吾妻鏡』には吾妻八郎・吾妻太郎助亮・吾妻四郎助光の名が見える。承久の乱(承久3=1221年)で吾妻助光が戦死し、前吾妻氏は滅亡した。

その後、嘉禎年間(1235~38年)に吾妻(下河辺)行家が鎌倉幕府より吾妻郡を賜った。これを学界では便宜的に後吾妻氏と称している。貞和5(1349)年に吾妻行盛が里見義侯との争いで戦死し、後吾妻氏は滅亡したとの伝承がある。吾妻郡東吾妻町大字岩井の長福寺五輪塔(第6図範囲外)に刻まれた「藤原行盛」がこの吾妻行盛であるとされるが、戦死の一件については疑問視もされている。

14世紀末になると、この地域では齊藤氏が台頭してくる。永禄4(1561)年の上杉輝虎の関東出兵時の「関東幕注文」には、「岩下衆 齊藤越前守 六葉柏」とあり、齊藤氏が岩下城(第6図27)を中心に勢力を張ったことが窺える。

16世紀前半には温川上流の手子丸城(大戸城、第6図範囲外)に拠った大戸氏が勢力を伸ばし、根小屋城(第6図6)に入っている。

永禄6(1563)年の武田晴信の上野国侵攻により、大戸氏は武田氏に従属し、武田氏の部将真田幸隆により齊藤氏の居城岩下城(第6図27)は落城、岩櫃城(第6図24)が武田氏の拠点となり、永禄8(1565)年に吾妻郡域は武田氏の支配下となるも、その後、岩櫃城は天正10(1582)年の武田氏滅亡後に独立した真田氏の支配下となり、元和元(1615)年に江戸幕府によって発せられた「一國一城令」により破却された。

本遺跡周辺には、この他に郷原城(第6図21)・潜龍院(第6図22)などがあるが、いずれも16世紀代のものと推定される。

徳川家康江戸入府後、本遺跡をふくむ三島村は引き続き真田氏の支配下にあったが、天和2(1682)年に天領となり、文政7(1824)年に御三卿清水徳川家の支配下となり、さらに安政2(1855)年にはふたたび天領となった。この間、天明3(1783)年には浅間山が大噴火して火山灰

As-Aを降下させており、吾妻川流域では噴火に伴う泥流被吉遺跡がハツ場ダム建設予定地を中心に数多く確認されている。

第3節 基本土層

唐堀B遺跡は、北に吾妻川と東に温川とに囲まれた河岸段丘最下位段丘面群上に位置する。発掘調査着手前の地形は南側より北側の吾妻川に下る段丘であり、遺構確認面においても同様であることが確認された。

現表土以下の基本土層柱状図は第7図に示した通りである。

調査区ごとに様相が異なっており、浅間山火山灰As-Kk及びAs-Bの堆積は断片的である。

また、本遺跡では、後世の掘乱・削平の影響が大きく、遺構の保存状態は決して良好であるとは言えない。

(1) 1区

- I 現表土
- II 黒褐色土 角礫・軽石主体
- III As-Kk
- IV As-B
- V 黒褐色土 粘性あり
- VI 暗褐色土 粘性あり
- VII 黒褐色土 粘性あり
- VIII 暗灰黄色土 シルト質 砂礫含む
- IX 暗灰黄色土 砂質 酸化鉄含む

(2) 3区

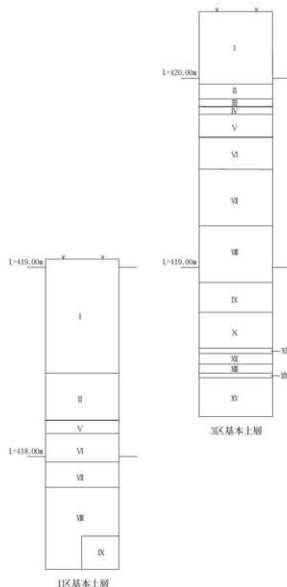
- I 現表土
- II 黒褐色土 軽石を40%程度含む
- III 黒褐色土 軽石を10%程度含む
- IV As-B
- V 黒褐色土 粘性あり
- VI にぶい黄褐色土 粘性強い
- VII 黒褐色土 粘性あり
- VIII 明黄褐色土 シルト質
- IX にぶい黄褐色土 シルト質 酸化鉄含む
- X 黒色土 粘性強い 泥炭化
- XI にぶい黄褐色土 粘性あり

第2章 周辺の環境

- XII 黒色土 粘性強い 泥炭化
- XIII 暗褐色細砂粒土
- XIV 黒色土 粘性強い 泥炭化
- XV 黒褐色粘性土

参考文献(第2章)

- 青木裕美ほか2012『戦国史—上州の150年戦争—』上毛新聞社
 吾妻教育会1929『群馬県吾妻郡誌』
 吾妻教育会1936『群馬県吾妻郡誌追録』第1輯
 吾妻町教育委員会1983『唐館道路』
 吾妻町教育委員会1985『郷原道路』
 吾妻町教育委員会1992『吾妻町指定史跡岩櫃城跡保存整備計画策定報告書』
 吾妻町教育委員会1994『岩櫃城跡北側遺構群道路』
 吾妻町教育委員会1998『郷原道路』
 吾妻町教育委員会1998『前畑道路』
 吾妻町教育委員会1998『生原道路』
 吾妻町教育委員会2006『町内道路Ⅲ』
 岩島村誌編集委員会1971『岩島村誌』
 唐野村市1998『岩下城と岩櫃城』『群馬歴史散歩』第146号 群馬歴史散歩の会
 京大文学部国語学国文学研究室編1968『讀本集成後名類聚抄』本文篇 臨川書店
 群馬県1938『上毛古墳綜覧』
 群馬県教育委員会1988『群馬県の中世城郭跡』
 群馬県史編さん委員会1981『群馬県史』資料編3
 群馬県史編さん委員会1986『群馬県史』資料編2
 群馬県総務部市町村課2015『平成27年度群馬県市町村要覧』
 群馬県農政課2003『土地分類基本調査中之案』
 群馬県文化事業振興会1985『上野国郡村誌』11
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2005『久々戸遺跡(2)・中棚遺跡(2)・西ノ上遺跡・上郷A遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2006『上郷B・廣石A・二反沢遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『上郷原遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上郷原遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上ノ平1遺跡(1)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『上郷B遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『細谷B遺跡』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『上郷A遺跡(2)』
 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2009『上郷原遺跡(3)』
 杉原正介1967『群馬県岩櫃山における弥生時代の墓址』『考古学集刊』第3巻第4号 東京考古学会
 轟直行2014『岩櫃山麓の果道跡で採取された丸子式土器の破片』『考古学集刊』第10号 明治大学文学部考古学研究室
 原町誌編纂委員会1960『原町誌』
 東吾妻町教育委員会2011『上郷遺跡』
 東吾妻町教育委員会2012『細谷遺跡』
 東吾妻町教育委員会2016『岩櫃城跡』
 山崎一・山口武夫1972『吾妻郡城郭史』西毛新聞社
 脇屋真一1998『里見氏の岩櫃城攻略』『群馬歴史散歩』第146号 群馬歴史散歩の会
 マッピングぐんま
<http://mapping-gunma.pref-gunma.jp/pref-gunma/top>



第7図 1区及び3区基本土層模式図

第3表 確認面ごとの調査区別遺構検出数

1. 1面

遺構名	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
掘立柱建物	0	0	13	0	13	0
礎	0	7	0	7	7	0
溝	1	0	9	2	12	3
道路	0	0	1	0	1	0
溝	8	1	10	1	20	1
土坑	0	8	148	10	166	1
ピット	0	0	218	19	237	0
計	9	9	406	32	456	5

2. 2面

遺構名	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
掘立柱	0	0	5	0	5	0
礎	0	0	0	0	0	1
溝	0	1	1	1	3	1
土坑	0	0	15	5	20	1
ピット	0	5	76	5	86	0
配石	0	0	0	0	0	1
計	0	6	97	11	114	4

3. 3面

遺構名	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
溝	0	0	0	0	0	1
土坑	0	0	0	0	0	12
ピット	0	0	0	0	0	39
井戸	0	0	0	0	0	1
配石	0	0	0	0	0	1
計	0	0	0	0	0	54

第4表 遺構ごとの検出調査区及び確認面別検出数

1. 掘立柱建物

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	0	13	0	13	0
2面	0	0	0	0	0	0
3面	0	0	13	0	13	0
計	0	0	26	0	26	0

2. 礎

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	0	7	0	7	0
2面	0	0	0	0	0	0
3面	0	0	0	0	0	0
計	0	0	7	0	7	0

3. 溝

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	1	0	9	2	12	3
2面	0	0	0	0	0	1
3面	0	0	0	0	0	0
計	1	0	9	2	12	4

4. 道路

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	0	1	0	1	0
2面	0	0	0	0	0	0
3面	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	0	1	0

5. 溝

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	8	1	10	1	20	1
2面	0	1	1	1	3	1
3面	0	0	0	0	0	0
計	8	2	11	2	23	3

6. 土坑

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	8	148	10	166	1
2面	0	0	15	5	20	1
3面	0	8	163	15	186	14
計	0	8	271	30	313	6

7. ピット

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	0	218	19	237	0
2面	0	5	76	5	86	0
3面	0	0	0	0	0	39
計	0	5	294	24	323	39

8. 掘立柱

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	0	0	0	0	0
2面	0	0	5	0	5	0
3面	0	0	0	0	0	0
計	0	0	5	0	5	0

9. 配石

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	0	0	0	0	0
2面	0	0	0	0	0	1
3面	0	0	0	0	0	1
計	0	0	0	0	0	2

10. 井戸

面	1区	2区	3区	4区	1～4区計	5区
1面	0	0	0	0	0	0
2面	0	0	0	0	0	0
3面	0	0	0	0	0	1
計	0	0	0	0	0	1

第3章 遺構と遺物

第1節 1～4区1面の遺構と遺物

第1面は近世の遺構面で、検出された遺構の大半は近世のものと考えられる。

1～4区第1面からは、掘立柱建物13棟、柵7条、畑12箇所、道路1条、溝20条、土坑166基、ピット237基が検出された。

遺構の分布は3区に集中している。掘立柱建物・柵・道路の主軸方位は等高線にほぼ平行であり、溝・土坑(主に長方形土坑)の主軸方位は等高線にほぼ平行または直交する。これは、本調査区が斜面上に立地するためである。

主な遺構の時期は、ほとんどのものが近世と考えられる。

1～4区1面で検出された土坑のうち、細長い溝状の、長軸4～10m程度のもは土地区画に関連するものと考えられる。また、隅丸長方形・楕円形・長円形で長軸1m前後のものは、墓坑もしくはイモ穴と考えられる。

1. 掘立柱建物

本遺跡では13棟の掘立柱建物が検出されたが、いずれも3区の1面からの検出である。北西―南東方向に長い3区であるが、掘立柱建物は調査区の南東端を除くほぼ全域で検出された。北西端付近で10・11・15・16号掘立柱建物が集中し、中央部の南寄りに1～9号掘立柱建物が散在している。いずれも桁行ないし梁間1～2間程度の小規模なものであり、それぞれの柱穴も比較的小規模である。それらの多くは、例えば軽微ないし、仮設的な作業小屋あるいは道具置場のようなものである可能性が考えらる。

また、1間×2間のものでは、1間の辺の柱間が2間の辺の柱間に比して異様に長い形状のものが多いのが特徴的である。さらに、桁行・梁間各辺における間数が不揃いなものも少なくない。

建物の用途や機能は明らかではないが、いずれも近世のものと考えられる。

1号掘立柱建物(第8図、PL.6・12)

位置 3区。X=61577～580、Y=-94196～198。

重複 2号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。21号土坑及び11号ピットを掘り込む。

平面形状 1間以上×1間以上。

主軸方位(棟方向) N-12°-W。

規模 長軸(2.73)m、短軸(1.9)m。

柱穴 3基が検出された。

P1: 平面楕円形、長軸0.31m・短軸0.30m・深さ0.22m。埋土は軽石を20%程度及び白色鉱物粒を含む黒褐色土。

P2: 平面楕円形、長軸0.46m・短軸0.40m・深さ0.53m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P3: 平面推定方形、長軸0.46m・検出短軸0.43m・深さ0.45m。

柱間 P1～2間:1.57m、P2～3間:2.28m。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りの南端で、北辺及び東辺各1間分が検出された。南側大半が調査区外に出るため全容は不明である。柱穴はしっかりとした掘方を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

2号掘立柱建物(第9図、PL.6・11・12)

位置 3区。X=61577～582、Y=-94194～201。

重複 1号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。17号土坑を掘り込む。

平面形状 3間以上×1間以上。

主軸方位(棟方向) N-76°-W。

規模 長軸6.93m、短軸(3.38)m。

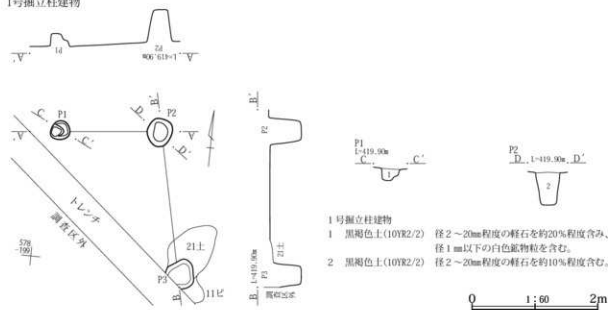
柱穴 6基が検出された。

P1: 平面ほぼ円形、長軸0.31m・短軸0.30m・深さ0.5m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P2: 平面楕円形、長軸0.32m・短軸0.30m・深さ0.48m。埋土は軽石を含む黒褐色土。

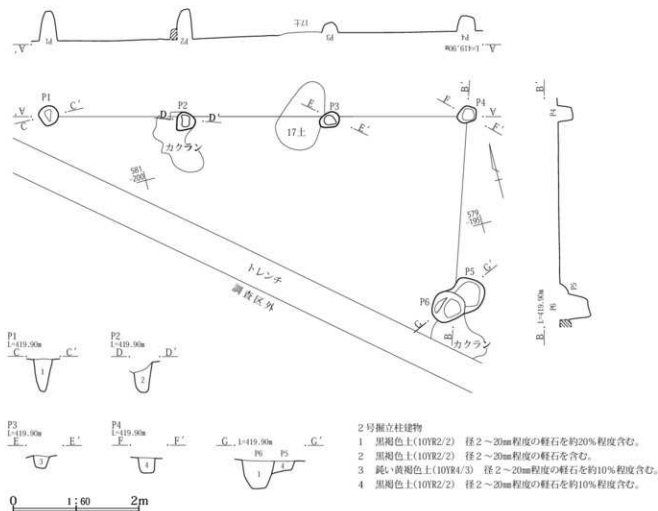
P3: 平面楕円形、長軸0.33m・短軸0.24m・深さ0.18m。埋土は軽石を10%程度含む鈍い黄褐色土。

1号掘立柱建物



第8図 1号掘立柱建物

2号掘立柱建物



第9図 2号掘立柱建物

第3章 遺構と遺物

- P 4：平面楕円形、長軸0.32m・短軸0.26m・深さ0.24m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。
- P 5：平面楕円形、長軸0.55m・検出短軸0.5m・深さ0.15m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。
- P 6：平面楕円形、長軸0.53m・短軸0.47m・深さ0.5m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。
- 柱間 P 1～2間：2.17m、P 2～3間：2.28m、P 3～4間：2.15m、P 4～5間：2.92m。

遺物 なし。

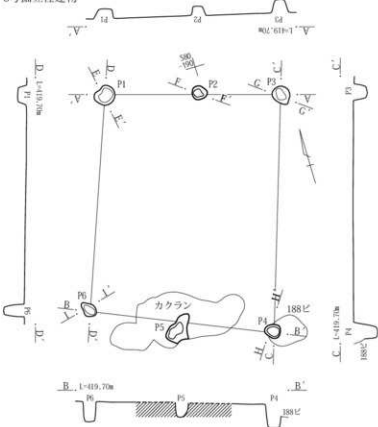
所見 調査区の西寄りの南端に位置する。1号掘立柱建物をすっぽり和中に取り込んだような形になっているが、建物の主軸方位が異なり、同時期の併存や相互の関連は、建て替え以外には考えにくい。北辺3間、東辺1間が検出されたが、南側大半が調査区外に出るため全容は不明である。柱穴はしっかりとした掘方を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

3号掘立柱建物(第10図)

位置 3区。X=61575～580、Y=-94188～192。

3号掘立柱建物



第10図 3号掘立柱建物

重複 188号ビットを掘り込む。

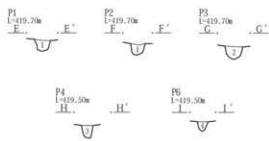
平面形状 2間×1間。

主軸方位(棟方向) N-20°-E。

規模 長軸3.98m、短軸3.12m。

柱穴 6基が検出された。

- P 1：平面楕円形、長軸0.33m・短軸0.31m・深さ0.18m。埋土は白色鉱物粒・明赤褐色土塊をごく微量含む暗褐色土。
- P 2：平面楕円形、長軸0.24m・短軸0.22m・深さ0.17m。埋土は白色鉱物粒・明赤褐色土塊をごく微量含む暗褐色土。
- P 3：平面楕円形、長軸0.31m・短軸0.26m・深さ0.2m。埋土は黄褐色土塊を2～3%及び円礫を含む暗褐色土。
- P 4：平面楕円形、長軸0.25m・短軸0.22m・深さ0.37m。埋土は軽石を10%程度及び黄褐色土塊を含む黒褐色土。
- P 5：平面不整形、長軸0.5m・短軸0.36m・深さ0.4m。
- P 6：平面楕円形、長軸0.28m・短軸0.2m・深さ0.34m。



3号掘立柱建物

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 径2～3mm程度の白色鉱物粒及び明赤褐色土ブロックを約1%程度含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 径5mm程度の黄褐色土ブロックを約2～3%程度含む。径50mm程度の円礫を含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。径30mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土ブロックを約20%程度含む。径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。

0 1:60 2m

埋土は黄褐色土塊を20%程度及び軽石を10%程度含む黒褐色土。

柱間 P1～2間：1.50m、P2～3間：1.30m、P3～4間：3.74m、P4～5間：1.45m、P5～6間：1.46m、P6～1間：3.44m。

遺物 なし。

所見 北調査区の西寄りの南端、1・2号掘立柱建物の東側、4号掘立柱建物の西側に位置する。北辺及び南辺が2間、東辺及び西辺が1間で、北東―南西方向に長い長方形を呈する小規模な掘立柱建物。柱穴はしっかりとした掘方を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

4号掘立柱建物(第11図)

位置 3区。X=61573～578、Y=-94183～188。

重複 4号柵と重複するが新旧関係は不明。28号土坑、及び31号ピットを掘り込む。

平面形状 1間×1間。

主軸方位(棟方向) N-18°-W。

規模 長軸4.25m、短軸4.03m。

柱穴 4基が検出された。

P1：平面方形、長軸0.41m・短軸0.36m・深さ0.19m。
埋土は黄褐色土塊を含む黒褐色土。

P2：平面楕円形、長軸0.55m・短軸0.42m・深さ0.41m。

P3：平面方形、長軸0.25m・短軸0.22・深さ0.37m。
埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P4：平面不整形、長軸0.83m・短軸0.46m・深さ0.38m。埋土は軽石を含む黒褐色土。

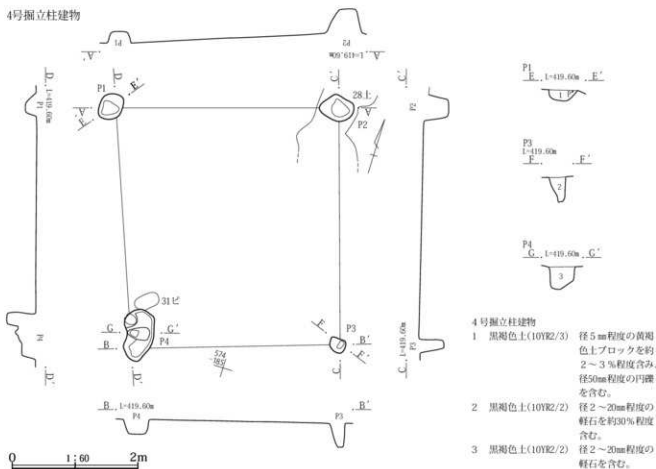
柱間 P1～2間：3.56m、P2～3間：3.77m、P3～4間：3.17m、P4～1間：3.85m。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りの南側、3号掘立柱建物の東側、5号掘立柱建物の南西側、6号掘立柱建物の西側で検出された。桁行・梁間ともに1間四方の小規模な掘立柱建物である。柱穴はしっかりとした掘方を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

4号掘立柱建物



4号掘立柱建物

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 径5mm程度の黄褐色土ブロックを約2～3%程度含む、径50mm程度の円礫を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を含む。

第11図 4号掘立柱建物

5号掘立柱建物(第12図)

位置 3区。X=61579~584、Y=-94177~183。

重複 11・12号畑を掘り込む。

平面形状 3間×1間。

主軸方位(棟方向) N-80°-W。

規模 長軸5.80m、短軸4.38m。

柱穴 8基が検出された。

P1: 平面楕円形、長軸0.41m・短軸0.34m・深さ0.24m。

埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P2: 平面楕円形、長軸0.43m・短軸0.35m・深さ0.22m。

埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P3: 平面楕円形、長軸0.33m・短軸0.3m・深さ0.3m。

埋土は軽石を20%程度及び黄褐色土塊を含む黒褐

色土。

P4: 平面ほぼ円形、長軸0.28m・短軸0.26m・深さ0.18m。埋土は軽石を20%程度及び黄褐色土塊を含む黒褐色土。

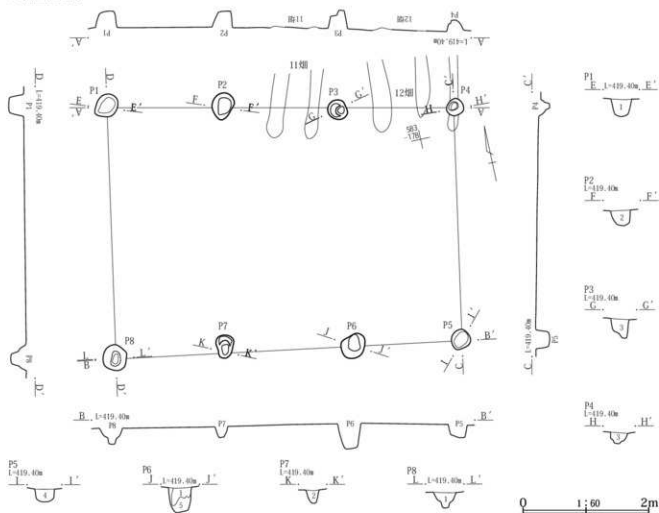
P5: 平面楕円形、長軸0.31m・短軸0.3m・深さ0.17m。埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P6: 平面楕円形、長軸0.43m・短軸0.37m・深さ0.39m。埋土は上層に軽石を10%程度含む黒褐色土、下層に暗褐色土。

P7: 平面楕円形、長軸0.37m・短軸0.28m・深さ0.19m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P8: 平面楕円形、長軸0.41m・短軸0.4m・深さ0.26m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

5号掘立柱建物



5号掘立柱建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度含む。

黄褐色土ブロックを含む。

- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/4)

第12図 5号掘立柱建物

柱間 P1～2間：1.84m、P2～3間：1.80m、P3～4間：1.87m、P4～5間：3.68m、P5～6間：1.71m、P6～7間：2.01m、P7～8間：1.74m、P8～1間：3.98m。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや南西寄りの位置。4号掘立柱建物の北東側、6号掘立柱建物の北西側に位置する。南辺及び北辺が3間、東辺及び西辺が1間の西北西—東南東方向に長い長方形を呈する。桁行に比して梁間が異様に長いのが特徴的である。柱穴はしっかりとした掘方を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

6号掘立柱建物(第13図)

位置 3区。X=61573～577、Y=-94176～180。

重複 なし。

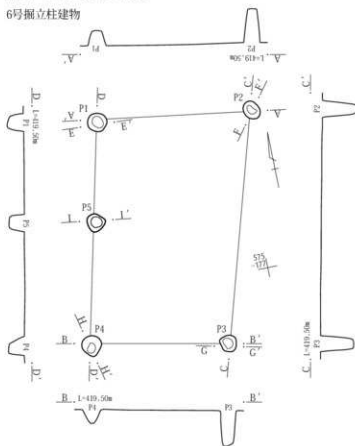
平面形状 2間×1間。

主軸方位(棟方向) N-15°-E。

規模 長軸3.98m、短軸2.72m。

柱穴 5基が検出された。

6号掘立柱建物



P1：平面ほぼ円形、長軸0.3m・短軸0.29m・深さ0.28m、埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P2：平面楕円形、長軸0.31m・短軸0.25m・深さ0.51m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P3：平面楕円形、長軸0.27m・短軸0.26m・深さ0.58m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P4：平面楕円形、長軸0.34m・短軸0.31m・深さ0.24m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

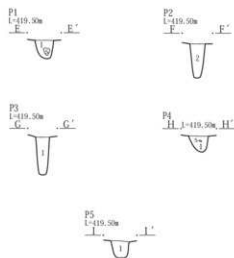
P5：平面方形、長軸0.29m・短軸0.27m・深さ0.23m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

柱間 P1～2間：2.45m、P2～3間：3.73m、P3～4間：2.18m、P4～5間1.95m、P5～1間：1.58m。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央から若干南側に寄った場所に位置する。5号掘立柱建物の南東側、7・8号掘立柱建物の西側に位置する。確認できた限り、北・東・南辺では、西辺で検出された中間の柱穴が検出されなかった。よって北辺・南辺・東辺は1間であるのに対して西辺は2間となる。

時期 近世のものと考えられる。



6号掘立柱建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。

0 1:60 2m

第13図 6号掘立柱建物

7号掘立柱建物(第14図)

位置 3区。X=61571~576、Y=-94168~175。

重複 8号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。

平面形状 2間×1間。

主軸方位(棟方向) N-71°-W。

規模 長軸6.03m、短軸4.27m。

柱穴 6基が検出された。

P1: 平面楕円形、長軸0.39m・短軸0.32m・深さ0.3m。

埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P2: 平面楕円形、長軸0.32m・短軸0.27m・深さ0.3m。

埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P3: 平面楕円形、長軸0.35m・短軸0.34m・深さ0.44m。

埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P4: 平面楕円形、長軸0.36m・短軸0.34m・深さ0.4m。

埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P5: 平面隅丸方形、長軸0.37m・短軸0.34m・深さ

0.3m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P6: 平面ほぼ円形、長軸0.33m・短軸0.32m・深さ

0.26m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

柱間 P1~2間:2.26m、P2~3間:3.21m、P3~

4間:3.90m、P4~5間:3.3m、P5~6間:2.39m、

P6~1間:3.94m。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央からやや南寄りの位置、6号掘

立柱建物の東側、9号掘立柱建物の北西側に位置する。

7・8号掘立柱建物は、主軸方位・規模等はほぼ同一で

あり、7号掘立柱建物の南側約0.5mの位置に並行する

ような形で8号掘立柱建物が位置する。8号掘立柱建物

の方が、7号掘立柱建物に比して東西辺が僅かに短い

が、両建物の関係は、ほぼ同位置に一方の建物を建て替えた

ものと考えられるが、柱穴等の重複はなく、新旧関係は

不明である。両建物とも南辺及び北辺が2間、東辺及び

西辺が1間の、北西-南東方向に長い長方形を呈して

いる。柱穴はそれぞれしっかりとした掘方を有している。

時期 近世のものと考えられる。

8号掘立柱建物(第14図)

位置 3区。X=61570~576、Y=-94168~175。

重複 7号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。

平面形状 2間×1間。

主軸方位(棟方向) N-70°-W。

規模 長軸5.83m、短軸4.25m。

柱穴 6基が検出された。

P1: 平面楕円形、長軸0.32m・短軸0.28m・深さ0.23m。

埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P2: 平面楕円形、長軸0.23m・短軸0.17m・深さ0.07m。

埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P3: 平面楕円形、長軸0.36m・短軸0.32m・深さ0.33m。

埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P4: 平面楕円形、長軸0.39m・短軸0.32m・深さ0.51m。

埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P5: 平面不整楕円形、長軸0.32m・短軸0.30m・深さ

0.58m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P6: 平面楕円形、長軸0.24m・短軸0.21m・深さ0.21m。

埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

柱間 P1~2間:1.96m、P2~3間:3.29m、P3~

4間:3.88m、P4~5間:3.22m、P5~6間:2.34m、

P6~1間:4.09m。

遺物 なし。

所見 7号掘立柱建物の項を参照。

時期 近世のものと考えられる。

9号掘立柱建物(第15図、PL.19)

位置 3区。X=61565~570、Y=-94165~170。

重複 90号土坑を掘り込む。

平面形状 4間×2間。

主軸方位(棟方向) N-23°-E。

規模 長軸4.20m、短軸3.73m。

柱穴 16基が検出された。

P1: 平面楕円形、長軸0.44m・短軸0.36m・深さ0.21m。

P2: 平面楕円形、長軸0.24m・短軸0.21m・深さ0.16m。

埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P3: 平面不整楕円形、長軸0.43m・短軸0.23m・深さ

0.29m。埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

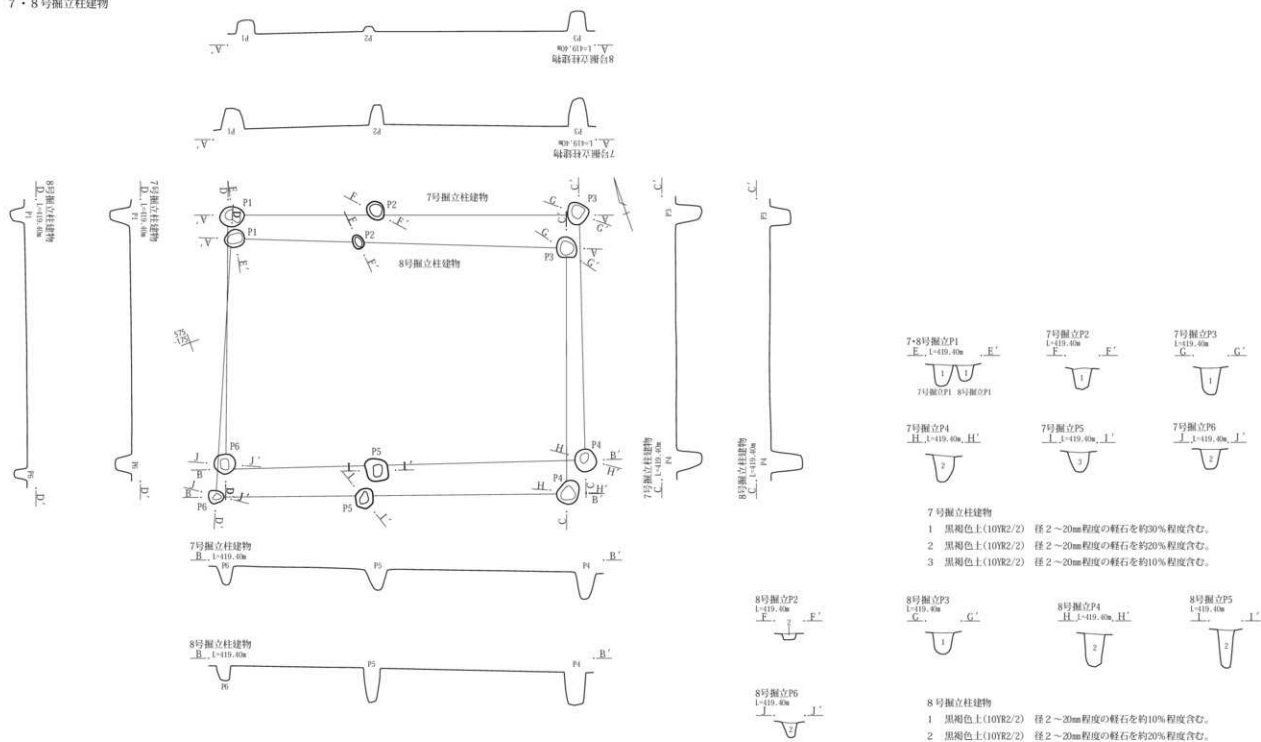
P4: 平面楕円形、長軸0.33m・短軸0.29m・深さ0.31m。

埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P5: 平面円形、長軸0.25m・短軸0.24m・深さ0.28m。

埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

7・8号掘立柱建物



第14図 7・8号掘立柱建物

P 6：平面隅丸方形、長軸0.25m・短軸0.23m・深さ0.19m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 7：平面楕円形、長軸0.27m・短軸0.23m・深さ0.24m。埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P 8・9：平面楕円形、長軸0.44m・短軸0.25m・深さ0.31m。P 8の埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。P 9の埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 10：平面楕円形、長軸0.29m・短軸0.22m・深さ0.23m。埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P 11：平面楕円形、長軸0.24m・短軸0.18m・深さ0.21m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 12：平面楕円形、長軸0.18m・短軸0.12m・深さ0.17m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 13：平面楕円形、長軸0.26m・短軸0.2m・深さ0.1m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 14：平面隅丸方形、長軸0.22m・短軸0.17m・深さ0.14m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 15：平面楕円形、長軸0.21m・短軸0.14m・深さ0.13m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 16：平面楕円形、長軸0.21m・短軸0.14m・深さ0.06m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

柱間 P 1～2間：1.4m、P 2～3間：1.54m、P 3～4間：1.01m、P 4～5間：0.89m、P 5～6間：0.79m、P 6～7間：0.93m、P 7～8・9間：0.4m、P 8・9～10間：3.48m、P 10～11間：0.96m、P 11～12間：0.74m、P 12～13間：0.79m、P 13～14間：1.22m、P 14～15間：0.86m、P 15～16間：0.96m。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや南東寄り、7・8号掘立柱建物の南東側に位置する。北東～南西方向に長い長方形を呈する総柱建物。本遺跡で検出された唯一の総柱の掘立柱建物である。桁行は4間、梁間は北辺が2間であるが、南辺では中間の柱穴が検出されず1間となっている。柱穴は比較的しっかりとした掘方を呈している。また、南東隅のP 7及びP 9は、それぞれがどちらかを掘り直したものと考えられるが、重複がないため新旧関係は不明である。本建物において、掘り直された柱穴はこれらのみである。

時期 近世のものと考えられる。

10号掘立柱建物(第16図、PL. 6・15)

位置 3区。X=61603～607、Y=-94205～208。

重複 47号土坑を掘り込む。

平面形状 2間×1間。

主軸方位(棟方向) N-28°-E。

規模 長軸4.29m、短軸2.33m。

柱穴 5基が検出された。

P 1：平面不整楕円形、長軸0.23m・短軸0.20m・深さ0.34m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 2：平面楕円形、長軸0.28m・短軸0.24m・深さ0.12m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 3：平面隅丸方形、長軸0.31m・短軸0.29m・深さ0.12m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 4：平面ほぼ円形、長軸0.41m・短軸0.4m・深さ0.38m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 5：平面楕円形、長軸0.25m・短軸0.22m・深さ0.22m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

柱間 P 1～2間：1.9m、P 2～3間：1.8m、P 3～4間：1.97m、P 4～5間：2.03m、P 5～1間：4.05m。

遺物 なし。

所見 調査区の西端付近、西壁際に位置する。11・16号掘立柱建物の西側に隣接する。北東～南西方向に長い長方形を呈する。梁間は1間、桁行は西辺では1間、東辺では2間である。柱穴はしっかりとした掘方を呈しているものの、大きさ・深さともに不揃いである。11号掘立柱建物の規模・形状・主軸方位が類似しており、東西に並列している。

時期 近世のものと考えられる。

11号掘立柱建物(第17図、PL. 6)

位置 3区。X=61601～606、Y=-94201～204。

重複 16号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。

平面形状 2間×2間。

主軸方位(棟方向) N-30°-E。

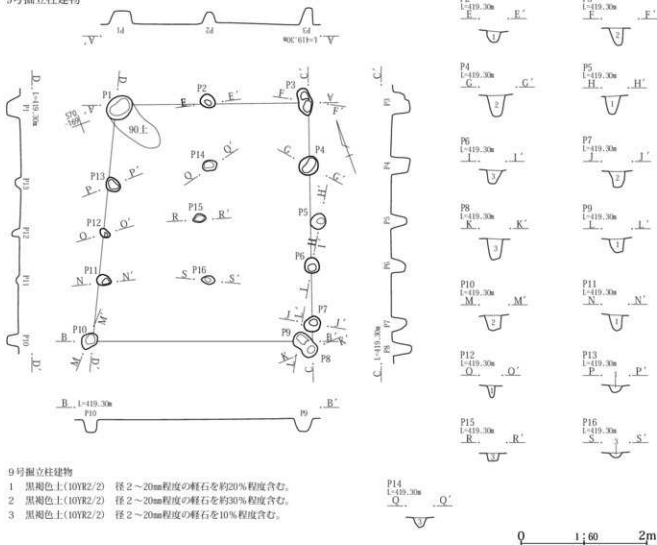
規模 長軸3.79m、短軸2.84m。

柱穴 5基が検出された。

P 1：平面楕円形、長軸0.42m・短軸0.34m・深さ0.22m。埋土は軽石を15%程度含む黒褐色土。

P 2：平面楕円形、長軸0.28m・短軸0.24m・深さ0.07m。

9号掘立柱建物



9号掘立柱建物

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を10%程度含む。

第15図 9号掘立柱建物

埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P 3 : 平面隅丸方形、長軸0.34m・短軸0.31m・深さ0.21m。埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。

P 4 : 平面方形、長軸0.25m・短軸0.21m・深さ0.27m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土

P 5 : 平面不整形円形、長軸0.29m・短軸0.28m・深さ0.17m。埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

柱間 P 1~2間:1.32m、P 2~3間:1.2m、P 3~4間:1.67m、P 4~5間:1.81m。

遺物 なし。

所見 調査区の西端寄りに位置する。10号掘立柱建物の東側に隣接する。北東-南西方向に長い長方形状を呈する。南西端の柱穴は後世の遺構に破壊され、検出されなかった。北辺及び東辺は2間であるが、南辺では南東隅、

西辺では北西隅の柱穴しか検出されなかった。全容は桁行・梁間ともに2間四方の建物であったと考えられる。時期 近世のものと考えられる。

15号掘立柱建物(第18図、PL.6・25)

位置 3区。X=61596~601、Y=-94190~198。

重複 3号畑、7号柵を掘り込む。

平面形状 3間×1間。

主軸方位(棟方向) N-75°-W。

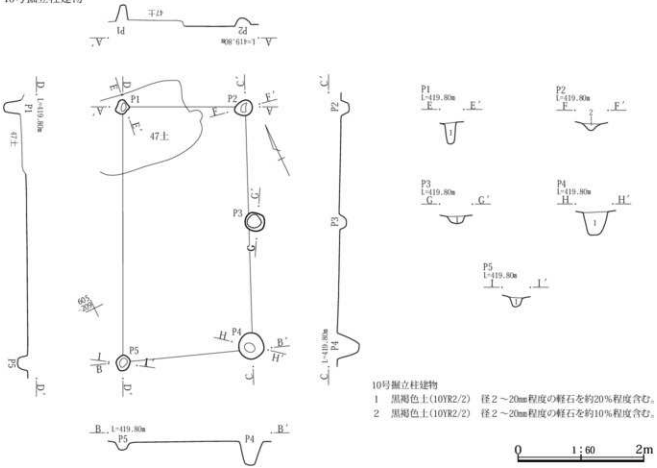
規模 長軸6.62m、短軸3.69m。

柱穴 8基が検出された。

P 1 : 平面不整形、長軸0.65m・短軸0.37m・深さ0.36m。埋土は軽石を10%程度含む暗褐色土。

P 2 : 平面隅丸長方形、長軸0.61m・短軸0.46m・深さ

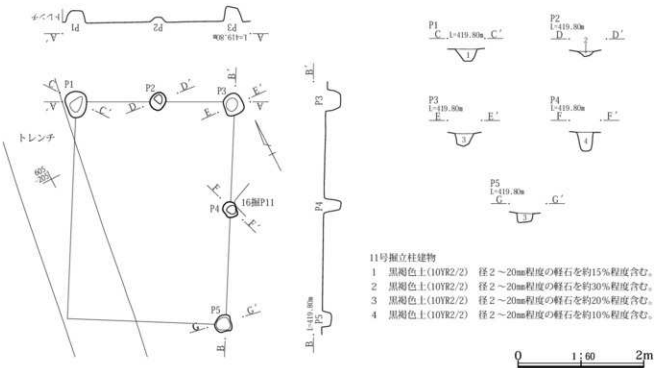
10号掘立柱建物



第16図

10号掘立柱建物

11号掘立柱建物



第17図 11号掘立柱建物

第3章 遺構と遺物

0.38m。埋土は軽石を10%程度及び黄褐色土塊を含む黒褐色土。

- P3：平面隅丸方形、長軸0.4m・短軸0.38m・深さ0.43m。埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。
- P4：平面ほぼ円形、長軸0.44m・短軸0.43m・深さ0.22m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。
- P5：平面不整楕円形、長軸0.33m・短軸0.32m・深さ0.33m。埋土は軽石を5%程度含む黒褐色土。
- P6：平面隅丸方形、長軸0.35m・短軸0.33m・深さ0.53m。
- P7：平面隅丸長方形、長軸0.51m・短軸0.34m・深さ

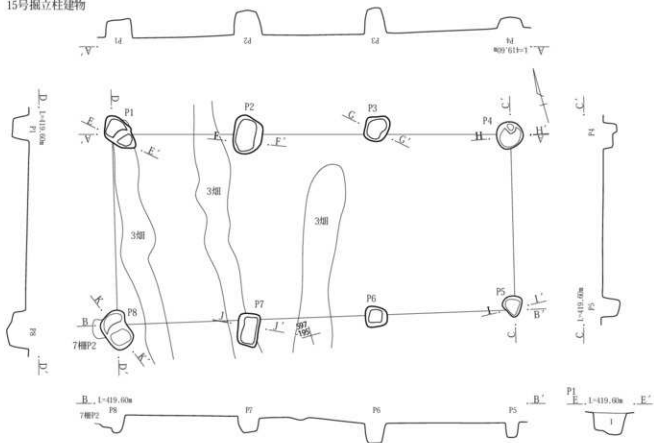
0.37m。埋土は軽石を3%程度、赤褐色土粒及び黄褐色土粒を10%程度含む暗褐色土。

- P8：平面不整楕円形、長軸0.62m・短軸0.4m・深さ0.32m。埋土は白色軽石を含む暗褐色土。
- 柱間 P1～2間：2.05m、P2～3間：2.02m、P3～4間：2.12m、P4～5間：2.72m、P5～6間：2.15m、P6～7間：2m、P7～8間：2.13m、P8～1間：3.15m。

遺物 なし。

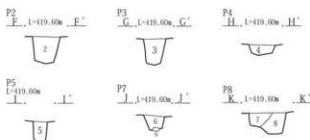
所見 調査区の西寄り、16号掘立柱建物の南東側に隣接する。東南東～西北西方向に長い長方形を呈する。桁

15号掘立柱建物



15号掘立柱建物

- 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。径20～50mm程度の黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約5%程度含む。
- 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石を約3%程度、径2～5mm程度の赤褐色土粒及び径1～2mm程度の黄褐色土粒を約10%程度含む。
- 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石を含む。
- 暗褐色土(10YR3/3) 径20mm程度の黄褐色土ブロックを約10%程度含む。



第18図 15号掘立柱建物

行3間、梁間1間で、柱穴はいずれもしっかりとした掘方を呈しており、本遺跡で検出された掘立柱建物の中では柱穴の規模はかなり大きい部類に属する。柱穴の平面形状が方形に近いものが多いことも特徴的である。P1及びP8はほぼ同位置で掘り直されている。

時期 近世のものと考えられる。

16号掘立柱建物(第19図、PL.6)

位置 3区。X=61600～607、Y=-94197～204。

重複 98号ピットを掘り込む。93号ピットに掘り込まれる。11号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。

平面形状 3間×1間+庇。

主軸方位(棟方向) N-75°-W。

規模 長軸6.52m、短軸5.70m。

柱穴 12基が検出された。

P1：平面楕円形、長軸0.71m・短軸0.57m・深さ0.19m。

P2：平面楕円形、長軸0.77m・短軸0.7m・深さ0.31m。
埋土は軽石を10%程度及び礫を含む黒褐色土。

P3：平面ほぼ円形、長軸0.85m・短軸0.84m・深さ0.45m。

P4：平面隅丸長方形、長軸0.67m・短軸0.6m・深さ0.33m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P5：平面楕円形、長軸0.89m・短軸0.8m・深さ0.37m。
埋土は軽石を10%程度、黄褐色土塊及び円礫を含む黒褐色土。

P6：平面隅丸方形、長軸0.27m・短軸0.23m・深さ0.1m。
埋土は軽石10%程度含む黒褐色土。庇の柱穴。

P7：平面楕円形、長軸0.38m・短軸0.31m・深さ0.34m。
軽石を10%程度、褐色土塊を2%程度含む黒褐色土。庇の柱穴。

P8：平面不整形形、長軸0.33m・短軸0.31m・深さ0.2m。埋土は軽石を30%程度含む黒褐色土。庇の柱穴。

P9：平面楕円形、長軸0.49m・短軸0.36m・深さ0.13m。庇の柱穴。

P10：平面長方形、長軸0.97m・短軸0.78m・深さ0.37m。
埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P11：平面不整形楕円形、長軸0.83m・短軸0.59m・深さ0.35m。埋土は軽石を30%程度及び黄褐色土粒を含む黒褐色土。

P12：平面楕円形、長軸1.35m・短軸0.99m・深さ0.4m。

埋土は軽石を5%程度含む黒褐色土が主体。

柱間 P1～2間：1.95m、P2～3間：2.06m、P3～4間：1.91m、P4～5間：3.88m、P5～6間：1.25m、P6～7間：2.11m、P7～8間：2.04m、P8～9間：1.93m、P9～10間：1.39m、P10～11間：3.73m、P10～11間：2.03m、P11～12間：2.07m、P12～5間2.00m。

遺物 なし。

所見 西北西一東南東方向にやや長い長方形を呈する。桁行3間、梁間1間で、南側に庇が付く。本遺跡で唯一の庇付き掘立柱建物で、本格的な建物と言える。建物本体部分の柱穴は、本遺跡で検出された他の掘立柱建物ではみられないくらいに大きい。南面底部分の柱穴は他の掘立柱建物と同様、小規模である。底部分の柱穴を含めてしっかりと掘方を有しており、本建物は、近接する10号掘立柱建物及び15号掘立柱建物などと関連し、施設を構成していた可能性も考えられる。特に、南東側に近接する15号掘立柱建物とは主軸方向が近似しており、両建物が一連のものであった可能性や、あるいはどちらかがどちらかの建て替えてあった可能性も考えられる。

時期 近世のものと考えられる。

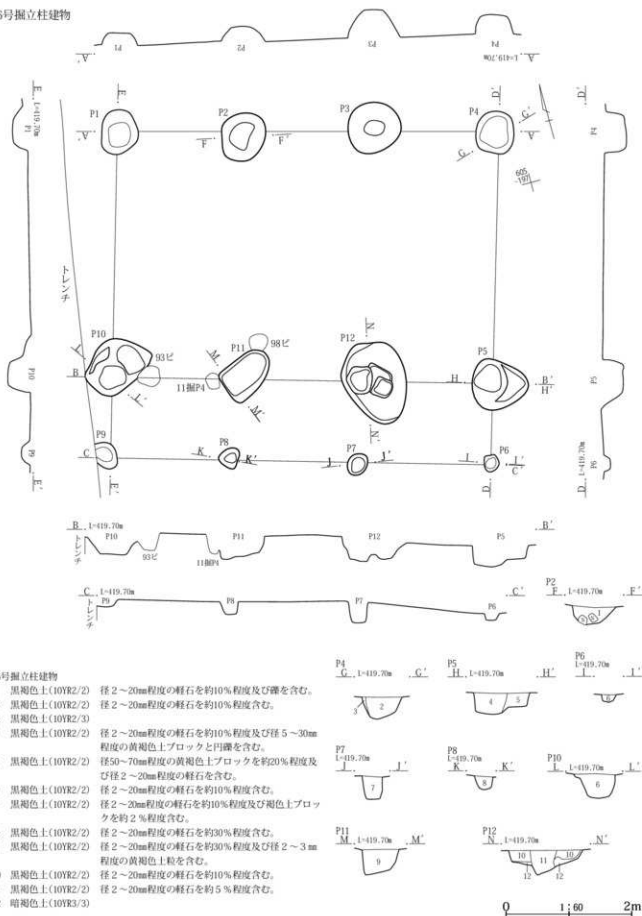
2. 柵

本遺跡では7条の柵が検出されたが、いずれも13棟の掘立柱建物と同様、3区1面からの検出である。

3区の南東端から中央やや東寄りにかけて検出されている。南東端で1～3号の3条が比較的近い位置で、中央部で4～7号の4条が散在している。いずれも全長8m以下で、柱間も2～4間程度の小規模なもので、柱穴も、本遺跡で検出された多くの掘立柱建物と同様、小規模である。また、7号柵以外はいずれも西北西一東南東方向に一直線であり、屈曲するものもない。また、柵に対応するような建物の遺構もまったく検出されていない。屋敷や施設などを囲うようなものではなく、小規模な範囲を区画するためのものと見られる。

具体的な用途や機能は全く明らかではないが、いずれも近世のものと考えられる。

16号掘立柱建物



第19図 16号掘立柱建物

1号柵(第20図、PL. 6)

位置 3区。X=61558～560、Y=-94139～146。

重複 9号溝を掘り込む。

平面形状 4間。

主軸方位 N-79°-W。

規模 全長7.35m。

柱穴 5基が検出された。埋土はいずれも軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 1：平面楕円形、長軸0.32m・短軸0.28m・深さ0.21m。

P 2：平面隅丸方形、一辺0.2m・深さ0.21m。

P 3：平面楕円形、長軸0.33m・短軸0.26m・深さ0.14m。

P 4：平面楕円形、長軸0.35m・短軸0.3m・深さ0.11m。

P 5：平面楕円形、長軸0.31m・短軸0.19m・深さ0.08m。

柱間 P 1～2間：1.7m、P 2～3間：2.09m、P 3～4間：1.74m、P 4～5間：1.52m。

遺物 なし。

所見 調査区の南東隅、2号柵の北側に隣接し、両柵は建て替えの関係にある可能性が高いが、新旧関係は不明である。

時期 近世のものと考えられる。

2号柵(第20図)

位置 3区。X=61557～558、Y=-94139～145。

重複 9号溝を掘り込む。

平面形状 2間。

主軸方位 N-73°-W。

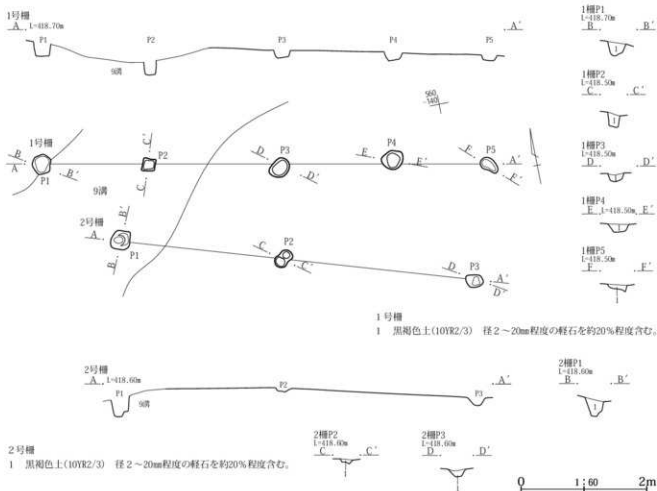
規模 全長5.95m。

柱穴 3基が検出された。埋土はいずれも軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 1：平面隅丸方形、一辺0.3m・深さ0.32m。

P 2：平面隅丸長方形、長軸0.31m・短軸0.21m・深さ0.12m。

1・2号柵



第20図 1・2号柵

第3章 遺構と遺物

P 3 : 平面楕円形、長軸0.29m・短軸0.2m・深さ0.08m。

柱間 P 1～2間：2.58m、P 2～3間：3.05m。

遺物 なし。

所見 調査区の南東隅、1号柵の南側に隣接し、両柵は建て替えの関係にある可能性が高いが、新旧関係は不明である。

時期 近世のものと考えられる。

3号柵(第21図)

位置 3区。X=61554～555、Y=-94151～154。

重複 9号溝と重複。

平面形状 2間。

主軸方位 N-80°-W。

規模 全長3.2m。

柱穴 3基が検出された。埋土はいずれも軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 1 : 平面楕円形、長軸0.29m・短軸0.28m・深さ0.09m。

P 2 : 平面楕円形、長軸0.25m・短軸0.2m・深さ0.11m。

P 3 : 平面楕円形、長軸0.3m・短軸0.21m・深さ0.11m。

柱間 P 1～2間：1.43m、P 2～3間：1.54m。

遺物 なし。

所見 1～3号柵は調査区の南東隅に集中する。

時期 近世のものと考えられる。

4号柵(第21図)

位置 3区。X=61576～578、Y=-94182～186。

重複 28号土坑を掘り込む。4号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明である。

平面形状 2間。

主軸方位 N-65°-W。

規模 全長4.5m。

柱穴 3基が検出された。

P 1 : 平面楕円形、長軸0.28m・短軸0.23m・深さ0.4m。
埋土は軽石を20%程度含む黒褐色土。

P 2 : 平面楕円形、長軸0.34m・短軸0.3m・深さ0.23m。
埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 3 : 平面不整形楕円形、長軸0.42m・短軸0.4m・深さ0.41m。埋土は軽石を20%程度及び炭化物を含む黒褐色土。

柱間 P 1～2間：1.73m、P 2～3間：2.45m。

遺物 なし。

所見 調査区中央の南寄り、3号掘立柱建物の東側、6号掘立柱建物の西側に位置する。西北西-東南東方向の主軸のものが多く本遺跡検出の柵の中では、北側への傾斜が若干強めである。

時期 近世のものと考えられる。

5号柵(第21図)

位置 3区。X=61585～586、Y=-94183～185。

重複 151号ピットに掘り込まれる。

平面形状 2間。

主軸方位 N-77°-W。

規模 全長2.8m。

柱穴 3基が検出された。

P 1 : 平面隅丸方形、長軸0.27m・短軸0.26m・深さ0.27m。埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土主体。

P 2 : 平面隅丸長方形、長軸0.23m・短軸0.2m・深さ0.1m。埋土は黄褐色土塊を5%程度及び軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 3 : 平面隅丸長方形、長軸0.5m・短軸0.34m・深さ0.19m。埋土は上層に軽石を10%程度含む黒褐色土、下層に暗褐色土。

柱間 P 1～2間：1.22m、P 2～3間：1.2m。

遺物 なし。

所見 なし。

時期 近世のものと考えられる。

6号柵(第22図)

位置 3区。X=61586、Y=-94196～199。

重複 1号畑と重複。

平面形状 4間。

主軸方位 N-71°-W。

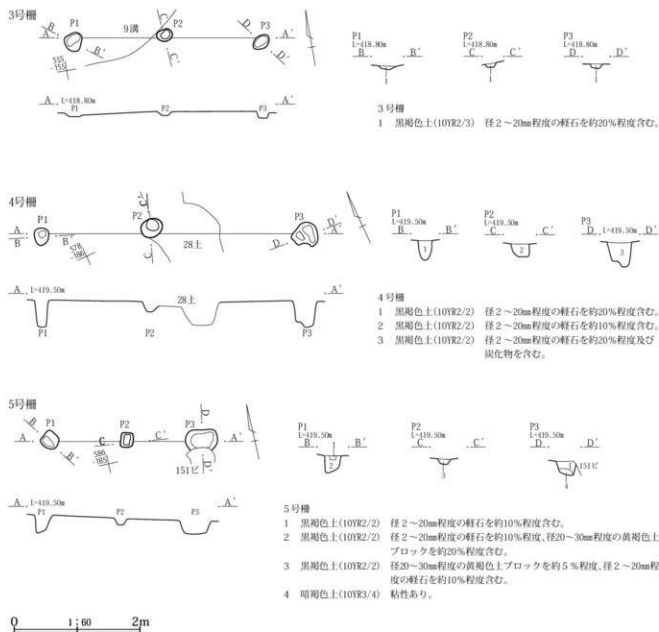
規模 全長2.6m。

柱穴 5基が検出された。

P 1 : 平面楕円形、長軸0.42m・短軸0.3m・深さ0.26m。
埋土は軽石を20～30%含む黒褐色土。

P 2 : 平面楕円形、長軸0.32m・短軸0.23m・深さ0.18m。
埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 3 : 平面楕円形、長軸0.3m・短軸0.24m・深さ0.08m。
埋土は軽石を5%程度含む黒褐色土。



第21図 3～5号槽

P 4 : 平面楕円形、長軸0.28m・短軸0.19m・深さ0.12m。

埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

P 5 : 平面楕円形、長軸0.39m・短軸0.31m・深さ0.14m。

埋土は軽石を10%程度含む黒褐色土。

柱間 P 1～2間 : 0.58m、P 2～3間 : 0.56m、P 3～4間 : 0.41m、P 4～5間 : 0.66m。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りに位置する。本遺跡で検出された槽の中では柱間が極端に狭く、全長に比して柱の数が多のが特徴的である。

時期 近世のものと考えられる。

7号槽(第22図、PL.25・64)

位置 3区。X=61596～602、Y=-94196～198。

重複 139号土坑及び2・3号畑を掘り込む。15号掘立柱建物に掘り込まれる。

平面形状 4間。

主軸方位 N-16°-E。

規模 全長6.7m。

柱穴 5基が検出された。

P 1 : 平面不整楕円形、長軸0.52m・短軸0.28m・深さ0.11m。

P 2 : 平面不整楕円形、長軸0.29m、検出短軸0.2m・

第3章 遺構と遺物

深さ0.16m。

P 3：平面楕円形、長軸0.65m・短軸0.38m・深さ0.25m。

埋土は軽石を10%程度及び黄褐色土塊を10%程度含む暗褐色土。

P 4：平面不整圓丸長方形、長軸0.42m・短軸0.32m・深さ0.26m。埋土は軽石及び黄褐色土塊を含む黒褐色土。

P 5：平面楕円形、長軸0.45m・短軸0.36m・深さ0.3m。埋土は黒褐色土。

埋土は黒褐色土。

柱間 P 1～2間：1.58m、P 2～3間：1.25m、P 3～

4間：1.5m、P 4～5間：1.9m。

遺物 P 1埋土中より砥石片1点出土。

所見 調査区の西端寄り、2号溝のすぐ東側に隣接する。

16号掘立柱建物とも2号溝を間に挟んで近接している。

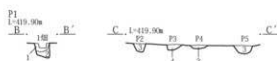
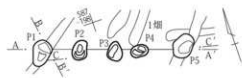
15・16号掘立柱建物、2号溝と主軸方位が比較的類似している。

本遺跡で検出された柵の中で唯一の南北方向の柵である。柵で区画した対象等については明らかではない。

時期 近世のものと考えられる。

柱間 P 1～2間：1.58m、P 2～3間：1.25m、P 3～

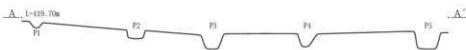
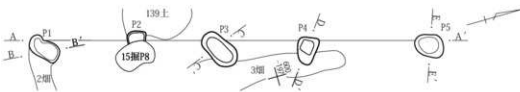
6号柵



6号柵

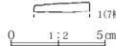
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約5%程度含む。

7号柵



7号柵

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石及び径1～2mm程度の黄褐色土ブロックとともに約10%程度含む。粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径20mm程度の軽石及び径50mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2)



第22図 6・7号柵、7号柵出土遺物

3. 畑

本遺跡では16箇所の畑が検出された。1区1面では1箇所、3区1面から9箇所、4区1面から2箇所、1～4区とは面を異にする5区では1面から3箇所、2面から1箇所が検出されており、1面で検出された畑は計12箇所となり、本遺跡で検出された畑のほとんどは1面からの検出である。

畑は、いずれも上面を削平されており、検出状態は極めて悪く、また、いずれも小規模である。

なお、11・12号畑は、一体の畑として取り扱った。

1号畑(第23図、PL. 6)

位置 3区。X=61579～590、Y=-94189～200。

重複 6号柵、8・13～15・18・19・22・41・75・80号土坑、9・13・66・80・121・139・143・193号ビットに掘り込まれる。

主軸方位 多方向。

面積 100㎡。

埋土 黒褐色土。

畝間 0.2～1m。

検出された畝間の深さ 0.03～0.08m。

遺物 なし。

所見 3区の西端寄りの南側に位置する。東西～西北西～東南東方向の畝間と北東～南西及び北西～南東方向の畝間が重複して検出された。検出された畝間の長さは2～8m程度とまちまちであるが、上面の削平を基だしく受けており、不完全な状態での検出である。

時期 近世のものと考えられる。

2号畑(第24図、PL. 7)

位置 3区。X=61596～597、Y=-94192～198。

重複 3号畑、7号柵に掘り込まれる。

主軸方位 N-90°-E。

面積 4.76㎡。

埋土 黒褐色土。

畝間 0.64m。

検出された畝間の深さ 0.9～0.12m。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りの中央から、3号畑と重複して検

出された。上面を基だしく削平されている上に、3号畑によって破壊されており、残存状態は極めて悪い。東西方向の畝間の溝が2条のみ検出された程度である。

時期 近世のものと考えられる。

3号畑(第24図、PL. 7)

位置 3区。X=61594～601、Y=-94192～197。

重複 2号畑を掘り込む。15号掘立柱建物、7号柵に掘り込まれる。

主軸方位 N-0°～20°-E。

面積 35㎡。

埋土 黒褐色土。

畝間 0.4～1m。

検出された畝間の深さ 0.08～0.1m。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りの中央、2号畑を掘り込んで、ほぼ同位置に所在する。南北～北北東～南南西方向に並列する長さ3.4～6.4m程度の畝間の溝が6条検出された。

時期 近世のものと考えられる。

4号畑(第24図、PL. 7)

位置 3区。X=61601～604、Y=-94191～193。

重複 130号ビット。

主軸方位 N-38°-W。

面積 4.8㎡。

埋土 黒褐色土、暗褐色土。

畝間 0.56～0.68m。

検出された畝間の深さ 0.08～0.1m。

遺物 なし。

所見 3号畑の北東約2mに位置する。北西～南東方向の長さ1.9～2.8m程度の畝間の溝が3条並列して検出された。

時期 近世のものと考えられる。

7号畑(第24図、PL. 7)

位置 3区。X=61589～597、Y=-94172～178。

重複 1号道路に掘り込まれる。

主軸方位 N-9°-E。

面積 26.1㎡。

第3章 遺構と遺物

埋土 黒褐色土。

畝間 0.1~0.2m。

検出された畝間の深さ 0.01~0.08m。

遺物 なし。

所見 調査区の中央北寄りの位置で検出された。幅が狭く長さ0.6~5m程度の、北北東-南南西方向の畝間の

溝が、東西に十条分断的に検出された。南寄りの部分を1号道路によって破壊され、上面も大きく削平を受けているため、残存状態は良くない。

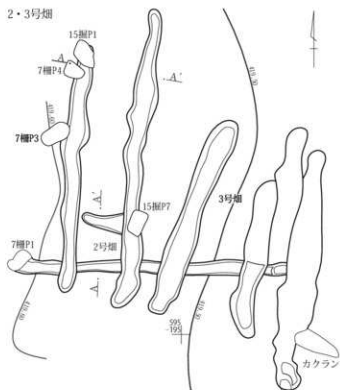
9号畑(第25図, PL. 7)

位置 3区。X=61589~595, Y=-94182~188。

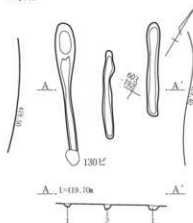


第23図 1号畑

2・3号畑



4号畑



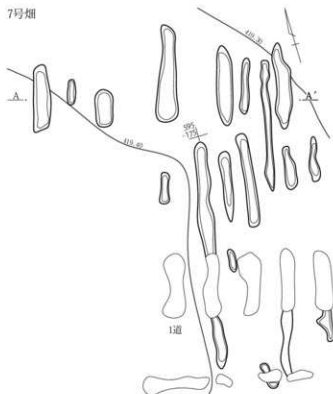
4号畑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 軽石を含む。

2・3号畑

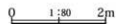
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径2～3mm程度の黄褐色土ブロックを含む。

7号畑



7号畑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。



第24図 2～4・7号畑

重複 1号道路。ただし新旧関係は不明。

主軸方位 N-82°-W。

面積 20.4㎡。

埋土 暗褐色土。

畝間 0.3~0.7m。

検出された畝間の深さ 0.01~0.02m。

遺物 なし。

所見 調査区の中央やや北寄りに位置する。1号道路のすぐ西側に隣接し、1号道路の南側側溝がちょうど途切れた中間部に位置している。1号道路の痕跡との重複関係が全く検出されていないため、新旧関係は不明である。西北西-東南東方向の、長さ0.6~6mの細く浅い畝間の溝が、南北に6条分断的に検出された。

時期 近世のものと考えられる。

10号畑(第25図、Pl.7)

位置 3区。X=61588~589, Y=-94188~190。

重複 なし。

主軸方位 N-7~30°-E。

面積 2.16㎡。

埋土 暗褐色土。

畝間 0.4~0.5m。

検出された畝間の深さ 0.01~0.08m

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、1号畑の北東側、9号畑のすぐ南側、11号畑の北西側に近接する。ただし、畝間の溝の向きは、近接するいずれの畑とも一致しない。長さ0.44~1.16m程度の短い畝間の溝が東西に4条検出されたに過ぎない。

時期 近世のものと考えられる。

11・12号畑(第26図)

位置 3区。X=61583~588, Y=-94174~183。

重複 5号掘立柱建物に掘り込まれる。

主軸方位 N-10~15°-E。

面積 18.9㎡。

埋土 灰黄褐色土。

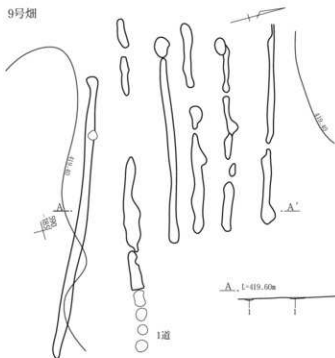
畝間 0.4~1m。

検出された畝間の深さ 0.01~0.1m。

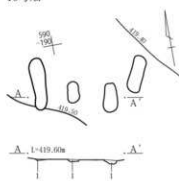
遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、10号畑の南東側に近接する。発掘調査時には11・12号畑として、別個の畑として認識されていたが、検出された畝間の方向や規模、両者の位置関係からみて、両者は同一の畑の遺構と見るべきであ

9号畑

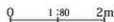


10号畑

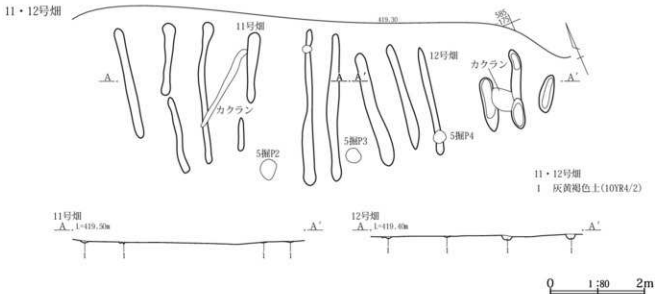


9・10号畑

1 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土を含む。



第25図 9・10号畑



第26図 11・12号畑

ろうと思われる。

長さ0.8～3.2m程度の短い畝間の溝が断続的に東西に12条検出された。本遺跡で検出された他の畑同様、上面が大きく削平されており、残存状態は悪い。

時期 近世のものと考えられる。

15号畑(第27図、PL. 9)

位置 1区。X=61522～61524、Y=-94094～098。

重複 なし。

主軸方位 N-88°-E。

面積 8.3㎡。

埋土 黒褐色土。

畝間 0.1～0.7m。

検出された畝間の深さ 0.05～0.1m。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、東寄りに位置する。長さ2.9～4.9m程度の東西方向の畝間の溝が断続的に南北に3条のみ検出されたが、不整形で、詳細は不明な点が多い。本遺跡で検出された他の畑と同様、上面が大きく削平されており、残存状態は極めて悪い。

時期 近世のものと考えられる。

16号畑(第28図、PL. 7)

位置 4区。X=61612～614、Y=-94212～217。

重複 17号畑と重複。

主軸方位 N-40～50°-E。

面積 8.3㎡。

埋土 不明。

畝間 0.5～1.65m。

検出された畝間の深さ 0.1m。

遺物 なし。

所見 調査区の北東隅に位置し、17号畑と重複している。北東-南西方向に長い、長さ0.8～1m・幅0.2m前後の小規模な畝間の溝が断続的に3条にわたって並列して検出された。検出範囲は非常に狭く、小規模である。17号畑と重複しているが、直接の切りあい関係はみられず、新旧関係は不明である。本遺跡で検出された他の畑と同様、上面が大きく削平されており、残存状態は極めて悪い。

時期 近世のものと考えられる。

17号畑(第28図、PL. 7)

位置 4区。X=61612～615、Y=-94209～214。

重複 16号畑と重複。

主軸方位 N-87°-W。

面積 7.8㎡。

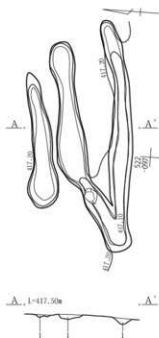
埋土 不明。

畝間 0.2～1m。

検出された畝間の深さ 0.1～0.14m。

遺物 なし。

15号畑



15号畑

1 黒褐色土(10YR3/2) 礫・軽石・黒色土ブロック等を含む。



第27図 15号畑

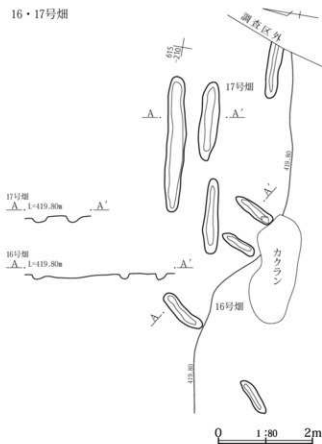
所見 調査区の北東隅に位置し、16号畑と重複している。ほぼ東西方向に長い、長さ1.6～2.8m・幅0.2～0.4m前後の小規模な畝間の溝が断続的に3条にわたって並列して検出された。最も東側から検出された畝間の溝は、東端が調査区外に伸びている。16号畑と同様、検出範囲は非常に狭く、小規模である。16号畑と重複しているが、直接の切りあい関係はみられず、新旧関係は不明である。本遺跡で検出された他の畑と同様、上面が大きく削平されており、残存状態は極めて悪い。

時期 近世のものと考えられる。

4. 道路

3区の中央よりやや北寄りの位置を西西北—東南東方向に走行する道路跡が1条検出された。路面は削平を受け、全く検出されなかったが、南側に断続的に検出された側溝の痕跡と、道路遺構で路面下に形成されるいわゆる「波板状遺構」が検出されたことから道路と判断した。

16・17号畑



第28図 16・17号畑

1号道路(第29図、PL.7)

位置 3区。X=61586～595、Y=-94164～210。

重複 7号畑、65号土坑を掘り込む。113号土坑に掘り込まれる。9号畑との新旧関係は不明。

主軸方位 N-78°-W。

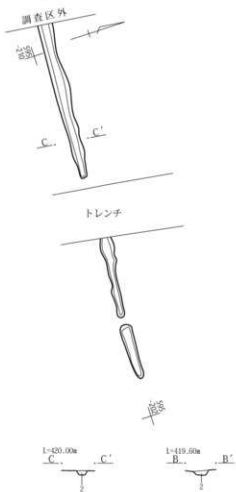
規模 検出最大長(南側側溝検出最大長)47m、波板状遺構を路面のほぼ中心と仮定すると路面推定幅約4m、波板状遺構の長さ1～1.4m前後・幅0.16～0.48m前後・深さ0.02～0.18m。側溝の検出幅0.04～0.2m、深さ0.1～0.14m。

埋土 黒褐色土主体。

遺物 なし。

所見 調査区の東端から西へ約9m付近から全長約19mにわたって検出されているが、形状等から見て、検出された範囲が道路の全長ではなく、畑などと同様、上面が削平を受けているため、大方の部分が破壊され、部分的に検出された状態である。側溝は南側のみで検出されたのであるが、中世以降の道路遺構であれば、片側側溝のものも少なくないので、元来、北側にも側溝が存在して

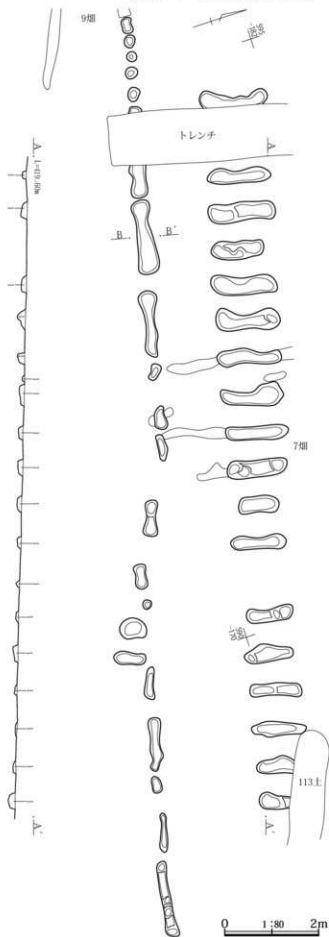
1号道路



1号道路

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 径2~20mm程度の軽石を約5~20%程度と径10~20mmの黄褐色土ブロックを含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。

第1節 1~4区1面の遺構と遺物



第29図 1号道路

いたかどうかは明らかではない。南側の側溝は、いわゆる「土坑連結型」の側溝で、古代以来、道路の側溝としてよく見られる形態であり、この遺構を道路と確定する根拠の一つである。道路の方向は、周辺部で検出された西北西—東南東方向に長大な土坑や、畑の畝間の溝とも一致するものが多く、同一の地割に基づいて造成されたものと見られる。周辺に展開する畑や土坑と同様、近世の所産と考えられる。

時期 近世のものと考えられる。

5. 溝

本遺跡では26条の溝が検出された。調査区内を横断ないし縦断するような長大な形状では検出されなかった。1区1面から8条、2区1面から1条、3区1面から10条、4区1面から1条で、1面で検出された溝は計20条であり、1～4区で検出された溝のほとんどは1面からの検出である。他に、2区2面から25号溝1条、3区2面から5号溝1条、4区2面から22号溝1条、5区1面から27号溝1条、5区2面から26号溝1条、5区3面から23号溝1条が検出されている。

1区で検出された溝はすべて東西方向に走行するもので12～16・19号溝は基本的に同一溝で、流路が変わったことによって形成されたものと考えられる。

一方、3区で検出された溝は、調査区の全域に散在しており、北北東—南南西方向のものと、西北西—東南東方向のものがある。

1面で検出された他の遺構と同様、上面を基だしく削平されているために部分的にしか検出されていないものばかりであり、9号溝を除いては検出深度も浅く、水流の痕跡もまったく確認することが出来なかった。

1号溝(第30図、PL. 8)

位置 3区。X=61596～612、Y=-94197～200。

重複 57・154号土坑を掘り込む。22号土坑に掘り込まれる。

主軸方位 N-7°-E、N-12°-E。

規模 全長16.13m、幅0.38～0.83m、深さ0.12～0.48m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の北西隅付近を北北東—南南西方向に走行する。

時期 近世のものと考えられる。

2号溝(第30図、PL. 8)

位置 3区。X=61597～609、Y=-94195～198。

重複 262号ピットに掘り込まれる。

主軸方位 N-10°-E、N-16°-E。

規模 全長12.22m、幅0.36～0.78m、深さ0.07～0.14m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の北西隅付近、1号溝の東側約2mの位置を、1号溝とほぼ並行して、同一方向に走行している。走行の向きや溝の幅は1号溝と類似するが、検出全長は1号溝よりも若干短い。

時期 近世のものと考えられる。

3号溝(第30図、PL. 8)

位置 3区。X=61614～615、Y=-94200～208。

重複 55号土坑を掘り込む。

主軸方位 N-86°-W。

規模 検出全長8.62m、幅0.54～1.26m、深さ0.22～0.32m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の北西端付近を東西方向に走行する。西端は調査区外に出るが、西側に隣接する4区では、西側の続きの部分が検出されていない。

時期 近世のものと考えられる。

4号溝(第31図、PL. 8)

位置 3区。X=61604～607、Y=-94173～185。

重複 なし。

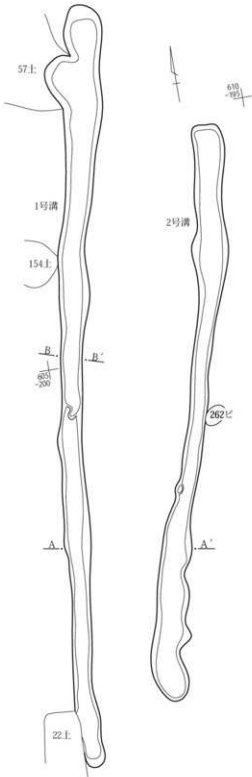
主軸方位 N-75°-W。

規模 検出全長12.84m、幅0.37～0.82m、深さ0.04～0.39m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

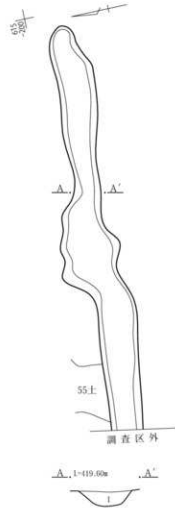
1・2号溝



1・2号溝

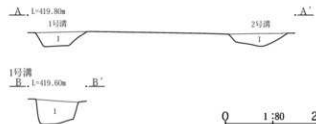
1 黒褐色土(10YR3/1) 上部に径2～20mm程度の軽石を含む。

3号溝



3号溝

1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約2%程度含む。



0 1:80 2m

0 1:40 1m

第30図 1～3号溝

第3章 遺構と遺物

所見 3区中央の北端部を東西に走行する。東端は調査区外に出る。

時期 近世のものと考えられる。

6号溝(第31図、PL. 8)

位置 3区。X=61569~570、Y=-94160~162。

重複 なし。

主軸方位 N-89°-E。

規模 全長1.89m、幅0.18~0.22m、深さ0.1m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の東寄りの位置を東西方向に走行する小規模で短い溝。7号溝の北側に並行する。

時期 近世のものと考えられる。

7号溝(第31図、PL. 8)

位置 3区。X=61568、Y=-94159~163。

重複 なし。

主軸方位 N-85°-W。

規模 全長3.72m、幅0.25~0.32m、深さ0.08~0.12m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の東寄りの位置を東西方向に走行する小規模で短い溝。6号溝の南側に並行し、6号溝よりもやや規模が大きい。

時期 近世のものと考えられる。

8号溝(第31図)

位置 3区。X=61552~554、Y=-94143~144。

重複 なし。

主軸方位 N-14°-E。

規模 全長2.1m、幅0.28~0.46m、深さ0.06m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の東端付近を北東-南西方向に走行する小規模な溝。

時期 近世のものと考えられる。

9号溝(第32図、PL. 9)

位置 3区。X=61554~562、Y=-94140~159。

重複 162号土坑、1~3号柵に掘り込まれる。

主軸方位 N-65°-E、N-24°-W。

規模 全長24m、幅0.66~2.22m、深さ0.08~0.27m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の南東端付近を北東-南西方向にやや蛇行しながら走行する。北東端は調査区外に出る。3区で検出された溝のなかで唯一、水流の痕跡が確認できる溝である。

時期 近世のものと考えられる。

10号溝(第31図)

位置 3区。X=61555~559、Y=-94136~137。

重複 なし。

主軸方位 N-14°-E、N-22°-E。

規模 検出全長3.38m、幅0.41~0.57m、深さ0.08m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の南東端を北北東-南南西方向に走行する小規模な溝。北北東の端は調査区外に伸び、南南西の端は11号溝の手前で止まる。

時期 近世のものと考えられる。

11号溝(第31図、PL. 9)

位置 3区。X=61554~558、Y=-94136~142。

重複 168号土坑に掘り込まれる。

主軸方位 N-61°-W。

規模 検出全長6.81m、幅0.4~0.48m、深さ0.13m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 3区の南東端部を北西-南東方向に走行する。南東端は調査区外に伸びている。北西端は9号溝の手前で止まる。

時期 近世のものと考えられる。

12号溝(第33図、PL. 9)

位置 1区。X=61523~527、Y=-94094~121。

重複 なし。

主軸方位 N-84°-E。

規模 検出全長27.88m、幅0.31~1.14m、深さ0.39m。

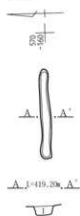
4号溝



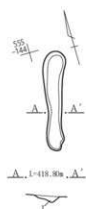
4号溝

1 暗褐色土(10YR3/3) 径100mm程度のロームブロック及び
ローム粒子を約30%程度含む。

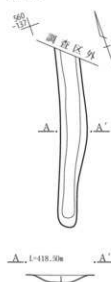
6号溝



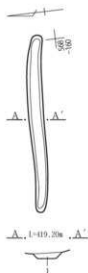
8号溝



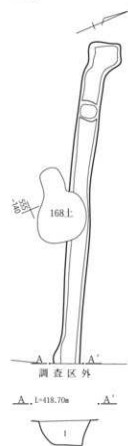
10号溝



7号溝

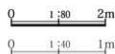


11号溝

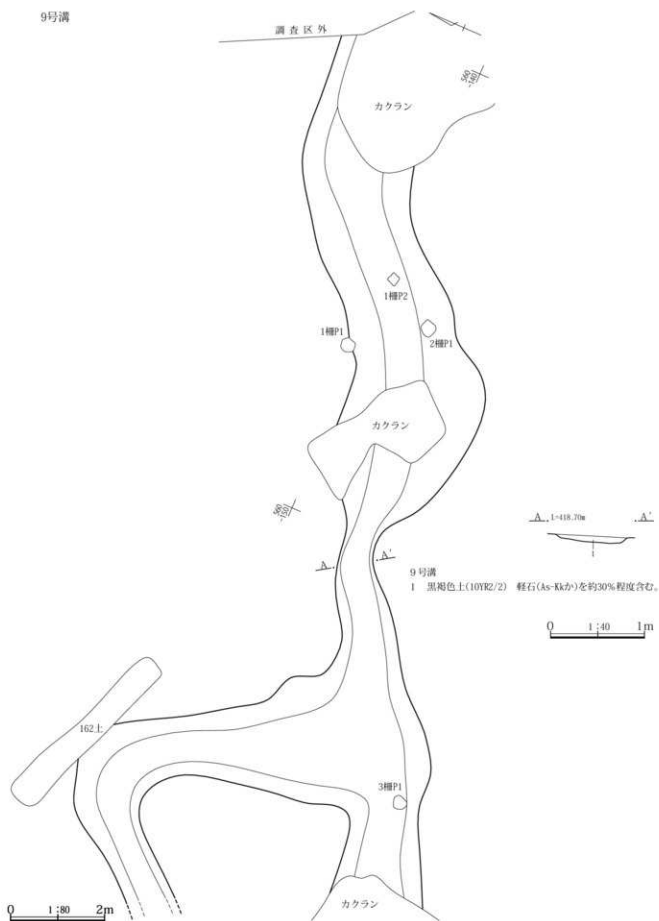


6～8・10・11号溝

1 黒褐色土(10YR2/2) 軽石(As-Kkカ)を約30%程度含む。



第31図 4・6～8・10・11号溝



第32図 9号溝

埋土 黒褐色土主体、3層が確認された。底面上の黒褐色砂は流水の痕跡か。

遺物 スクレイパー1点、剥片2点(非掲載、混入)。

所見 1区の北寄りの位置を東西方向に若干蛇行しながら東流する溝。底部が一段深く掘りくぼめられており、しっかりとした掘方を有している。東西両端とも調査区外にそれぞれ伸びている。南側13号溝と接するが、重複はしていない。12～19号溝はいずれも水流の痕跡が認められ、基本的に同一の溝が時期的変遷により若干流路を変えたものと考えられるが、各溝の新旧関係はあまり明確には出来なかった。西端は調査区の中央南寄りの位置を蛇行しながら東へと流れる自然流路を掘り込んでいる。中央よりやや東寄りの部分を大きく攪乱されている。

時期 近世のものと考えられる。

13号溝(第33図、PL. 9)

位置 1区。X=61522～526、Y=-94103～121。

重複 14号溝を掘り込む。

主軸方位 N-80°-E。

規模 検出全長18.84m、幅0.13～0.88m、深さ0.27m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 剥片1点(非掲載、混入)。

所見 1区の北寄りの位置、12号溝のすぐ南側に接して僅かに蛇行しながら西から東へと流れる浅い溝。12号溝と隣接するが、重複することなく、両溝の新旧関係は不明である。西端は調査区外に伸びる。東端は攪乱され、調査区内で消滅している。西端は調査区の中央南寄りの位置を蛇行しながら東へと流れる自然流路を掘り込んでいる。

時期 近世のものと考えられる。

14号溝(第33図、PL. 9)

位置 1区。X=61524、Y=-94111～115。

重複 13号溝に西端を掘り込まれる。

主軸方位 N-85°-W。

規模 検出全長4.45m、幅0.45m、深さ0.19m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 1区の中央、西寄りの位置を東西方向に走行する小規模で浅い溝。13号溝のすぐ南側に隣接し、東端はX=

61524・Y=-94111付近から検出され、西端側は13号溝に掘り込まれ、破壊されている。

時期 近世のものと考えられる。

15号溝(第33図、PL. 9)

位置 1区。X=61523、Y=-94113～117。

重複 なし。

主軸方位 N-82°-E。

規模 検出全長4.68m、幅0.41m、深さ0.14m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 14号溝の南側を並行して北東-南西方向に蛇行しながら走行する小規模な溝。並行する12～16号溝の中では最もしっかりとした掘方を有している。東端はX=61524・Y=-94113付近から検出され、西端は攪乱されている。

時期 近世のものと考えられる。

16号溝(第33図、PL. 9)

位置 1区。X=61519～523、Y=-94108～116。

重複 17号溝と重複するが、交点を攪乱されているため、両溝の新旧関係は不明である。

主軸方位 N-20°-E、N-85°-E。

規模 検出全長10.05m、幅0.14～0.60m、深さ0.1m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 1区の中央、西寄りの位置を、東西方向から南南西方向に鉤の手状に屈曲して走行する小規模で浅い溝。東端はX=61523・Y=-94108付近に位置する攪乱が破壊されている。西端は調査区の中央、南寄りの位置を蛇行しながら東西方向に流れる自然流路を掘り込み、X=61519・Y=-94116付近で止まる。

時期 近世のものと考えられる。

17号溝(第33図、PL. 9)

位置 1区。X=61520～522、Y=-94109～117。

重複 16号溝と重複するが、交点を攪乱されているため、両溝の新旧関係は不明である。

主軸方位 N-76°-W。

規模 全長8.99m、幅0.43m、深さ0.14m。

第3章 遺構と遺物

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西寄りの位置を、南側に隣接する18号溝とほぼ並行して東—西北西方向に走行する小規模で浅い溝。東端は $X=61521 \cdot Y=-94109$ 付近、西端は $X=61522.5 \cdot Y=-94118$ 付近でそれぞれ止まる。17・18号溝は同一溝が時間差によって若干位置を変えたものと考えられるが、前述したように新旧関係は不明である。

時期 近世のものと考えられる。

18号溝(第33図、PL.9)

位置 1区。 $X=61520 \sim 521$ 、 $Y=-94107 \sim 114$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-83^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長7.68m、幅0.35m、深さ0.14m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西寄りの位置を、北側に隣接する17号溝とほぼ並行して東—西北西方向に走行する小規模で浅い溝。東端は $X=61521.5 \cdot Y=-94107$ 付近で止まり、西端は $X=61521 \cdot Y=-94114$ 付近で攪乱される。17・18号溝は同一溝が時間差によって若干位置を変えたものと考えられるが、前述したように新旧関係は不明である。

時期 近世のものと考えられる。

19号溝(第33図、PL.9)

位置 1区。 $X=61524 \sim 526$ 、 $Y=-94092 \sim 104$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-87^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長12.65m、幅0.6m、深さ0.29m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄りの位置、12号溝のすぐ南側に隣接して東西方向に走行する小規模で浅い溝。東端は調査区外に出る。西端は、調査区の中央、やや北寄りの位置、 $X=61525 \cdot Y=-94105$ 付近で止まる。12号溝の中央よりやや東寄りの位置を攪乱した掘り込みによって、西端からやや東寄りの位置を大きく破壊されている。

時期 近世のものと考えられる。

20号溝(第34図、PL.10)

位置 2区。 $X=61537 \sim 539$ 、 $Y=-94102 \sim 105$ 。

重複 なし。

主軸方位 $N-51^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長3.1m、幅0.66m、深さ0.06m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の南東隅を北東—南西方向に走行する。北東及び南西の端ともに調査区外に伸びている。断面は底面が広い逆台形状を呈しており、浅い。水流の痕跡は顕著には認められなかった。

時期 近世のものと考えられる。

21号溝(第35図、PL.10)

位置 4区。 $X=61598 \sim 599$ 、 $Y=-94214 \sim 220$ 。

重複 193号土坑を掘り込む。

主軸方位 $N-72^{\circ}-E$ 。

規模 検出全長6.59m、幅0.78m、深さ0.29m。

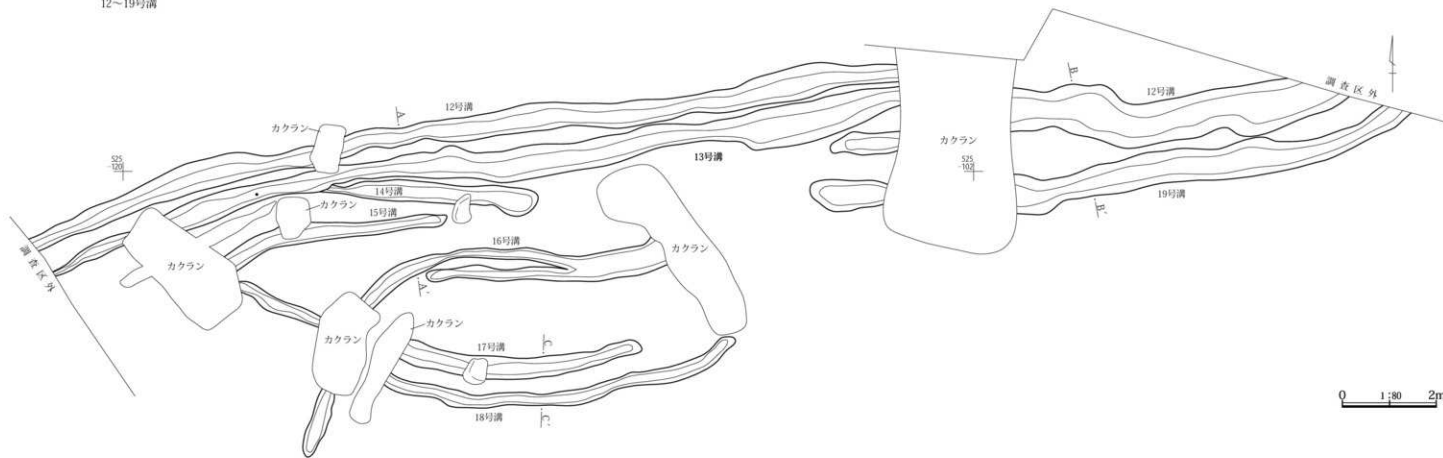
埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 4区の南寄りの位置を東北東—西南西方向に走行する小規模で浅い溝。断面は丸みを帯びた不整逆台形状を呈する。東端は $X=61599 \cdot Y=-94214$ 付近で止まり、西端は調査区外に伸びている。水流の痕跡は認められなかった。

時期 近世のものと考えられる。

12～19号溝

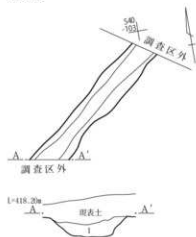


12～19号溝

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 礫・軽石・黒色土ブロック等を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 礫・軽石・黒色土粒子・黒色土ブロック等を含む。
- 3 黒褐色砂(10YR2/2)

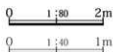
0 1:40 1m

20号溝



20号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 混入物が少なく粘性が強い土で、しまりがやや弱い。



第34図 20号溝

6. 土坑

本遺跡では200基の土坑が検出された。1区からは全く検出されず、2～4区の1面では166基が、2面では20基、計186基が検出されている。

また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面から各1基と3面から12基の計14基の土坑が検出された。

2～4区の1面検出の土坑は、2区では調査区の北西寄りから、3区では調査区のほぼ全域にわたって、4区では主に調査区の中央を南北に貫流する河道の東側から検出されている。

3区で検出された土坑は、西北西—東南東方向主軸のものと北東—南西方向主軸のものとはほぼ大別できる。

1号土坑(第36図)

位置 3区。X=61588～590、Y=-94209～210。

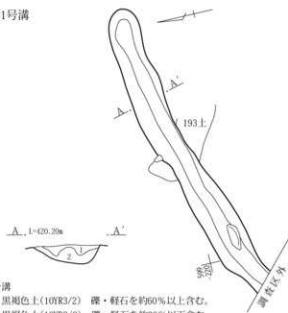
重複 なし。

平面形状 南西側が調査区外に出るため全容は不明である。

主軸方位 N-53°-W。

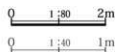
第1節 1～4区1面の遺構と遺物

21号溝



21号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 礫・軽石を約60%以上含む。
2 黒褐色土(10YR3/2) 礫・軽石を約30%以下含む。



第35図 21号溝

規模 長軸1.60m、検出短軸0.8m、深さ0.28m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅の南壁に掛かる。南側が調査区外に出るため、全容は不明である。断面は不整形形状を呈する。1～17号土坑は、3区の南西隅付近に所在している。

時期 近世のものと考えられる。

2号土坑(第36図)

位置 3区。X=61589～591、Y=-94206～207。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-23°-E。

規模 長軸2.13m、短軸0.81m、深さ0.09m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近、1号土坑の北東側に近接す

る。断面は浅い逆レンズ状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

3号土坑(第36図、PL.10)

位置 3区。X=61588、Y=-94204~205。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い不整隅丸台形状を呈する。

主軸方位 N-64°-E。

規模 長軸0.87m、短軸0.77m、深さ0.48m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置し、4号土坑の北側に近接し、6・7号土坑のすぐ西側に隣接している。深く、しっかりとした掘方を有しており、底部が一段と深く掘り込まれている。

時期 近世のものと考えられる。

4号土坑(第36図)

位置 3区。X=61584~587、Y=-94204~206。

重複 9号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南西側が調査区外に出るため、全容は不明である。

主軸方位 N-52°-W。

規模 検出長軸3.36m、検出短軸1.43m、深さ0.26m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置しており、南壁に掛かる。6・7号土坑の南側に近接する。南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出された状況では北西-南東方向に長く、断面は逆レンズ状を呈して浅い。確認面及び埋土中及び底部からは自然礫が若干出土した。

時期 近世のものと考えられる。

5号土坑(第37図)

位置 3区。X=61582~583、Y=-94201。

重複 10号土坑に掘り込まれる。

平面形状 西側を10号土坑に掘り込まれ、破壊されてい

るため全容は不明である。

主軸方位 N-44°-W。

規模 検出長軸0.73m、検出短軸0.6m、深さ0.13m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西側に位置しており、西側を10号土坑に掘り込まれるため全容は不明である。しっかりとした掘方を有している。

時期 近世のものと考えられる。

6号土坑(第36図、PL.10)

位置 3区。X=61586~588、Y=-94203~204。

重複 7号土坑、40号ピットに掘り込まれる。

平面形状 南北に長い不整隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-10°-E。

規模 検出長軸2.08m、短軸1.51m、深さ0.26m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置し、3号土坑のすぐ東側、4号土坑のすぐ北側に隣接する大きな土坑。断面は緩やかな逆レンズ状を呈し、浅い。

時期 近世のものと考えられる。

7号土坑(第36図、PL.10)

位置 3区。X=61588~589、Y=-94203~204。

重複 6号土坑を掘り込む。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-7°-E。

規模 長軸1.70m、短軸0.8m、深さ0.67m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置し、3号土坑のすぐ東側に隣接する。掘方は深く、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

8号土坑(第36図、PL.10)

位置 3区。X=61589~590、Y=-94199~200。

重複 9号ピットに掘り込まれ、1号畑を掘り込む。

平面形状 南北に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-9°-W。

規模 長軸1.39m、短軸1.26m、深さ0.1m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西端寄りに位置し、22号土坑のすぐ東側に隣接する。掘方は浅く、断面は緩やかな逆レンズ状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

9号土坑(第37図)

位置 3区。X=61583~584、Y=-94202~204。

重複 4号土坑を掘り込み、10号土坑に掘り込まれる。

平面形状 西側が調査区外に出、東側を10号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明であるが、東西に細長い溝状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-85°-W。

規模 検出長軸2.42m、短軸0.92m、深さ0.43m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置し、東端は10号土坑に破壊され、また西端は調査区外に伸びているため全容は不明である。しっかりとした掘方を有している。

時期 近世のものと考えられる。

10号土坑(第37図)

位置 3区。X=61582~586、Y=-94201~202。

重複 5・9号土坑を掘り込む。

平面形状 南北に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-3°-E。

規模 検出長軸4.17m、短軸1.02m、深さ0.51m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置し、11号土坑のすぐ西側、22号土坑のすぐ南側に隣接する。南端は調査区外に

伸びる。断面は逆台形状を呈しており、しっかりとした掘方を有する。

時期 近世のものと考えられる。

11号土坑(第37図)

位置 3区。X=61583~585、Y=-94200~201。

重複 なし。

平面形状 南北に長い不整隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-10°-E。

規模 長軸1.15m、短軸0.73m、深さ0.45m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置し、10号土坑のすぐ東側、12号土坑のすぐ西側に隣接する。断面は長方形で、壁は直に落ちている。しっかりとした掘方を有する。

時期 近世のものと考えられる。

12号土坑(第37図、PL.10)

位置 3区。X=61583~584、Y=-94199~200。

重複 15号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状。

主軸方位 N-20°-E。

規模 長軸1.50m、短軸0.79m、深さ0.12m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西隅付近に位置し、11号土坑のすぐ東側に隣接する。断面は扁平な逆台形状を呈しており、浅い。

時期 近世のものと考えられる。

13号土坑(第37図、PL.11)

位置 3区。X=61585~586、Y=-94199~201。

重複 1号畑を掘り込む。15・22号土坑に掘り込まれる。

平面形状 西側を22号土坑に、東側を15号土坑にそれぞれ掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。

主軸方位 N-76°-W。

規模 検出長軸1.4m、短軸1.11m、深さ0.19m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・

As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西に位置する。東側を15号土坑に、西側を22号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。浅く、断面は扁平で浅い逆レンズ状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

14号土坑(第37図、PL.11)

位置 3区。X=61585~586、Y=-94197~199。

重複 1号畑を掘り込む。15号土坑に西側を、78号ピットに北東側を掘り込まれる。

平面形状 東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-76°-W。

規模 検出長軸1.95m、短軸0.83m、深さ0.28m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西に位置する。西側を15号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。断面は逆台形状で、しっかりとした掘方を有している。

時期 近世のものと考えられる。

15号土坑(第37図、PL.11)

位置 3区。X=61584~586、Y=-94199~200。

重複 1号畑、12~14号土坑を掘り込む。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-14°-E。

規模 長軸2.47m、短軸0.68m、深さ0.34m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西に位置し、11号土坑のすぐ北東側に隣接する。断面は逆台形状を呈し、しっかりとした掘方を有する。

時期 近世のものと考えられる。

16号土坑(第37図、PL.11)

位置 3区。X=61580~581、Y=-94198~199。

重複 なし。

平面形状 東西にやや長い不整形円形状を呈する。北西辺を一部掘乱されている。

主軸方位 N-60°-E。

規模 長軸1.18m、検出短軸0.7m、深さ0.15m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西側に位置し、南壁に近接する。1号掘立柱建物のすぐ北側に隣接し、17号土坑のすぐ南西側に近接する。掘方は浅く、断面は不整形である。

時期 近世のものと考えられる。

17号土坑(第37図、PL.11)

位置 3区。X=61580~581、Y=-94196~197。

重複 2号掘立柱建物P3に掘り込まれる。

平面形状 北東-南西方向に長い不整形円形状を呈する。

主軸方位 N-39°-E。

規模 長軸1.12m、短軸0.68m、深さ0.05m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西に位置し、16号土坑の北東側に近接する。掘方は浅く、断面は扁平な逆レンズ状を呈する。

18号土坑(第39図、PL.11・14)

位置 3区。X=61588、Y=-94197。

重複 1号畑及び41号土坑を掘り込む。

平面形状 南北にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-13°-W。

規模 長軸0.92m、短軸0.78m、深さ0.28m。

埋土 黒褐色土主体、3層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西側に位置する。しっかりとした掘方を有し、底面は段状に掘り込まれている。

時期 近世のものと考えられる。

19号土坑(第38図、PL.11)

位置 3区。X=61582～584、Y=-94191～192。

重複 1号畑を掘り込む。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-18°-E。

規模 長軸1.89m、短軸0.95m、深さ0.22m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西側に位置する。しっかりとした掘方を有し、壁は急角度であり、断面は長方形に近い台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

20号土坑(第38・61図、PL.11・64)

位置 3区。X=61582～584、Y=-94191～192。

重複 122号ピットに掘り込まれる。84号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。

平面形状 長方形。

主軸方位 N-72°-W。

規模 長軸1.9m、短軸1.58m、深さ0.16m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 埋土中より石鏝1点(混入か?)。

所見 調査区の中央から南西寄りに位置し、23号土坑のすぐ西側に隣接する。壁は急角度であるが全体に浅く、断面は扁平な逆台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

21号土坑(第38図、PL.12)

位置 3区。X=61578、Y=-94196。

重複 1号掘立柱建物P3に掘り込まれる。11号ピットと重複するが新旧関係は不明。

平面形状 南側を1号掘立柱建物P3に掘り込まれるが、北東-南西方向に長い楕円形状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-35°-E。

規模 検出長軸0.93m、短軸0.65m、深さ0.18m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から南西寄り、南壁際に位置する。

しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

22号土坑(第38図、PL.12)

位置 3区。X=61586～597、Y=-94200～202。

重複 1号畑及び1号溝・13号土坑を掘り込む。219号ピットに掘り込まれる。

平面形状 南北に長大な長方形形状を呈する。

主軸方位 N-5°-E。

規模 長軸11.38m、短軸1.2m、深さ0.51m。

埋没土層 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 埋土中より二次加工ある剥片(非掲載、混入か?)。

所見 調査区の西寄りに位置し、10号土坑のすぐ北側に隣接し、北端付近で1号溝を掘り込んでいる長大な溝状の土坑。壁はほぼ垂直に落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

23号土坑(第38図、PL.12)

位置 3区。X=61583～586、Y=-94186～187。

重複 なし。

平面形状 南北に長い長方形形状を呈する。

主軸方位 N-9°-E。

規模 長軸2.56m、短軸1.22m、深さ0.10m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から南西寄りに位置し、20号土坑のすぐ東側に隣接する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

24号土坑(第40図、PL.12)

位置 3区。X=61575～576、Y=-94186～187。

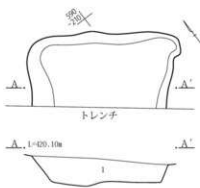
重複 25・31号土坑を掘り込む。

平面形状 北西-南東方向に長い不整形楕円形状を呈する。

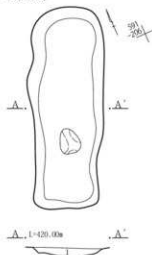
主軸方位 N-57°-W。

規模 長軸1.52m、短軸1.18m、深さ0.36m。

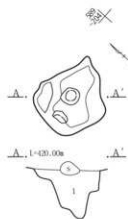
1号土坑



2号土坑



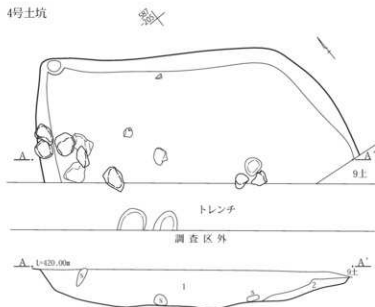
3号土坑



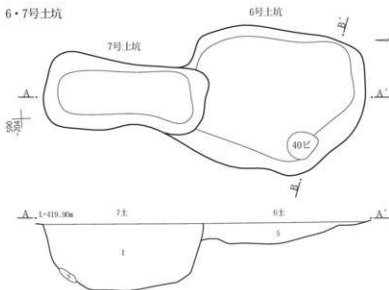
1～4号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石を約5%程度と径1～2mm程度の明黄褐色粒を含む。粘性あり。

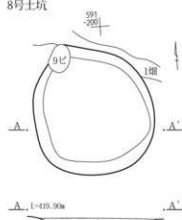
4号土坑



6・7号土坑

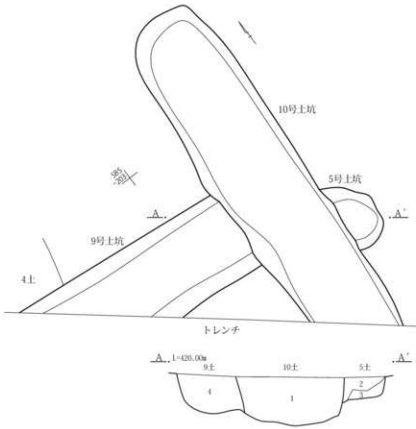


8号土坑

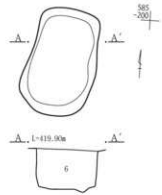


第36図 1～4・6～8号土坑

5・9・10号土坑



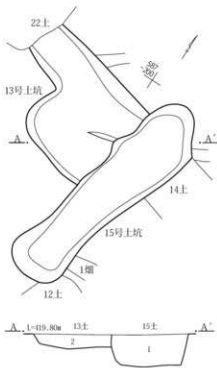
11号土坑



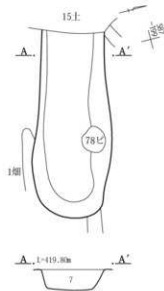
12号土坑



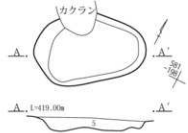
13・15号土坑



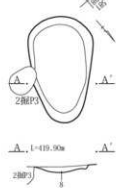
14号土坑



16号土坑



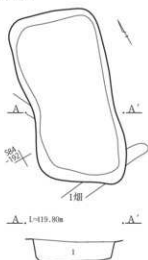
17号土坑



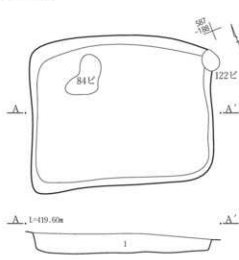
第37図 5・9～17号土坑

第3章 遺構と遺物

19号土坑



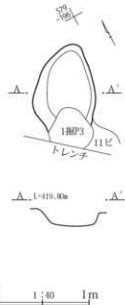
20号土坑



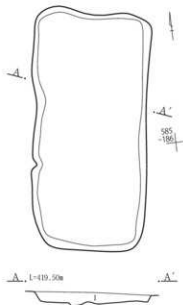
22号土坑



21号土坑



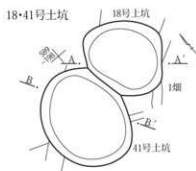
23号土坑



5~17・19・20・22・23号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 径1~5mm程度の明赤褐色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土(10YR3/2) 径2~20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と径1~2mm程度の明赤褐色土粒子を含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/4) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と白色鉱物粒を含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/3) 白色粒子を含む、粘性あり。

第38図 19~23号土坑



18・41号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土ブロックを約30%程度と径2～20mm程度の軽石を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 径20mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 径20mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。

0 1:40 1m

第39図 18・41号土坑

埋土 黒褐色土主体、3層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや西寄りの南寄りに位置する。しっかりとした掘方を有する。

時期 近世のものと考えられる。

所見 調査区のほぼ中央、南寄りに位置し、40号土坑のすぐ西側に隣接し、33号土坑の南側、115号土坑の北側に近接する。しっかりとした掘方を有し、断面は長半円形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

25号土坑(第40図、PL.12)

位置 3区。X=61574～576、Y=-94186～188。

重複 24号土坑に北辺を掘り込まれる。

平面形状 北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-43°-W。

規模 長軸2.07m、検出短軸1.55m、深さ0.21m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から南西寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

27号土坑(第40図、PL.13)

位置 3区。X=61577～578、Y=-94186～187。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-41°-E。

規模 長軸1.65m、短軸1.39m、深さ0.35m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から南西寄りに位置し、24号土坑のすぐ北側、31号土坑のすぐ西側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

28号土坑(第40図、PL.13)

位置 3区。X=61574～579、Y=-94183～184。

重複 29号土坑を掘り込む。4号掘立柱建物、4号柵、26号土坑、216・217・222号ビット等に掘り込まれる。

平面形状 南北に長い不整隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-2°-E。

規模 長軸4.65m、短軸1.11m、深さ0.32m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

26号土坑(第40図、PL.12)

位置 3区。X=61574～576、Y=-94176～185。

重複 28・31号土坑を掘り込む。

平面形状 東西に長大な隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-78°-W。

規模 長軸9.45m、短軸0.53m、深さ0.44m。

埋土 黒褐色土・にぶい黄褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から南西寄りに位置し、31号土坑のすぐ東側に隣接し、115号土坑の北側に近接する。しっかりと掘方を有する。

時期 近世のものと考えられる。

29号土坑(第40図、PL.13)

位置 3区。X=61574~575、Y=-94184~185。

重複 28号土坑と重複。

平面形状 東側を28号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。

主軸方位 N-65°-W。

規模 検出長軸0.56m、短軸0.42m、深さ0.05m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から南西寄りに位置している。115号土坑の北側に近接し、24・25・31号土坑のすぐ東側に隣接する。浅く、扁平な掘方である。

時期 近世のものと考えられる。

30号土坑(第40図、PL.13)

位置 3区。X=61580~581、Y=-94184。

重複 なし。

平面形状 南北に長い不整形形状を呈する。

主軸方位 N-14°-W。

規模 長軸1.56m、短軸0.77m、深さ0.12m。

埋土 黒褐色土主体、3層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から西南寄りに位置し、28号土坑の北側、5号掘立柱建物の西側に近接している。掘方は極めて浅く、扁平である。

時期 近世のものと考えられる。

31号土坑(第40・61図、PL.13・64)

位置 3区。X=61576~577、Y=-94185~186。

重複 24・26号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南北に長い不整形円形状を呈する。

主軸方位 N-6°-E。

規模 長軸1.88m、検出短軸1.4m、深さ0.17m。

埋土 不明。

遺物 埋土中より砥石1点、磨石1点、敲石1点、石皿1点が出土。磨石、敲石、石皿は混入か？。

所見 調査区の南西側に位置し、27号土坑のすぐ東側、28号土坑のすぐ西側に隣接する。比較的しっかりと掘方を有しており、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

33号土坑(第40図、PL.13)

位置 3区。X=61576~577、Y=-94180~181。

重複 なし。

平面形状 東西に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-82°-W。

規模 長軸1.70m、短軸1.01m、深さ0.07m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 埋土中より剥片1点(非掲載)。

所見 調査区の中央からやや南西寄りに位置し、26号土坑の北側、6号掘立柱建物の西側に近接する。極めて浅く扁平な掘方である。

時期 近世のものと考えられる。

35号土坑(第41図、PL.13・14)

位置 3区。X=61566~569、Y=-94173~175。

重複 36号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南側を36号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明であるが、南北に長い隅丸長方形形状を呈していたものと考えられる。

主軸方位 N-16°-E。

規模 長軸3.24m、短軸0.80m、深さ0.44m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、南寄りに位置し、37号土坑の北側に近接する。しっかりと掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

36号土坑(第41図、PL.14)

位置 3区。X=61565~567、Y=-94167~176。

重複 35号土坑、107・164号ピットを掘り込む。

平面形状 東西に長大な隅丸長方形形状を呈する。溝状で、26・37・40・42・76・106号土坑などと形状が類似している。

主軸方位 N-78°-W。

規模 長軸8.80m、短軸0.70m、深さ0.38m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、南寄りに位置し、37号土坑のすぐ北側に隣接する。37号土坑と並行しており、規模も類似する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

37号土坑(第41図、PL.14)

位置 3区。X=61564～566、Y=-94167～177。

重複 なし。

平面形状 東西に長大な隅丸長方形形状を呈する。溝状で、26・36・40・42・76・106号土坑などと形状が類似している。

主軸方位 N-79°-W。

規模 長軸9.6m、短軸0.49m、深さ0.24m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、南寄りに位置し、36号土坑のすぐ南側に隣接する。36号土坑と並行しており、規模も類似するが、36号土坑より幅は狭く、掘方も小規模である。断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

39号土坑(第41図、PL.13)

位置 3区。X=61571～573、Y=-94164～168。

重複 40・102号土坑に掘り込まれる。

平面形状 東西に長い隅丸長方形形状を呈する。近い位置に所在する78・79号土坑と類似した形状を呈する。

主軸方位 N-74°-W。

規模 検出長軸4.5m、短軸0.78m、深さ0.33m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・

As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや南東寄りに位置する。壁はほぼ垂直に近い形状で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

40号土坑(第42図、PL.14)

位置 3区。X=61571～574、Y=-94166～175。

重複 39号土坑を掘り込む。

平面形状 東西に長大な隅丸長方形形状を呈する。溝状で、26・36・37・42・76・106号土坑などと形状が類似している。

主軸方位 N-76°-W。

規模 長軸9.14m、短軸0.88m、深さ0.37m。

埋土 黒褐色土主体、4層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央やや南寄りに位置し、26号土坑のすぐ東側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁が垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

41号土坑(第39図、PL.14)

位置 3区。X=61587～588、Y=-94197～198。

重複 1号畑を掘り込み、18号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南北に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-3°-E。

規模 長軸1.1m、短軸0.88m、深さ0.25m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西側に位置する。しっかりとした掘方を有し、底面は逆台形状を呈する。

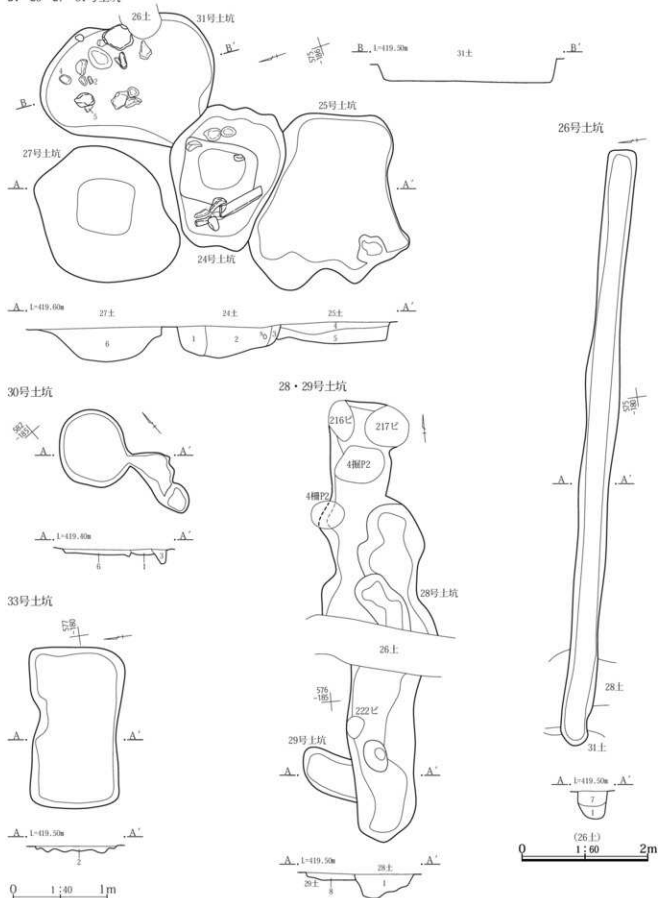
時期 近世のものと考えられる。

42号土坑(第42図、PL.14)

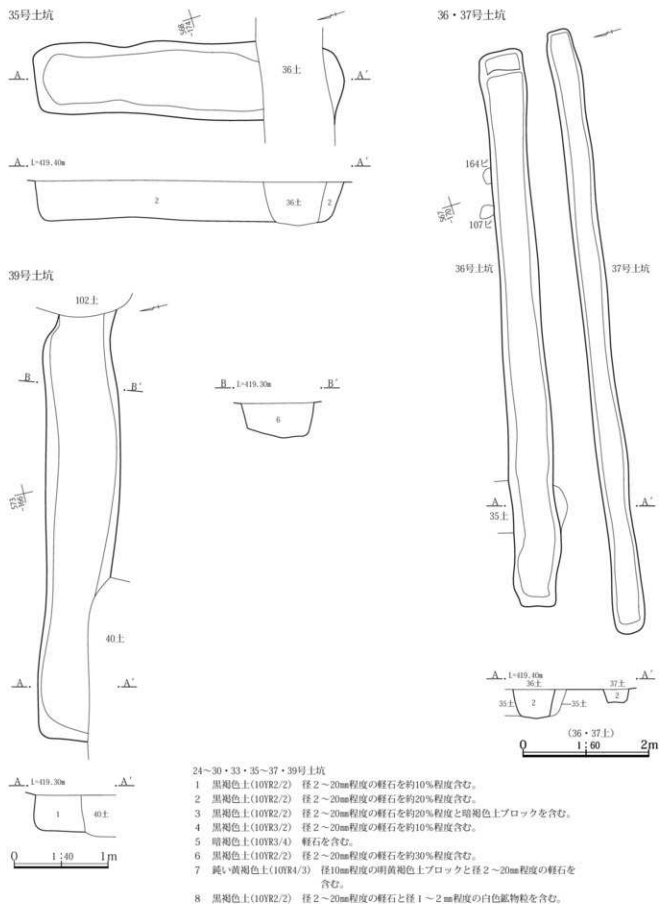
位置 3区。X=61577～580、Y=-94165～174。

重複 77・78号土坑を掘り込む。

24・25・27・31号土坑



第40図 24~31・33号土坑



第41図 35～37・39号土坑

平面形状 東西に長大な隅丸長方形形状を呈する。溝状で、26・36・37・40・76・106号土坑などと形状が類似している。

主軸方位 N-77°-W。

規模 長軸9.18m、短軸0.67m、深さ0.40m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

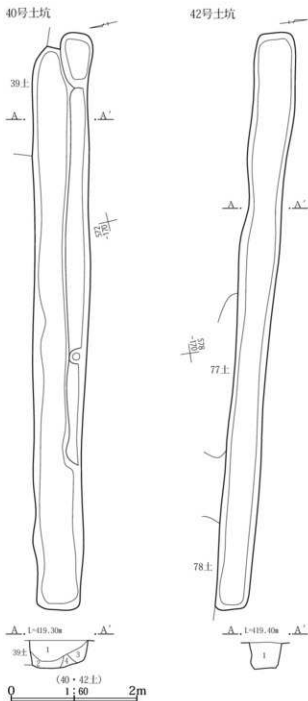
所見 調査区のほぼ中央に位置する。しっかりとした掘方を有しており、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

43号土坑(第42図、PL.15)

位置 3区。X=61578、Y=-94182~183。

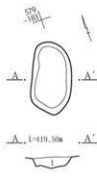
重複 なし。



40号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 径20~200mm程度の褐色シルトブロックと軽石とを含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と褐色シルトブロックとを含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 黄褐色土粒を含む。粘性あり。

43号土坑



42・43号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度と黄褐色土粒を含む。

第42図 40・42・43号土坑

平面形状 南北に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-23°-E。

規模 長軸0.75m、短軸0.42m、深さ0.08m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南西寄りに位置し、28号土坑の東側に近接し、33号土坑の西側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈している。

時期 近世のものと考えられる。

45号土坑(第43図、PL.15・16)

位置 3区。X=61603~604、Y=-94205~206。

重複 58・59号土坑を掘り込む。

平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-89°-E。

規模 検出長軸1.1m、短軸0.69m、深さ0.34m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西端寄りに位置し、10号掘立柱建物のすぐ東側に隣接する。しっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

46号土坑(第43図、PL.15)

位置 3区。X=61597~598、Y=-94208~210。

重複 1号道路の路面に当たるが、この部分では1号道路の遺構の残存状態が極めて不良で、新旧関係は不明であった。

平面形状 東西に長い不整隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-64°-W。

規模 長軸1.37m、短軸1.15m、深さ0.39m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西壁際、やや南寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

47号土坑(第44図、PL.15)

位置 3区。X=61606~607、Y=-94206~208。

重複 10号掘立柱建物P1に掘り込まれる。

平面形状 東西に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-83°-W。

規模 長軸1.96m、短軸1.22m、深さ0.11m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西壁際、北寄りに位置し、48号土坑のすぐ南側に隣接する。掘方は浅く、断面は極めて扁平である。

時期 近世のものと考えられる。

48号土坑(第44図、PL.15)

位置 3区。X=61608~610、Y=-94205~207。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-43°-E。

規模 長軸2.11m、短軸1.14m、深さ0.21m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅付近、47号土坑のすぐ北側、49号土坑のすぐ東側に隣接する。確認面及び埋土中に大きめの礫が混入していた。しっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

49号土坑(第44図、PL.15)

位置 3区。X=61610、Y=-94207~208。

重複 なし。

平面形状 西側大部分が調査区外に出るため、空容は不明であるが、東西に長い長方形形状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-87°-W。

規模 検出長軸1.16m、短軸0.58m、深さ0.09m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

第3章 遺構と遺物

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅付近、西壁に掛かる。48号土坑のすぐ西側に位置している。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

51号土坑(第44図、PL.16)

位置 3区。X=61601~602、Y=-94201~202。

重複 なし。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-20°-E。

規模 長軸0.95m、短軸0.77m、深さ0.24m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は西側が深くなる逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

55号土坑(第44図、PL.16)

位置 3区。X=61614~616、Y=-94207~208。

重複 3号溝に南側を掘り込まれる。

平面形状 北端が調査区外に出、南側を3号溝に掘り込まれて破壊されているため、全容は不明である。

主軸方位 N-8°-E。

規模 検出長軸1.36m、短軸1.30m、深さ0.24m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅部に位置する。しっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。埋土中に大きめの礫を多数含んでいた。

時期 近世のものと考えられる。

56号土坑(第44図、PL.16)

位置 3区。X=61614~615、Y=-94198~199。

重複 なし。

平面形状 北側が調査区外に大きく出るので全容は不明であるが、南北に長い溝状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-26°-E。

規模 検出長軸1.26m、短軸0.74m、深さ0.29m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西、北壁に掛かる。57号土坑の北側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

57号土坑(第44・61図、PL.16・64)

位置 3区。X=61610~613、Y=-94198~201。

重複 1号溝に掘り込まれる。

平面形状 111・115号土坑と並ぶ規模の大きな土坑で、形状は不整形である。

主軸方位 N-77°-W。

規模 検出長軸3.56m、短軸2.94m、深さ0.25m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 埋土中より龍泉窯系青磁磁連弁文樋口縁部片1点出土。

所見 調査区の北西寄り。3号溝東端の南側に隣接し、56号土坑の南側に位置する。掘方は浅く、断面は大きく扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

58号土坑(第43図、PL.15・16)

位置 3区。X=61603~604、Y=-94205~207。

重複 45号土坑に北側を掘り込まれる。59号土坑を掘り込む。

平面形状 南東-北西方向に長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-58°-W。

規模 検出長軸2.1m、短軸0.6m、深さ0.16m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西端寄りに位置する。しっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

59号土坑(第43図、PL.16)

位置 3区。X=61602~604、Y=-94204~205。

重複 45・58号土坑に掘り込まれる。
平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。
主軸方位 N-77°-W。
規模 検出長軸1.4m、検出短軸0.82m、深さ0.16m。
埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。
遺物 なし。
所見 調査区の中央、西端寄りに位置する。45・58号土坑に掘り込まれ、破壊されているため断面の形状は不明。
時期 近世のものと考えられる。

60号土坑(第45図、PL.16)

位置 3区。X=61599～600、Y=-94206～207。
重複 なし。
平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。
主軸方位 N-58°-W。
規模 長軸0.94m、短軸0.82m、深さ0.28m。
埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。
遺物 なし。
所見 調査区の西端寄りの中央に位置する。しっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。
時期 近世のものと考えられる。

61号土坑(第45図、PL.16)

位置 3区。X=61600～601、Y=-94187～190。
重複 129・212号ピットに掘り込まれる。200号ピットと重複するが新旧関係は不明である。
平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。
主軸方位 N-70°-W。
規模 長軸3.15m、短軸1.18m、深さ0.34m。
埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。
遺物 なし。
所見 調査区の北西寄り、15号掘立柱建物の北側、4号畑の東側、93号土坑の西側に近接し、145号土坑のすぐ北側に隣接する。しっかりと掘方を有し断面は逆台形状を呈する。
時期 近世のものと考えられる。

62号土坑(第45図、PL.16・20)

位置 3区。X=61597～600、Y=-94184～186。
重複 94号土坑を掘り込む。
平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。
主軸方位 N-13°-E。
規模 長軸2.8m、短軸0.9m、深さ0.35m。
埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。
遺物 なし。
所見 調査区の北西寄り、63・64号土坑の西側に位置し、93号土坑のすぐ東側に隣接する。しっかりと掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。
時期 近世のものと考えられる。

63号土坑(第45図、PL.17)

位置 3区。X=61595～602、Y=-94180～185。
重複 9号畑、64号土坑に掘り込まれる。
平面形状 南北に細長く長大な溝状を呈する。類似する形状の土坑には、92・99・101・103・109・135・170号土坑などがある。
主軸方位 N-32°-E。
規模 検出長軸8.43m、短軸0.59m、深さ0.14m。
埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。
遺物 なし。
所見 調査区の中央から北西寄りに位置し、62・94号土坑の東側、109・135号土坑の西側に近接する。形状が類似する64号土坑に比べて極めて浅く、断面は扁平で小規模な逆レンズ状を呈する。
時期 近世のものと考えられる。

64号土坑(第45図、PL.17)

位置 3区。X=61594～602、Y=-94181～183。
重複 63号土坑を掘り込む。
平面形状 南北に細長く長大な溝状を呈する。類似する形状の土坑には、92・99・101・103・109・135・170号土坑などがある。
主軸方位 N-16°-E。
規模 長軸8.25m、短軸0.44m、深さ0.15m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北西寄りに位置し、62・94号土坑の東側、109・135号土坑の西側に近接する。形状が類似する63号土坑に比べて深くしっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

65号土坑(第45図、PL.17)

位置 3区。X=61589~593、Y=-94169~171。

重複 1号道路に掘り込まれる。

平面形状 北東-南西方向に長い長方形形状を呈する。92・99・101・173・170号土坑などと規模・形状、走向が類似する。

主軸方位 N-26°-E。

規模 長軸4.50m、短軸0.87m、深さ0.65m。

埋没土層 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北寄りに位置し、123号土坑のすぐ東側に隣接する。壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

66号土坑(第46図)

位置 3区。X=61584~585、Y=-94157~158。

重複 103・106号土坑を掘り込む。

平面形状 北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-41°-W。

規模 長軸0.94m、短軸0.69m、深さ0.39m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

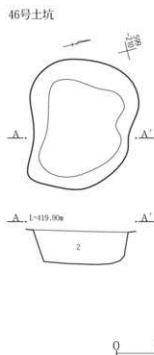
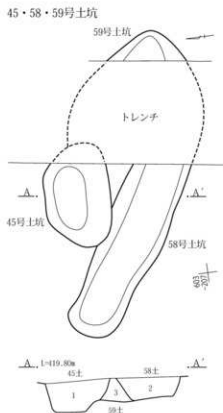
遺物 なし。

所見 調査区の北東に位置する。しっかりとした掘方を有しており、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

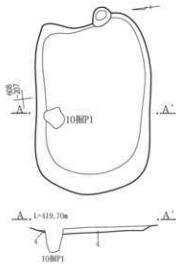
67号土坑(第46図、PL.17)

位置 3区。X=61580~581、Y=-94163~164。

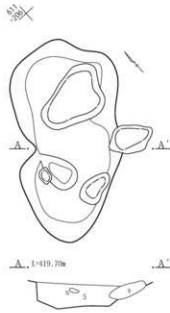


第43図 45・46・58・59号土坑

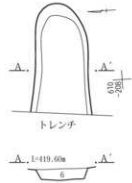
47号土坑



48号土坑



49号土坑



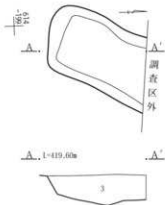
55号土坑



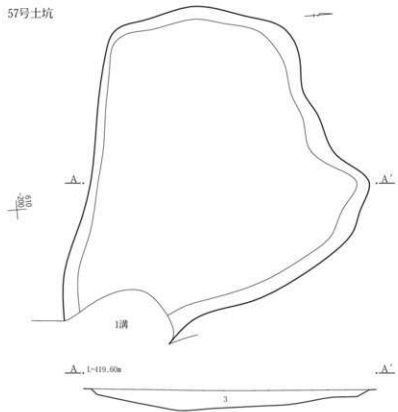
51号土坑



56号土坑



57号土坑

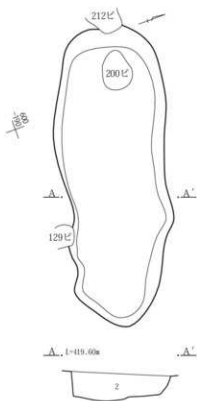


0 1:40 1m

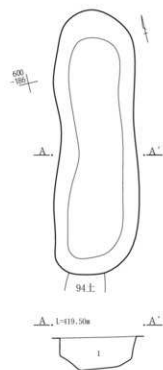
第44図 47～49・51・55～57号土坑

第3章 遺構と遺物

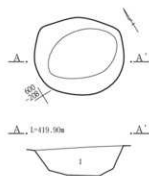
61号土坑



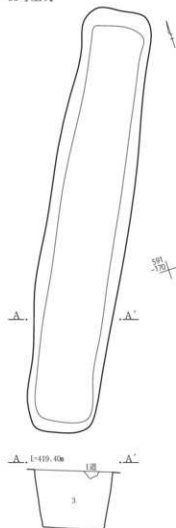
62号土坑



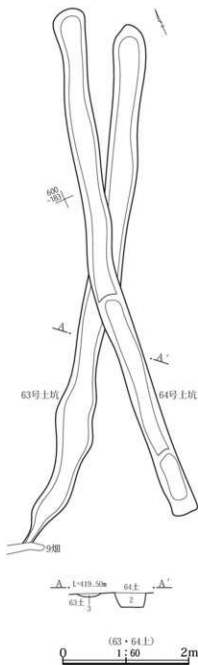
60号土坑



65号土坑



63・64号土坑



45～49・51・55～65号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径5～300mm程度の礫とを含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と円礫とを含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 径5～500mm程度の円礫を含む。

第45図 60～65号土坑

重複 なし。

平面形状 南北に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-10°-E。

規模 長軸1.09m、短軸0.73m、深さ0.49m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北東寄り、76号土坑の東側、101号土坑の西側、100号土坑の南側に近接する。しっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

68号土坑(第46図、PL.17)

位置 3区。X=61606~607、Y=-94197~198。

重複 なし。

平面形状 不整形円形状を呈する。

主軸方位 N-45°-E。

規模 長軸1.14m、短軸1.12m、深さ0.24m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄りに位置する。16号掘立柱建物のすぐ北側、1号溝のすぐ東側、2号溝のすぐ西側、69号土坑のすぐ南側に隣接する。しっかりと掘方を有するが、底面が広いために断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

69号土坑(第46図、PL.17)

位置 3区。X=61607、Y=-94196~197。

重複 なし。

平面形状 東西に長い不整形楕円形状を呈する。

主軸方位 N-59°-W。

規模 長軸0.88m、短軸0.65m、深さ0.20m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄りに位置する。16号掘立柱建物のすぐ北側、1号溝のすぐ東側、2号溝のすぐ西側、68号土坑のすぐ北側に隣接する。しっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

70号土坑(第47図、PL.17)

位置 3区。X=61605~606、Y=-94193~195。

重複 なし。

平面形状 東西に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-67°-W。

規模 長軸2.03m、短軸0.99m、深さ0.22m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 埋土中より剥片1点(非掲載)。

所見 調査区の北西寄りに位置し、2号溝のすぐ東側に隣接し、71号土坑の西側に近接する。比較的しっかりと掘方を有し、底面が広いため、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

71号土坑(第47図、PL.17)

位置 3区。X=61605~606、Y=-94190~192。

重複 なし。

平面形状 東西に長い不整形楕円形状を呈する。

主軸方位 N-88°-E。

規模 長軸1.78m、短軸1.44m、深さ0.03m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 南西側を攪乱されている。調査区の北西寄りに位置し、70号土坑の東側、4号畑の北側に近接する。非常に浅く、断面は極めて扁平で薄い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

74号土坑(第47図、PL.18)

位置 3区。X=61590~592、Y=-94194~195。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-46°-E。

規模 長軸1.68m、短軸1.03m、深さ0.41m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄り、1号畑の北側、89号土坑の西側に位置する。しっかりとした掘方を有し、壁は急に垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

75号土坑(第48図、PL.18)

位置 3区。X=61589~590、Y=-94194。

重複 1号畑を掘り込む。80号土坑に東側を掘り込まれ

る。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-19°-E。

規模 長軸0.96m、検出短軸0.68m、深さ0.14m。

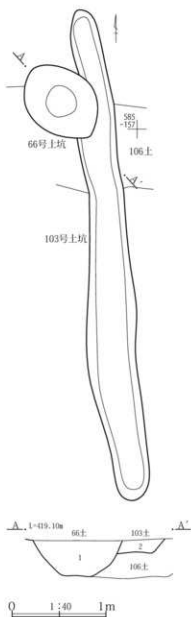
埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

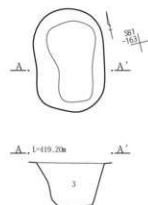
所見 調査区の西寄り、74号土坑の南東側、89号土坑の南側に近接する。浅く、断面は扁平である。

時期 近世のものと考えられる。

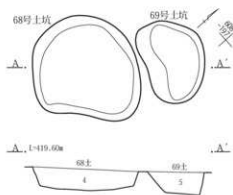
66・103号土坑



67号土坑



68・69号土坑



66~69・103号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と径30~100mm程度のロームブロックを約30%程度含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 径2~20mm程度の軽石を約5%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を10%程度と径1~3mm程度の黄褐色土粒とを含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度と径1~3mm程度の黄褐色土粒とを含む。

第46図 66~69・103号土坑

76号土坑(第48・61図、PL.18・64)

位置 3区。X=61580～583、Y=-94165～174。

重複 124号土坑を掘り込む。

平面形状 東西に長大な溝状を呈する。26・36・37・40・42・106号土坑などと形状が類似している。

主軸方位 N-77°-W。

規模 長軸9.83m、短軸0.63m、深さ0.50m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 埋土中より中国陶器天目碗片1点。

所見 調査区のほぼ中央に位置し、97・98号土坑のすぐ南側に隣接する。南側に位置する42号土坑と類似した形状を呈し、あたかも42号土坑と並行するような位置関係にある。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

77号土坑(第48図、PL.14)

位置 3区。X=61577～578、Y=-94168～170。

重複 東西に長大な溝状の土坑である42号土坑に北辺を大きく掘り込まれる。

平面形状 西北西-東南東方向に長楕円形状を呈する。

主軸方位 N-69°-W。

規模 検出長軸2.56m、検出短軸0.53m、深さ0.3m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、7号掘立柱建物の北側、78号土坑の西側に位置する。重複する42号土坑よりはやや浅いが、しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

78号土坑(第48図、PL.14・18)

位置 3区。X=61576～577、Y=-94163～167。

重複 42号土坑に北西辺を、199号ピットに南辺を掘り込まれる。

平面形状 西北西-東南東方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。近い位置に所在する39・79号土坑と主軸・形状・大きさが類似する。

主軸方位 N-75°-W。

規模 長軸4.46m、短軸0.75m、深さ0.25m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄り、101号土坑の南側、79・83号土坑の北側に位置する。42号土坑より浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

79号土坑(第48図、PL.13・18)

位置 3区。X=61573～575、Y=-94161～166。

重複 83号土坑、197号ピットに掘り込まれる。

平面形状 西北西-東南東方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。近い位置に所在する39・78号土坑と主軸・形状・大きさが類似する。

主軸方位 N-69°-W。

規模 長軸4.71m、短軸0.93m、深さ0.26m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄り、78号土坑の南側に位置し、102号土坑のすぐ北側に近接する。しっかりとした掘方を有し、壁は急に垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

80号土坑(第48図、PL.18)

位置 3区。X=61589～590、Y=-94193。

重複 1号畑、75号土坑を掘り込む。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-7°-E。

規模 長軸1.49m、短軸0.91m、深さ0.38m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄り、89号土坑の南側に位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は不整逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

82号土坑(第48図、PL.18)

位置 3区。X=61592~593、Y=-94204~205。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-6°-E。

規模 長軸0.99m、短軸0.78m、深さ0.23m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄り、1号道路の南側、22号土坑の西側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

83号土坑(第48図、PL.13・18)

位置 3区。X=61574~575、Y=-94163~164。

重複 79号土坑を掘り込む。

平面形状 東西に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-87°-E。

規模 長軸0.83m、短軸0.64m、深さ0.35m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄り、78号土坑の南側に位置し、102号土坑のすぐ北側に近接する。しっかりと掘方を有し、壁は急に垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

84号土坑(第48図、PL.19)

位置 3区。X=61590~591、Y=-94187~188。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向に長い長方形形状を呈する。

主軸方位 N-18°-W。

規模 長軸1.03m、短軸0.63m、深さ0.12m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から西寄り、10号畑の北側、9号畑の南側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆レンズ

状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

85号土坑(第49図、PL.19)

位置 3区。X=61591~592、Y=-94198~199。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-53°-W。

規模 長軸0.87m、短軸0.79m、深さ0.3m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄り、86・87号土坑のすぐ南側に隣接する。しっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

86号土坑(第49図、PL.19)

位置 3区。X=61592~593、Y=-94198。

重複 なし。

平面形状 不整円形状を呈する。

主軸方位 計測不能。

規模 径0.47m、深さ0.04m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りに位置し、87号土坑のすぐ西側、85号土坑のすぐ北側に隣接する。掘方は浅く、断面は扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

87号土坑(第49図、PL.19)

位置 3区。X=61592~593、Y=-94197~198。

重複 なし。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-24°-E。

規模 長軸1.45m、短軸0.99m、深さ0.4m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りに位置し、85号土坑のすぐ北側、86号土坑のすぐ東側、88号土坑のすぐ南側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

88号土坑(第49図、PL.19)

位置 3区。X=61593～596、Y=-94196～198。

重複 138号土坑と重複。

平面形状 長方形。

主軸方位 N-25°-E。

規模 長軸2.78m、短軸0.53m、深さ0.2m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りに位置し、87号土坑のすぐ北側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

89号土坑(第49図、PL.19)

位置 3区。X=61591、Y=-94192～193。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-55°-E。

規模 長軸0.87m、短軸0.36m、深さ0.06m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りに位置し、80号土坑のすぐ北側に隣接する。掘方は浅く、断面は底部が広く扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

90号土坑(第49図、PL.19)

位置 3区。X=61569、Y=-94167～168。

重複 9号掘立柱建物P1に掘り込まれる。

平面形状 北西—南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-27°-W。

規模 検出長軸0.84m、短軸0.43m、深さ0.04m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや南東寄りに位置する。掘方は極めて浅く、断面は薄い逆レンズ状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

91号土坑(第49図、PL.20)

位置 3区。X=61566～568、Y=-94164～165。

重複 なし。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-11°-E。

規模 長軸1.39m、短軸0.67m、深さ0.48m。

埋土 黒褐色土・褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り、9号掘立柱建物のすぐ東側に隣接する。掘方はしっかりとしており、深い。断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

92号土坑(第49図、PL.20)

位置 3区。X=61561～565、Y=-94164～166。

重複 なし。

平面形状 南北に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。65・99・101・170・173号土坑などと規模・形状、走向が類似する。

主軸方位 N-23°-E。

規模 長軸4.66m、短軸0.55m、深さ0.54m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東、9号掘立柱建物・36・37号土坑の東側、171号土坑の北側、172号土坑の西側に位置する。掘方はしっかりとしており、深い。壁はほぼ垂直に落ち、断面は長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

第3章 遺構と遺物

93号土坑(第49図、PL.20)

位置 3区。X=61592~599、Y=-94186~189。

重複 9号畑を掘り込む。

平面形状 北東-南西方向に細長い溝状を呈する。壁の平面プランは直線的ではなく、やや蛇行している。

主軸方位 N-27°-E。

規模 長軸7.60m、短軸1.03m、深さ0.3m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄り、144・145号土坑の東側に位置し、62・94号土坑、9号畑のすぐ西側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

94号土坑(第49図、PL.20)

位置 3区。X=61595~597、Y=-94185~186。

重複 62号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南北に長い溝状を呈する。

主軸方位 N-16°-E。

規模 長軸2.33m、短軸0.78m、深さ0.22m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄りに位置し、93号土坑のすぐ東側、9号畑のすぐ北側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

95号土坑(第50図、PL.20)

位置 3区。X=61573~574、Y=-94166~167。

重複 なし。

平面形状 西北西-東南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-65°-W。

規模 長軸0.92m、短軸0.53m、深さ0.16m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄り、79号土坑の南側、39号土坑の北側、7・8号掘立柱建物の東側、102号土坑の西側に位置する。ややしっかりとした掘方を有し、断面はやや扁平な逆台形状を呈する。

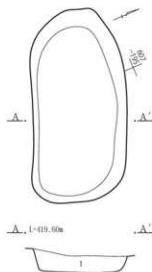
時期 近世のものと考えられる。

97号土坑(第50図、PL.20)

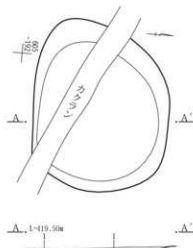
位置 3区。X=61582~584、Y=-94167~168。

重複 なし。

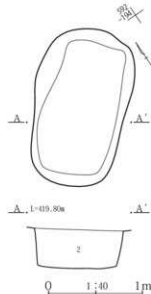
70号土坑



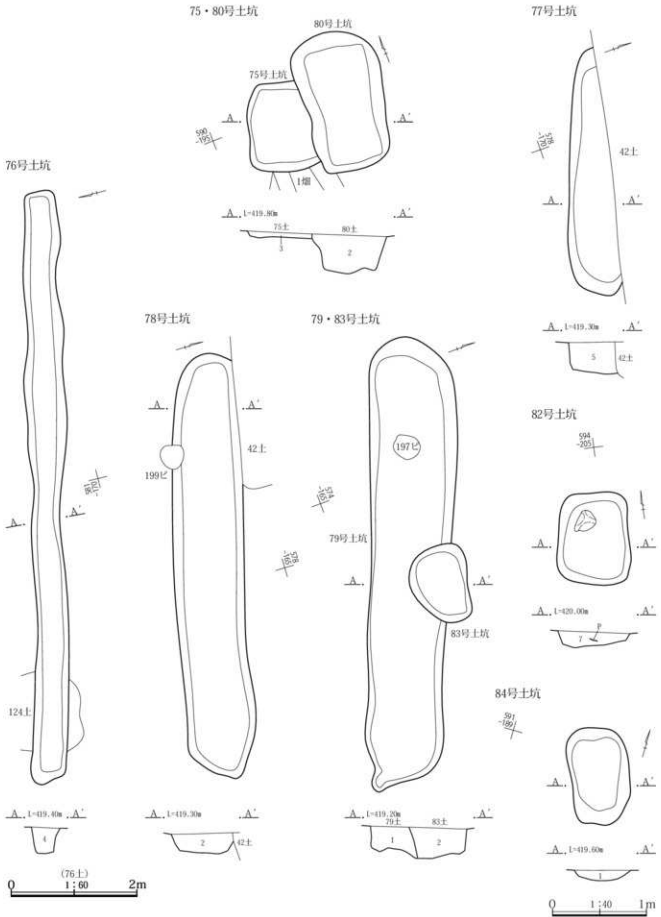
71号土坑



74号土坑



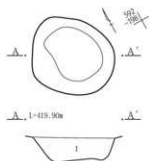
第47図 70・71・74号土坑



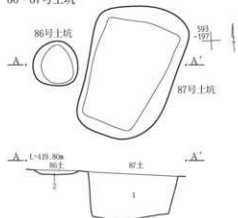
第48図 75～80・82～84号土坑

第3章 遺構と遺物

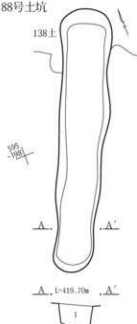
85号土坑



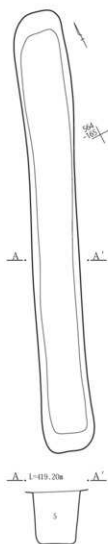
86・87号土坑



88号土坑



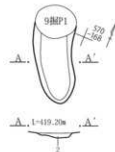
92号土坑



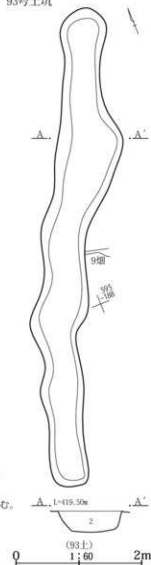
89号土坑



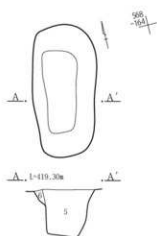
90号土坑



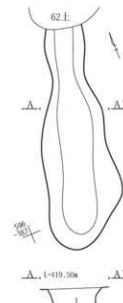
93号土坑



91号土坑



94号土坑



70・71・74～80・82～94号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度と径30mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と黄褐色土ブロックを含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 6 褐色土(10YR4/6)
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を30%程度と径200mm程度の礫を含む。

0 1:40 1m

0 1:60 2m

第49図 85～94号土坑

平面形状 北東—南西方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-32°-E。

規模 長軸2.42m、短軸0.68m、深さ0.44m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや北東寄りに位置し、76号土坑のすぐ北側に隣接する。すぐ東側に隣接する98号土坑とは主軸方位も同一で、恰も並列するように位置する。しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

98号土坑(第50図、PL.20)

位置 3区。X=61581~584、Y=-94165~167。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。西側に隣接し、軸方位を同じくする97号土坑に比して幅が倍近く広い。

主軸方位 N-32°-E。

規模 長軸2.19m、短軸1.35m、深さ0.43m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや北東寄りに位置し、76号土坑のすぐ北側に隣接する。すぐ西側に隣接する97号土坑とは主軸方位も同一で、恰も並列するように位置する。97号土坑同様、しっかりとした掘方を有し、深さもほぼ同じである。壁は97号土坑に比べればやや傾斜しているものの、かなり垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

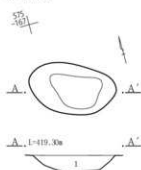
99号土坑(第51図、PL.21)

位置 3区。X=61576~579、Y=-94158~160。

重複 なし。

平面形状 南北に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。65・92・101・170・173号土坑などと規模・形状、走向が類似する。

95号土坑



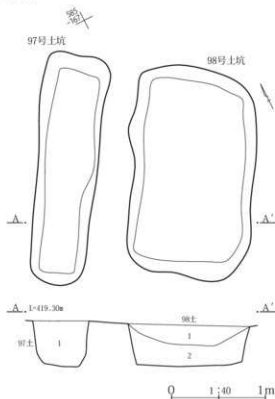
95号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度と径10~20mm程度の炭化物と径2~3mmの焼土ブロック等を含む。

97・98号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度と径20mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。
2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と径20~50mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。

97・98号土坑



第50図 95・97・98号土坑

第3章 遺構と遺物

主軸方位 N-28°-E。

規模 長軸4.08m、短軸0.57m、深さ0.4m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 剥片1点(非掲載)。

所見 調査区の東寄り、173号土坑の西側に位置する。しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

100号土坑(第51図、PL.21)

位置 3区。X=61582~584、Y=-94161~162。

重複 143号土坑に北側を掘り込まれる。

平面形状 北側を大きく143号土坑によって掘り込まれ破壊されているため、全容は不明であるが、南北に細長い溝状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-30°-E。

規模 検出長軸2.4m、短軸0.69m、深さ0.38m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北東寄りに位置し、101号土坑のすぐ西側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

101号土坑(第51図、PL.21)

位置 3区。X=61578~583、Y=-94161~163。

重複 なし。

平面形状 南北に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。65・92・103・170・173号土坑などと規模・形状、走向が類似する。

主軸方位 N-23°-E。

規模 長軸5.32m、短軸0.60m、深さ0.47m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北東寄りに位置し、100号土坑のすぐ東側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁

は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

102号土坑(第51図、PL.13・21)

位置 3区。X=61571~573、Y=-94162~164。

重複 39号土坑を掘り込む。

平面形状 北東-南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-25°-E。

規模 長軸2.55m、短軸1.22m、深さ0.66m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄りに位置し、79号土坑のすぐ南側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

103号土坑(第46図、PL.21)

位置 3区。X=61581~586、Y=-94156~157。

重複 66号土坑に掘り込まれる。106号土坑を掘り込む。

平面形状 南北に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。65・92・101・170・173号土坑などと規模・形状、走向が類似する。

主軸方位 N-5°-W。

規模 長軸5.22m、短軸0.52m、深さ0.12m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北東、北東壁際に位置し、151号土坑のすぐ南側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

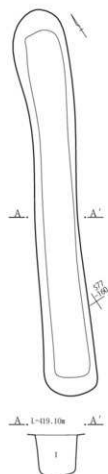
104号土坑(第52図、PL.21)

位置 3区。X=61595~596、Y=-94166~167。

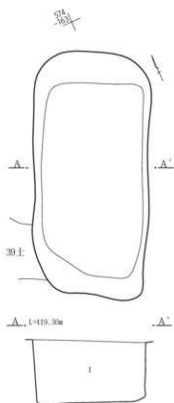
重複 なし。

平面形状 北側が調査区外に出るため、全容は不明であ

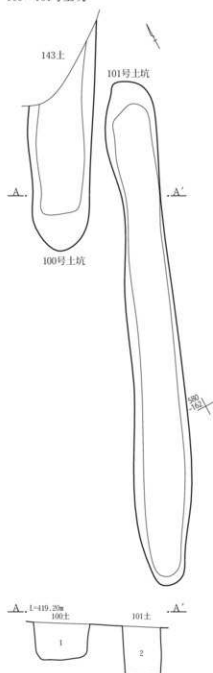
99号土坑



102号土坑



100・101号土坑



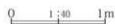
99・102号土坑

1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。

100・101号土坑

1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度と径2～50mm程度の黄褐色土ブロックとを約10%程度含む。

2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度と径10mm程度の明黄褐色土ブロックとを約5%程度含む。



第51図 99～102号土坑

るが、南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-27°-E。

規模 検出長軸1.32m、短軸0.57m、深さ0.12m。

埋土 黒褐色土・灰黄褐色土主体、3層が確認された。

軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、北端部に位置する。北壁に掛かる。

やや浅めで、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

105号土坑(第53図)

位置 3区。X=61587～588、Y=-94158～160。

重複 114号土坑を掘り込む。

平面形状 東側が調査区外に出るため、全容は不明であ

るが、東西に長い溝状の隅丸長方形状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-87°-E。

規模 検出長軸1.8m、短軸0.9m、深さ0.6m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、北東端部に位置する。北壁に掛かる。しっかりとした掘方を有し、壁はほぼ垂直に近い角度で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

106号土坑(第53図、PL.21)

位置 3区。X=61584~585、Y=-94156~164。

重複 66・103・143・149号土坑と重複。

平面形状 東西に長大な溝状を呈する。26・36・37・40・42・76号土坑などと形状が類似している。

主軸方位 N-84°-W。

規模 長軸8m、短軸0.97m、深さ0.44m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄り、北壁際に位置する。107・120・134号土坑のすぐ南側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

107号土坑(第53図、PL.21・23)

位置 3区。X=61586~587、Y=-94161~162。

重複 108号土坑を掘り込む。

平面形状 不整隅丸長方形状を呈する。

主軸方位 N-45°-W。

規模 長軸1.26m、短軸1.13m、深さ0.52m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から東寄りの北壁寄りに位置する。北東側は121号土坑と接し、106号土坑の北側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は底部が一段と掘り窪められた不整形である。

時期 近世のものと考えられる。

108号土坑(第53図、PL.21・23)

位置 3区。X=61587~588、Y=-94162。

重複 107・121号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南側を107号土坑に、東側を121号土坑に大きく掘り込まれ、全容は不明であるが、不整楕円形状を呈していたものと考えられる。

主軸方位 N-8°-E。

規模 検出長軸0.8m、検出短軸0.7m、深さ0.28m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から東寄りの北壁寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は底部が一段と掘り窪められた不整形である。

時期 近世のものと考えられる。

109号土坑(第53図、PL.22)

位置 3区。X=61595~600、Y=-94179~182。

重複 135号土坑を掘り込む。

平面形状 北東-南西方向に細長い溝状を呈する。壁の平面プランは直線的ではなく、やや蛇行している。63・64・93号土坑と類似した形状である。

主軸方位 N-25°-E。

規模 長軸5.2m、短軸0.38m、深さ0.1m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄り、63・64号土坑の東側に位置する。掘方は浅く、幅が狭い。

時期 近世のものと考えられる。

110号土坑(第52図、PL.22)

位置 3区。X=61591、Y=-94207~208。

重複 134号ピットに西端を掘り込まれる。

平面形状 北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-68°-W。

規模 長軸0.9m、短軸0.56m、深さ0.41m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の西端寄りの南側、2号土坑の西側に近接

する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆長半円形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

111号土坑(第52図、PL.22)

位置 3区。X=61608～611、Y=-94188～193。

重複 なし。

平面形状 隅丸の不整長方形形状を呈し、東壁のほぼ中央から東側に溝状の突起が出る。

主軸方位 N-67°-W。

規模 長軸5.08m、短軸3.41m、深さ0.17m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西、北壁際、112号土坑のすぐ北側に隣接する。西側に位置する57号土坑、調査区の南端部に位置する115号土坑などと並ぶ広大な面積を有する土坑である。掘方は扁平で浅い。

時期 近世のものと考えられる。

112号土坑(第52図、PL.22)

位置 3区。X=61608～609、Y=-94193～194。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-40°-W。

規模 長軸1.15m、短軸0.83m、深さ0.21m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西、北壁際、111号土坑のすぐ南側に隣接する。掘方は扁平で浅い。

時期 近世のものと考えられる。

113号土坑(第54図、PL.22)

位置 3区。X=61588～590、Y=-94163～167。

重複 1号道路を掘り込む。114号土坑と接するが、新旧関係は不明。

平面形状 西北西-東南東方向に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。東側に接する114号土坑と類似した規模・

形状である。

主軸方位 N-65°-W。

規模 検出長軸4.22m、短軸0.75m、深さ0.62m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の北東に位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

114号土坑(第54図、PL.22)

位置 3区。X=61588～589、Y=-94159～163。

重複 105号土坑に掘り込まれる。113号土坑の東側に接するが、新旧関係は不明。

平面形状 東西方向に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。113号土坑と規模や形状が類似する。

主軸方位 N-84°-W。

規模 検出長軸4.16m、短軸0.91m、深さ0.55m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北東に位置する。しっかりとした掘方を有し、壁はほぼ垂直上に落ち、断面は長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

115号土坑(第54図、PL.22)

位置 3区。X=61568～573、Y=-94182～187。

重複 なし。

平面形状 南側が調査区外に出るため全容は不明であるが、南側に張り出した不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-51°-W。

規模 長軸5.15m、検出短軸4.82m、深さ0.4m。

埋没土層 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、南端。南壁に掛かる。4号掘立柱建物の南東に隣接する。掘方は浅く、扁平である。

時期 近世のものと考えられる。

116号土坑(第52図、PL.22)

位置 3区。X=61604～605、Y=-94207～208。

重複 198号ピットを掘り込む。

第3章 遺構と遺物

平面形状 北西-南東方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-24°-W。

規模 長軸0.78m、短軸0.57m、深さ0.36m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西端に位置し、58号土坑のすぐ西側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

117号土坑(第54図、PL.23)

位置 3区。X=61564~565、Y=-94182。

重複 118号土坑に掘り込まれる。

平面形状 西側を118号土坑に掘り込まれて破壊され、南側が調査区外に出るため全容は不明である。

主軸方位 N-40°-E。

規模 検出長軸0.32m、検出短軸0.3m、深さ0.24m。

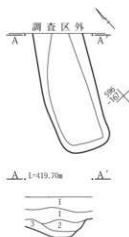
埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

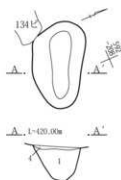
所見 調査区の中央よりやや東寄りの南端に位置する。南壁に掛かる。掘方は深く、砲弾状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

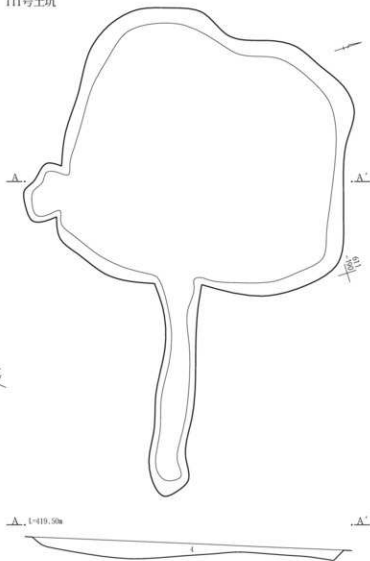
104号土坑



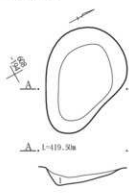
110号土坑



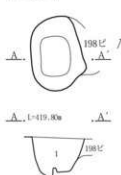
111号土坑



112号土坑



116号土坑



104・110～112・116号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 3 灰黄褐色土(10YR4/2) 軽石を含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。

0 1:40 1m

第52図 104・110～112・116号土坑

118号土坑(第54図、PL.23)

位置 3区。X=61564～566、Y=-94182～183。

重複 117号土坑を掘り込む。

平面形状 南側が調査区外に出るため全容は不明であるが、南北に長い楕円形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-25°-E。

規模 検出長軸1.05m、短軸0.85m、深さ0.32m。

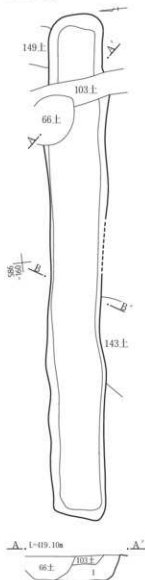
土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

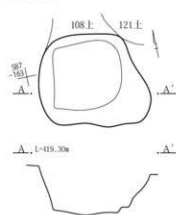
所見 調査区の中央よりやや東寄りの南端に位置する。南壁に掛かる。掘方は深く、細長い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

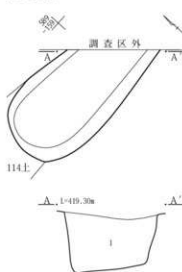
106号土坑



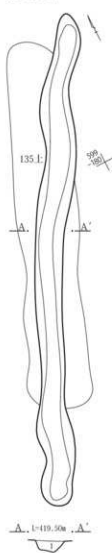
107号土坑



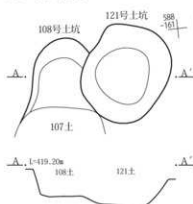
105号土坑



109号土坑



108・121号土坑



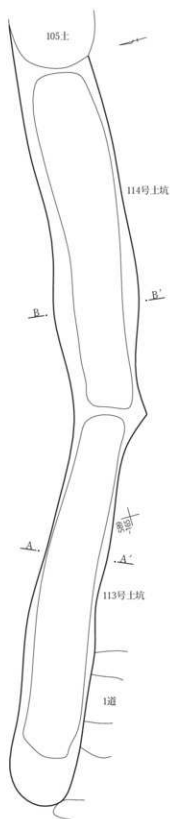
105・109号土坑

1 暗褐色土(10YR3/3) 径30～300mm程度のロームブロックを約20%程度含む。

106号土坑

1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度と径30mm以上のロームブロックを約7%程度含む。

第53図 105～109・121号土坑



114号土坑

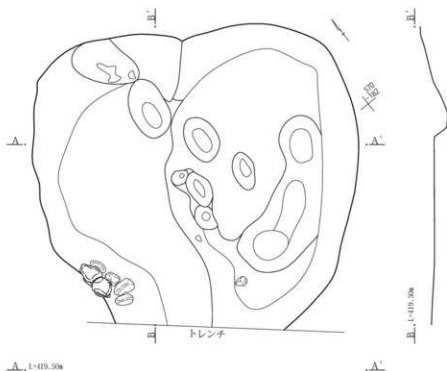
1 黒褐色土(10YR2/3) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と径50mm程度のロームブロックとを含む。



117・118号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度、径20~50mm程度の純い黄褐色土ブロックを約5%程度、径20mm程度の黄褐色土ブロックを約5%程度、それぞれ含む。
2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約30%程度含む。

115号土坑



第54図 113~115・117・118号土坑

120号土坑(第55図、PL.23)

位置 3区。X=61586、Y=-94160。

重複 なし。

平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-71°-W。

規模 長軸0.67m、短軸0.47m、深さ0.06m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北東寄り、106号土坑の北側、105・114土坑の南側に位置する。掘方は浅く、底面が広い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

121号土坑(第53図、PL.23)

位置 3区。X=61587-588、Y=-94161-162。

重複 107号土坑と接し、108号土坑を掘り込む。

平面形状 北東-南西方向にやや長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-39°-E。

規模 長軸1.05m、短軸0.87m、深さ0.32m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北東寄り、106号土坑の北側、105・114土坑の南側に位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

122号土坑(第55図、PL.23)

位置 3区。X=61591-592、Y=-94161-162。

重複 なし。

平面形状 北側が調査区外に出るため、全容は不明である。

主軸方位 N-45°-W。

規模 長軸1.07m、検出短軸0.69m、深さ0.3m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から北東寄り、114号土坑の北側に位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は底部中央が一段と掘り窪められた逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

123号土坑(第55図、PL.23)

位置 3区。X=61591-595、Y=-94170-172。

重複 1号道路路の路面に位置するが、新旧関係は不明。

平面形状 南北に長い不整隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-16°-E。

規模 長軸3.33m、短軸1.80m、深さ0.57m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、北寄り、65号土坑のすぐ西側に隣接する。本遺跡では大型の土坑の部類に属し、しっかりと掘方を有し、断面は逆半円形状を呈する。底面からは川原石大の自然石が出土している。墓塚の可能性も考えられる。

時期 近世のものと考えられる。

124号土坑(第55図、PL.23)

位置 3区。X=61582-583、Y=-94172-173。

重複 76号土坑に掘り込まれる。

平面形状 不整円形状を呈する。

主軸方位 N-11°-E。

規模 長軸1.35m、短軸1.25m、深さ0.27m。

埋土 黒色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央に位置する。比較的しっかりと掘方を有し、断面は底面が広い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

126号土坑(第55図)

位置 3区。X=61608-609、Y=-94204。

重複 なし。

平面形状 北東-南西向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-33°-E。

規模 長軸0.58m、短軸0.47m、深さ0.23m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西に位置する小規模な土坑。しっかりと

とした掘方を有する。

時期 近世のものと考えられる。

127号土坑(第56図、PL.24)

位置 3区。X=61562、Y=-94179~180。

重複 なし。

平面形状 南側が調査区外に出るため全容は不明である。

主軸方位 N-48°-W。

規模 長軸1.3m、検出短軸0.4m、深さ0.28m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

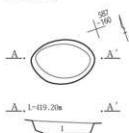
所見 調査区の中央からやや東寄りの位置、南端。南壁に掛かる。掘方は深く、壁はほぼ垂直に近い状態で落ち、断面は長形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

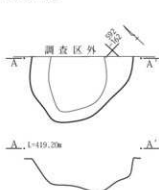
129号土坑(第56図、PL.24)

位置 3区。X=61601~603、Y=-94193~194。

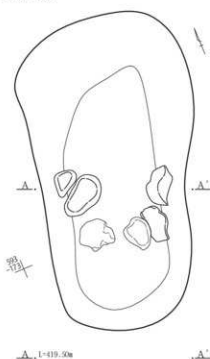
120号土坑



122号土坑



123号土坑



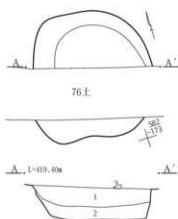
120号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度と径20~50mm程度の黄褐色土ブロックを約5%程度含む。

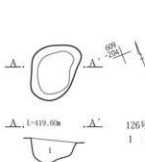
123号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度含む。
2 黒褐色土(10YR3/2) 径2~20mm程度の軽石を約30%程度と赤褐色土及び白色鉱物の粒子を含む。

124号土坑



126号土坑



126号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。

124号土坑

- 1 黒色土(10YR2/1) 径2~20mm程度の白色軽石及び径5mm程度の赤褐色軽石を約1%程度含む。粘性あり。
2 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土ブロックを約10%程度と白色軽石及び赤褐色軽石を含む。

0 1:40 1m

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-26°-E。

規模 長軸1.78m、短軸1.08m、深さ0.17m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄りに位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

134号土坑(第56図、PL.24)

位置 3区。X=61586、Y=-94158～159。

重複 なし。

平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-75°-W。

規模 長軸1.09m、短軸0.75m、深さ0.25m。

埋土 黒褐色土・灰黄褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北東隅、106号土坑の北側、102・141号土坑の東側に近接する。掘方は比較的しっかりとしている。

時期 近世のものと考えられる。

135号土坑(第56図、PL.24)

位置 3区。X=61596～600、Y=-94180～181。

重複 109号土坑、202号ピットに掘り込まれる。

平面形状 北北東—南南西方向に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。65・92・99・100・101・103号土坑などと類似した規模・形状である。

主軸方位 N-23°-E。

規模 長軸3.87m、短軸0.67m、深さ0.50m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや北西寄り、63号土坑の東側に近接する。しっかりと掘方を有し、壁はほぼ垂直に落ち、断面は長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

136号土坑(第56図、PL.24)

位置 3区。X=61596～597、Y=-94199。

重複 なし。

平面形状 南北に長い不整形。

主軸方位 N-27°-E。

規模 長軸0.86m、短軸0.65m、深さ0.27m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西寄り、1号溝のすぐ東側に隣接し、139号土坑の南西側に近接する。小規模ながらもしっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

137号土坑(第56図、PL.24)

位置 3区。X=61596～597、Y=-94197～198。

重複 なし。

平面形状 長方形。

主軸方位 N-49°-E。

規模 長軸1m、短軸0.5m、深さ0.2m。

埋土 灰黄褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西寄り、139号土坑の南側に近接する。小規模ながらもしっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

138号土坑(第56図、PL.24・25)

位置 3区。X=61595～596、Y=-94195～198。

重複 88号土坑に掘り込まれ、371号ピットを掘り込む。

平面形状 北東—南西方向に長い不整形。

主軸方位 N-68°-W。

規模 長軸2.55m、短軸0.99m、深さ0.26m。

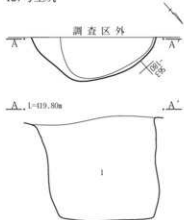
埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西寄りに位置する。小規模ながら

第3章 遺構と遺物

127号土坑



127号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約30%程度と径20~50mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。

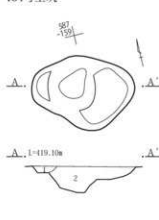
129号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度と径20mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。

129号土坑



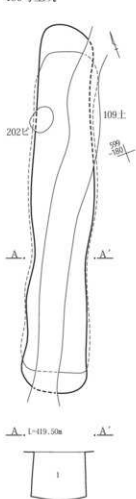
134号土坑



134号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。
2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と径5~30mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。粘性あり。

135号土坑



136号土坑



135号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度と径10mm程度の黄褐色土ブロックとを約2%程度含む。粘性あり。

136号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。
2 暗褐色土(10YR3/3) 軽石を含む。粘性あり。

137号土坑



137号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度含む。
2 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗褐色土ブロックを含む。

138号土坑



138号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と径10~30mm程度の黄褐色土ブロックを約2%程度含む。

0 1:40 1m

第56図 127・129・134~138号土坑

もしっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

139号土坑(第57図、PL.25)

位置 3区。X=61597～598、Y=-94198。

重複 7号柵P2に掘り込まれる。

平面形状 南北に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-28°-E。

規模 長軸1.1m、短軸0.83m、深さ0.05m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西寄り、136号土坑の北東側、137号土坑の北側に近接する。掘方は極めて浅く、断面は扁平で底部が広い逆レンズ状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

141号土坑(第57図、PL.25)

位置 3区。X=61586～587、Y=-94159～160。

重複 なし。

平面形状 南北に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-11°-E。

規模 長軸0.82m、短軸0.57m、深さ0.22m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄り、105号土坑のすぐ南側、134号土坑のすぐ北西側に隣接する小規模な土坑。しっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

143号土坑(第57図、PL.25)

位置 3区。X=61583～584、Y=-94160～162。

重複 100号土坑を掘り込む。106号土坑に掘り込まれる。

平面形状 北側を106号土坑に掘り込まれ破壊されているため全容は不明であるが、北東-南西方向に長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-48°-E。

規模 検出長軸1.90m、検出短軸1.15m、深さ0.32m。

埋土 黒褐色土・褐色土・にぶい黄褐色土主体、4層が

確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北東隅寄りに位置する。しっかりと掘方を有し、断面は逆楕円形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

144号土坑(第57図、PL.25)

位置 3区。X=61596～597、Y=-94189～190。

重複 なし。

平面形状 北北東-南南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-32°-E。

規模 長軸1.96m、短軸0.7m、深さ0.37m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西部、93号土坑の西側、2号畑の東側、145号土坑の南側に位置する。しっかりと掘方を有し、壁はほぼ垂直に落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

145号土坑(第57図、PL.25)

位置 3区。X=61598～600、Y=-94188～189。

重複 129号ビットに北端部を掘り込まれる。

平面形状 北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-33°-E。

規模 長軸1.83m、短軸0.95m、深さ0.47m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西部、93号土坑の西側、144号土坑の北側に位置する。しっかりと掘方を有し、壁はほぼ垂直に落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

149号土坑(第57図、PL.25)

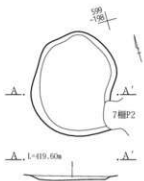
位置 3区。X=61585、Y=-94156。

重複 106号土坑に南端部を掘り込まれる。

平面形状 北側が調査区外に出るため、全容は不明であ

第3章 遺構と遺物

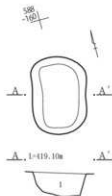
139号土坑



139号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度含む。

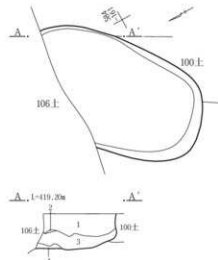
141号土坑



141号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度と径10mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。

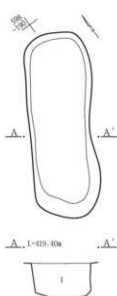
143号土坑



143号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 軽石と径2~10mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。
2 褐色土(10YR6/6)ブロック。
3 黒褐色土(10YR2/2) 径10mm以下の褐色土ブロックを約20%程度含む。
4 鈍い黄褐色土(10YR6/3)

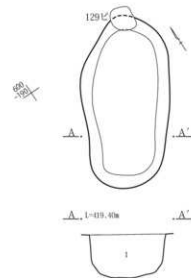
144号土坑



144号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度、径5~30mm程度の黄褐色土ブロック、径2~5mm程度の赤褐色土ブロック等を含む。

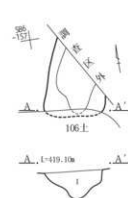
145号土坑



145号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約3%程度と径5mm程度のロームブロックとを約2%程度含む、粘性有り。

149号土坑



149号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約10%程度、径10mm程度の円礫、径50mm程度のロームブロック等を含む。

0 1:40 1m

るが、北東—南西方向に長い楕円形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-11°-E。

規模 検出長軸0.85m、短軸0.63m、深さ0.14m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北東端部、103号土坑のすぐ東側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は隅丸の逆五角形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

151号土坑(第58図、PL.26)

位置 3区。X=61586～587、Y=-94157。

重複 なし。

平面形状 北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、南北に長い隅丸長方形形状を呈すると思われる。

主軸方位 N-45°-E。

規模 検出長軸0.47m、短軸0.45m、深さ0.16m。

埋土 黒褐色土主体、3層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北東端、北東側壁に掛かる。103号土坑のすぐ北側に隣接する。検出範囲は小規模であるが、しっかりとした掘方を有し、壁はほぼ垂直に近い状態で落ち、断面は長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

153号土坑(第58図、PL.26)

位置 3区。X=61604～605、Y=-94201～202。

重複 なし。

平面形状 北西—南東方向に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-53°-W。

規模 長軸1.17m、短軸0.92m、深さ0.25m。

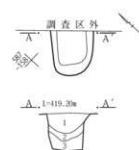
埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄りに位置する。ややしっかりとした掘方を有し、断面は底が広い逆台形状を呈する。底面から川原石大の自然石が出土した。

時期 近世のものと考えられる。

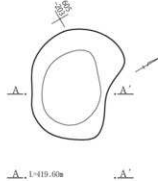
151号土坑



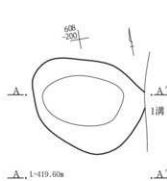
151号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径1mm以下の白色鉱物粒を含む。

153号土坑



154号土坑



154号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 白色軽石を含む。
- 2 鈍い黄褐色土(10YR4/3) 粘性あり。

153号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 浅間山火砕岩(As-Kk)と思われる軽石を約10%程度含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土ブロックを約10%程度含む。

0 1:40 1m

第58図 151・153・154号土坑

154号土坑(第58図、PL.26)

位置 3区。X=61606~607、Y=-94199~200。

重複 1号溝に東端を掘り込まれ破壊される。

平面形状 北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-48°-W。

規模 長軸1.20m、短軸0.95m、深さ0.26m。

埋土 黒褐色土・鈍い黄褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北西、16号掘立柱建物のすぐ北側に隣接する。掘方はやや浅めで、断面は底面が広い不整隅丸長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

156号土坑(第59図、PL.26)

位置 3区。X=61575~576、Y=-94152~153。

重複 なし。

平面形状 外形は西北西-東南東方向に長い楕円形状、西北西側と東南東側とに2基の土坑が連結したような形状を呈する。

主軸方位 N-50°-W。

規模 長軸1.3m、短軸0.62m、深さ0.37m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄り、北東壁際に位置する。しっかりと掘方を有し、断面は深い逆楕円形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

157号土坑(第59図、PL.26)

位置 3区。X=61575~576、Y=-94154~155。

重複 なし。

平面形状 外形は北東-南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。あたかも3基の小規模な土坑が北東-南西方向に連結したような形状を呈している。

主軸方位 N-43°-E。

規模 長軸1.21m、短軸0.48m、深さ0.17m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄り、北東壁近く、156号土坑の西側、

158号土坑の東側に近接する。小規模な土坑であるが、掘方は比較的しっかりとしている。

時期 近世のものと考えられる。

158号土坑(第59図、PL.26)

位置 3区。X=61576、Y=-94155~156。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-1°-E。

規模 長軸0.8m、短軸0.66m、深さ0.36m。

埋土 暗褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄り、157号土坑のすぐ西側に隣接する。しっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

159号土坑(第59図、PL.26)

位置 3区。X=61573~574、Y=-94157~159。

重複 なし。

平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-68°-W。

規模 長軸1.71m、短軸0.64m、深さ0.15m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄り、やや北壁側に寄った位置。173号土坑の南側に近接する。掘方は浅く、断面は底が広く浅い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

160号土坑(第59図、PL.26)

位置 3区。X=61570~571、Y=-94158~162。

重複 なし。

平面形状 西北西-東南東方向に細長い溝状の長楕円形状を呈する。39・77~79・113・114・162号土坑などと規模・形状や主軸方位が類似する。

主軸方位 N-74°-W。

規模 長軸4.02m、短軸0.9m、深さ0.18m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、やや東寄りに位置する。掘方は浅く、断面は底が広く扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

161号土坑(第59図、PL.27)

位置 3区。X=61563～564、Y=-94160～161。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い不整隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-9°-E。

規模 長軸0.98m、短軸0.93m、深さ0.39m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄り、174号土坑の北側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁は直に近い角度で落ち、断面は長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

162号土坑(第59図、PL.27)

位置 3区。X=61561～563、Y=-94154～157。

重複 9号溝を掘り込む。

平面形状 西北西-東南東方向に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。39・77～79・113・114・160号土坑などと規模・形状、主軸方位が類似する。

主軸方位 N-68°-W。

規模 長軸4.08m、短軸0.65m、深さ0.82m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東側に位置する。しっかりとした掘方を有し、壁は直に近い角度で落ち、断面は長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

163号土坑(第59図)

位置 3区。X=61554～555、Y=-94142～144。

重複 なし。

平面形状 西北西-東南東方向に長い楕円形状を呈する。159号土坑と規模・形状や主軸方位が類似する。

主軸方位 N-77°-W。

規模 長軸2.2m、短軸0.73m、深さ0.3m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東端近く、8号溝のすぐ北側、164号土坑のすぐ西側に隣接する。ややしっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

164号土坑(第59図)

位置 3区。X=61554～555、Y=-94140～141。

重複 なし。

平面形状 西北西-東南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-57°-W。

規模 長軸1.64m、短軸0.76m、深さ0.3m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東端近く、163号土坑のすぐ東側、168号土坑のすぐ南側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

165号土坑(第59図、PL.27)

位置 3区。X=61552～553、Y=-94139。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-23°-E。

規模 長軸0.68m、短軸0.57m、深さ0.26m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東端近く、166号土坑の西側、168号土坑の南側に近接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

166号土坑(第59図、PL.27)

位置 3区。X=61552、Y=-94138。

重複 なし。

平面形状 隅丸形状を呈する。

主軸方位 N-30°-E。

規模 長軸0.65m、短軸0.62m、深さ0.28m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東端、165号土坑の東側に近接する。小規模な土坑ながらもしっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

167号土坑(第59図、PL.27)

位置 3区。X=61557~558、Y=-94151~152。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-30°-E。

規模 長軸0.98m、短軸0.65m、深さ0.2m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り、9号溝の北岸に接する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

168号土坑(第60図)

位置 3区。X=61555~556、Y=-94139~140。

重複 11号溝を掘り込む。

平面形状 東西に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-85°-W。

規模 長軸1.6m、短軸1.06m、深さ0.45m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東端付近、164号土坑のすぐ北側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

169号土坑(第60図、PL.27)

位置 3区。X=61552~554、Y=-94149~150。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-35°-E。

規模 長軸2.1m、短軸0.5m、深さ0.54m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東隅付近、3号柵の東側、170号土坑の西側に位置する。しっかりとした掘方を有し、壁はほぼ垂直に近い状態で落ち、断面は方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

170号土坑(第60図、PL.28)

位置 3区。X=61548~552、Y=-94144~146。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈する。65・92・99・100・101・173号土坑などと規模・形状、主軸方位が類似する。

主軸方位 N-27°-E。

規模 長軸4.73m、短軸0.52m、深さ0.52m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東端付近8号溝のすぐ南側に隣接する。深くしっかりとした掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

171号土坑(第60図、PL.28)

位置 3区。X=61558~559、Y=-94163~166。

重複 なし。

平面形状 西北西-東南東方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-71°-W。

規模 長軸3.29m、短軸0.45m、深さ0.20m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り、92・172号土坑の南側に位置する。掘方は浅く、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

172号土坑(第60図、PL.28)

位置 3区。X=61561～564、Y=-94162～163。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

主軸方位 N-12°-E。

規模 長軸2.89m、短軸0.63m、深さ0.78m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄りに位置する。壁はややオーバーハング気味で、断面は長方形形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

173号土坑(第60図、PL.28)

位置 3区。X=61574～578、Y=-94156～158。

重複 175号土坑を掘り込む。

平面形状 北東—南西方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。65・92・99・100・101・170号土坑などと規模・形状、主軸方位が類似する。

主軸方位 N-17°-E。

規模 長軸4.14m、短軸0.8m、深さ0.63m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄り、北東壁近く、99号土坑の東側、159号土坑の北側、158号土坑の西側に位置する。しっかりと掘方を有し、壁は垂直に近い状態で落ち、断面は長方形に近い逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

174号土坑(第60図、PL.29)

位置 3区。X=61561～562、Y=-94161～162。

重複 なし。

平面形状 隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-19°-E。

規模 長軸1.09m、短軸0.99m、深さ0.25m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄り、172号土坑の東側、161号土坑の南側に近接する。掘方はやや浅めで、断面は底部が広いやや扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

175号土坑(第60図、PL.29)

位置 3区。X=61578、Y=-94157。

重複 173号土坑に掘り込まれる。

平面形状 東側を173号土坑に掘り込まれ破壊されているため全容は不明であるが、東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-72°-W。

規模 検出長軸0.75m、短軸0.67m、深さ0.36m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄り、北東壁近く、99号土坑の東側、159号土坑の北側、158号土坑の西側に位置する。しっかりと掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

176号土坑(第62図、PL.29)

位置 2区。X=61539～540、Y=-94116～117。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に僅かに長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-21°-E。

規模 長軸0.65m、短軸0.53m、深さ0.53m。

埋土 黄褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、南端、南壁際。壁はほぼ垂直に落ち、断面はU字形を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

第3章 遺構と遺物

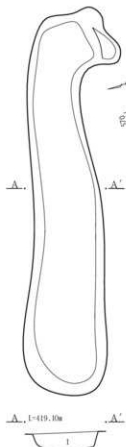
156号土坑



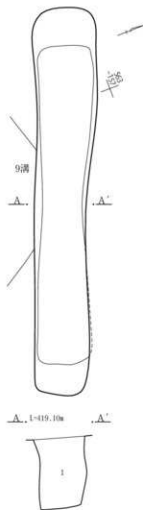
157号土坑



160号土坑



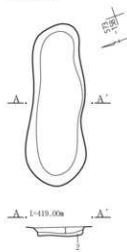
162号土坑



158号土坑



159号土坑



161号土坑



165号土坑



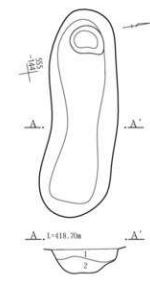
164号土坑



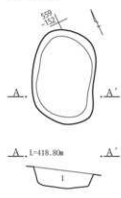
166号土坑



163号土坑



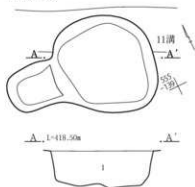
167号土坑



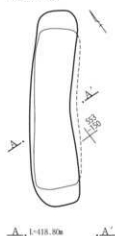
0 1:40 1m

第59图 156~167号土坑

168号土坑



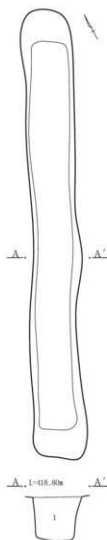
169号土坑



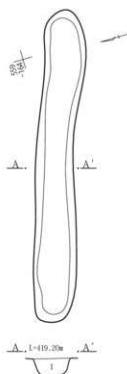
174号土坑



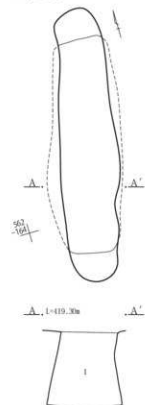
170号土坑



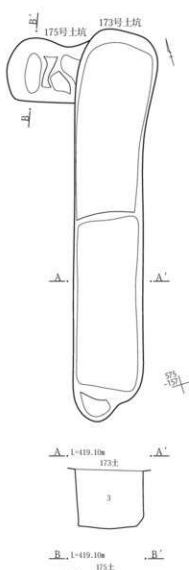
171号土坑



172号土坑



173・175号土坑

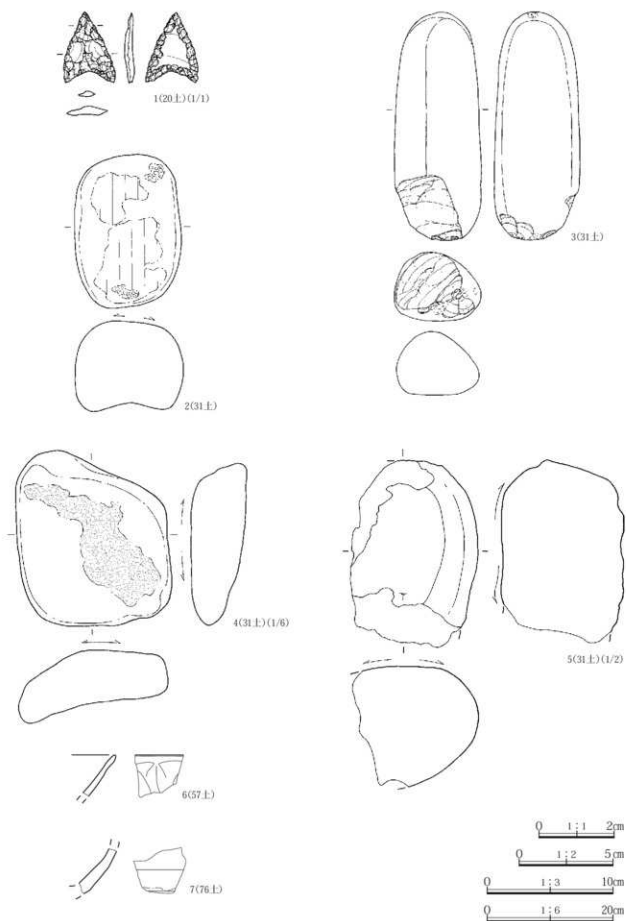


156～174号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 浅間山火山灰As-黏かと思われる軽石を約30%程度含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) 浅間山火山灰As-黏かと思われる軽石を約10%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 浅間山火山灰As-黏かと思われる軽石を約30%程度と径100mm程度の褐色土ブロックを含む。

0 1:40 1m

第60図 168～175号土坑



第61図 20・31・57・76号土坑出土遺物

177号土坑(第62図、PL.29)

位置 2区。X=61543～544、Y=-94117～118。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-20°-E。

規模 長軸1.75m、短軸0.87m、深さ0.19m。

埋土 黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、南端。南壁際に位置する。掘方は浅く、断面は底が広い扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

178号土坑(第62図、PL.29)

位置 2区。X=61553～555、Y=-94120～121。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-30°-E。

規模 長軸2.02m、短軸0.57m、深さ0.2m。

埋土 黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅寄り、北壁際、179号土坑の東側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

179号土坑(第62図、PL.29)

位置 2区。X=61556～557、Y=-94122～123。

重複 なし。

平面形状 北東側が調査区外に出るため全容は不明であるが、北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-30°-E。

規模 検出長軸0.9m、短軸0.9m、深さ0.21m。

埋土 黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅寄り、北壁際、180号土坑の東側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

180号土坑(第62図、PL.30)

位置 2区。X=61556～558、Y=-94124～125。

重複 なし。

平面形状 北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、北東—南西方向に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-10°-E。

規模 検出長軸2.26m、短軸0.71m、深さ0.2m。

埋没土層 黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅、181号土坑のすぐ北側に隣接する。掘方は浅く、断面は扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

181号土坑(第62図、PL.29)

位置 2区。X=61553～555、Y=-94125～127。

重複 なし。

平面形状 西辺が調査区外に出ているが、北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-31°-E。

規模 長軸1.90m、検出短軸0.92m、深さ0.12m。

埋土 黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の北西隅付近、180号土坑のすぐ南側に隣接する。上面が剛平を受けており、掘方の形状等は不明である。

時期 近世のものと考えられる。

182号土坑(第62図、PL.30)

位置 2区。X=61548～550、Y=-94122～123。

重複 なし。

平面形状 北側をトレンチで破壊されているため全容は不明であるが北東—南西方向に細長い溝状の隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-28°-E。

規模 検出長軸2.37m、短軸0.73m、深さ0.4m。

埋土 黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、西寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、壁はほぼ垂直に落ち、断面はU字形を呈

する。

時期 近世のものと考えられる。

183号土坑(第62図、PL.29)

位置 2区。X=61538、Y=-94111~112。

重複 なし。

平面形状 南側が調査区外に出るため不明。

主軸方位 N-88°-W。

規模 検出長軸1.01m、検出短軸0.54m、深さ0.3m。

埋土 黄褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや東寄りの南端に位置し、南壁に掛かる。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

184号土坑(第63図、PL.31)

位置 4区。X=61606~607、Y=-94219~220。

重複 なし。

平面形状 東西にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-76°-W。

規模 長軸0.98m、短軸0.59m、深さ0.16m。

埋没土層 黒褐色土・暗褐色土・灰黄褐色土主体、4層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区のほぼ中央、河道のすぐ東側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な隅丸逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

185号土坑(第63図、PL.31)

位置 4区。X=61602~603、Y=-94224~228。

重複 なし。

平面形状 西側が調査区外に出るが、東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-84°-W。

規模 検出長軸2.66m、短軸0.98m、深さ0.17m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや西寄りの位置の南端、河道

のすぐ西側に隣接する。南西壁に掛かる。検出された掘方は浅く、断面は扁平な隅丸逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

186号土坑(第63図、PL.30)

位置 4区。X=61601、Y=-94220~222。

重複 なし。

平面形状 東西に細長い長楕円形状を呈する。

主軸方位 N-78°-W。

規模 長軸2.27m、短軸0.44m、深さ0.19m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、南寄りに位置し、187号土坑のすぐ北側に隣接する。掘方は比較的浅く、断面は逆半円形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

187号土坑(第63図、PL.31)

位置 4区。X=61600~601、Y=-94220~221。

重複 なし。

平面形状 東西にやや長い隅丸不整形長方形形状を呈する。

主軸方位 N-71°-E。

規模 長軸0.9m、短軸0.74m、深さ0.19m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、南寄り、186号土坑のすぐ南側に隣接する。比較的しっかりとした掘方を有し、断面は隅丸逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

188号土坑(第63図、PL.31)

位置 4区。X=61602~603、Y=-94216~217。

重複 なし。

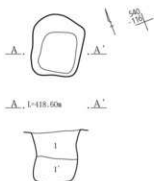
平面形状 不整形。

主軸方位 N-48°-E。

規模 長軸1.4m、短軸0.77m、深さ0.32m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

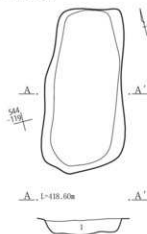
176号土坑



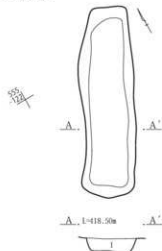
176号土坑

1 黄褐色土(2.5Y5/3)
1' 黄褐色土(2.5Y5/3)のブロック

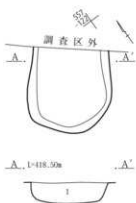
177号土坑



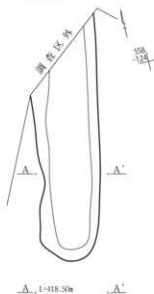
178号土坑



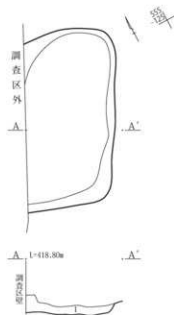
179号土坑



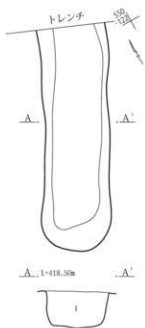
180号土坑



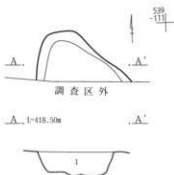
181号土坑



182号土坑



183号土坑



177～183号土坑
1 黄褐色土(2.5Y5/3)

0 1:40 1m

第62図 176～183号土坑

遺物 なし。

所見 調査区の東寄りの中央に位置する。掘方は比較的浅く、断面は逆レンズ状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

189号土坑(第63図、PL.30)

位置 4区。X=61600~601、Y=-94212~216。

重複 192号土坑を掘り込む。

平面形状 西北西—東南東方向に細長い長楕円形状を呈する。

主軸方位 N-80°-W。

規模 長軸4.23m、短軸0.73m、深さ0.42m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東端、南寄りに位置し、21号溝のすぐ北側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は隅丸逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

190号土坑(第63図、PL.31)

位置 4区。X=61603~607、Y=-94211~212。

重複 なし。

平面形状 北北東—南南西方向に細長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-17°-E。

規模 長軸4.10m、短軸1.00m、深さ0.32m。

埋土 黒褐色土主体、4層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東端、中央。191号土坑のすぐ南側に接する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

191号土坑(第63図、PL.31)

位置 4区。X=61607~609、Y=-94210~212。

重複 なし。

平面形状 北東—南西方向に長い長楕円形状を呈する。

主軸方位 N-36°-E。

規模 長軸2.55m、短軸0.92m、深さ0.42m。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東端、ほぼ中央に位置する。土坑の北東端が東壁に掛かる。しっかりとした掘方を有し、断面は幅が広いU字形を呈する。底面から自然石が6個出土している。

時期 近世のものと考えられる。

192号土坑(第64図、PL.32)

位置 4区。X=61598~600、Y=-94213~214。

重複 189号土坑と重複。

平面形状 北側を189号土坑に掘り込まれ破壊されているため内容は不明であるが、北北東—南南西方向に長い長楕円形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-18°-E。

規模 検出長軸1.97m、短軸0.81m、深さ0.29m。

埋没土層 黒褐色土主体、1層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

所見 調査区の東端、南寄りに位置し、21号溝のすぐ東側に隣接する。掘方は浅く、断面は扁平な隅丸逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。

193号土坑(第64図、PL.32)

位置 4区。X=61598~599、Y=-94216~218。

重複 21号溝に北西側を掘り込まれ破壊される。

平面形状 北西—南東方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-53°-W。

規模 長軸2.08m、短軸0.71m、深さ0.17m。

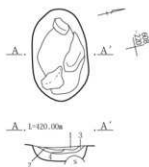
埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。軽石はAs-B・As-Kkか。

遺物 なし。

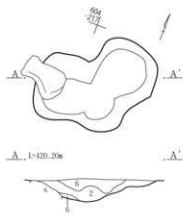
所見 調査区の中央、南側に位置する。掘方は比較的浅く、断面はやや扁平な逆隅丸台形状を呈する。埋土中及び底面から多数の自然石礫が出土した。

時期 近世のものと考えられる。

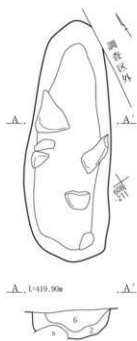
184号土坑



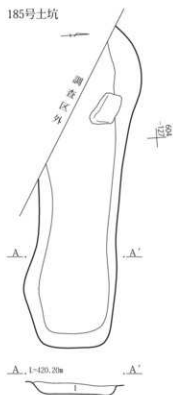
188号土坑



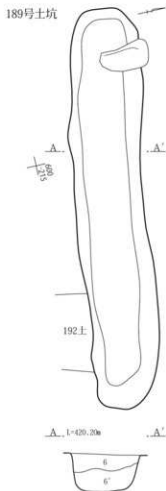
191号土坑



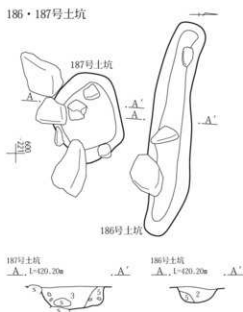
185号土坑



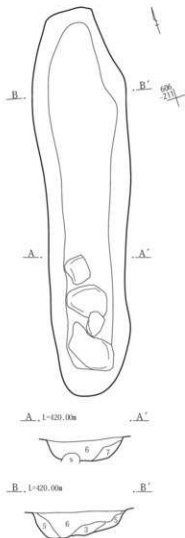
189号土坑



186・187号土坑

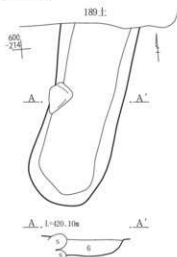


190号土坑

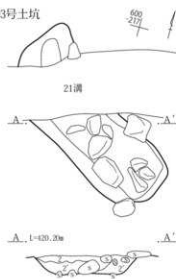


第63図 184～191号土坑

192号土坑



193号土坑



第64図 192・193号土坑

184～193号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)と灰褐色土(10YR4/2)との混土
軽石・礫を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 軽石・礫を30%以下含む。
- 2' 2層より暗い色調を呈する。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 軽石・礫を約50%程度含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) やや砂質。軽石含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 礫を含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 軽石及び礫を60%以上含む。
- 6' 6層より含有物多く、しまり強い。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック・礫を含む。

7. ピット(第65～75図, PL.32～45)

本遺跡では362基のピットが検出された。1区からは全く検出されず、2～4区の1面で237基が、2～4区の2面からは86基、計323基が検出されている。

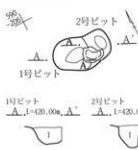
また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面では全く検出されず、3面で39基が検出された。

2～4区の1面におけるピットの検出数は、2区では全く検出されず、3区で218基、4区で19基の計237基であった。

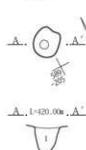
北西—南東方向に細長い3区では、調査区の南東側では非常に少なく、調査区中央の南寄りと、調査区の北西側に比較的多く検出されている。南西側辺と北辺とが長い直角三角形に似た形状の4区では、調査区のほぼ中央を南北に貫流する河道の東側からのみ検出された。

これらのピットはいずれも小規模であり、土坑などとの重複による新旧関係が明瞭なものがあるものの、具体的な時期や用途・機能についてもまったく不明であるので、それらの位置・規模・形状等については、174ページからの第5表にまとめた。

1・2号ピット



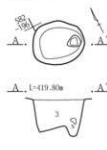
3号ピット



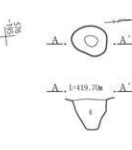
5号ピット



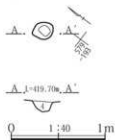
6号ピット



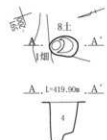
7号ピット



8号ピット



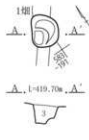
9号ピット



11号ピット



13号ピット

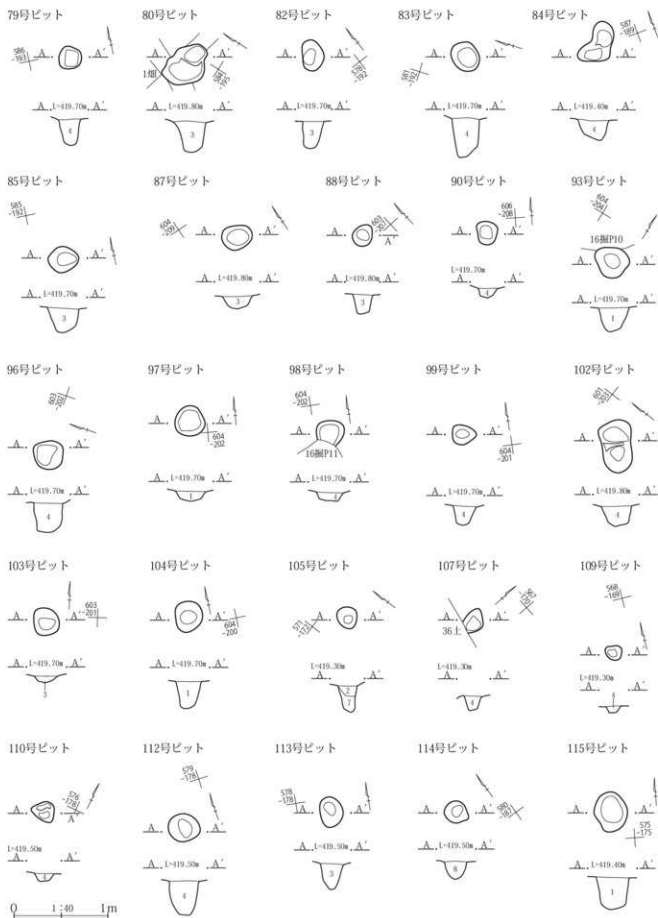


17号ピット



第65図 3区1面ピット-1(1～3、5～9、11・13・17号)

第3章 遺構と遺物

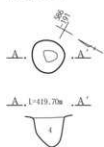


第67図 3区1面ビット-3 (79・80・82~85・87・88・90・93・96~99・102~105・107・109・110・112~115号)

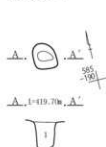
116号ビット



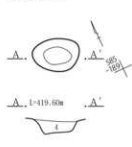
117号ビット



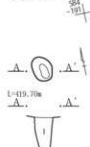
118号ビット



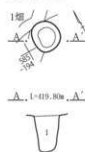
119号ビット



120号ビット



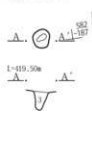
121号ビット



122号ビット



123号ビット



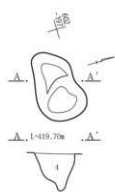
124号ビット



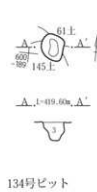
127号ビット



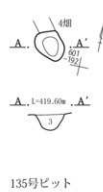
128号ビット



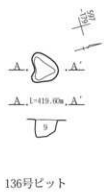
129号ビット



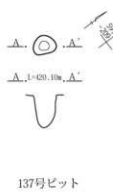
130号ビット



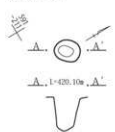
131号ビット



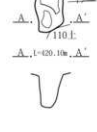
132号ビット



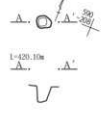
133号ビット



134号ビット



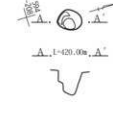
135号ビット



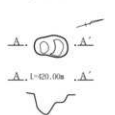
136号ビット



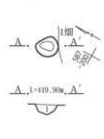
137号ビット



138号ビット



139号ビット



141号ビット



142号ビット

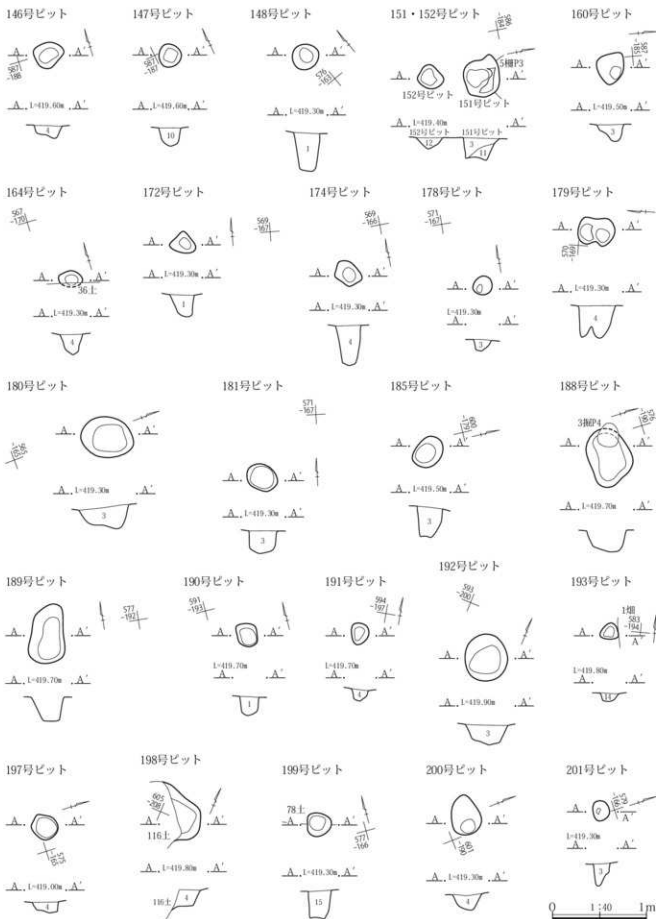


143号ビット

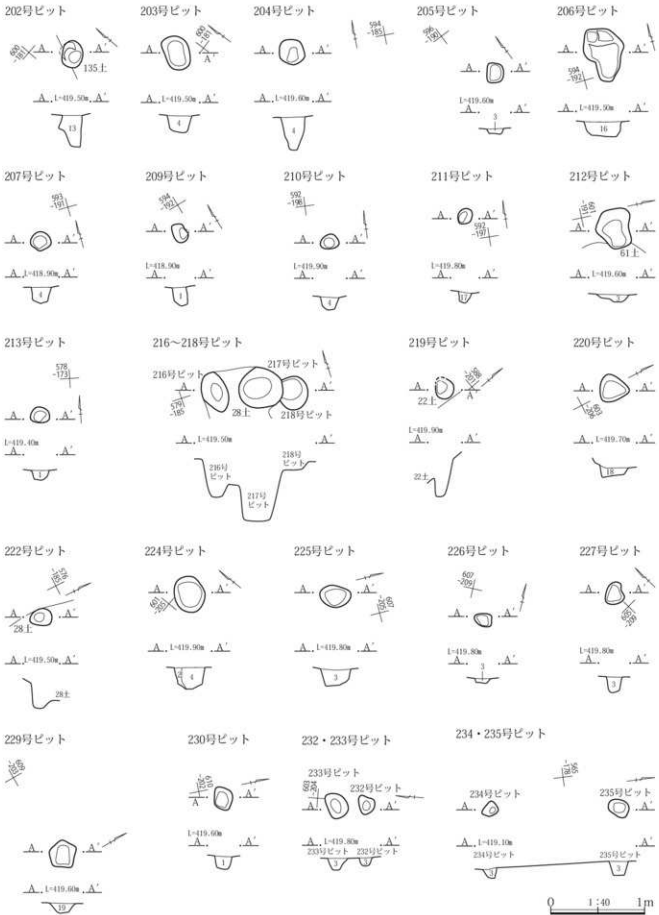


第68図 3区1面ビット-4 (116～124・127～139・141～143号)

第3章 遺構と遺物

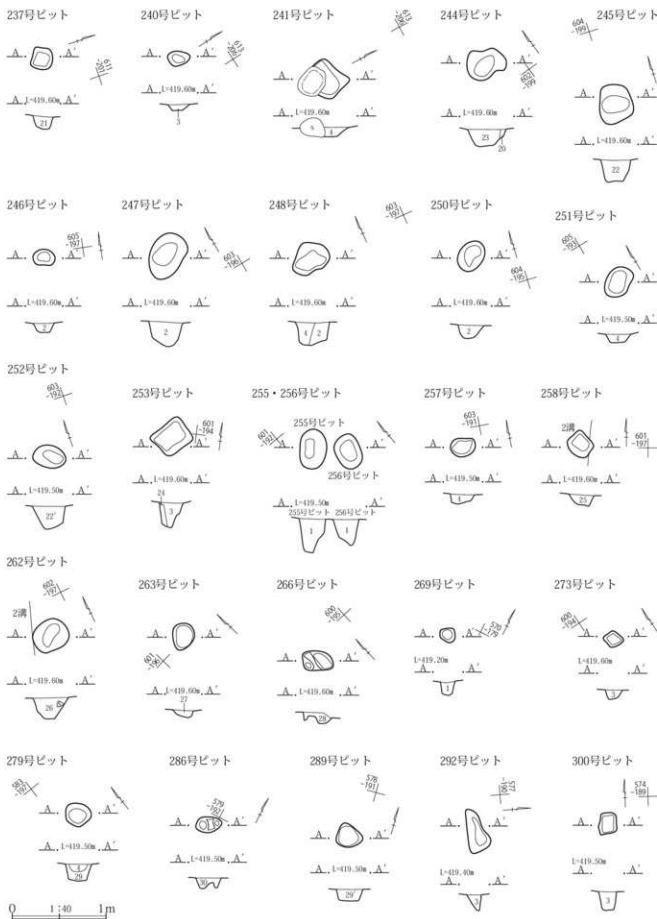


第69図 3区1面ビット-5 (146~148・151・152・160・164・172・174・178~181・185・188~193・197~201号)

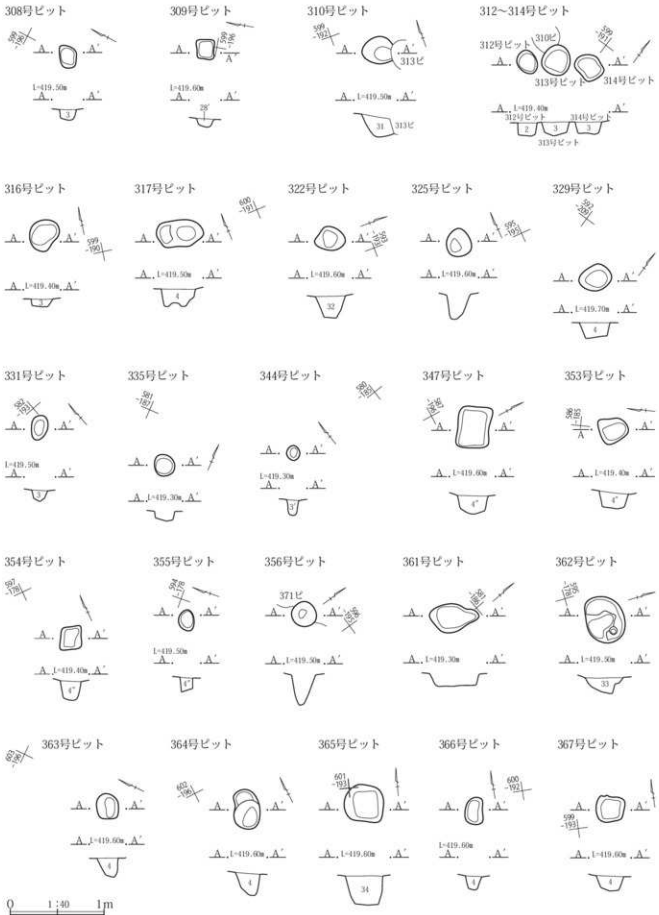


第70図 3区1面ビットー6 (202～207・209～213・216～220・222・224～227・229・230・232～235号)

第3章 遺構と遺物

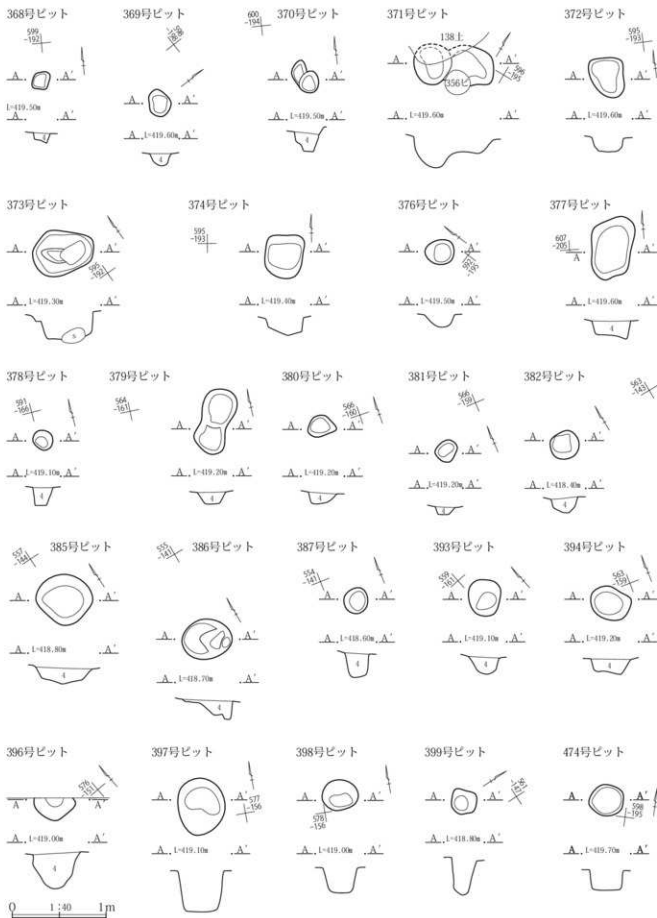


第71図 3区1面ピット-7(237・240・241・244~248・250~253・255~258・262・263・266・269・273・279・286・289・292・300号)



第72図 3区1面ビットー8 (308～310・312～314・316・317・322・325・329・331・335・344・347・353～356・361～367号)

第3章 遺構と遺物



第73図 3区1面ビット-9 (368~374・376~382・385~387・393・394・396~399・474号)

3区1面ビット

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約30%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約5%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 3⁺ 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 4⁺ 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度と円礫とを含む。
- 4⁺ 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。粘性あり。
- 5 暗褐色土(10YR3/4) 径20mm程度の黄褐色土ブロック及び軽石を含む。粘性あり。
- 6 黒褐色土(10YR3/1) 径1mm以下の明赤褐色鉱物粒及び黄褐色鉱物粒を含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 白色鉱物粒を含む。粘性あり。
- 8 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径2～5mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石及び白色鉱物粒及び黄褐色鉱物粒等を含む。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 径30mm程度の黄褐色土ブロックを約30%程度と径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) 粘性あり。
- 12 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と黄褐色土ブロックを約5%程度含む。
- 13 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径20～30mm程度の黄褐色土ブロックを約20%程度含む。
- 14 黒褐色土(10YR2/2) 径1mm以下の白色鉱物粒と径2～20mm程度の軽石とを含む。
- 15 黒色土(10YR2/1) 径10～20mm程度の黄褐色土ブロックを約20%程度含む。
- 16 灰黄褐色土(10YR4/2) 径10～300mm程度の黄褐色土ブロックを約30%程度と径2～20mm程度の軽石を約10%程度含む。
- 17 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と明赤褐色土粒とを含む。
- 18 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径10～300mm程度の黄褐色土ブロックを約30%程度含む。
- 19 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土ブロックを約40%程度と径2～20mm程度の軽石を約3%程度含む。
- 20 黒褐色土(10YR2/2)
- 21 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石を約3%程度と径1mm程度の赤褐色土粒とを含む。
- 22 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度と径10mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。
- 22⁺ 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を20%程度と径20～50mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。
- 23 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と黄褐色土のブロックとを含む。
- 24 暗褐色土(10YR3/3) 径2mm程度の黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- 25 黒褐色土(10YR2/2) 径20mm程度の軽石と径50mm程度の黄褐色土ブロックとを含む。
- 26 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径5mm程度の赤褐色土ブロックとを含む。
- 27 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径20～30mm程度の礫とを含む。
- 28 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径5mm程度の赤褐色土ブロックとを含む。
- 28⁺ 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径2mm以下の赤褐色土粒とを含む。
- 29 黒褐色土(10YR2/2) 径2mm程度の赤褐色土粒を含む。
- 29⁺ 黒褐色土(10YR2/2) 径2mm程度の赤褐色土粒を含む。粘性あり。
- 30 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約5%程度と黄褐色土ブロックとを含む。
- 31 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約10%程度と径1～2mm程度の黄褐色土ブロックを約10%程度含む。
- 32 暗褐色土(10YR3/3) 径1～5mm程度の赤褐色土粒を約2%程度含む。
- 33 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を20%程度とロームブロックを含む。
- 34 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度と径30～500mm程度のロームブロックを約20%程度含む。

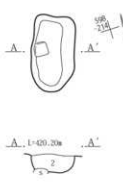
414号ビット



416号ビット



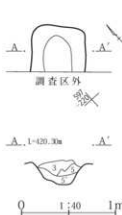
417号ビット



418号ビット

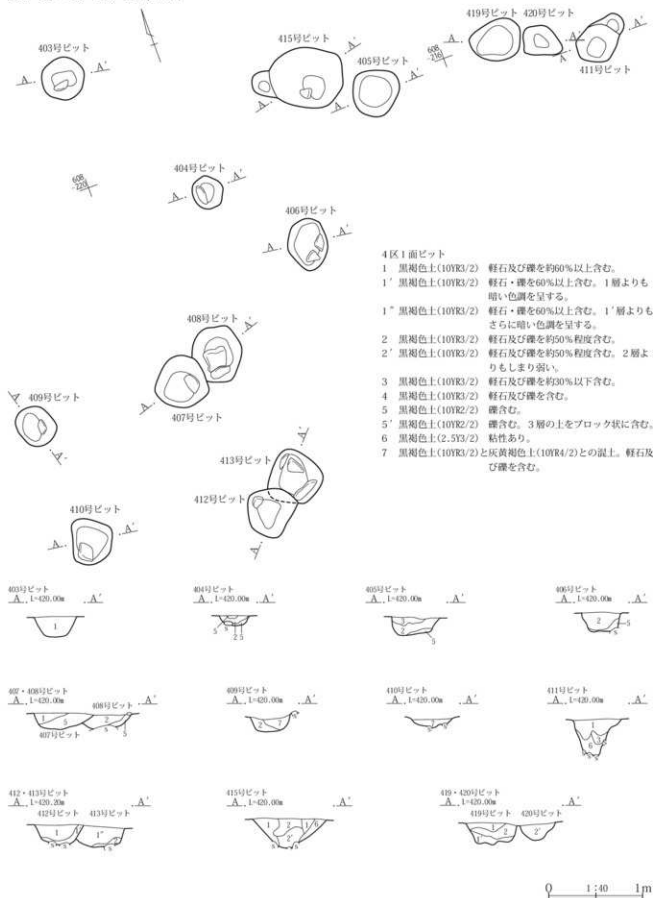


422号ビット



第74図 4区1面ビットー1(414・416～418・422号)

403～413・415・419・420号ビット



第75図 4区1面ビット-2 (403～413・415・419・420号)

第2節 2～4区2面の遺構と遺物

2～4区2面からは、竪穴住居5棟、溝3条、土坑20基、ピット86基が検出された。1面と同じく、遺構の分布は3区に集中している。竪穴住居はいずれも弥生時代後期樽式期で、3号住居以外の4軒は3区北西部に並ぶ。

1. 竪穴住居

本遺跡で検出された竪穴住居は計5棟で、いずれも弥生時代のもので3区2面からの検出であった。3区2面の中央からやや北西寄りの位置に、西北西から東南東にかけて1・2・5・4号住居の順で竪穴住居が並列し、小規模な3号住居のみ南側に位置している。

規模・形状はいずれも北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。1・4・5号住居がほぼ類似しており、2号住居は突出して大きく、3号住居は異例に小型である。主軸方位はほぼ類似している。

上述したとおり、時期はいずれも弥生時代後期樽式期のものである。

1号住居(第76・77図、PL.46・64)

位置 3区。X=61601～61607、Y=-94193～200。

重複 北西・南西・南東隅や南辺の西側付近を1面からの掘り込みによって破壊され、北辺中央から炉の北側にかけて攪乱されている。

平面形状 北東—南西方向に細長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-14°-E。

規模 長軸5.84m、短軸4.45m、床面までの深さ約0.25m、掘方までの深さ0.5m。

面積 22.86㎡。

埋土 上層に白色軽石を20%程度含む黒褐色土。下層に黄褐色軽石を10%程度含む黒褐色土が堆積。貼床は褐色土塊を20%程度含む黒褐色土。

床面 地山を比較的凹凸激しく掘り込んだ上に褐色土ブロックを約20%程度含む黒褐色土を貼って、平坦な床面を形成している。

炉 長軸0.88m、短軸0.72m、深さ0.05m。中心部は非

常に良く焼けており、焼土塊のような状態である。その周囲に0.15～0.3mの範囲で同心円状に灰層が検出された。また、炉の周囲からは環状に自然石が検出されているが、きちんと並べられたような状況ではない。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 4基が検出された。

P1：南東側、北西—南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.29m・短軸0.24m・深さ0.14m、しっかりとした掘方を有するが、断面は浅い逆台形状を呈する。埋土は褐色土塊を少量含む黒褐色土。

P2：南西側、西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈する。長軸0.42m・短軸0.38m・深さ0.17m、比較的しっかりとした掘方を有するが、断面は浅い逆台形状を呈する。埋土は円礫を含む黒褐色土主体。

P3：北西側、南北に僅かに長い不整楕円形状を呈し、長軸0.46m・短軸0.42m・深さ0.25m、比較的しっかりとした掘方を有するが、断面は浅い逆台形状を呈する。埋土は黒褐色土。上層には炭化物を少量含み、下層には褐色土塊を多く含んでいる。

P4：北東側、南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長軸0.37m・短軸0.33m・深さ0.25m、しっかりとした掘方を有するが、断面は浅い逆台形状を呈する。埋土は炭化物を少量含む黒褐色土だが壁際に褐色土塊を多く含む暗褐色土が堆積する。

周溝 検出されなかった。

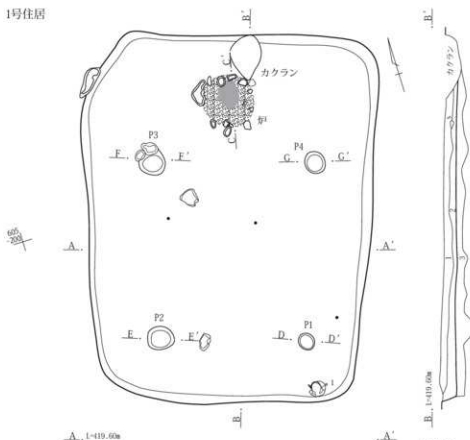
掘方 全体に凹凸激しく掘り窪められており、中央から北寄り及び西南寄りが一段深く掘り窪められているものの、床下土坑と言うような形状ではない。

遺物 南東隅壁際床面直上より弥生土器裏口縁部—胴部片が1点(1)と埋土中より弥生土器壺底部片が1点出土(2)。いずれも樽式土器。掲載しなかったものに縄文土器加曾利E3式土器片1点及び弥生土器樽式期土器片90点。

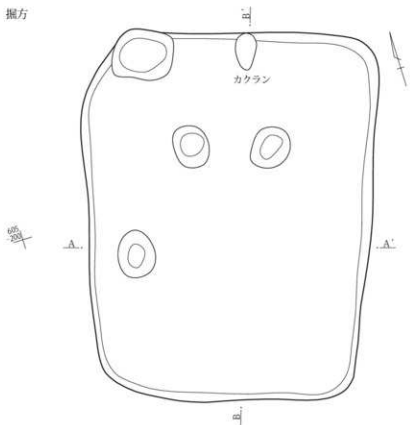
所見 調査区の北西隅寄りに位置する。132号土坑のすぐ北側に隣接し、133号土坑及び2号住居の西側に位置する。しっかりとした掘方を有し、炉を含め残存状態は良好であった。

時期 弥生時代後期、樽式期。

1号住居



掘方



1号住居

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径1~10mm程度の白色軽石を約20%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) 径5~10mm程度の黄褐色軽石を約10%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土ブロックを約20%程度含む。

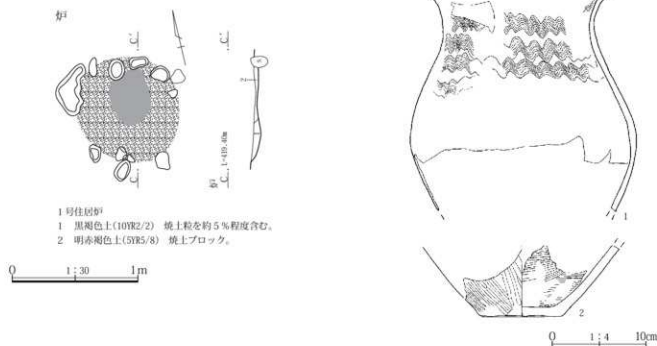


1号住居P1~4

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土ブロックを約10%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3) 径1~30mm程度の円礫を含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 褐色土ブロックを約5%程度含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径1~10mm程度の白色軽石を約20%程度含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径2~30mm程度の炭化物を約10%程度含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土ブロックを約50%程度含む。



第76図 1号住居



第77図 1号住居跡・出土遺物

2号住居(第78～80図、PL.47・64)

位置 3区。X=61596～605、Y=-94183～190。

重複 南東及び南西隅付近と南西側を1面から掘り込まれ、破壊されている。

平面形状 北北東—南南西方向に長い隅丸長方形。本遺跡検出最大の住居である。

主軸方位 N-16°-E。

規模 長軸8.72m、短軸5.74m、床面までの深さ0.35m前後、掘方までの深さ0.4～0.5m前後。

面積 40.53㎡。

埋土 上層に焼土塊・白色鉱物粒を含む黒褐色土、中層にローム塊・黄白色砂粒を含む黒褐色土。下層に白色鉱物の微粒及び黄褐色土塊を含む黒褐色土。壁際にローム塊を含む暗褐色土。貼床には暗褐色土。

床面 地山を凹凸激しく掘り穿めたのちに、暗褐色土を0.05～0.25m貼り付けて平坦な床面を形成している。

竪 北東寄り中央の位置で、南北に長い長軸0.79m・短軸0.63mの楕円形状の範囲にまとまった灰の堆積が認められた。焼土等や掘り穿められた痕跡が全く検出されなかったが、位置や状況から竪の跡とみられる。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 ビットは29基が検出された。P1～4が主柱穴。

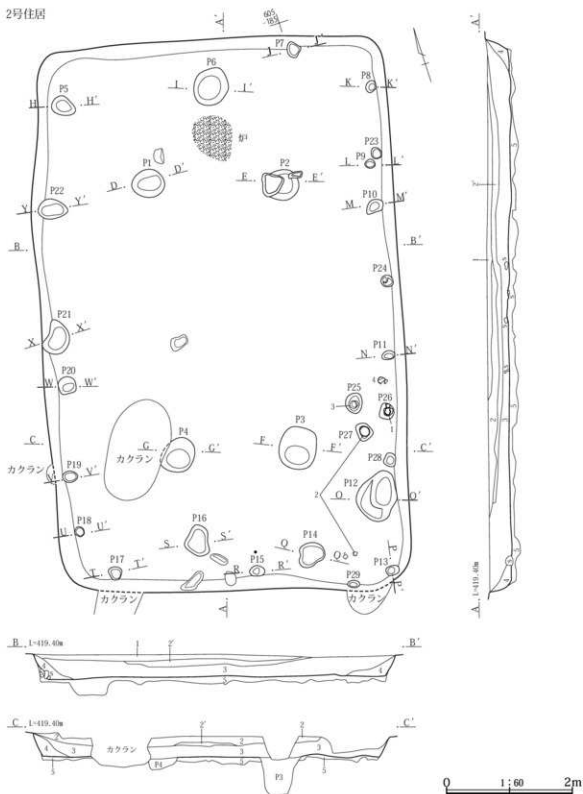
北辺以外の西・南・東各辺の壁際に、いずれも小規模で掘方も浅いビットが廻り、これらは堅穴の壁を抑えるための壁材を支えた杭状のものの痕跡と考えられる。東辺壁際に北からP8・23・9(P23の掘り替えか?)・10・24・11・26・28の順。南東隅にP13。南辺に東からP29・15・17の順。西辺に北からP5・22・21・20・19・18の順にそれぞれ並ぶ。北辺にかかるビットは、北辺の中央から東に寄った位置でP7が1基のみ検出されている。北辺寄りの中央、竪とみなされる楕円形状に灰が検出された辺りの北側で検出された大きな平面形状のP6、東辺寄りの南側で隣接して検出されたP25・27、同じく東辺寄りの南側で検出された平面不整形のP12、南辺寄りの位置から東西に並列するように検出されたP14・16などはしっかりとした掘方を有してはいるものの、用途は不明である。

P1：北西側住居主柱穴。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.51m・短軸0.45m・深さ0.44m、しっかりとした掘方を有し、断面は深い逆台形状を呈する。埋土は白色及び黄褐色軽石を微量及び円礫を含む黒褐色土。

P2：北東側住居主柱穴。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈する。長軸0.55m・短軸0.48m・深さ

- 0.3m、しっかりと掘方を有し、断面は底が広い逆台形状を呈する。埋土は白色及び黄褐色軽石をごく微量及び円礫を含む黒褐色土。埋土中から川原石大の自然石が出土している。
- P 3：南東側住居主柱穴。北東—南西方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.66m・短軸0.59m・深さ0.59m、しっかりと掘方を有し、断面は深い逆台形状を呈する。埋土は白色及び黄褐色軽石を微量含む黒褐色土。
- P 4：南西側住居主柱穴。北東—南西方向に長い楕円形状を呈する。西辺を攪乱されている。長軸0.59m・短軸検出0.5m・深さ0.33m、しっかりと掘方を有し、断面はP 1～3に比べれば小規模な逆台形状を呈する。埋土は白色及び黄色の軽石を微量、黄褐色土塊及び円礫を含む黒褐色土。
- P 5：西壁際最北、西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.39m・短軸0.3m・深さ0.14m、埋土は黄褐色粒・白色鉱物・径2～5cmの円礫を含む黒褐色土。
- P 6：炉の痕跡と考えられる灰の集中出土箇所北側、北壁との間。北東—南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長軸0.62m・短軸0.55m・深さ0.2m、埋土は黄褐色軽石を含む黒褐色土。
- P 7：北壁際。南北に僅かに長い不整楕円形状を呈し、長軸0.26m・短軸0.2m・深さ0.15m、埋土は白色・黄色軽石を含む黒褐色土。
- P 8：東壁際最北。北東—南西方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.21m・短軸0.17m・深さ0.12m、埋土は黄褐色シルト質土塊と黄褐色粒・白色鉱物を含む黒褐色土。
- P 9：東壁際北から3番目。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.18m・短軸0.14m・深さ0.12m、埋土は黄褐色シルト質土塊を多く含む黒褐色土。
- P 10：東壁際北から4番目。北東—南西方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.31m・短軸0.24m・深さ0.15m、埋土は白色・黄色軽石及び円礫を含む黒褐色土。
- P 11：東壁際北から6番目。東西に長い楕円形状を呈し、長軸0.21m・短軸0.15m・深さ0.09m、埋土は黄褐色シルト質土塊を含む黒褐色土。
- P 12：東壁際北から9番目。北東—南西方向に長い不整楕円形状を呈し、長軸0.81m・短軸0.65m・深さ0.16m、埋土は黄褐色シルト質土塊を含む黒褐色土。壁材を支えた杭痕とは考えにくい。
- P 13：東壁際最南、南東隅。1面から攪乱されている。東西方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.22m・短軸0.14m・深さ0.11m、埋土は褐色土。
- P 14：南壁内側、東寄り。P 16とはほぼ対称的な位置にある。北東—南西方向に長い不整楕円形状を呈し、長軸0.45m・短軸0.41m・深さ0.24m、しっかりと掘方を有する。埋土は黄褐色シルト質土塊を含む黒褐色土。
- P 15：南壁際ほぼ中央。北西—南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.25m・短軸0.16m・深さ0.08m、埋土は褐色土。
- P 16：南壁内側、西寄り。P 14とはほぼ対称的な位置にある。北東—南西方向に長い不整楕円形状を呈し、長軸0.5m・短軸0.4m・深さ0.28m、しっかりと掘方を有する。埋土は灰黄褐色シルト質土や黄褐色シルト質土の塊を含む黒褐色土。
- P 17：南壁際最西、南西隅近く。1面から攪乱されている。南北に長い楕円形状を呈し、長軸0.21m・短軸0.2m・深さ0.06m、埋土は黄白色軽石・円礫を少量含む黒褐色土。
- P 18：西壁際北から6番目。ほぼ円形状を呈し、径0.16m・深さ0.07m、埋土は白色鉱物粒・赤褐色粒・円礫を含む黒褐色土。
- P 19：西壁際北から5番目。1面から攪乱されている。北西—南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.24m・短軸0.18m・深さ0.06m、埋土は白色鉱物粒・赤褐色粒を含む黒褐色土。
- P 20：西壁際北から4番目。東西に僅かに長い楕円形状を呈する。長軸0.27m・短軸0.25m・深さ0.19m、比較的しっかりと掘方を有している。白色鉱物粒、黄褐色軽石粒を含む黒褐色土。
- P 21：西壁際北から3番目。北東—南西方向に長い不整楕円形状を呈し、長軸0.51m・短軸0.35m・深さ0.14m、埋土は白色軽石、黄褐色粒を含む黒褐色土。
- P 22：西壁際北から2番目。西北西—東南東方向に長い

2号住居

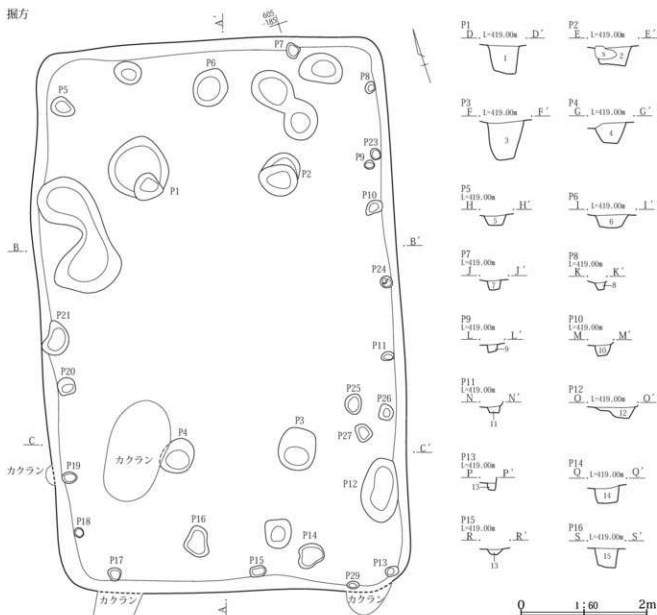


2号住居

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径1～2mm程度の焼土ブロック及び白色炭物粒を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 径3mm程度のロームブロック及び黄白色砂粒を含む。
- 2' 黒褐色土(10YR3/2) 径3mm程度のロームブロック及び黄白色砂粒を含む。2層よりロームブロックが大きい。
- 3 黒褐色土(10YR2/3) 径1mm以下の白色炭物粒及び径5mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 径2～50mm程度のロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/4)

第78図 2号住居

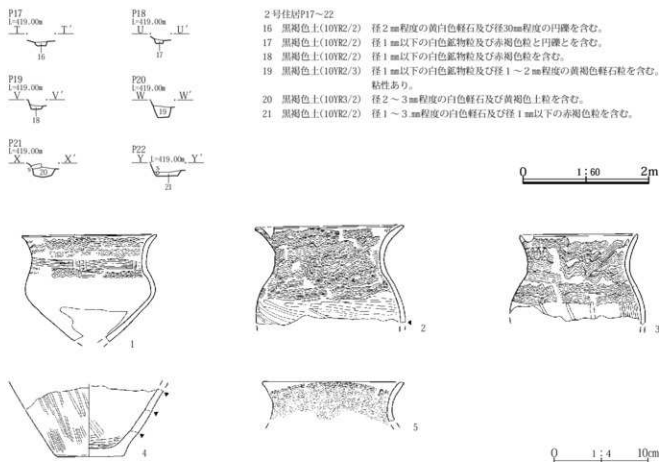
掘方



2号住居P1~16

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 径5mm程度の白色及び黄褐色軽石を約2~3%程度、径10~50mm程度の円礫を含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2~3mm程度の白色及び黄褐色軽石を約2%程度と円礫を含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径2~3mm程度の白色及び黄褐色軽石を約2%程度含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2~3mm程度の白色及び黄褐色軽石を約2%程度、径50mm程度の黄褐色土ブロックや径50~200mm程度の円礫を含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径1mm以下の黄褐色及び白色鉱物、径20~50mm程度の円礫を含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 径3mm程度の黄褐色軽石を含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 径3mm程度の白色及び黄褐色軽石を含む。
- 8 黒褐色土(10YR2/2) 径50mm程度の黄褐色シルト質土ブロックと径1mm以下の黄褐色及び白色鉱物とを含む。
- 9 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色シルト質土ブロックを約50%程度含む。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 径3mm程度の白色及び黄褐色軽石、径10~30mm程度の円礫を含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/4) 径20~50mm程度のロームブロックを約40%程度含む。
- 12 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色シルト質土ブロックを含む。
- 13 褐色土(10YR4/4) 粘性あり。
- 14 黒褐色土(10YR2/2) 径5~20mm程度の黄褐色シルト質土ブロックを含む。
- 15 黒褐色土(10YR2/2) 灰黄褐色シルト質土を約30%程度、径5~20mm程度の黄褐色シルト質土ブロックを含む。

第79図 2号住居掘方・P1~16土層断面



第80図 2号住居P17～22土層断面・出土遺物

楕円形状を呈し、長軸0.47m・短軸0.32m・深さ0.06m、埋土は白色軽石、赤褐色粒を含む黒褐色土。

P23：東壁際北から2番目。南北に僅かに長い楕円形状を呈し、長軸0.18m・短軸0.17m・深さ0.04m。

P24：東壁際北から5番目。不整形形状を呈し、径0.2m・深さ0.11m。

P25：東壁の内側、南寄り。P27の北側。北東—南西方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.32m・短軸0.25m・深さ0.07m。

P26：東壁際北から7番目。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈する。長軸0.29m・短軸0.23m・深さ0.08m。

P27：東壁の内側、南寄り。P26の南側。南北に僅かに長い不整形楕円形状を呈し、長軸0.27m・短軸0.26m・深さ0.05m。

P28：東壁際北から8番目。北東—南西方向に僅かに長

い楕円形状を呈する。長軸0.22m・短軸0.18m・深さ0.05m。

P29：南壁際最東。1面から攪乱されている。北西—南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.2m・短軸0.12m・深さ0.09m。

周溝 検出されなかった。

掘方 地山を凹凸激しく掘り込んでいる。

遺物 南半部東壁際床直より弥生土器裏2点(2・3)、埋土中より弥生土器台付甕1点(1)、甕片2点(4・5)、いずれも樽式期。掲載しなかったものに弥生時代後期高坏片1点、短頸壺片1点を含む土器片101点、台石1点がある。

所見 調査区の北西寄りに位置する。133号土坑及び1号住居の東側、5号住居の北西側に位置する。本遺跡検出最大の住居であり、しっかりとした掘方を有し、如以外は残存状態は良好であった。

時期 弥生時代後期、樽式期。

3号住居(第81図、PL.47・48・64)

位置 3区。X=61583~586、Y=-94192~195。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に長い隅丸長方形。

主軸方位 N-15°-E。

規模 長軸3.4m、短軸3.07m、床面までの深さ0.14m
前後、掘方までの深さ0.2m前後。

面積 6.98㎡。

埋土 ローム塊・白色軽石・焼土粒を含む黒褐色土主体。

貼床は鈍い黄褐色土塊を20%程度及び焼土粒・炭化物粒
等を含む黒褐色土。

床面 地山を凹凸激しく掘り窪めたのちに、鈍い黄褐色
土塊、焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を0.02~0.15m貼
り付けて平坦な床面を形成している。

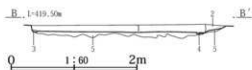
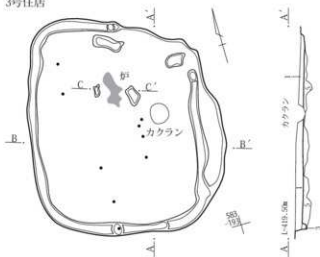
灰 中央から北寄りの位置から南北0.6m・東西0.16~
0.2mの不整形の範囲に焼土がまとまって検出された。
掘り窪められた痕跡が全く検出されなかったが、位置や
状況から灰の跡とみられる。

貯蔵穴 検出されなかった。

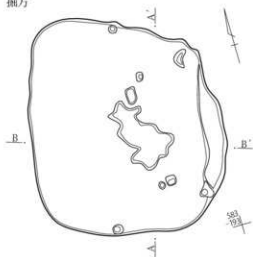
柱穴 検出されなかった。

周溝 北東側を除いて検出された。上幅0.12~0.2m前
後、下幅0.07~0.13m前後、深さ0.02m前後。

3号住居

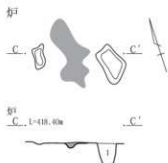


掘方



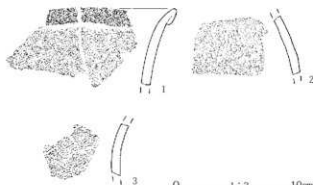
3号住居

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 径5~30mm程度のロームブロック及び径2~5mm程度の白色軽石と焼土粒などを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径1mm程度の焼土粒及び灰黄褐色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3)
- 5 黒褐色土(10YR2/3) 径30~50mm程度の鈍い黄褐色土ブロックを約20%程度、径2mm程度の焼土粒及び炭化物粒などを含む。



3号住居^灰

- 1 暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック・炭化物粒を含む。



第81図 3号住居・出土遺物

掘方 地山を凹凸激しく掘り込んでいる。

遺物 埋土中より弥生土器残片3点(1～3)、いずれも樽式期。掲載しなかったものに弥生時代後期土器片3点がある。

所見 調査区の西南寄りに位置する。本遺跡検出最小の住居である。掘方は比較的浅く、残存状態はあまりよくない。

時期 弥生時代後期、樽式期。

4号住居(第82～84図、PL.48・49・65)

位置 3区。X=61588～595、Y=-94169～175。

重複 1面から北辺と東辺とをそれぞれ攪乱されている。

平面形状 北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-10-E。

規模 長軸6.03m、短軸4.86m、床面までの深さ0.64m、掘方までの深さ0.68m。

面積 25.39㎡。

埋土 上層に軽石を20%程度含む黒褐色土。中層に白色鉱物・赤褐色粒を含む黒褐色土。床面近くの層にローム塊を20%程度及び炭化物粒を含む黒褐色土。壁際にローム塊を10%程度及び炭化物粒を含む黒褐色土。貼床はローム塊と炭化物を含む黒褐色土。

床面 地山を比較的平坦に削り出した上に、ローム塊と炭化物を含む黒褐色土を0.02～0.08m程度部分的に薄く貼り付けて平坦な床面を形成している。

竈 竈は2箇所検出された。両竈の新旧関係はいは同時併存かという点については不明である。

1号竈 中央の北壁寄りに不整形で焼土と焼土混じりの灰が集中する範囲が検出された。上層からは川原石大の自然石3点が出土した。

焼土集中検出箇所は南北約0.25m・東西約0.2mの範囲で、焼土混じりの灰が集中して検出された範囲は南北約1.12m・東西約0.48～1.02m前後。竈の深さは約0.05m前後であった。

埋土はローム・焼土塊、炭化物粒を含む黒褐色土。

2号竈 西壁の内側、住居の中央より南寄りの位置から検出された。北東—南西方向に長い楕円形状に検出された焼土の集中箇所の周囲に、不整形の焼土及び灰が混じった層の集中検出箇所がある。

焼土集中検出箇所の大きさは、南北約0.24m・東西約0.17mの範囲であった。また、焼土混じりの灰が集中して検出された範囲は南北約0.1～0.45m・東西約0.4～0.6m前後であった。竈の深さは約0.02m前後であった。

埋土は1号竈と同様、ローム・焼土塊、炭化物粒を含む黒褐色土。

貯蔵穴 南壁際中央より東寄りの位置。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈する。長軸0.72m・短軸0.56m・住居床面からの深さ0.35m。断面は上が広がったU字形状を呈する。埋土はローム塊・炭化物粒を含む黒褐色土。

柱穴 11基が検出された。P1～4が住居の主柱穴。北辺中央に北壁に掛かる大きなP5以外はいずれも小規模なピットで掘方も浅い。西壁内側0.35mの北寄りにP6、住居の中央から南寄りの位置にP7、南壁の内側の中央よりやや西寄りの位置にP8、南西隅の内側にP9、西壁の内側の中央から南寄りの位置にP10、北東隅のすぐ内側にP11がそれぞれ検出された。北壁の中央に掛かる形で検出されたP5は、縁辺に土手状の若干の高まりが巡らされ、あたかも竈のように見えるが、焼土や灰の検出はほとんどなかった。ほかのピットの用途は不明である。

P1：北西側住居主柱穴。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.43m・短軸0.39m・深さ0.18m、しっかりとした掘方を有し、断面は段差がある逆台形状を呈する。埋土はφ1cm大のローム塊を少量含む黒褐色土。上面からは自然石が出土。

P2：北東側住居主柱穴。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈する。長軸0.44m・短軸0.35m・深さ0.14m、掘方はやや浅めで、断面は底が広い逆台形状を呈する。埋土はφ2cm大のローム塊を少量含む黒褐色土。上面からは自然石が出土。

P3：南東側住居主柱穴。北西—南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.44m・短軸0.34m・深さ0.06m、掘方は浅く、断面は非常に扁平で底が広い逆台形状を呈する。埋土はφ2cm大のローム塊を含む黒褐色土。

P4：南西側住居主柱穴。北東—南西方向に長い楕円形状を呈する。長軸0.59m・短軸0.52m・深さ0.48m、しっかりとした掘方を有し、断面は先端が突起し

第3章 遺構と遺物

た逆三角形形状を呈する。埋土はローム塊を少量含む黒褐色土。

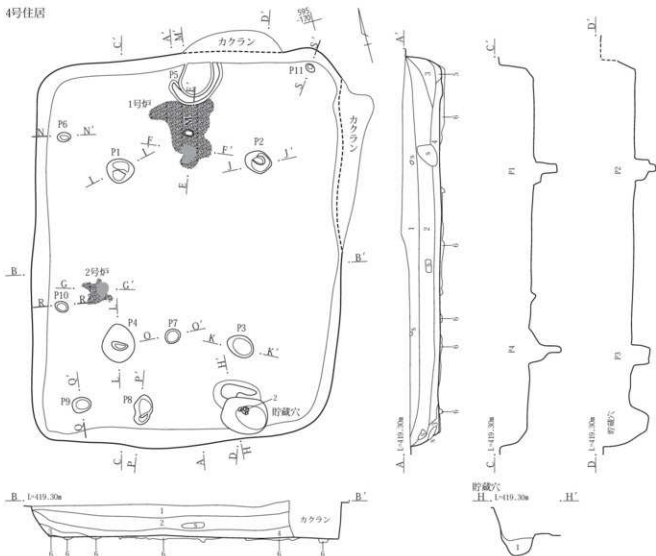
P 5 : 北壁際中央。北壁に取り付く。北東—南西方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.63m・短軸0.5m・深さ0.1m、埋土はローム塊、円礫を含む黒褐色土。

P 6 : 西壁際、北寄りの位置。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈する。長軸0.22m・短軸0.15m・深さ0.06m、掘方は浅く、断面は小規模な隅丸逆台形状を呈する。埋土はローム塊少量を含む黒褐色土。

P 7 : 住居の中央から南寄りの位置。北東—南西方向に僅かに長い楕円形状を呈し、長軸0.26m・短軸0.2m・深さ0.15m、掘方は浅く、断面は小規模で底が広い逆台形状を呈する。埋土はローム塊、円礫を含む黒褐色土。

P 8 : 南壁際、中央からやや西寄りの位置。北東—南西方向に長い不整形円形状を呈し、長軸0.47m・短軸0.31m・深さ0.28m、しっかりとした掘方を有し、断面は段差が付いた逆台形状を呈する。埋土は

4号住居



4号住居

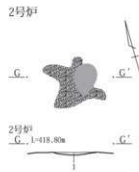
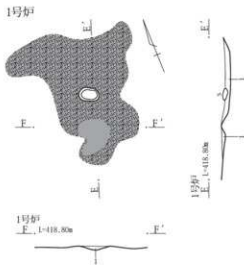
- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径2~20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2mm程度の白色鉱物及び赤褐色土粒を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 径2~3mm程度のロームブロックを約10%程度と炭化物粒を含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3) 径2~50mm程度のロームブロックを約20%程度と炭化物粒を含む。
- 5 黒色土(10YR2/1) 径2~50mm程度のロームブロックを約20%程度と炭化物粒を含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックと炭化物を含む。

4号住居貯蔵穴

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径20mm程度程度のロームブロックを約20%程度及び炭化物粒を含む。

0 1:60 2m

第82図 4号住居

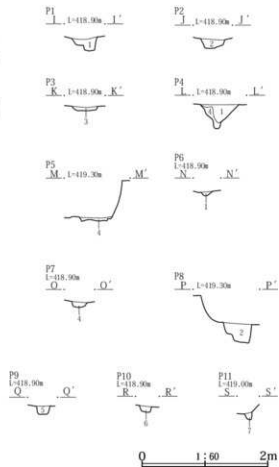
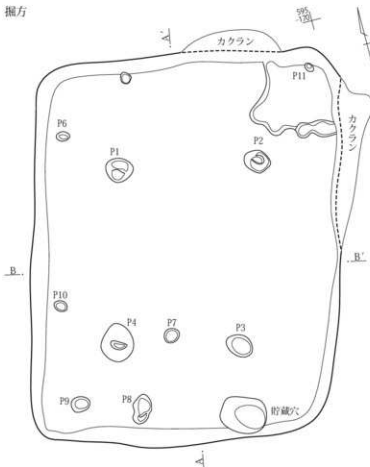


4号住居跡

1 黒褐色土(10YR3/2) ローム及び焼上のブロックと炭化物粒を含む。



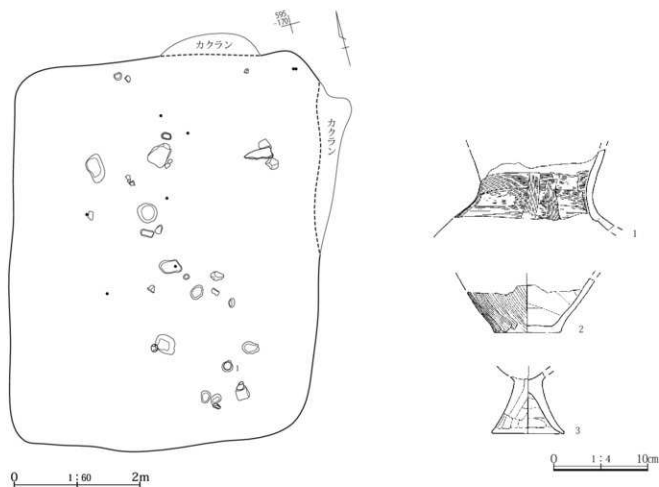
掘方



4号住居跡P1～11

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 径10mm程度のロームブロックを約30%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径20mm程度のロームブロックを約20%程度含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 径10mm程度のロームブロックを約30%程度及び炭化物粒を含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径20mm程度のロームブロックを約20%程度及び径20～50mm程度の円礫を含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径20mm程度のロームブロックを約20%程度と炭化物粒及び径50mm程度の円礫などを含む。
- 6 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒と径20～50mm程度のロームブロックを約20%程度と径50mm程度の円礫を含む。
- 7 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックを約80%程度含む。

第83図 4号住居跡・掘方・P1～11土層断面



第84図 4号住居遺物出土状況・出土遺物

ローム塊を少量含む黒褐色土。

P9：南西隅の内側。東西に長い楕円形状を呈し、長軸0.3m・短軸0.24m・深さ0.12m、掘方は浅く、断面は小規模な底が広い逆台形状を呈する。埋土はローム塊、炭化物粒、円礫を含む黒褐色土。

P10：西壁際、中央から南寄りの位置。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.21m・短軸0.15m・深さ0.1m、極めて小規模ながら掘方は比較的しっかりとしており、断面は浅く、小規模で底面が広い逆台形状を呈する。埋土はローム塊、ローム粒、円礫を含む黒褐色土。

P11：北東隅付近の内側。北西—南東方向に長い楕円形状を呈し、長軸0.17m・短軸0.11m・深さ0.09m、埋土は黄褐色ローム塊を含む黒褐色土。

周溝 検出されなかった。

掘方 地山を比較的平坦に削り出している。

遺物 床直より弥生土器壺頸部片1点(1)、貯蔵穴底面

より弥生土器壺底部片1点(2)、貯蔵穴埋土中より弥生土器台付臺脚部1点(3)。いずれも弥生時代後期・樽式期。掲載しなかった遺物として縄文時代前期土器片1点及び弥生時代後期土器片が65点ある。

所見 調査区の中央、やや北寄り、5号住居の東側に位置する。しっかりとした掘方を有し、残存状態は良好である。

時期 弥生時代後期、樽式期。

5号住居(第85～87図、PL.49・50・65・66)

位置 3区。X=61591～597、Y=-94178～184。

重複 1面から北辺の一部を掘乱されている。

平面形状 北東—南西方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-25°-E。

規模 長軸5.75m、短軸4.52m、床面までの深さ0.3m、掘方までの深さ0.44m。

面積 22.3㎡。

埋土 暗褐色土塊及びローム粒・炭化物等を含む黒褐色土主体。貼床はローム塊を30%程度含む褐色土。

床面 地山を比較的平坦に削り出した上に、ローム塊を含む黒褐色土を0.04～0.1m程度貼って平坦な床面を形成している。

炉 炉は住居の中央の北寄りの位置で検出された。北東―南西方向に長い楕円形状を呈し、中央部に楕円形状の焼土の集中検出箇所があり、その外側に同心円状に焼土粒・灰・炭化物混じりの土の集中検出箇所がみられる。

炉の中心部の焼土集中検出箇所の範囲は長軸0.66m・短軸0.45m。焼土・灰・炭化物混じりの土が集中して検出された範囲は長軸約1.14m・短軸0.77m。炉の深さは約0.05～0.1m前後で、埋土は上層が炭化物・焼土粒を少量含む黒色土、下層が焼土。中心部の焼土集中検出範囲の北東寄り付近から自然石が出土している。

貯蔵穴 検出されなかった。

柱穴 7基が検出された。P1～4が住居の支柱穴。それら以外は、P1とP4とを結んだラインの間、中間よりやや南寄りの位置から不整形のP5が、住居の中央からやや南西に寄った位置から不整形形状のP6が、住居の中央からやや南に寄った位置から不整形形状のP7が検出されている。住居の支柱穴と考えられるP1～4以外の3基のピットの用途・機能は不明である。

P1：北西側住居支柱穴。東北東―西南西方向にやや長い楕円形状を呈し、長軸0.35m・短軸0.3m・深さ0.17m。掘方は浅い。

P2：北東側住居支柱穴。東北東―西南西方向に長い不整形形状を呈する。長軸0.35m・短軸0.21m・深さ0.11m、掘方は浅い。

P3：南東側住居支柱穴。不整形形状を呈し、径0.25m・深さ0.08m、掘方は浅い。

P4：南西側住居支柱穴。南北にやや長い楕円形状を呈する。長軸0.24m・短軸0.21m・深さ0.11m、掘方は浅い。

P5：住居の中央から南西寄りの位置、P6の西側に近接する。北西―南東方向に長い不整形形状を呈し、長軸1.06m・短軸0.26～0.39m・深さ0.09m。掘方は浅い。

P6：住居の中央からやや南西寄りの位置、P5の東側

に近接する。不整形形状を呈する。径0.25m・深さ0.06m、掘方は浅い。

P7：住居の中央から南東寄りの位置。北東―南西方向に長い不整形楕円形状を呈する。長軸0.38m・短軸0.25m・深さ0.03m、掘方は非常に浅い。

周溝 検出されなかった。

掘方 地山を比較的平坦に削り出している。

遺物 土器はいずれも弥生時代後期のものである。住居中央部床面直上より弥生土器頸部片1点(1)及び胴部～底部片1点(6)、中央部西寄り床面直上より弥生土器壺頸部～胴部片1点(5)、中央部東寄り床面直上より弥生土器小型台付甕口縁部～胴部片1点(13)、炉南側床面直上より弥生土器小型台付甕口縁部～胴部片1点(18)、炉北西付近床面直上より弥生土器甕口縁部～胴部片1点(8)、埋土中より弥生土器甕口縁部～胴部9点(2～4・9・12～15・17)、弥生土器頸部～胴部片1点(10)、弥生土器底部1点(16)、弥生土器小型台付甕部片1点(19)、弥生土器台付甕部片1点(20)。いずれも樽式期。他に掲載しなかった弥生時代後期の土器片が140点ある。

石器・石製品は埋土中より石鎌1点(21)、石皿1点(22)。掲載しなかった遺物に剃片3点がある。

所見 調査区の中央から北西寄り、2号住居の東側、4号住居の西側に位置する。しっかりと掘方を有し、残存状態は良好である。

確認面及び埋土上層からは自然石が大量に集中して出土した。

時期 弥生時代後期、樽式期。

2. 溝

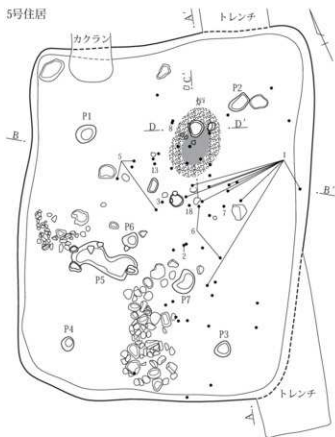
本遺跡1～4区では23条、5区では3条の溝が検出された。調査区内を横断ないし縦断するような長大な溝は検出されなかった。

先述したように1～4区の1面から検出された溝は計20条で、1区1面で8条、2区1面から1条、3区1面から10条、4区1面から1条である。

それに比して1～4区の2面で検出された溝は2区25号溝、3区5号溝、4区22号溝の3条に過ぎず、本遺跡から検出された溝のほとんどは1面からの検出である。

第3章 遺構と遺物

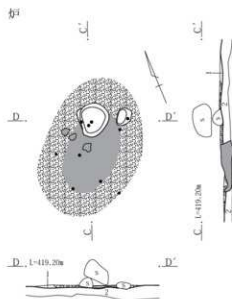
5号住居



5号住居

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 径10mm程度の褐色土ブロックを約30%程度含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) 径2～3mm程度のローム粒及び炭化物を約10%程度含む。
- 3 黒色土(10YR2/1) 径10～20mm程度の暗褐色土ブロックを約30%程度含む。
- 4 黒色土(10YR2/1) 粘性あり。
- 5 黒色土(10YR2/1) 径10～20mm程度の暗褐色土ブロックを約40%程度含む。粘性あり。
- 6 褐色土(10YR4/4) 径20～50mm程度のロームブロックを約30%程度含む。

0 1:60 2m

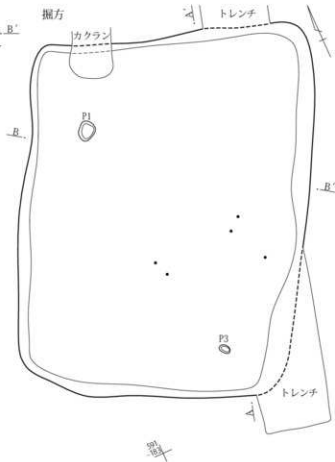


5号住居が

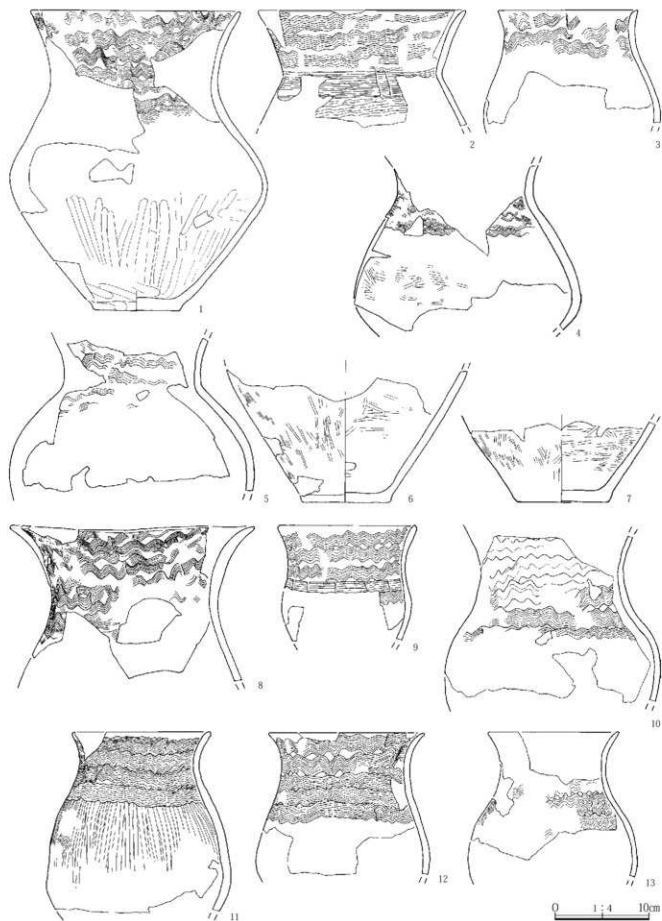
- 1 黒色土(5YR3/4) 炭化物及び焼土粒を約10%程度含む。
- 2 赤褐色土(5YR4/6) 地山が熟を受けて焼土化している。

0 1:30 1m

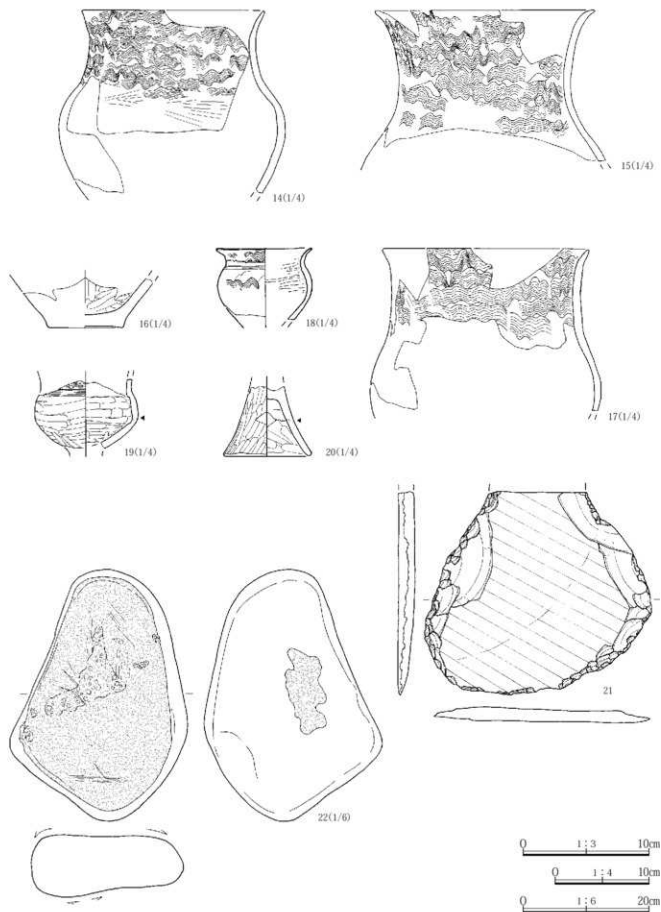
掘方



第85図 5号住居



第86図 5号住居出土遺物-1



第87图 5号住居出土遺物-2

5号溝(第88図、PL.50)

位置 3区。X=61578～579、Y=-94156～158。

重複 東西両端を攪乱されている。

主軸方位 N-89°-W。

規模 検出長2.75m、幅0.67～1.16m、深さ0.09m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 二次加工ある剥片1点(非掲載、混入か)。

所見 調査区の中央、北東側壁際に位置する。東端が調査区外に伸びているようにも見受けられるが、攪乱されているので不明である。西端は攪乱されているが、攪乱された部分より西側には伸びていない。掘方は浅く、断面は薄い逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

22号溝(第89図、PL.51)

位置 4区。X=61608～609、Y=-94210～217。

重複 なし。

主軸方位 N-78°-W。

規模 検出長6.94m、幅0.87m、深さ0.17m。

埋土 黒褐色土。

遺物 なし。

所見 東西方向に伸びる。調査区の北東寄りの東端に位

置する。溝の東端は調査区外に伸び、西端は東壁から西へ約7mの地点で止まっている。掘方は比較的浅く、断面は逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

25号溝(第90図、PL.66)

位置 2区。X=61538～557、Y=-94106～125。

重複 423～426号ピットに掘り込まれる。

主軸方位 N-44°-W。

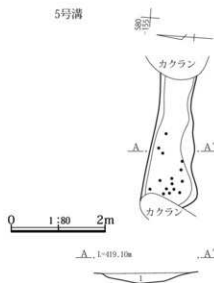
規模 検出長27.06m、幅3.73m、深さ0.23m。

埋土 黒褐色土主体。底面近くで検出された暗灰黄色砂質土は流水の痕跡とみられる。

遺物 埋土中より石鏃1点(1)。混入と考えられる。掲載しなかった遺物としてほかに打製石斧1点、二次加工ある剥片2点、剥片1点などがある。いずれも混入と考えられる

所見 調査区の北東側壁際に壁に沿って北西-南東方向に流れる大規模な溝。本遺跡で検出された溝の中では数少ない水流が考えられる溝の一つである。掘方は浅く、断面は底部が広い扁平な逆台形状を呈する。

時期 不明。

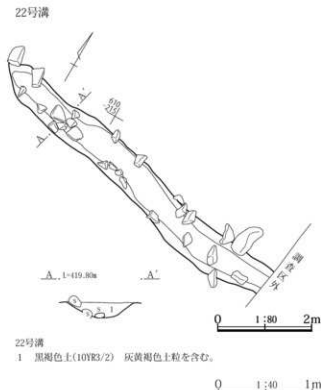


5号溝

1 黒褐色土(10YR2/2) 径2～5mm程度の黄褐色軽石を含む。



第88図 5号溝



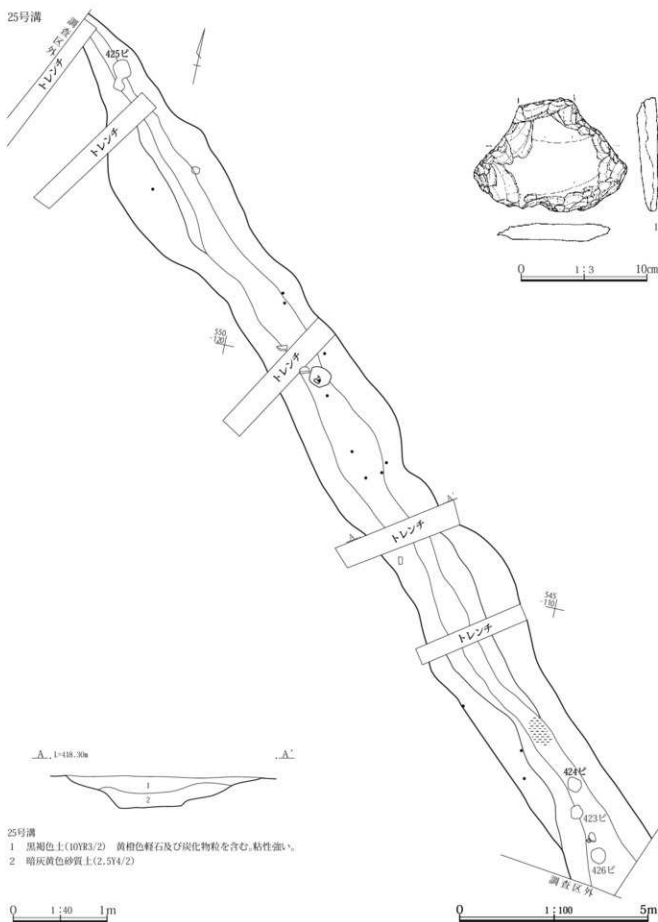
22号溝

1 黒褐色土(10YR3/2) 灰黄褐色土粒を含む。



第89図 22号溝

25号溝



第90図 25号溝・出土遺物

3. 土坑

本遺跡では200基の土坑が検出された。1区からは全く検出されず、2～4区の1面で166基が、3・4区の2面からは20基、計186基が検出されている。2区の2面からは土坑は検出されなかった。

また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面から各1基と3面から12基の計14基の土坑が検出された。

先述した通り、1～4区の1面から検出された土坑は、2区では調査区の北西寄りから、3区では調査区のほぼ全域にわたって、4区では主に調査区の中央を南北に貫流する河道の東側から検出されている。3区1面から検出された土坑は、西北西—東南東方向の主軸のものと北東—南西方向主軸のものとにほぼ大別できる。

一方、3・4区の2面から検出された土坑は、3区から15基、4区から5基が検出された。3区2面から検出された15基の土坑は、調査区の南東側一帯では全く検出されなかった。4区2面で検出された5基の土坑は、調査区の南側や西側では検出されず、中央部もしくは北壁際で検出された。

これらの土坑の時期は、層位から見て古代以前のものと考えられるが、確かな遺物の出土は皆無であり、また、住居など時期が明瞭な遺構との重複も一切無いので、時期を明確にすることは出来なかった。

34号土坑(第91図)

位置 3区。X=61564～565、Y=-94163。

重複 なし。

平面形状 北北西—南南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-7°-W。

規模 長軸0.93m、短軸0.42m、深さ0.21m。

埋土 白色・黄色の微粒子を含む黒褐色土及び灰黄褐色シルト質土塊を含む暗褐色土からなる。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から南東寄りに位置する。小規模であるが掘方はしっかりとしている。断面は上が広く開いたU字形を呈する。

時期 不明。

44号土坑(第91図、PL.51)

位置 3区。X=61577、Y=-94179～180。

重複 なし。

平面形状 楕円形。

主軸方位 N-78°-W。

規模 長軸0.54m、短軸0.34m、深さ0.11m。

埋土 上層に鈍い黄褐色シルト質土、下層に白色鉱物粒を含む暗褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から僅かに南西寄りに位置する。西北西—東南東方向に長い楕円形状を呈する。掘方は浅く、断面は底が広い扁平な逆台形状を呈する。

時期 不明。

72号土坑(第91図、PL.51)

位置 3区。X=61608、Y=-94180～182。

重複 なし。

平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-80°-W。

規模 長軸1.85m、短軸0.78m、深さ0.17m。

埋土 ローム粒を少量含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区のやや西寄り、北壁際、73号土坑の西側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

73号土坑(第91図)

位置 3区。X=61606～607、Y=-94176～177。

重複 なし。

平面形状 北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、北東—南西方向に細長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-30°-E。

規模 検出長軸1.6m、短軸0.7m、深さ0.14m。

埋土 ローム粒を少量含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区のやや西寄り、北壁に掛かる。72号土坑の東側に位置する。掘方は浅く、断面は扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

81号土坑(第91図、PL.51)

位置 3区。X=61588~589、Y=-94187~188。

重複 なし。

平面形状 北北東-南南西方向に長い隅丸長方形を呈する。

主軸方位 N-25°-E。

規模 長軸1.03m、短軸0.58m、深さ0.06m。

埋土 黄褐色土塊を含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から西寄りに位置する。掘方は極めて浅く、断面は扁平な逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

96号土坑(第91図、PL.51)

位置 3区。X=61569~570、Y=-94163~165。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向に細長い溝状を呈する。僅かに蛇行している。

主軸方位 N-66°-W。

規模 長軸2.44m、短軸0.37m、深さ0.07m。

埋土 褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から東寄りに位置する。掘方は極めて浅く、断面は小規模で扁平な逆台形状を呈する。

時期 不明。

119号土坑(第91図、PL.51)

位置 3区。X=61586、Y=-94160~161。

重複 142号土坑を掘り込む。

平面形状 不整形形状を呈する。

主軸方位 N-5°-E。

規模 長軸0.89m、短軸0.85m、深さ0.51m。

埋土 黄褐色土塊を極少量含む黒色土。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は上が広がったU字形を呈する。

時期 不明。

125号土坑(第91図、PL.51)

位置 3区。X=61564~567、Y=-94180~181。

重複 なし。

平面形状 北東-南西方向に細長い溝状を呈する。若干蛇行している。

主軸方位 N-15°-E。

規模 長軸3.26m、短軸0.65m、深さ0.30m。

埋土 白色鉱物粒子及び赤褐色粒子を含む黒色土。

遺物 なし。

所見 調査区の中央、南端の南壁際に位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は上が広がったU字形を呈する。

時期 不明。

132号土坑(第91図)

位置 3区。X=61600~601、Y=-94198~199。

重複 1面からの掘り込みで攪乱されている。

平面形状 北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-50°-E。

規模 長軸1.04m、短軸0.80m、深さ0.37m。

埋土 黄褐色土及び赤褐色土の塊をそれぞれ含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄り。1号住居のすぐ南側に隣接する。しっかりとした掘方を有し、断面は底がやや広い逆台形状を呈する。

時期 不明。

133号土坑(第92図、PL.52)

位置 3区。X=61603、Y=-94192。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-20°-E。

規模 長軸0.9m、短軸0.75m、深さ0.23m。

埋土 赤褐色粒を少量含む黒色土。

遺物 なし。

所見 調査区の北西寄り、1号住居と2号住居の間に位置する。ややしっかりとした掘方を有し、断面は底が広い逆台形状を呈する。



第91図 34・44・72・73・81・96・119・125・132号土坑

時期 不明。

140号土坑(第92図、PL.52)

位置 3区。X=61593~594、Y=-94198~199。

重複 1面からの掘り込みで東端を攪乱されている。

平面形状 北東—南西方向に長い長円形状を呈する。

主軸方位 N-73°-E。

規模 長軸1.82m、短軸0.65m、深さ0.12m。

埋土 赤褐色粒を少量含む暗褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の西寄りに位置する。掘方は浅く、断面は極めて扁平で底が広い逆台形状を呈する。

時期 不明。

142号土坑(第92図、PL.52・66)

位置 3区。X=61583~586、Y=-94160~162。

重複 1面から攪乱され、さらに2面の119号土坑に掘り込まれる。

平面形状 南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-8°-E。

規模 長軸2.05m、短軸1.68m、深さ0.39m。

埋土 白色鉱物粒・赤褐色粒・黄褐色土塊を少量含む暗褐色土。

遺物 埋土中より縄文時代後期中葉深鉢底部片1点(142土)。混入か。

所見 調査区の北東寄り、147号土坑の西側に位置する。しっかりと掘り込みを有し、底部は部分的に深く掘り込まれてはいるものの、基本的には断面は底が広い逆台形状を呈する。

時期 不明。

147号土坑(第92図)

位置 3区。X=61582~584、Y=-94157~158。

重複 なし。

平面形状 南北に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-3°-E。

規模 長軸1.55m、短軸1.26m、深さ0.60m。

埋土 上層にローム塊・炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色土、中層にローム塊を50%程度含む暗褐色土、下層にローム塊主体の黄褐色土が堆積する。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄り、142号土坑の東側に位置する。しっかりと掘り込みを有し、断面は逆半楕円形状を呈する。

時期 不明。

152号土坑(第92図、PL.52)

位置 3区。X=61584、Y=-94160。

重複 155号土坑を掘り込む。

平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-60°-E。

規模 長軸0.8m、短軸0.47m、深さ0.1m。

埋土 炭化物・白色軽石を極少量含む黒褐色土。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄りに位置する。掘方は極めて浅く、断面は逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

155号土坑(第92図、PL.52)

位置 3区。X=61584、Y=-94160。

重複 1面から攪乱され、さらに2面の152号土坑に掘り込まれる。

平面形状 北西側を152号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-15°-W。

規模 検出長軸0.48m、短軸0.43m、深さ0.14m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区の北東寄りに位置する。掘方は極めて浅く、断面は逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

194号土坑(第94図、PL.52)

位置 4区。X=61611~612、Y=-94219~220。

重複 なし。

平面形状 北西—南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-36°-W。

規模 長軸1.28m、短軸0.81m、深さ0.24m。

埋土 黒褐色土。

遺物 なし。



第92図 133・140・142・147・152・155号土坑、142号土坑出土遺物

所見 調査区の中央からやや東側に寄った北壁際に位置する。比較的しっかりとした掘方を有し、断面は底部が一段と掘り窪められた逆半楕円形状を呈する。埋土中や底部から自然石が多数出土した。

時期 不明。

195号土坑(第94図、PL.52)

位置 4区。X=61607~608、Y=-94225~226。

重複 なし。

平面形状 南北にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-38°-E。

規模 長軸1.27m、短軸1.08m、深さ0.31m。

埋土 上層に礫を含む黒褐色土、下層に礫・暗褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや西寄り。196号土坑の南東側に位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は逆レンズ状を呈する。埋土中及び底面から多数の礫や自然石が出土した。

時期 不明。

196号土坑(第94図、PL.52)

位置 4区。X=61609~611、Y=-94227~229。

重複 なし。

平面形状 北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-15°-W。

規模 長軸2.37m、短軸2.07m、深さ0.24m。

埋土 上層には主に礫を含む黒褐色土、下層には主に礫や暗褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。

遺物 なし。

所見 調査区の中央からやや西寄り、195号土坑の北西側に位置する規模が大きな土坑。掘方はあまり深くはないが、しっかりとしており、断面は幅広な逆レンズ状を呈する。

時期 不明。

197号土坑(第93図、PL.53)

位置 4区。X=61615~616、Y=-94227~230。

重複 428~430号ピットに掘り込まれる。

平面形状 北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形ないし不整円形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-67°-W。

規模 検出長軸2.97m、検出短軸1.49m、検出された深さ0.19m。

埋土 黒褐色土主体であるが、下層を中心に部分的に灰黄褐色土の堆積がみられた。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から西寄りの位置、北端。北壁に掛かる。平面積は大きい、掘方は浅く、底面が広く極めて扁平で薄い逆台形状を呈する。

時期 不明。

198号土坑(第93図、PL.53)

位置 4区。X=61614~615、Y=-94208~210。

重複 なし。

平面形状 東側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形ないし不整円形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-84°-E。

規模 検出長軸1.12m、短軸1.12m、深さ0.17m。

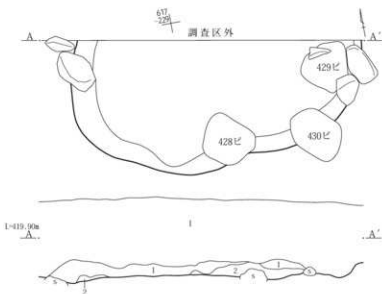
埋土 不明。

遺物 なし。

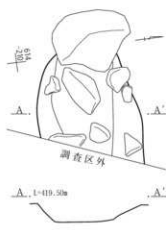
所見 調査区北東隅、東壁に掛かる。掘方は浅く、底面が広く扁平で薄い逆台形状を呈する。

時期 不明。

197号土坑



198号土坑



197号土坑

- 1 黒褐色土(7.5YR3/2)
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2)

0 1:40 1m

第93図 197・198号土坑

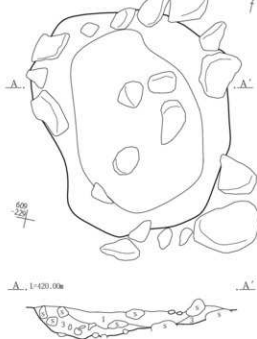
194号土坑



195号土坑



196号土坑



194～196号土坑

- 1 黒褐色土(10YR2/2) 礫を含む。
- 1' 1層より礫少なく、しまり強い。
- 2 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック・礫を含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/2) 礫及び暗褐色土粒を含む。

0 1:40 1m

第94図 194～196号土坑

4. ピット(第95～101図、PL.53～58)

本遺跡では362基のピットが検出された。1区からは全く検出されず、2～4区の1面で237基が、2～4区の2面からは86基、計323基が検出されている。

また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面では全く検出されず、3面で39基が検出された。

2～4区の1面におけるピットの検出数は、2区では全く検出されず、3区で218基、4区で19基の計237基であった。

2面では2区で5基、3区で76基、4区で5基の計86基が検出された。

2区2面では、いずれも調査区の北東側壁に沿って北西から南東へと流れる25号溝の旧流路上から検出され

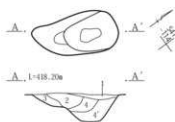
た。

3区2面では、主に調査区の西半分から検出された。この西半分では、南寄りと西端寄りから比較的多く検出されている。また、東半分では、検出数量はあまり多くはないものの、北寄りと中央部とでまとまって検出されている。

4区では調査区西寄りの位置の北壁際で、197号土坑と重複して3基と、中央部の北壁際の194号土坑の西側で1基が検出されている。

これらのピットはいずれも小規模であり、土坑などとの重複による新旧関係が明瞭なものがあるものの、具体的な時期や用途・機能についてもまったく不明であるので、それらの位置・規模・形状等については、174ページからの第5表にまとめた。

421号ピット



2区421号ピット

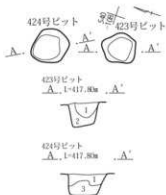
- 1 暗褐色土(10YR3/2) 明黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- 2 黒褐色土(10YR2/2)
- 3 暗褐色土(10YR3/2) 黄褐色土粒を含む。粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土ブロック及び黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- 4' 4層よりブロック多い。

0 1:40 1m

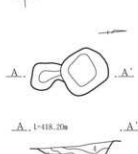
第95図 2区2面ピット-1(421号)

第3章 遺構と遺物

424・423号ピット



425号ピット



426号ピット



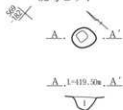
2区423～426号ピット

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 粘性あり。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2) 酸化鉄含む。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 粘性あり。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) 粘性あり。炭化物含む。
- 4' 4層より暗い。
- 4'' 4層及び4'層より暗い色調を呈する。
- 5 暗褐色土(10YR3/3) 黄褐色土上ブロックを含む。粘性あり。
- 6 灰黄褐色土(10YR4/2)

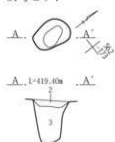
0 1:40 1m

第96図 2区2面ピット-2 (423～426号)

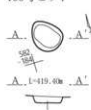
32号ピット



81号ピット



155号ピット



156号ピット



157号ピット



161～163号ピット

161号ピット



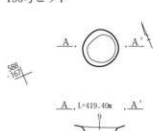
162号ピット



163号ピット



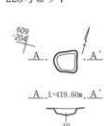
196号ピット



195号ピット



228号ピット



231号ピット



236号ピット



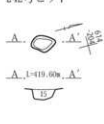
238号ピット



239号ピット



242号ピット

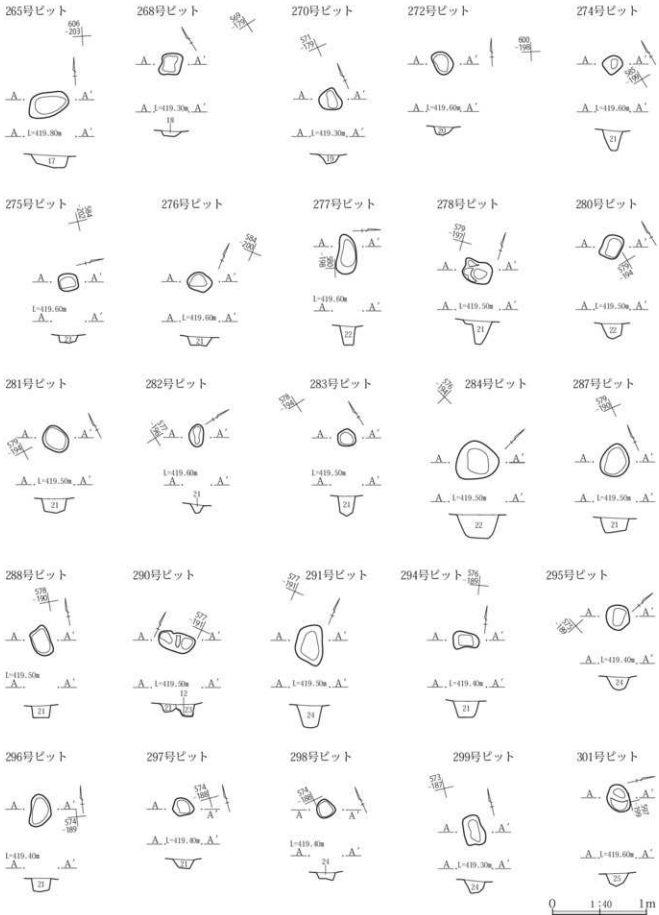


264号ピット



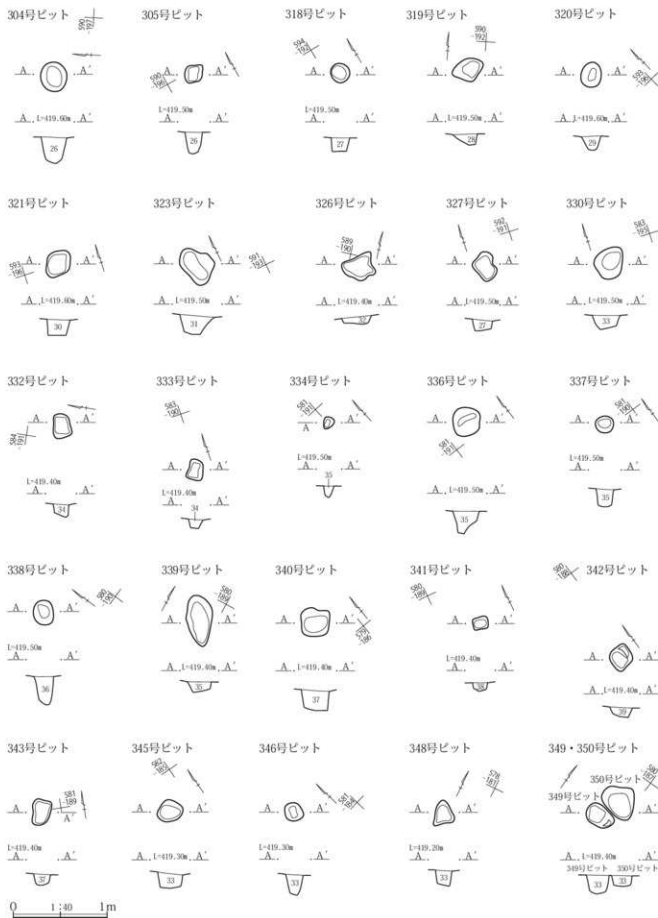
0 1:40 1m

第97図 3区2面ピット-1 (32・81・155～157・161～163・167・194～196・228・231・236・238・239・242・264号)

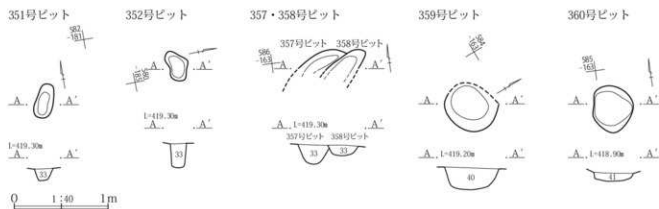


第98図 3区2面ビット-2 (265・268・270・272・274～278・280～284・287・288・290・291・294～299・301号)

第3章 遺構と遺物



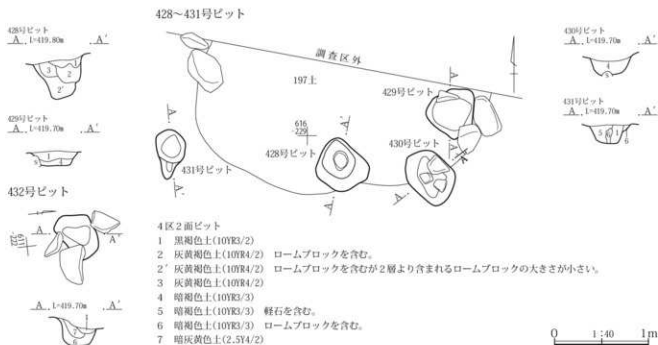
第99図 3区2面ビット-3 (304・305・318~321・323・326・327・330・332~334・336~343・345・346・348~350号)



3区2面ピット

- 1 黒褐色土(10YR2/3) 径10mm程度の黄白色軽石及び白色鉱物粒を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) 径1mm以下の明赤褐色鉱物粒及び黄褐色鉱物粒を含む。
- 3 鈍い黄褐色土(10YR4/3) 径2mm以下の明赤褐色土粒を約1%程度含む。粘性あり。
- 4 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約20%程度含む。
- 5 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石を約50%程度含む。
- 6 黒褐色土(10YR2/2) 径2～30mm程度の褐色土ブロックを約20%程度と径1mm以下の褐色土及び径2～5mm程度の明赤褐色土粒を含む。
- 7 褐色土(10YR4/6)
- 8 黒色土(10YR2/1) 径10～20mm程度の黄褐色土ブロックを約20%程度含む。
- 9 暗褐色土(10YR3/4) 径2mm以下の白色鉱物粒を含む。
- 10 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石、径1mm以下の白色鉱物粒及び赤褐色鉱物粒を含む。
- 11 暗褐色土(10YR3/3) 径1mm以下の白色鉱物粒及び赤褐色鉱物粒を含む。
- 12 黒褐色土(10YR2/2)
- 13 暗褐色土(10YR3/3) 軽石及び径1mm以下の赤褐色土粒を含む。
- 14 黒褐色土(10YR2/2)
- 15 黒褐色土(10YR3/3) 軽石及び径2mm以下の赤褐色土粒を含む。
- 16 黒褐色土(10YR2/2) 明黄褐色土ブロックを約30%程度含む。
- 17 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の軽石と径3mm程度の赤褐色土ブロックとを含む。
- 18 黒褐色土(10YR3/2) 径20mm程度の黄褐色土粒を含む。
- 19 黒褐色土(10YR3/2) 径20mm程度の黄褐色土粒を含む。粘性あり。
- 20 黒褐色土(10YR2/2) 径5～20mm程度の黄褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- 21 黒褐色土(10YR2/2) 径2mm程度の赤褐色土粒を含む。
- 22 黒褐色土(10YR2/2) 径1mm以下の黄褐色土粒を含む。粘性あり。
- 23 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土ブロックを含む。
- 24 黒褐色土(10YR2/2) 径30～50mm程度の黄褐色土ブロックを約40%程度含む。
- 25 暗褐色土(10YR3/3) 径1mm以下の黄褐色土粒を約40%程度含む。
- 26 暗褐色土(10YR3/3) 径2mm以下の赤褐色土粒と径1mm以下の白色鉱物粒とを含む。
- 27 暗褐色土(10YR3/3) 径1～5mm程度の赤褐色土粒を約2%程度含む。
- 28 黒褐色土(10YR2/2) 径1～2mm程度の黄褐色土ブロックを約10%程度含む。
- 29 暗褐色土(10YR3/3) 径2～20mm程度の軽石を約3%程度と径30mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 30 暗褐色土(10YR3/3) 径30mm程度の褐色土ブロックを含む。粘性あり。
- 31 黒色土(10YR2/1) 径20～100mm程度の黄褐色土ブロックを約30%程度と径1mm以下の白色鉱物粒とを含む。
- 32 黒褐色土(10YR2/2) 径2～20mm程度の黄褐色土ブロックを約10%程度と径1～5mm程度の赤褐色土粒を約2%程度含む。
- 33 暗褐色土(10YR3/2) 径10mm程度の黄褐色土ブロック、径2～5mm程度の赤褐色土粒、径1mm以下の白色鉱物粒を約10%程度含む。
- 34 黒褐色土(10YR2/2) 径2～10mm程度の黄褐色土ブロックと径1mm程度の白色鉱物粒を含む。
- 35 黒褐色土(10YR2/2) 径20～30mm程度の黄褐色土ブロックを含む。
- 36 暗褐色土(10YR3/3) 径1～5mm程度の赤褐色土粒を2%程度含む。
- 37 黒褐色土(10YR2/2) 径1～5mm程度の黄褐色土粒を約20%程度含む。粘性あり。
- 38 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土ブロックを約30%程度含む。
- 39 黒褐色土(10YR2/2) 黄褐色土ブロックを約5%程度含む。
- 40 黒褐色土(10YR2/2) 径1mm程度の白色鉱物粒を約3%程度含む。
- 41 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロックと径2mm程度の白色鉱物粒を含む。

第100図 3区2面ピット—4(351・352・357～360号)



第101図 4区2面ピット(428~432号)

第3節 5区1面の遺構と遺物

5区は本遺跡の調査範囲の中で、最も北西側に位置する調査区で、平成27年度に調査された。

調査区は、X=61635のライン辺りを境として、北に向かって急に傾斜していく。そのため、調査区の北側半分では遺構は全く検出されていない。

5区西側は中世以降に上流から押し流された地形と考えられ、浅間粕川軽石(As-kk)の堆積はみられない。調査区の東側にはやや深い谷地形があり、時期は不明ながら、近世には埋没していたものと見られる。この段階が1面であり、近世後期の面と考えられる。

2面は、ほぼ戦国期～近世前～中期の面と、3面は中世後期からそれ以前の面と見られる。

谷頭になる地形のせいか、全般的に遺構多くは検出されていない。

5区1面では、畑が3箇所、溝1条、土坑1基が検出された。調査区東側の谷地形埋没後の状況と考えられるが、谷頭にあたっているためか、遺構は多くはない。

調査区の東側から畑が1箇所(ただし、西から18~20号畑と3箇所に分けて調査されたが、主軸方位や畝間の溝の走向や幅などはほぼ同じであり、全体的に見れば一

連の畑と看做すべきである)、調査区の西寄りの位置で南南西―北北東方向に走向し、内部には石組みが残存する暗渠と考えられる溝が1条、それに、溝の西側に隣接して、南壁に掛かる位置から土坑が1基検出された。

1. 畑

先述した通り、5区1面で検出された畑は、調査区の東側のみで検出された。西から東にむかって順に18~20号と3箇所に分けて調査されたが、一体の畑とみてよい。

18~20号畑(第102図、PL.59)

位置 5区。X=61624~640、Y=-94211~239。

重複 なし。

主軸方位 N-0~3°-E、N-10°-W。

面積 222.36㎡。

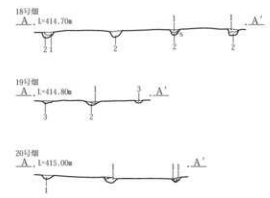
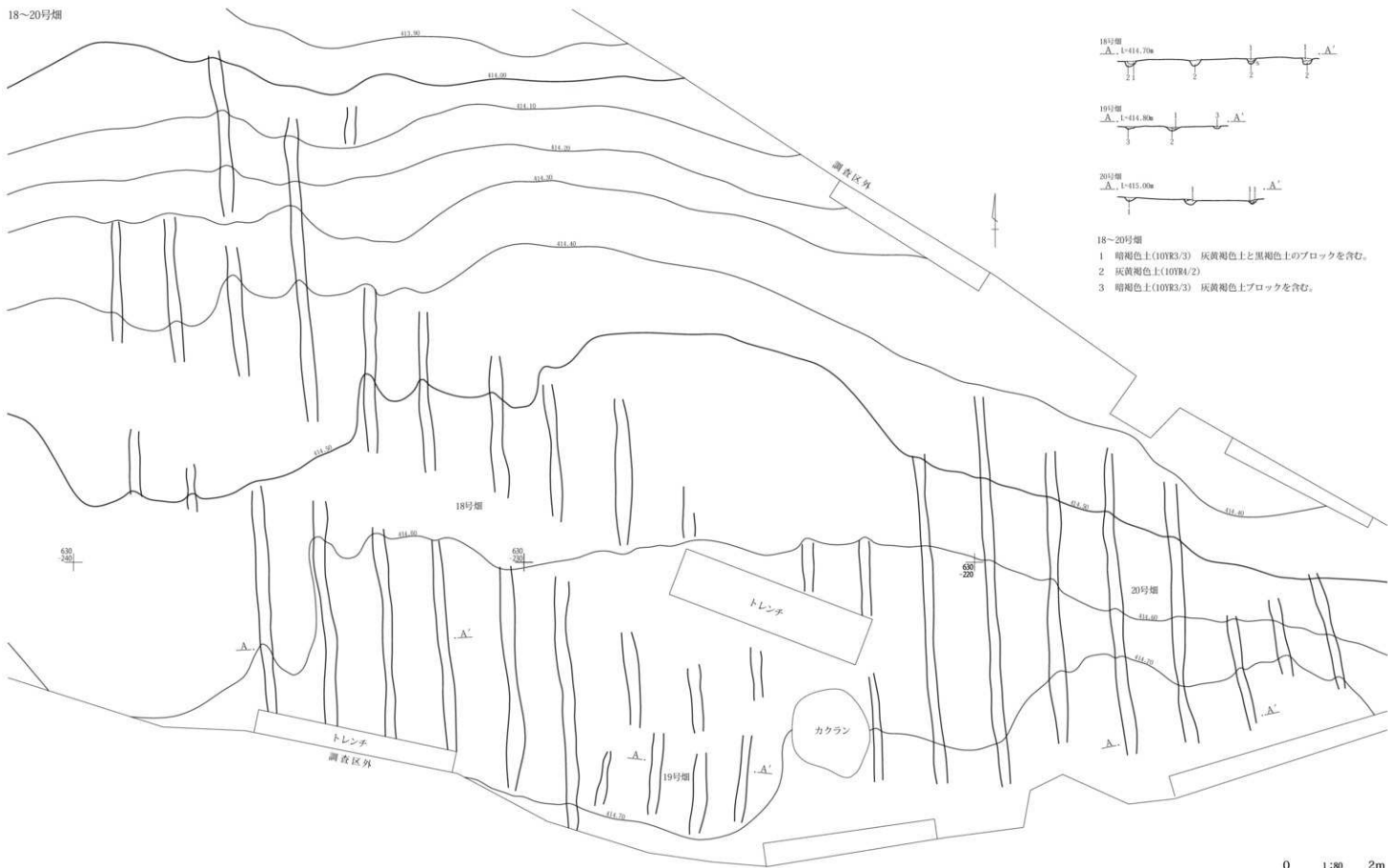
埋土 暗褐色土・灰黄褐色土主体。

畝間 0.2~0.3m。

検出された畝間の深さ 0.05~0.14m。

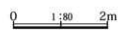
遺物 なし。

所見 調査区の南東側一帯に位置する。南北方向に伸びる畝間の溝が計22条検出された。発掘調査時に、西側の約10条分、ほぼ正方位に畝間の溝が並列する部分を18号畑と、畝列中央部の南端に、主軸が僅かに傾く約4条



- 18~20号畑
- 1 暗褐色上(10FR3/3) 灰黄褐色上と黒褐色上のブロックを含む。
 - 2 灰黄褐色上(10FR4/2)
 - 3 暗褐色上(10FR3/3) 灰黄褐色上ブロックを含む。

第102図 18~20号畑



分を19号畑と、東側の、主軸が僅かに西側に傾く約10条分を20号畑として分けて調査しているが、全体が一体の畑と見てよい。なお、西側の18号畑において、中央部に北西—南東方向に、長さ約19m・幅1.4~2mのあたかも道状にみえる空間があるが、畑の耕作に伴う通路とは考えにくく、上面からの削平による可能性が高いものと考えられる。

畝間の溝は全く重複しておらず、それらの間隔は0.8~1.2m、検出された畝間の長さは1.2~7m程度とまちまちであるが、方向や畝間の溝の幅などはほぼ一致している。ただ、上面の削平を甚だしく受けており、不完全な状態での検出である。

時期 近世のものと考えられる。

2. 溝

調査区の中央から西寄りの場所を南南西から北北東方向に走向する暗渠と考えられる溝が1条のみ検出された。

27号溝(第103・104図、PL.67)

位置 5区。X=61642~653、Y=-94265~268。

重複 なし。

主軸方位 N-10°-E。

規模 検出全長10.85m、上幅0.82~1.17m前後、下幅0.5~0.65m前後、深さ0.25m前後。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

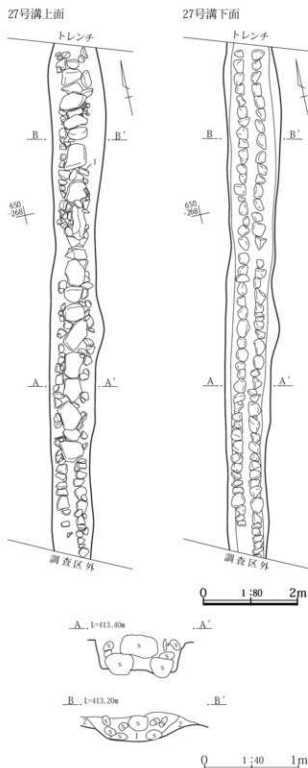
遺物 砥石1点。

所見 5区の中央から西寄りの場所を、標高が高い南南西側から低い北北東側に走向する。検出された溝の南端と北端との標高差は約0.4m前後である。

掘方は壁が垂直に近い状態で落ちる長方形に近い逆台形状を呈する。掘方の両壁に沿って川原石を並列させ、その上側をより大きめの川原石でふさぎ、さらにその両側に小型の礫を敷き詰めて暗渠を形成している。

北側に所在する吾妻川の谷に向かう排水路と考えられる。

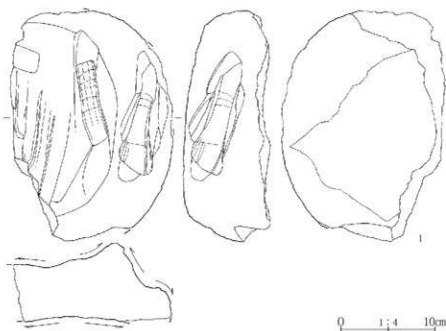
年代 近世。



27号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 礫を含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/2) 礫を含む。1層よりも明るい色調を呈する。

第103図 27号溝



第104図 27号溝出土遺物

3. 土坑

本遺跡では200基の土坑が検出された。1区からは全く検出されず、2～4区の1面では166基が、2面では20基、計186基が検出されている。

また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面から各1基と3面から12基の計14基の土坑が検出された。

本調査区1面から検出されたのは、調査区の中央より西に寄った位置の、27号溝の西側に近接して検出された200号土坑1基のみであった。

200号土坑(第105図、PL.59)

位置 5区。X=61643～644、Y=-94270～271。

重複 なし。

平面形状 南側が調査区以外に出るため全容は不明であるが、円形もしくは楕円形状を呈するものと考えられる。

主軸方位 N-59°-W。

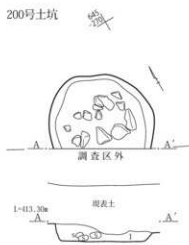
規模 長軸1.14m、検出短軸0.79m、深さ0.09m。

埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の中央から西に寄った位置、27号溝の南端部の西側に近接する。南壁に掛かる。掘方は浅く、断面は底が広く扁平な逆台形状を呈する。

時期 近世のものと考えられる。



200号土坑

1 黒褐色土(10YR3/2) 軽石・礫・黄褐色土粒を含む。

第105図 200号土坑

第4節 5区2面の遺構と遺物

前節で触れた通り、5区は本遺跡の調査範囲の中で、最も北西側に位置する調査区で、平成27年度に調査された。調査区の概要については前述したので、再述はしないが、調査区は、調査対象範囲の北側を現在も西から東に向かって流れる吾妻川の右岸の段丘の縁辺に当たっており、2面でも1面と同様、X=61635のライン辺りを境として、北に向かって急に傾斜していく様子がかがえた。しかしながら、2面では、ほぼ北側に向かって傾斜していた1面に比べて、北東側への傾斜の度合いが幾分強くなっている。

2面で遺構確認面が遺っていたのは、調査区の東側、全体の約1/3程度のかなり限定された範囲内のみであった。

5区2面では、調査区の東側にやや深い谷地形があり、その中心部が窪地になっており、弥生時代後期樽式土器、古墳時代後期～近世の土器片等の流れ込みが認められた。この窪地は、さらに下の3面で検出された井戸の周囲の落ち込みの上面に当たっており、基本的には自然地形とみられる。検出された遺構は、畑1箇所、溝1条、配石遺構1基、土坑1基である。

21号畑は、主軸方位が第1面の20号畑よりやや西に傾き(N-20°-W)、畝間も狭い。26号溝の内部には石組みが残存しており、1面で検出された27号溝と主軸方位は全く異なるものの、同様に石が列をなしていることから、暗渠と考えられる。この26号溝の主軸方位は等高線とほぼ平行している。

21号畑と26号溝の新旧関係は、21号畑の方が古いと判断され、21号畑、26号溝、1面の順で変遷したものとみられる。

1. 畑

先述した通り、5区2面における遺構の検出範囲は、調査区東側の、全体から見ると約1/3程度の極めて限定された狭い範囲のみであった。この限定された遺構検出可能な範囲の中でも、さらに東側半分は谷地形で窪んでおり、畑や溝が検出されたのは西側半分に当たる部分からである。

21号畑は、台地が北側の谷に落ち込んでいくギリギリの際の辺りから検出された。

21号畑(第106図)

位置 5区。X=61630~637、Y=-94227~242。

重複 26号溝に掘り込まれる。

主軸方位 N-20°-W。

面積 69.14㎡。

埋土 黒褐色土をベースとする。

畝間 0.04~0.14m。

検出された畝間の深さ 0.04m前後。

遺物 剥片2点(非掲載、混入?)。

所見 調査範囲の南西側約1/4程度の範囲一帯に所在する。北西-南東方向に伸びる畝間の溝が並列して検出されたが、上面で検出された18~20号畑のように、畝間の溝がほぼ整然とした状態で検出されたわけではなく、残存状態はかなり良くない。畝間の溝の主軸方位は、検出範囲の西の端で若干、正方位に近づいてくるが、全体的には北西-南東方向でほぼ一致しており、計画性が看取出来る。

畝間の溝は全く重複しておらず、それらの間隔は0.04~0.14mと非常に狭く、検出された畝間の長さは0.8~8m程度とまちまちであるが、これは、上面を削平され残存状態が悪い中での検出状況に拠るところである。

検出された畝間の溝の方向はほぼ一致しているものの、畝間の溝の幅や形状はかなりまちまちである。

時期 畝間の溝の埋土中には浅間山火山灰As-KkやAs-Bの混入が認められるが、検出状況からいずれも後世の流れ込みによるものとみられる。戦国期~近世前~中期頃のものと考えられる。

2. 溝

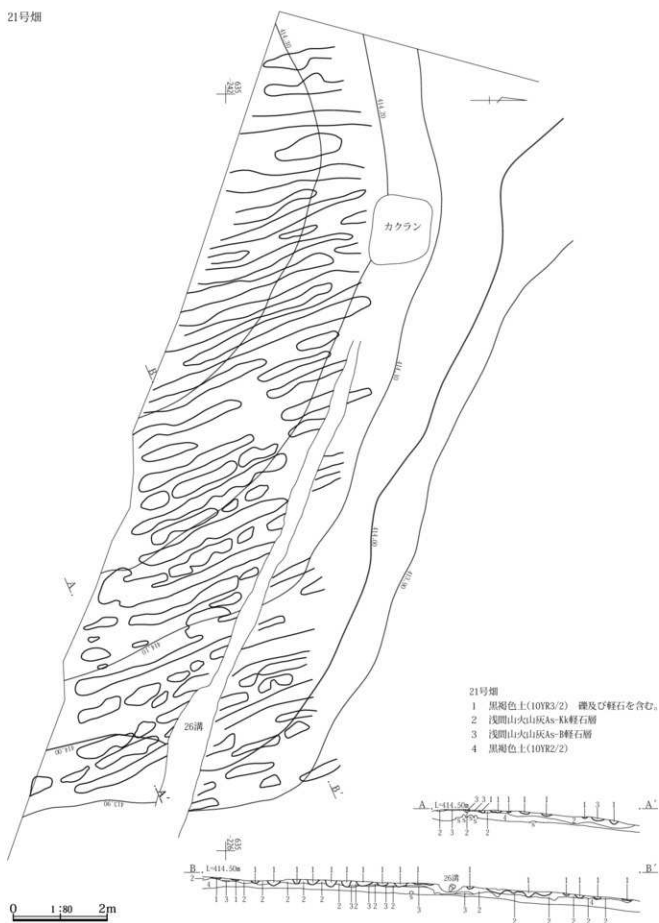
調査範囲の南西側約1/4に当たるエリア、21号畑の中央より北側を西北西から東南東方向に走向する暗渠と考えられる溝が1条のみ検出された。

26号溝(第107図)

位置 5区。X=61633~637、Y=-94226~236。

重複 21号畑を掘り込む。

主軸方位 N-68°-W。



第106図 21号畑

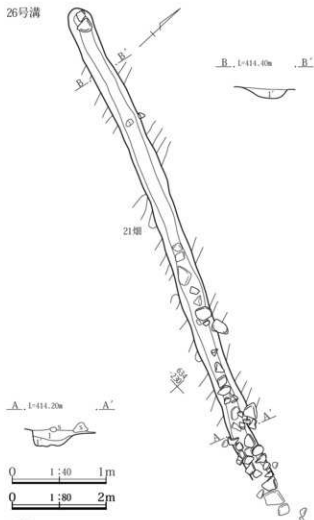
規模 検出全長11.15m、上幅0.42～0.83m程度、下幅0.26～0.4m程度、深さ0.19m程度。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査範囲の西側の位置、中央からやや南寄りの場所を、標高が高い西北西側から低い東南東側に走向する。検出された溝の南端と北端との標高差は約0.3m前後である。掘方は比較的浅く、底面が広く比較的扁平な逆台形状を呈する。5区1面から検出された27号溝と同様、暗渠と考えられるが、1面の27号溝のように掘方の両壁に沿って川原石を並列させたような痕跡は全く確認できず、溝の上側を覆った川原石のみが列状に検出された。27号溝に比べて、使用された礫は概ね小ぶりである。
時期 戦国期～近世前～中期頃のものと考えられる。

26号溝



26号溝

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 径5mm程度の礫及び軽石を含む。
1' 黒褐色土(10YR3/2) 径5mm程度の礫及び軽石を含む。1層よりも明るい色調を呈する。

第107図 26号溝

3. 配石

調査範囲の南西隅付近の南壁際において、壁にほぼ沿った状態で自然石が西北西—東南東方向に列をなす遺構が検出され、調査時には石列として遺構認定された。

3号配石(第108図)

位置 5区。X=61634～635、Y=-94240～241。

重複 なし。

主軸方位 N-72°-W。

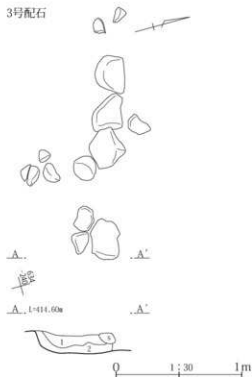
規模 検出全長2m、上幅0.2～0.5m前後、掘方の深さ0.13m程度。

埋土 黒褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査範囲の南西隅付近の南壁際において、壁にほぼ沿った状態で自然石が西北西—東南東方向に列をなして検出された。自然石の検出状況を記録した後、自然石を除去して掘方を確認したところ、溝状の浅い掘方が一応検出された。北側約4.5mの位置から検出された26号溝とは主軸方向が近似している。26・27号溝同様の暗渠

3号配石



3号配石

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 礫及び軽石を含む。
2 黒褐色土(10YR3/2)

第108図 3号配石

の、それも極めて残存状態の悪い残骸と見るのが妥当であろう。

時期 戦国期～近世前～中期頃のものと考えられる。

4. 土坑

本遺跡では200基の土坑が検出された。1区からは全く検出されず、2～4区の1面では166基が、2面では20基、計186基が検出されている。

また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面から各1基と3面から12基の計14基の土坑が検出された。

本調査区2面から検出されたのは、調査範囲のほぼ中央の、谷へ落ち込む位置から検出された199号土坑1基のみであった。

199号土坑(第109図、PL.59)

位置 5区。X=61634～635、Y=-94224～225。

重複 なし。

平面形状 北西～南東方向に長い隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-16°-W。

規模 長軸1.45m、短軸0.94m、深さ0.09m。

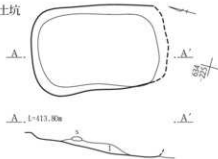
埋土 黒褐色土主体、1層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査範囲のほぼ中央の、谷へ落ち込む位置。形状から、所謂「イモ穴」と称される耕作物貯蔵用の穴と考えられる。

時期 戦国期～近世前～中期頃のものと考えられる。

199号土坑



199号土坑
1 黒褐色土(10TR3/2) 軽石・礫を含む。

0 1:40 1m

第109図 199号土坑

第5節 5区3面の遺構と遺物

前節、前々節で触れた通り、5区は本遺跡の調査範囲の中で、最も北西側に位置する調査区で、平成27年度に調査された。調査区の概要については前述したので、再述はしないが、調査区は、調査対象範囲の北側を現在も西から東に向かって流れる吾妻川の右岸の段丘の縁辺に当たっており、3面では1・2面よりももっと南側のX=61626～629のライン辺りを境として、北に向かって急に傾斜していく様子がうかがえた。もっとも標高が高い調査区の南東側と、最も低い中央部北端とでは、その標高差は1.8mにも及んでいる。

5区3面からは、溝1条、配石遺構1基、井戸1基、土坑12基、ビット39基が検出された。遺構は主に調査区の東側半分集中して検出されている。前述した1・2面に比べると、一見、濃密に遺構が存在しているかのように見受けられなくもないが、3面は、先史時代から中世にかけての長期間にわたる面であるため、時代ごとに見ると遺構の分布状況は希薄である。

地山には大小の多量の礫が含まれている。

1. 溝

調査区の中央からやや東寄りの位置、北東の壁際で溝が1条検出された。

23号溝(第110図、PL.60・67)

位置 5区。X=61640～644、Y=-94229～239。

重複 206・212号土坑、449号ビットに掘り込まれる。

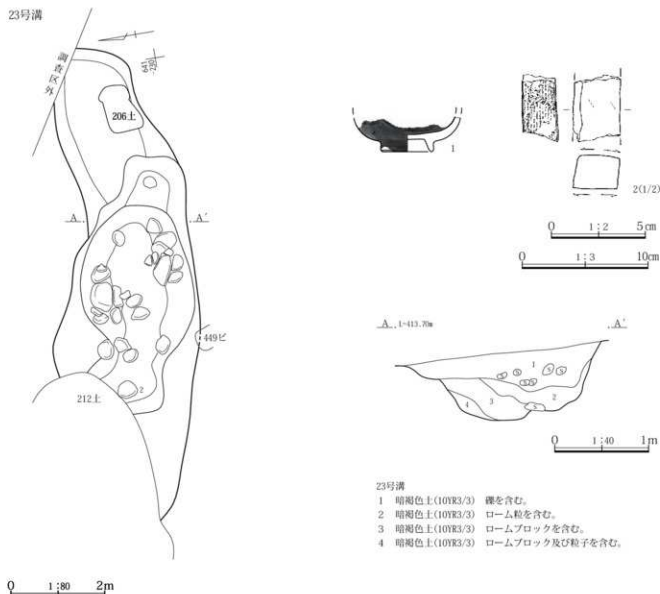
主軸方位 N-80°-W。

規模 検出全長7.25m、上幅1.60～3.05m、深さ1.00m。

埋土 暗褐色土主体、4層が確認された。

遺物 埋土中より肥前陶器陶胎染付椀底部片1点(1)、砥石2点(2、1点非掲載)。剥片3点(非掲載、混入?)。

所見 調査区の中央からやや東寄りに位置する東西方向の溝。先端は西北西方向にやや曲がっている。東端は調査区外に出、西端は212号土坑に破壊され、不明であるが212号土坑以西では全く検出されていないので、212号土坑と重複する箇所では止まっているものとみられる。しっかりとした掘方を有し、断面は底面に凹凸が多い不



第110図 23号溝・出土遺物

整逆台形状を呈する。

時期 近世。

2. 配石

調査区の東寄り、調査区東端近くの谷へ落ち込んでいく際の辺りの位置から配石が1基検出された。

2号配石(第111図、PL.59)

位置 5区。X=61630~632、Y=-94227~229。

重複 なし。

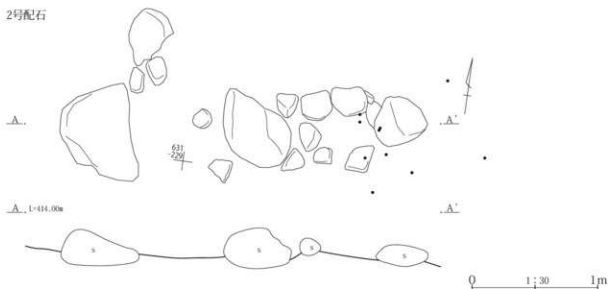
主軸方位 N-80°-E。

規模 長軸2.92m、短軸0.77m。

遺物 縄文時代後期後半土器片9点及び縄文時代中期後半加曾利E 3式土器片11点(未掲載)。

所見 調査区の東寄り、調査区東端近くの谷へ落ち込んでいく際の辺りから検出された。大小合わせて15個の自然石が東西にわたって並列しており、東側では若干、小ぶりの石が楕円環状に組まれていたような検出状況もあるが、残存状態が良くないため、元来、配置された位置を示すものであるのかどうかは不明である。それらの間から縄文時代中期後半～後期後半の土器片が出土した。石列は検出された範囲では1層で、重層的に積み上げられているわけではない。遺構の性格は不明である。

時期 縄文時代中期～後期後半のものと考えられる。



第111図 2号配石

3. 井戸

調査区の東寄り、調査区東端近くの谷へ落ち込んでいく際の辺りの位置から井戸が1基検出された。

本遺跡で検出された井戸の遺構としては唯一の井戸の遺構である。

2号井戸(第112図、PL.60)

位置 5区。X=61631~634、Y=-94219~222。

重複 なし。

平面形状 北東側が調査区外に出るため全容は不明であるが、円形状を呈していたものと考えられる。

主軸方位 N-51°-W。

規模 長軸3.17m、検出短軸2.8m、深さ1.62m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土・褐色土・にぶい黄褐色土主体、10層が確認された。As-Kkの一次堆積が見られる。

遺物 埋土中より土師器鉢の口縁部~体部片1点(時期不明)。

所見 平安時代末期の1128(大治3)年降下のAs-Kk層の直上から掘り込まれた溜井状の井戸。上面は非常に広く、かなり形は崩れてはいるものの漏斗状に開口している。自然石の礫が多数出土した。

時期 平安時代末期以降。

4. 土坑

本遺跡では200基の土坑が検出された。1区からは全く検出されず、2~4区の1面では166基が、2面では20基、計186基が検出されている。

また、1~4区とは面が整合していない5区からは、1・2面から各1基と3面から12基の計14基の土坑が検出された。

本調査区3面からは12基の土坑が検出された。ほとんどの土坑が、調査区の東側約1/3の範囲から検出されている。それ以外の場所からは調査区の中央で1基、調査区の西寄りでも1基が検出されているに過ぎない。

201号土坑(第113図、PL.60)

位置 5区。X=61632~634、Y=-94229~231。

重複 202号土坑、437号ピットを掘り込む。433号ピットに掘り込まれる。

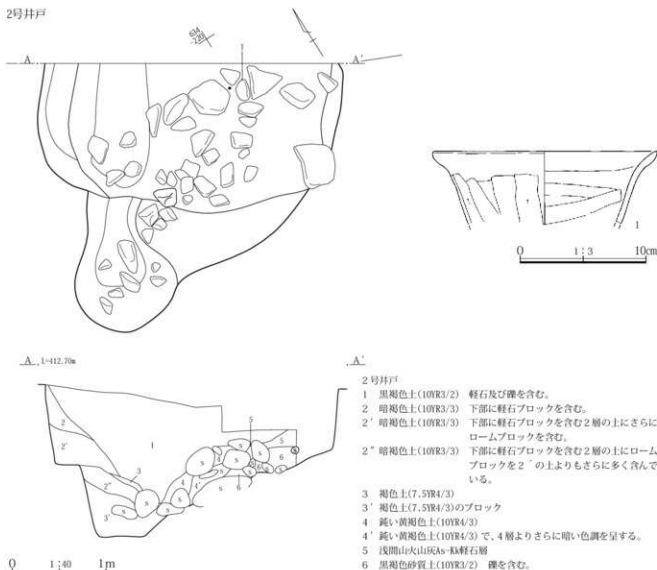
平面形状 西北西-東南東に長い隅丸不整形長方形形状を呈する。

主軸方位 N-73°-W。

規模 長軸2.57m、短軸2.04m、深さ0.73m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土・灰黄褐色土主体、4層が確認された。軽石はAs-YPか。

2号井戸



第112図 2号井戸・出土遺物

遺物 剥片1点(非掲載、混入?)。

所見 調査区東寄りのほぼ中央に位置し、203・204号土坑のすぐ北側に隣接する。形状から、所謂「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。しっかりとした掘方を有し、断面は傾斜が緩く長い逆台形状を呈する。

時期 不明。

202号土坑(第113図、PL.60)

位置 5区。X=61633、Y=-94228~229。

重複 201号土坑に掘り込まれる。

平面形状 東西に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-75°-W。

規模 長軸0.82m、短軸0.77m、深さ0.63m。

埋土 黒褐色土・灰黄褐色土主体、4層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の東寄りのほぼ中央に位置する。しっかりと掘方を有し、断面は漏斗状を呈する。

時期 不明。

203号土坑(第113図、PL.60)

位置 5区。X=61631~632、Y=-94230~231。

重複 204号土坑を掘り込む。

平面形状 西北西-東南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-73°-W。

規模 長軸1.02m、短軸0.85m、深さ0.21m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区東寄りのほぼ中央に位置し、201号土坑のすぐ南側に隣接する。掘方は浅く、断面は扁平で底辺が広い逆台形状を呈する。

時期 不明。

204号土坑(第113図、PL.60)

位置 5区。X=61631~632、Y=-94229~230。

重複 203号土坑に掘り込まれる。

平面形状 北西—南東方向に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-34°-W。

規模 長軸0.68m、短軸0.63m、深さ0.18m。

埋土 暗褐色土を主体とする。

遺物 なし。

所見 調査区東寄りのほぼ中央に位置し、201号土坑のすぐ南側に隣接する。掘方は浅く、断面は扁平で底面が広い逆台形状を呈する。

時期 不明。

205号土坑(第113図)

位置 5区。X=61640~641、Y=-94226~228。

重複 なし。

平面形状 北東側が調査区外に出るため全容は不明であるが、円形状ないしは楕円形状を呈するものと思われる。

主軸方位 N-52°-W。

規模 長軸1.34m、検出短軸0.73m、深さ0.63m。

埋土 暗褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区東寄りの北端、23号溝、206号土坑の東側に位置する。北東側壁に掛かる。しっかりとした掘方を有し、断面は上が開いたU字形を呈する。埋土中及び底面からは礫が多数出土。

時期 不明。

206号土坑(第113図、PL.60)

位置 5区。X=61641~642、Y=-94230~231。

重複 23号溝を掘り込む。

平面形状 東西にやや長い不整隅丸長方形形状を呈する。

主軸方位 N-74°-E。

規模 長軸1.05m、短軸0.71m、深さ0.35m。

埋土 暗褐色土・暗灰黄色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区東寄りの北東側壁際に位置する。形状から、所謂「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。しっかりとした掘方を有し、断面は隅丸逆台形状を呈する。

時期 不明。

207号土坑(第113図、PL.60・61)

位置 5区。X=61630~631、Y=-94234~235。

重複 なし。

平面形状 南北のやや長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-69°-E。

規模 長軸0.91m、短軸0.82m、深さ0.35m。

埋土 黒褐色土・暗褐色土主体、3層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は隅丸逆台形状を呈する。

時期 不明。

208号土坑(第113図、PL.61)

位置 5区。X=61630~631、Y=-94238~239。

重複 なし。

平面形状 北西—南東方向に長い楕円形状を呈する。

主軸方位 N-71°-W。

規模 長軸1.10m、短軸0.69m、深さ0.51m。

埋土 黒褐色土・灰黄褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

所見 調査区の南東寄りに位置する。しっかりとした掘方を有し、断面は隅丸逆台形状を呈する。

時期 不明。

209号土坑(第115図、PL.61・67)

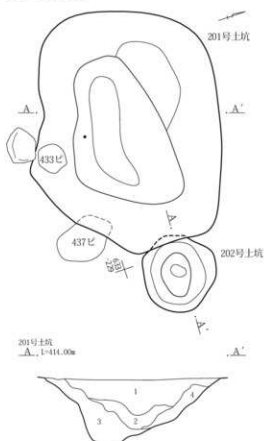
位置 5区。X=61656~657、Y=-94280~281。

重複 なし。

平面形状 北西—南東方向に長い隅丸不整長方形形状を呈する。

主軸方位 N-61°-W。

201・202号土坑



201号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) As-YPかと思われる軽石とローム粒を含む。
- 2 1層と3層との混土。
- 3 黒褐色土(10YR2/2) As-YPかと思われる軽石を含む。
- 4 灰黄褐色土(10YR4/2) ロームブロックを含む。

205号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ローム状の上を大ブロック状に混入。東側の方がローム状が多い。

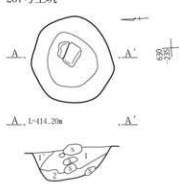
206号土坑



206号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックを含む。上面に礫。
- 2 暗灰黄色土(2.5Y4/2)

207号土坑



207号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) 礫・ローム粒を含む。
- 1' 1層より暗い。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックを含む。

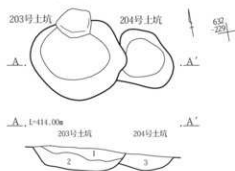
202号土坑



202号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を含む。
- 1' 1層よりもローム粒多い。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) 黒色土ブロックを含む。
- 2' 2層より黒色土ブロックが少ない。

203・204号土坑



203・204号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3) ロームブロックを含む。2層よりロームブロック多く、しまり強い。

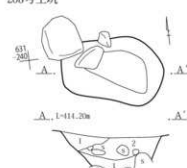
205号土坑



205号土坑

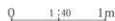


208号土坑



208号土坑

- 1 灰黄褐色土(10YR4/2)
- 2 黒褐色土(10YR3/2) ローム粒及び礫を含む。



第113図 201~208号土坑

規模 長軸1.23m、短軸0.79m、深さ0.31m。

埋土 暗褐色土・灰黄褐色土主体、2層が確認された。

遺物 砥石片1点(1(209土))。

所見 唯一、調査区の西端寄りから検出された土坑である。形状から、所謂「イモ穴」の耕作物貯蔵用土坑と考えられる。しっかりとした掘方を有し、断面は逆台形状を呈する。

時期 不明。

210号土坑(第114図、PL.61)

位置 5区。X=61641~642、Y=-94248~249。

重複 なし。

平面形状 不整形。

主軸方位 N-88°-W。

規模 検出長軸2.04m、短軸1.10m、深さ0.04m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 唯一、調査区の中央で検出された土坑で、埋土中からは大量の礫が出土し、恰も礫が詰められていたかのような状態も一部で見受けられた。墓塚の可能性も考えられる。掘方は浅く、断面は底面が広く長い、扁平な逆台形状を呈する。

時期 不明。

211号土坑(第114図、PL.61)

位置 5区。X=61650~652、Y=-94238~240。

重複 なし。

平面形状 東西に長い不整楕円形状を呈する。

主軸方位 N-82°-W。

規模 長軸2.54m、短軸2.19m、深さ0.35m。

埋土 不明。

遺物 なし。

所見 調査区中央寄りの北端近くで検出された土坑で、埋土中からは、210号土坑と同様、大量の礫が出土し、恰も礫が詰め込まれていたかのような状態も見受けられた。墓塚の可能性も考えられる。比較的しっかりとした掘方を有し、断面は底面が広く長い逆台形状を呈する。

時期 不明。

212号土坑(第115図、PL.62)

位置 5区。X=61642~645、Y=-94236~241。

重複 23号溝を掘り込む。

平面形状 東西に長い楕円形状を呈する。

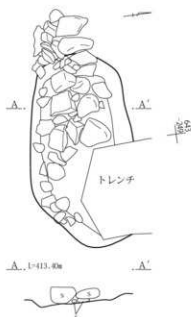
主軸方位 N-84°-E。

規模 長軸5.33m、短軸3.03m、深さ0.75m。

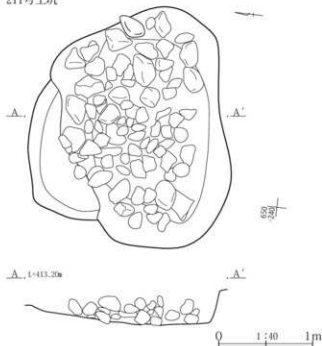
埋土 暗褐色土主体、2層が確認された。

遺物 なし。

210号土坑



211号土坑



第114図 210・211号土坑

所見 調査区の中央寄りの位置。埋土中からは、210・211号土坑と同様、大量の礫が出土し、恰も礫が詰め込まれていたかのような状態も見受けられた。210・211号土坑に比べて比較的大きな礫が多い。墓塚の可能性も考えられる。しっかりとした掘方を有し、断面は底面が広く長い逆台形状を呈する

時期 不明。

5. ビット(第116~118図、PL.62・63・67)

本遺跡では362基のビットが検出された。1区からは全く検出されず、2~4区の1面で237基が、2~4区

の2面からは86基、計323基が検出されている。

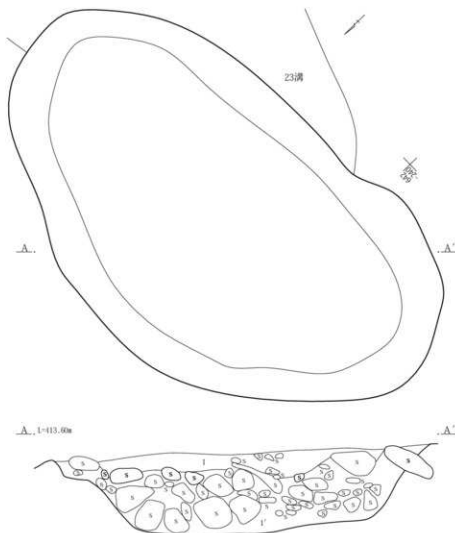
また、1~4区とは面が整合していない5区からは、1・2面では全く検出されず、3面で39基が検出された。

5区3面におけるビットの検出状況は、他の遺構同様、調査区の東側約1/3の地点のほぼ中央部に集中している。

ビットについては、他の調査区における事例と同様、後掲の一覧表に示した。

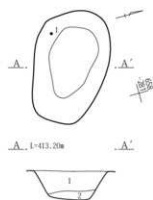
なお、436号ビット埋土から弥生時代中期の土器である甕片が2点、437号ビット埋土から7世紀の土師器杯片が1点、452号ビット埋土から7世紀の須恵器短頸壺が1点出土している。

212号土坑



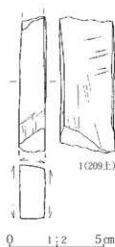
212号土坑
1 暗褐色土(10YR3/3) 礫を含む。
1' 1層より礫が大きい。

209号土坑



209号土坑

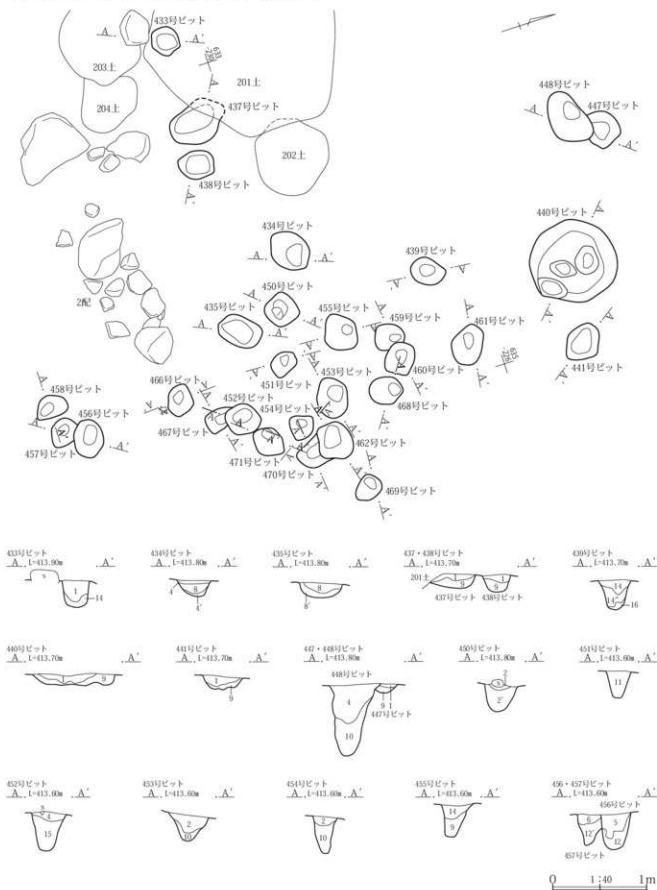
- 1 暗褐色砂質土(10YR3/3) 礫を含む。
- 2 灰黄褐色土(10YR4/2) ロームブロックを含む。



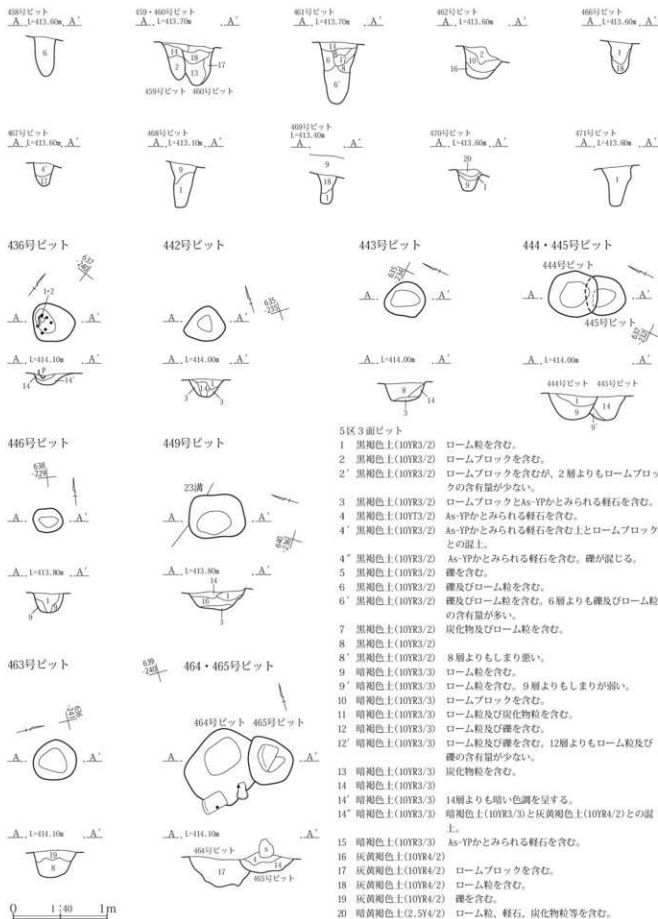
第115図 209・212号土坑、209号土坑出土遺物

第3章 遺構と遺物

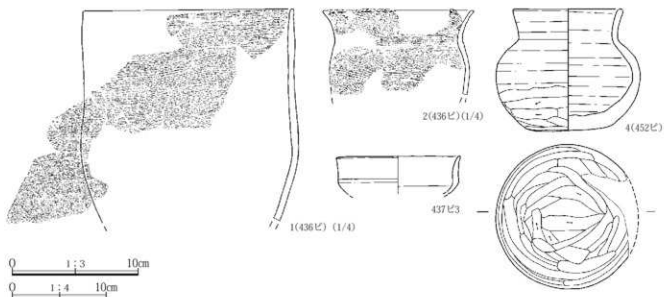
433~435・437~441・447・448・450~462・466~471号ピット



第116図 5区3面ピット-1 (433~435・437~441・447・448・450~462・466~471号)



第117図 5区3面ピット-2 (458~462・466~471号土層断面、436・442~446・449・463~465号)



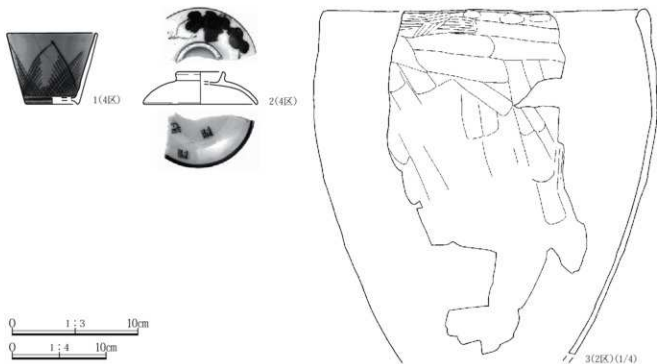
第118図 5区3面ピット出土遺物

第6節 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物を以下にまとめて掲載する。細かな調整や特徴等については、後掲の遺物観察表に明示してある。採り上げた遺構外出土遺物は、2・4区及び5区から出土したものである。詳細については遺物観察表を参照されたい。

1. 2・4区遺構外出土遺物(第119図、PL.67)

2区の遺構外出土遺物として掲載したのは縄文時代後期後半の粗製深鉢の口縁部～胴部片1点(3)、4区の遺構外出土遺物として掲載したのは肥前磁器染付猪口1点(1)、瀬戸・美濃陶器染付碗蓋片1点(2)などである。



第119図 2・4区遺構外出土遺物

2. 5区遺構外出土遺物

(第120～122図、PL.67・68)

それ以外は、いずれも5区からの出土である。5区の遺構外から出土遺物で採り上げたものは下記の通りである。採り上げたのは縄文時代の土器21点、土師器2点、近世陶器2点、石器・石製品7点である。

また、これら以外に、出土調査区不明の打製石斧片1点及び石鎌1点と縄文土器片1点、4区出土の弥生時代後期土器体部片1点、5区出土の弥生時代後期口縁部～体部土器片2点、体部片1点、底部片2点、5区出土の土師器裏口縁部片1点、灰釉陶器椀口縁部～体部片1点、須恵器杯口縁部～底部片1点がある。

(1)土器

縄文土器では、前期中葉の有尾式の深鉢口縁部及び胴部片が計3点(22・23・24)、前期後葉の諸磯a式の深鉢の口縁部片が1点(25)、中期後葉の加曾利E3式の深鉢の口縁部片及び胴部片が計4点(16・17・26・27)、後期初頭の称名寺1式期並行期の深鉢胴部片が1点(18)、後期前葉の堀之内1式の深鉢口縁部～胴部片1点と口縁部～胴口ほぼ完存のものが1点と胴部片が1点の計3点(20・19・28)、堀之内式の深鉢口縁部片が1点(29)、後期中葉の加曾利B1式期の深鉢口縁部片が1点と注口土器肩口片が1点の計2点(30・31)、加曾利B3式の深鉢

口縁部片が1点(21)、後期後葉の高井東式期の深鉢胴部片及び口縁部片が各1点の計2点(33・32)、後期後半の粗製深鉢の口縁部片が1点(34)、後期後半の深鉢胴部～底部片が1点(35)、晩期中葉佐野式並行期の深鉢口縁部片が1点(36)の、計21点を掲載した。

ほかに、7世紀代の土師器杯を2点(1・2)と古瀬戸陶器盤類口縁部片1点(3)、丹波陶器擂鉢口縁部片1点(4)を掲載した。

(2)石器・石製品

5区遺構外出土の石器・石製品に掲載したものは以下の7点である。1面からは4点、2面から1点、出土面不詳のものが2点である。

①5区1面出土の石器・石製品

磨石3点(7～9)、敲石1点(10)。

②5区2面出土の石器・石製品

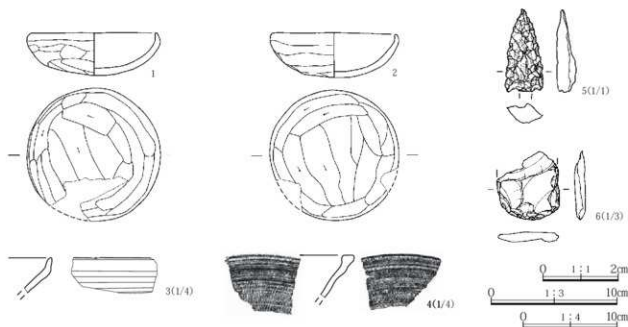
打製石斧片1点(6)。

③出土面不詳の5区出土の石器・石製品

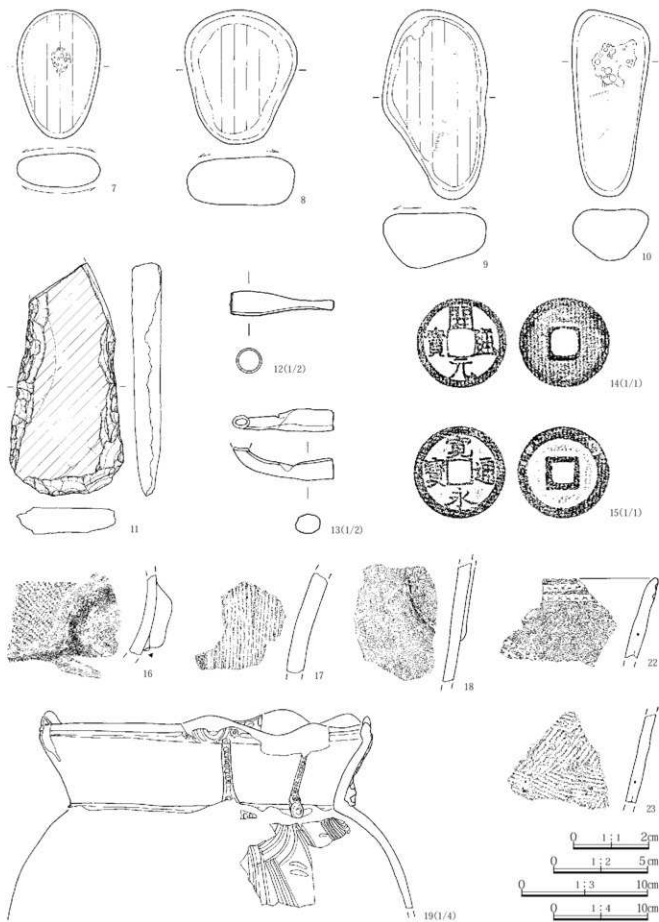
石鎌1点(5)、石鎌1点(11)。

(3)金属製品

古銭2点(開元通宝=14、寛永通宝=15)、煙管吸い口部1点(12)、煙管雁首首1点(13)の計4点を掲載した。

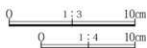
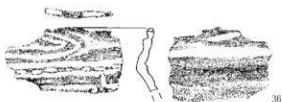
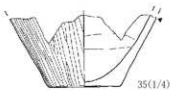
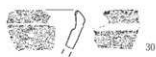
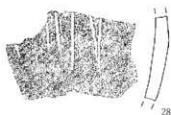
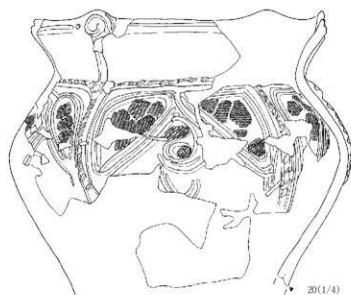


第120図 5区遺構外出土遺物-1



第121图 5区遺構外出土遺物-2

第6節 遺構外出土遺物



第122図 5区遺構外出土遺物-3

第4章 調査成果の整理とまとめ

第1節 各調査区、遺構確認面ごとの調査状況

本報告書は、上信自動車道(国道145・353号バイパス)の建設に先立って当事業団によって発掘調査された遺跡の発掘調査報告書としては、初めての刊行となる。

先述したように、上信自動車道とは、群馬県渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジを起点に、長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジへと至る総延長約80km(群馬県約65km、長野県約15km)の地域高規格道路であり、起点となる関越自動車道渋川伊香保インターチェンジの東側に続く前橋渋川バイパスや上武道路を含めた地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」とともに、本県の広域的ネットワークを形成する重要路線である。

中でも約7kmにわたる吾妻西バイパスは、国道145号バイパスの一部となる整備区間で、吾妻東バイパスとの接続地点である東吾妻町大字厚田からすでに供用されているハツ場バイパスとの接続地点である東吾妻町大字松谷までの区間である。途中には吾妻川を渡る橋梁も含まれ、特に本遺跡が所在する東吾妻町三島地区は、吾妻川を挟んだ対岸に標高802.6mの奇岩・怪岩に覆われた岩櫃山を望み、さらには町指定史跡四戸古墳群(昭和47年指定)や縄文時代の遺構が検出された唐堀遺跡(昭和55年調査)、戦国期の城郭である三島根古屋城などの埋蔵文化財があることでも知られている。

1. 調査区

調査対象地は北西—南東方向に細長い路線部分で、現在の生活道路及び地形によって6箇所に分断されていたので、南東側から北西側に向かって、順次、1～5区と便宜的に命名し、5区とは段丘崖下の緩傾斜地北側の小規模な調査区を6区とした。

後述するように、調査区が1～6区と命名されたのは平成27年度調査の段階になってからである。

平成26年度の段階における調査対象地は1箇所であった。この平成26年度の発掘調査対象箇所が平成27年度に

なって3区とされ、平成27年度になってその北西・南東両側の調査区をそれぞれ1・2区と4～6区と名付けた上で調査している。

5区は本遺跡の調査範囲の中で、最も北西側に位置する調査区で、北に向かって急に傾斜していくため、調査区の北側半分では遺構は全く検出されなかった。もっとも標高が高い調査区の南東側と、最も低い中央部北端とでは、その標高差は1.8mにも及んでいる。

6区からは確認調査の結果、遺構・遺物は全く検出されなかったのも、本報告書で報告の対象としているのは1～5区における発掘調査で検出された遺構・遺物についてである。

2. 調査面

調査面は1783(天明3)年降下の浅間山火山灰As-A軽石を含む黒褐色土層の下面を1面とし、中・近世の遺構確認面と理解した。その下層にある1108(天仁元)年降下の浅間山火山灰As-B軽石を含む鈍い黄褐色土層と黒褐色土層を除去して現れた面を2面とし、この面を弥生時代～中世の遺構確認面と理解した。さらにその下に存在する鈍い黄褐色土層と黒褐色土層を除去した面を3面とし、弥生時代以前の遺構確認面と理解した。

なお、先述したとおり、1区の2・3面、2～4区の3面及び6区からは遺構は全く検出されなかった。また、5区のみは他の調査区の遺構確認面と整合していない。

3. 1～4区1面で検出された遺構

先述した通り、1～4区の1面からは、掘立柱建物13棟、櫓7条、畑12箇所、道路1条、溝20条、土坑166基、ピット237基などの遺構が検出された。遺構の量に比して出土した遺物の量が少ないものの、検出された層位や火山灰の堆積状況から判断して、これらの遺構の時期は、ほとんどのものが近世のものと考えられる。

遺構の分布は3区に集中している。掘立柱建物や櫓、道路などの遺構の主軸は等高線にほぼ平行であり、溝や長大な隅丸長方形を呈する溝状の土坑の主軸は等高線にほぼ平行ないし直交しており、斜面上に立地するとい

う本遺跡の地形に即応して各種の遺構が営まれていった様子が看取できる。

4. 2～4区2面で検出された遺構

1区では2・3面において遺構は全く検出されず、2～4区からも3面では遺構は検出されなかった。

2～4区の2面からは、竪穴住居5棟、溝3条、土坑20基、ピット86基などの遺構が検出された。1面と同じく、遺構の分布は3区に集中している。竪穴住居はいずれも弥生時代後期樽式期で、3号住居以外の4軒は3区北西部に東西に並列して検出された。なお、5棟の竪穴住居相互の重複は全くないので、各住居の新旧関係、あるいは同時併存かという問題は不明であった。

本遺跡周辺地域においてはじめて検出された弥生時代のまとまった遺構群として注目出来る。

5. 5区1面で検出された遺構

5区の西側は中世以降に上流から押し流された地形と考えられ、浅間泊川軽石(As-Kk)の堆積はみられない。調査区の東側にはやや深い谷地形があり、時期は不明ながら、近世には埋没していたものと見られる。この段階が1面であり、近世後期の面と考えられる。

5区1面では、畑が3箇所、溝1条、土坑1基が検出された。調査区東側の谷地形埋没後の状況と考えられるが、谷頭にあたっているためか、遺構は多くはない。

調査区の東側から畑が1箇所(ただし、西から18～20号畑と3箇所に分けて調査されたが、主軸方位や畝間の溝の走向や幅などはほぼ同じであり、全体的に見れば1連の畑と看做すべきである)、調査区の西寄りの位置で南南西—北北東方向に走向し、内部には石組みが残存する暗渠と考えられる溝が1条、それに、溝の西側に隣接して、南壁に掛かる位置から土坑が1基検出された。

6. 5区2面で検出された遺構

5区の2面は、ほぼ戦国期～近世前～中期の面とみられる。谷頭になる地形のせいか、全般的に遺構は多くは検出されていない。

5区2面では、ほぼ北側に向かって傾斜していた5区1面に比べて、北東側への傾斜の度合いが幾分強くなっている。5区2面で遺構確認面が遺っていたのは、調査

区の東側、全体の約1/3程度のかかなり限定された範囲内のみであったからだろう。

調査区の東側にやや深い谷地形があり、その中心部が窪地になっており、弥生時代後期樽式土器、古墳時代後期～近世の土器片等の流れ込みが認められた。この窪地は、さらに下の3面で検出された井戸の周囲の落ち込みの上面に当たっており、基本的には自然地形とみられる。検出された遺構は、畑1箇所、溝1条、配石遺構1基、土坑1基である。21号畑は、主軸方位が1面で検出された20号畑よりやや西に傾いており、畝間も狭い。

26号溝の内部には石組みが残存しており、1面で検出された27号溝と主軸方位は全く異なるものの、同様に石が列をなしていることから、暗渠と考えられる。この26号溝の主軸方位は等高線とほぼ平行している。

21号畑と26号溝の新旧関係は、21号畑の方が古いと判断され、21号畑、26号溝、1面の順で変遷したものとみられる。

7. 5区3面で検出された遺構

5区3面は中世後期からそれ以前の面とみられ、溝1条、配石遺構1基、井戸1基、土坑12基、ピット39基が検出された。

遺構は主に調査区の東側半分に集中して検出されている。先述した1・2面に比べると、一見、濃密に遺構が存在しているかのように見受けられなくもないが、3面は、先史時代から中世にかけての長期間にわたる面であるため、時代ごとに見ると遺構の分布状況は希薄である。なお、この面の地山には大小の多量の礫が含まれていた。

第2節 検出された遺構について

1. 掘立柱建物

本遺跡から検出された13棟の掘立柱建物はすべて3区1面で検出されたものである。

北西—南東方向に長い調査区である3区において、掘立柱建物は調査区の南東端を除くほぼ全域から検出された。北西端付近に10・11・15・16号掘立柱建物が集中し、中央部の南寄りに1～9号掘立柱建物が散在している。

第4章 調査成果の整理とまとめ

いずれも桁行ないし梁間1～2間程度の小規模なものであり、集落と言うような様相ではない。また、建物の規模構造が単純なものばかりで、単独の屋敷とも考えにくい。それぞれの柱穴も比較的小規模である。それらの多くは、例えば軽微ないし、仮設的な作業小屋あるいは道具置場のようなものである可能性が考えられる。

また、1間×2間のもので、1間の辺の柱間が2間の辺の柱間に比して異様に長い形状のものが多いのが特徴的である。さらに、桁行・梁間各辺における間数が不揃いなものも少なくない。

建物の用途や機能は明らかではないが、いずれも近世のものと考えられる。

2. 柵

本遺跡では7条の柵が検出されたが、いずれも13棟の掘立柱建物と同様、3区1面からの検出である。

3区の南東端から中央やや東寄りにかけて検出されている。南東端で1～3号の3条が比較的近い位置で、中央部で4～7号の4条が散在している。いずれも全長8m以下で、柱間も2～4間程度の小規模なもので、柱穴も、本遺跡で検出された多くの掘立柱建物と同様、小規模である。また、7号柵以外はいずれも西北西～東南東方向に一直線であり、屈曲するものもない。また、柵に対応するような建物の遺構もまったく検出されていない。

屋敷や施設などを囲うようなものではなく、小規模な範囲を区画するためのものと見られる。

具体的な用途や機能は全く明らかではないが、いずれも近世のものと考えられる。

3. 竪穴住居

本遺跡で検出された竪穴住居は計5棟で、いずれも弥生時代のもので3区2面からの検出であった。

3区2面の中央からやや北西寄りの位置に、西北西から東南東にかけて1・2・5・4号住居の順で竪穴住居が並列し、小規模な3号住居のみ南側に位置している。

規模・形状はいずれも北東～南西方向に長い隅丸長方形を呈し、床面の住居の中央からやや北寄りの位置で炉が検出されているが、炉の残存状態はいずれもあまり良くない。

1・4・5号住居の規模・形状はほぼ類似しており、

2号住居は突出して大きく、3号住居は異例に小型である。なお、主軸方位はいずれもほぼ類似している。先述したとおり、時期はいずれも弥生時代後期樽式期のものである。

本遺跡周辺においては、弥生時代前期および後期の遺跡は確認されておらず、中期の遺跡として「岩櫃山式土器」の標式遺跡である岩櫃山麁の集遺跡(第6図24)や前畑遺跡(第6図28)などから再葬墓が検出されているものの、これまで弥生時代の集落は全く検出されていない。

本遺跡は弥生時代の住居がまとまって検出された遺跡として、この地域においては画期的な発見であり、特筆すべき調査成果と言うことが出来る。

4. 溝

本遺跡では26条の溝が検出された。調査区内を横断ないし縦断するような長大な形状では検出されなかった。

1区1面で8条、2区1面から1条、3区1面から10条、4区1面から1条で、1面で検出された溝は計20条であり、1～4区で検出された溝のほとんどは1面からの検出である。

他に、2区2面から25号溝1条、3区2面から5号溝1条、4区2面から22号溝1条、5区1面から27号溝1条、5区2面から26号溝1条、5区3面から23号溝1条が検出されている。

1～4区1面から検出された溝 1区1面で検出された溝はすべて東西方向に走行するもので12・16・19号溝は基本的に同一溝で、流路が変わったことによって形成されたものと考えられる。

一方、3区で検出された溝は、調査区の全域に散在しており、北北東～南南西方向のものと、西北西～東南東方向のものがある。

1面で検出された他の遺構と同様、上面を甚だしく削平されているために部分的にしか検出されていないものばかりであり、9号溝を除いては検出深度も浅く、水流の痕跡もまったく確認することが出来なかった。

2～4区2面で検出された溝 2～4区の2面で検出された溝は2区25号溝、3区5号溝、4区22号溝の3条に過ぎず、本遺跡から検出された溝のほとんどは1面からの検出である。

5区で検出された溝 5区1面では、調査区の中央から西寄りの場所を南南西から北北東方向に走向する暗渠と考えられる溝が1条のみ検出された。

5区2面では、調査範囲の南西側約1/4に当たるエリア、21号畑の中央より北側を西北西から東南東方向に走向する暗渠と考えられる溝が1条のみ検出された。調査範囲の西側の位置、中央からやや南寄りの場所を、標高が高い西北西側から低い東南東側に走向する溝で、南端と北端との標高差は約0.3m前後である。掘方は比較的浅く、底面が広く比較的扁平な逆台形状を呈する。5区1面から検出された27号溝と同様、暗渠と考えられるが、1面の27号溝のように掘方の両壁に沿って川原石を並列させたような痕跡は全く確認できず、溝の上側を覆った川原石のみが列状に検出された。27号溝に比べて、使用された礫は概ね小ぶりである。

5区3面では、調査区の中央からやや東寄りの位置、北東の壁際で溝が1条検出された。東西方向の溝で、先端は西北西方向にやや曲がっている。

5. 畑

本遺跡では16箇所の畑が検出された。1区1面で1箇所、3区1面から9箇所、4区1面から2箇所が検出された。一方、1～4区とは面を異にする5区では、1面から3箇所、2面から1箇所が検出された。

1・3・4区1面で検出された畑は計12箇所となり、本遺跡で検出された畑のほとんどは1・3・4区の1面からの検出である。1・3・4区の1面から検出された畑は、畝間の方向も規模もまちまちで、かなりランダムな状況である。いずれも上面を削平されており、検出状態は極めて悪く、また、いずれも小規模である。

5区1面では、畑は調査区の東側のみで検出された。西から東にむかって順に18～20号と3箇所に分けて調査されたが、1体の畑とみてよい。

また、5区2面では、先述したとおり、遺構の検出範囲自体が調査区東側の、全体から見ると約1/3程度の極めて限定された狭い範囲のみであり、さらに、この限定された遺構検出可能な範囲の中でも、東側半分は谷地形で深く窪んでおり、畑や溝が検出されたのは西側半分に当たる部分のみからである。

5区2面で検出された21号畑は、台地が北側の谷に落

ち込む際の辺りから辛うじて検出されたような状態であった。

6. 土坑

本遺跡では200基の土坑が検出された。

1区からは全く検出されず、2～4区の1面では166基が、2面では20基、計186基が検出されている。

また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面から各1基と3面から12基の計14基の土坑が検出された。

2～4区1面で検出された土坑 2～4区の1面検出の土坑は、2区では調査区の北西寄りから、3区では調査区のほぼ全域にわたって、4区では主に調査区の中央を南北に貫流する河道の東側から検出されている。

3区で検出された土坑は、西北西—東南東方向主軸のものとは北東—南西方向主軸のものとはほぼ大別できる。2～4区1面で検出された土坑のうち、細長い溝状の、長軸4～10m程度のものは土地区画に関連するものと考えられる。また、隅丸長方形・楕円形・長円形で長軸1m前後のものは、墓坑もしくはイモ穴と考えられる。

3・4区2面で検出された土坑 一方、3・4区の2面から検出された土坑は、3区から15基、4区から5基が検出された。

3区2面から検出された15基の土坑は、調査区の南東側一帯では全く検出されなかった。4区2面で検出された5基の土坑は、調査区の南側や西側では検出されず、中央部もしくは北壁際で検出された。

これらの土坑の時期は、層位から見て古代以前のものと考えられるが、遺物の出土は皆無であり、また、住居など時期が明確な遺構との重複も一切無いので、時期を明確にすることは出来なかった。

5区で検出された土坑 5区1面から検出された土坑は、調査区の中央より西に寄った位置の、27号溝の西側に近接して検出された200号土坑1基のみであった。また、5区2面から検出された土坑も、調査範囲のほぼ中央の、谷へ落ち込む位置から検出された199号土坑1基のみであった。

一方、5区3面からは12基の土坑が検出された。ほとんどの土坑が、調査区の東側約1/3の範囲から検出されている。それ以外の場所からは調査区の中央で1基、調

査区の西寄りでは1基が検出されているに過ぎない。

7. ビット

本遺跡では362基のビットが検出された。1区からは全く検出されず、2～4区の1面で237基が、2～4区の2面からは86基、計323基が検出されている。

また、1～4区とは面が整合していない5区からは、1・2面では全く検出されず、3面で39基が検出された。2～4区1面から検出されたビット 2～4区の1面におけるビットの検出数は、2区では全く検出されず、3区で218基、4区で19基の計237基であった。

北西—南東方向に細長い3区では、調査区の南東側では非常に少なく、調査区中央の南寄り、調査区の北西側に比較的多く検出されている。南西側辺と北辺とが長い直角三角形に似た形状の4区では、調査区のほぼ中央を南北に貫流する河道の東側からのみ検出された。

2～4区2面から検出されたビット 2～4区2面から検出されたビットは、2区で5基、3区で76基、4区で5基の計86基が検出された。

2区2面では、いずれも調査区の北東側壁に沿って北西から南東へと流れる25号溝の旧流路上から検出された。

3区2面では、主に調査区の西半分から検出された。この西半分では、南寄りと西端寄りから比較的多く検出されている。また、東半分では、検出数量はあまり多くはないものの、北寄りと中央部とでまとめて検出されている。

4区では調査区西寄りの位置の北壁際で、197号土坑と重複して3基と、中央部の北壁際の194号土坑の西側で1基が検出されている。

5区3面から検出されたビット 5区3面からは39基のビットが検出された。それらの検出状況は、5区3面で検出された他の遺構同様、調査区の東側約1/3の地点のほぼ中央部に集中している。

以上、各調査区において検出された362基のビットはいずれも小規模であり、土坑などの重複による新旧関係が明瞭なものがあるものの、具体的な時期や用途・機能についてもまったく不明である。

8. その他の遺構

(1) 道路

3区1面で、調査区の中央よりやや北寄りの位置を北西—東南東方向に走行する道路跡が1条検出された。路面は削平を受け、全く検出されなかったが、南側に断続的に検出された側溝の痕跡と、道路遺構で路面下に形成されるいわゆる「波板状遺構」が検出されたことから道路と判断した。この道路の主軸は、周辺から出土した北西—東南東方向に伸びる溝状の長大な隅丸長方形の土坑などに、ほぼ一致するものが多い。

隣接する調査区では、この道路に接続する部分が全く検出されなかった。また、周辺の遺跡においても、この道路に続く部分の道路の遺構は現時点では検出されていない。そのため、どのような性格の道路であるのか、明らかにすることは出来なかった。

(2) 配石

5区の2面と3面とで各1基ずつ配石遺構が検出された。

5区2面で検出された配石は、調査範囲の南西隅付近の南壁際において、壁にほぼ沿った状態で自然石が北西—東南東方向に列をなす遺構が検出され、調査時には石列として遺構認定された。

5区3面で検出された配石は、調査区の東寄り、調査区東端近くの谷へ落ち込んでいく際の辺りの位置から検出された。大小合わせて15個の自然石が東西にわたって並列しており、東側では若干、小ぶりの石が楕円環状に組まれていたような検出状況もあるが、残存状態が良くないため、元来、配置された位置を示すものであるのかどうかは不明である。本遺跡から検出された唯一縄文時代のものと考えられる遺構である。

なお、これら配石遺構は縄文時代の墳墓とするには決定的な証拠を欠いており、性格は不明と言わざるを得ない。

(3) 井戸

5区3面において井戸が1基検出された。調査区の東寄り、調査区東端近くの谷へ落ち込んでいく際の辺りの

位置から検出され、本遺跡で検出された井戸の遺構としては唯一の遺構である。

平安時代末期の1128（大治3）年降下のAs—Kk層の直上から掘り込まれた溜井状の井戸で、上面は非常に広く、かなり形は崩れてはいるものの漏斗状に開口している。

まとめ

以上のように、本遺跡では調査面積に比して、住居や建物などの集落を構成する中心的な遺構の検出数は決して多くはなく、それらの重複もあまりみられない。しかもそれらは弥生時代後期の竪穴住居と近世以降の掘立柱建物と、極めて時期的にも限定されている。この地域における人々の生活の根拠である居住域の中心部分の本遺跡の調査範囲外にあったと言わざるを得ない。

検出された遺構の種類としては、土坑、ピットの類が非常に多く、これらの重複は顕著な場所もあり、中には調査区内で非常に濃密に分布しているような場所もある。しかしながら、これらの遺構の明確な用途・機能については明らかにし難いものの方が多かった。

本遺跡では、畑など、耕作地としての人々の生活の痕跡は検出できるものの、本遺跡が、現任も北側を流れる吾妻川によって形成された谷に面した場所に立地しており、人々が生活の根拠とした居住地としての集落の中心部は、より安定的に平坦地が確保できる場所にあったとみられよう。

検出ビット一覧表

第5表 検出ビット一覧表

種別	写真図版	番号	区	面	位置(座標値) X=61... Y=94...	平面形状	規模(m)			重 複	備 考
							長軸	短軸	深さ		
第65図	PL.32	1	3	1	589	205	楕円形	0.40	0.34	0.44	2 Pを覆り込む。
第65図	PL.32	2	3	1	589	205	楕円形	0.34	0.23	0.21	1 Pに覆り込まれる。
第65図	PL.32	3	3	1	589	204-205	楕円形	0.32	0.29	0.27	
第65図	PL.32	5	3	1	579	196	不整形	9.56	0.43	0.44	
第65図	PL.32	6	3	1	581	195-196	楕円形	0.54	0.46	0.43	
第65図	PL.33	7	3	1	576	194	楕円形	0.37	0.31	0.33	
第65図	PL.33	8	3	1	579	193	楕円形	0.23	0.19	0.11	
第65図	PL.10	9	3	1	590	200	楕円形	0.30	0.21	0.45	1 畑、8土を覆り込む。
第65図	PL.33	11	3	1	577	196	推定楕円形	(0.31)	(0.27)	0.20	1 畑3に覆り込まれる。21土との新旧関係は不明。
第65図	PL.33	13	3	1	583	190-191	長方形	0.35	0.28	0.40	1 畑を覆り込む。
第65図	PL.33	17	3	1	578	195	方形	一边0.25		0.12	
第66図	PL.33	19	3	1	580	192	楕円形	0.31	0.26	0.21	
第66図		20	3	1	573	186	楕円形	0.22	0.19	0.18	
第66図	PL.33	25	3	1	579	182-183	円形	径0.28		0.22	
第66図	PL.33	26	3	1	583	183-184	不整形	0.46	0.31	0.30	
第66図	PL.33	31	3	1	574	186	楕円形	0.40	0.23	0.30	4 畑4に覆り込まれる。
第66図		33	3	1	570	180-181	不整形	0.64	0.55	0.38	
第66図		34	3	1	572	180	方形	一边0.30		0.26	
第66図		35	3	1	574	178	楕円形	0.37	0.20	0.32	
第66図	PL.10-33	40	3	1	586-587	204	楕円形	0.34	0.29	0.34	6土を覆り込む。
第66図		43	3	1	569-570	178	推定楕円形	(0.48)	0.37	0.17	44 Pに覆り込まれる。
第66図		44	3	1	569	178	楕円形	0.34	0.27	0.30	43 Pを覆り込む。
第66図		45	3	1	569	178-179	不整形	0.80	0.62	0.20	46 Pと重複するが新旧関係は不明。 45 Pと重複するが新旧関係は不明。
第66図		46	3	1	569	178-179	不整形				
第66図		54	3	1	570	171	楕円形	0.26	0.23	0.31	
第66図		55	3	1	569	171	方形	一边0.23		0.28	
第66図		56	3	1	568	172	楕円形	0.25	0.21	0.27	
第66図		57	3	1	568	172	楕円形	0.28	0.24	0.43	
第66図	PL.33	61	3	1	576	178	円形	径0.29		0.19	
第66図	PL.33	66	3	1	585	196	長方形	0.31	0.27	0.29	1 畑を覆り込む。
第66図	PL.33	68	3	1	576	193	楕円形	0.30	0.23	0.37	
第66図	PL.33	69	3	1	576	193	円形	径0.31		0.33	
第66図	PL.33-34	70	3	1	576	192	不整形	0.44	0.32	0.40	
第66図	PL.33	71	3	1	576-577	191-192	楕円形	0.34	0.30	0.40	
第66図	PL.33-34	73	3	1	575-576	191	推定楕円形	0.27	(0.21)	0.32	
第66図	PL.33	74	3	1	575-576	190	楕円形	0.23	0.17	0.30	
第66図	PL.33	75	3	1	575-576	190	楕円形	0.46	0.43	0.33	
第66図		76	3	1	574	179	円形	径0.36		0.17	
第66図		77	3	1	573	175-176	円形	径0.16		0.23	
第66図	PL.34	78	3	1	586	198	楕円形	0.28	0.25	0.40	14土を覆り込む。
第67図	PL.34	79	3	1	585-586	192	方形	一边0.23		0.30	
第67図	PL.34	80	3	1	584	194-195	不整形	0.51	0.38	0.43	1 畑を覆り込む。
第67図	PL.34	82	3	1	578	192	楕円形	0.32	0.23	0.29	
第67図	PL.34	83	3	1	580	191	楕円形	0.32	0.27	0.47	
第67図	PL.34	84	3	1	586-587	189	不整形	0.42	0.33	0.30	20土と重複するが新旧関係は不明。
第67図	PL.34	85	3	1	584	191	楕円形	0.32	0.28	0.25	
第67図	PL.34	87	3	1	603	208	楕円形	0.33	0.26	0.12	
第67図	PL.34	88	3	1	603	207	楕円形	0.24	0.21	0.21	
第67図	PL.34	90	3	1	605	208	楕円形	0.25	0.22	0.13	
第67図	PL.34	93	3	1	603	203	楕円形	0.36	0.33	0.25	16畑10を覆り込む。
第67図	PL.34	96	3	1	602-603	202	楕円形	0.34	0.31	0.31	
第67図	PL.34	97	3	1	604	202	円形	径0.32		0.10	
第67図	PL.35	98	3	1	603	201	推定楕円形	0.29	(0.27)	0.09	16畑11に覆り込まれる。
第67図	PL.35	99	3	1	604	201	楕円形	0.27	0.21	0.21	
第67図	PL.35	102	3	1	600	203	長方形	0.56	0.35	0.30	
第67図	PL.35	103	3	1	602-603	201	方形	一边0.28		0.18	
第67図	PL.35	104	3	1	604	200	楕円形	0.33	0.29	0.31	
第67図	PL.35	105	3	1	570	171	円形	径0.23		0.28	
第67図	PL.35	107	3	1	566	170	推定楕円形	(0.22)	0.20	0.15	36土に覆り込まれる。
第67図	PL.35	109	3	1	567	169	楕円形	0.18	0.16	0.05	
第67図	PL.35	110	3	1	575	178	不整形	0.23	0.22	0.14	
第67図	PL.35	112	3	1	578	178	楕円形	0.34	0.30	0.38	
第67図	PL.35	113	3	1	577	178	楕円形	0.32	0.25	0.32	
第67図	PL.35	114	3	1	580	187	楕円形	0.27	0.23	0.20	
第67図	PL.35	115	3	1	575	175	楕円形	0.42	0.35	0.33	
第68図	PL.35	116	3	1	586	191	楕円形	0.30	0.24	0.22	

棟号	写真図版	番号	区	画	位置(座標値) X=61... Y=94...	平面形状	規模(m)			重 複	備 考
							長軸	短軸	深さ		
第68回	PL_35	117	3	1	585-586	191	円形	径0.35			
第68回	PL_36	118	3	1	585	190	長方形	0.27	0.24	0.33	
第68回	PL_36	119	3	1	585	189	楕円形	0.49	0.35	0.17	
第68回	PL_36	120	3	1	583	191	楕円形	0.26	0.20	0.45	
第68回	PL_36	121	3	1	584-585	193	楕円形	0.32	0.29	0.42	1畑を掘り込む。
第68回	PL_11-36	122	3	1	586	188	楕円形	0.23	0.17	0.22	20土を掘り込む。
第68回	PL_36	123	3	1	581-582	187	楕円形	0.20	0.18	0.21	
第68回	PL_36	124	3	1	577-587	183	不整形	0.36	0.32	0.40	
第68回	PL_36	127	3	1	601	185	楕円形	0.33	0.30	0.27	
第68回	PL_36	128	3	1	601-602	196	不整形	0.77	0.49	0.42	
第68回	PL_16-36	129	3	1	600	188	楕円形	0.30	0.25	0.31	61・145土を掘り込む。
第68回		130	3	1	601	192	楕円形	0.34	0.27	0.17	4畑を掘り込む。
第68回	PL_36	131	3	1	596	178	不整形	0.33	0.32	0.28	
第68回	PL_36	132	3	1	590	209	楕円形	0.25	0.19	0.33	
第68回	PL_36	133	3	1	591	210	楕円形	0.28	0.22	0.32	
第68回	PL_36	134	3	1	591	208	不整形	0.51	0.30	0.45	110土を掘り込む。
第68回	PL_36	135	3	1	589	208	長方形	0.16	0.13	0.15	
第68回	PL_37	136	3	1	593	209	円形	径0.26		0.28	
第68回	PL_37	137	3	1	594	207	楕円形	0.26	0.22	0.21	
第68回	PL_37	138	3	1	592-593	207	楕円形	0.35	0.24	0.19	
第68回		139	3	1	587	200	楕円形	0.24	0.21	0.11	1畑を掘り込む。
第68回	PL_37	141	3	1	581	197-198	方形	一边0.26		0.13	
第68回	PL_37	142	3	1	585	192-193	不整形	0.21	0.17	0.10	
第68回	PL_37	143	3	1	590	196	楕円形	0.34	0.31	0.15	1畑を掘り込む。
第69回	PL_37	146	3	1	586-587	187	楕円形	0.29	0.27	0.14	
第69回	PL_37	147	3	1	586-587	186	円形	径0.25		0.18	
第69回	PL_37	148	3	1	576	162-163	円形	径0.28		0.39	
第69回		151	3	1	585	183	不整形	0.40	0.38	0.22	5欄3を掘り込む。
第69回	PL_37	152	3	1	585	183	長方形	0.26	0.23	0.20	
第69回	PL_37	160	3	1	586	184-185	不整形	0.35	0.29	0.19	
第69回	PL_37	164	3	1	566	169	楕円形	0.26	(0.17)	0.21	36土に掘り込まれる。
第69回	PL_37	172	3	1	568-569	167-168	不整形	0.27	0.22	0.22	
第69回		174	3	1	568	166	長方形	0.30	0.22	0.44	
第69回	PL_37	178	3	1	570	166	円形	径0.21		0.11	
第69回	PL_37	179	3	1	569	168	不整形	0.38	0.29	0.38	
第69回		180	3	1	565-566	164-165	楕円形	0.56	0.43	0.23	
第69回	PL_38	181	3	1	570	167	楕円形	0.34	0.27	0.24	
第69回	PL_38	185	3	1	599	178-179	楕円形	0.36	0.26	0.34	
第69回	PL_38	188	3	1	575	189-190	楕円形	0.61	0.47	0.21	3欄4に掘り込まれる。
第69回		189	3	1	576-577	192-193	楕円形	0.63	0.38	0.27	
第69回	PL_38	190	3	1	590	192	長方形	0.25	0.22	0.17	
第69回	PL_38	191	3	1	593	197	楕円形	0.23	0.19	0.15	
第69回		192	3	1	592	199	楕円形	0.49	0.45	0.25	
第69回	PL_38	193	3	1	582-583	194	楕円形	0.19	0.17	0.07	1畑を掘り込む。
第69回	PL_38	197	3	1	574-575	165	円形	径0.27		0.12	79土を掘り込む。
第69回	PL_22	198	3	1	604-605	207	推定楕円形	(0.59)	(0.50)	0.20	116土に掘り込まれる。
第69回	PL_18-38	199	3	1	577	166	楕円形	0.26	0.25	0.39	78土を掘り込む。
第69回	PL_38	200	3	1	601	190	楕円形	0.42	0.32	0.16	61土と重複するが新旧関係は不明。
第69回	PL_38	201	3	1	579	165-166	楕円形	0.21	0.17	0.26	
第70回	PL_38	202	3	1	599	180	楕円形	0.29	0.22	0.38	135土を掘り込む。
第70回	PL_38	203	3	1	600	181	長方形	0.36	0.26	0.13	
第70回	PL_38	204	3	1	593-594	185-186	楕円形	0.29	0.27	0.47	
第70回	PL_38	205	3	1	595	189	長方形	0.21	0.17	0.06	
第70回		206	3	1	594	191	楕円形	0.43	0.37	0.16	
第70回	PL_39	207	3	1	592	191	楕円形	0.22	0.20	0.16	
第70回	PL_39	209	3	1	593	192	長方形	0.21	0.14	0.20	
第70回	PL_39	210	3	1	591	197	楕円形	0.20	0.16	0.13	
第70回		211	3	1	592	197	楕円形	0.18	0.14	0.11	
第70回	PL_16-38	212	3	1	601	190	不整形	0.43	0.39	0.10	61土を掘り込む。
第70回	PL_39	213	3	1	577	173	楕円形	0.20	0.17	0.11	
第70回	PL_39	216	3	1	578-579	184	楕円形	0.43	0.27	0.41	28土を掘り込む。
第70回	PL_39	217	3	1	578-579	184	楕円形	0.47	0.43	0.62	28土、218Pを掘り込む。
第70回	PL_39	218	3	1	578	183	推定楕円形	0.35	(0.30)	0.08	217Pに掘り込まれる。
第70回	PL_39	219	3	1	587	201	楕円形	0.24	0.20	0.48	22土を掘り込む。
第70回	PL_39	220	3	1	603	205-206	円形	径0.31		0.12	
第70回	PL_39	221	3	1	575	184	楕円形	(0.24)	0.17	0.34	28土を掘り込む。
第70回		224	3	1	600-601	204	楕円形	0.39	0.32	0.23	
第70回	PL_39	225	3	1	606	205	楕円形	0.33	0.23	0.20	
第70回	PL_39	226	3	1	606	208	楕円形	0.20	0.15	0.14	

検出ビット一覧表

種別	写真図版	番号	区	画	位置(座標値)		平面形状	規模(m)			重複	備考
					X=61...	Y=94...		長軸	短軸	深さ		
第70図	PL_39	227	3	1	605	208-209	不整形	0.23	0.19	0.16		
第70図		229	3	1	608-609	201-202	不整形	0.28	0.27	0.17		
第70図	PL_39	230	3	1	610	201	楕円形	0.26	0.21	0.12		
第70図	PL_39	232	3	1	601	203-204	楕円形	0.21	0.19	0.11		
第70図	PL_40	233	3	1	601	203-204	楕円形	0.28	0.21	0.12		
第70図	PL_40	234	3	1	564	177	楕円形	0.16	0.13	0.12		
第70図	PL_40	235	3	1	565	177	楕円形	0.22	0.17	0.14		
第71図	PL_40	237	3	1	610	201	方形	一边0.23		0.12		
第71図	PL_40	240	3	1	612	206	楕円形	0.24	0.16	0.09		
第71図	PL_40	241	3	1	611-612	205-206	長方形	0.38	0.33	0.15		
第71図	PL_40	244	3	1	602	199	不整形	0.42	0.31	0.20		
第71図	PL_40	245	3	1	603	198-199	長方形	0.42	0.35	0.23		
第71図	PL_40	246	3	1	604-605	197	楕円形	0.23	0.17	0.15		
第71図	PL_40	247	3	1	603	196	楕円形	0.50	0.35	0.35		
第71図	PL_40	248	3	1	602-603	197-198	不整形	0.41	0.33	0.26		
第71図	PL_40	250	3	1	604	195	楕円形	0.34	0.26	0.17		
第71図	PL_40	251	3	1	604	192	長方形	0.33	0.25	0.08		
第71図	PL_40	252	3	1	602	192	楕円形	0.35	0.24	0.25		
第71図		253	3	1	600-601	194	長方形	0.37	0.30	0.29		
第71図	PL_40	255	3	1	600	191	楕円形	0.42	0.28	0.38		
第71図	PL_41	256	3	1	600	191	楕円形	0.37	0.26	0.38		
第71図	PL_41	257	3	1	602	191	楕円形	0.27	0.20	0.10		
第71図		258	3	1	600-601	197	方形	0.26	0.23	0.15	2溝を掘り込む。	
第71図	PL_41	262	3	1	601	197	楕円形	0.38	0.32	0.23	2溝を掘り込む。	
第71図		263	3	1	600-601	195	楕円形	0.29	0.24	0.14		
第71図	PL_41	266	3	1	599	195	長方形	0.32	0.21	0.14		
第71図	PL_41	269	3	1	599	179	楕円形	0.15	0.14	0.13		
第71図	PL_41	273	3	1	599	193	方形	一边0.16		0.12		
第71図	PL_41	279	3	1	582	196	楕円形	0.27	0.24	0.17		
第71図	PL_41	286	3	1	578	191-192	楕円形	0.28	0.17	0.13		
第71図	PL_41	289	3	1	577	191	円形	径0.27		0.21		
第71図	PL_41	292	3	1	576	189	不整形	0.45	0.24	0.16		
第71図	PL_41	300	3	1	573	189	長方形	0.22	0.19	0.17		
第72図	PL_41	308	3	1	598	195-196	長方形	0.22	0.18	0.40		
第72図	PL_41	309	3	1	599	195-196	方形	一边0.19		0.34		
第72図	PL_41	310	3	1	598	191	掘定楕円形	(0.32)	0.29	0.26	313Pに掘り込まれる。	
第72図		312	3	1	598	191	楕円形	0.26	0.21	0.19		
第72図	PL_41	313	3	1	598	191	円形	径0.32		0.15	310Pを掘り込む。	
第72図	PL_42	314	3	1	598	190-191	長方形	0.29	0.25	0.10		
第72図	PL_42	316	3	1	599	190	不整形	0.34	0.28	0.30		
第72図	PL_42	317	3	1	599-600	191-192	楕円形	0.50	0.28	0.36		
第72図	PL_42	322	3	1	592	193	楕円形	0.32	0.26	0.28		
第72図	PL_42	325	3	1	595	195	楕円形	0.30	0.26	0.39		
第72図	PL_42	329	3	1	591	208	楕円形	0.34	0.27	0.17		
第72図	PL_42	331	3	1	581	192-193	楕円形	0.26	0.18	0.11		
第72図	PL_42	335	3	1	580	186	円形	径0.22		0.10		
第72図	PL_42	344	3	1	579-580	186	円形	径0.15		0.17		
第72図	PL_42	347	3	1	587	195	長方形	0.44	0.34	0.20		
第72図	PL_42	353	3	1	585	184-185	長方形	0.30	0.27	0.29		
第72図	PL_42	354	3	1	596	177	方形	一边0.24		0.21		
第72図	PL_42	355	3	1	593	178	楕円形	0.22	0.17	0.25		
第72図	PL_42	356	3	1	595	195	円形	径0.27		0.32	371Pを掘り込む。	
第72図	PL_42	361	3	1	580	185-186	不整形	0.52	0.30	0.13		
第72図	PL_43	362	3	1	595	177	楕円形	0.51	0.41	0.22		
第72図	PL_43	363	3	1	601-602	196	長方形	0.27	0.23	0.20		
第72図	PL_43	364	3	1	601	195	不整形	0.42	0.28	0.23		
第72図	PL_43	365	3	1	600	192-193	長方形	0.42	0.39	0.37		
第72図	PL_43	366	3	1	599	192	長方形	0.29	0.19	0.13		
第72図	PL_43	367	3	1	599	192	方形	一边0.29		0.21		
第73図	PL_43	368	3	1	598	191-192	方形	一边0.18		0.10		
第73図	PL_43	369	3	1	597	197	楕円形	0.29	0.24	0.13		
第73図	PL_43	370	3	1	599	193	不整形	0.35	0.22	0.21		
第73図	PL_43	371	3	1	595-596	195	不整形	0.83	0.43	0.36	138土、356Pに掘り込まれる。	
第73図	PL_43	372	3	1	594	193	楕円形	0.47	0.37	0.18		
第73図	PL_43	373	3	1	595	191-192	楕円形	0.64	0.49	0.30		
第73図	PL_43	374	3	1	594-595	191-192	長方形	0.45	0.40	0.18		
第73図	PL_43	376	3	1	592	195	楕円形	0.31	0.26	0.13		
第73図	PL_44	377	3	1	606-607	204	長方形	0.63	0.45	0.23		
第73図	PL_44	378	3	1	590	165-166	円形	径0.21		0.19		

種別	写真図版	番号	区	画	位置(座標値)		平面形状	規模(m)			重 複	備 考
					X=61...	Y=94...		長軸	短軸	深さ		
第73図	PL.27-44	379	3	1	563	159-160	不整形	0.70	0.35	0.21		
第73図	PL.44	380	3	1	565-566	160	楕円形	0.30	0.24	0.15		
第73図	PL.44	381	3	1	565	159	楕円形	0.24	0.21	0.12		
第73図	PL.44	382	3	1	562-563	143-144	円形	径0.30		0.17		
第73図		385	3	1	556	143-144	長方形	0.54	0.51	0.17		
第73図	PL.44	386	3	1	553-554	140-141	楕円形	0.33	0.43	0.19		
第73図	PL.44	387	3	1	553	140	楕円形	0.28	0.25	0.25		
第73図		393	3	1	558	160-161	長方形	0.37	0.34	0.24		
第73図		394	3	1	562-563	159	楕円形	0.43	0.33	0.33		
第73図		396	3	1	576	151	推定楕円形	0.43	(0.24)	0.36		
第73図	PL.44	397	3	1	576-577	156	楕円形	0.60	0.49	0.45		
第73図	PL.44	398	3	1	578	155	楕円形	0.38	0.32	0.28		
第73図	PL.44	399	3	1	560	147	方形	一边0.26		0.40		
第73図		474	3	1	598	195	楕円形	0.37	0.34	0.21		
第75図	PL.44	403	4	1	608-609	219-220	円形	径0.46		0.24		
第75図	PL.44	404	4	1	607	218	円形	径0.34		0.15		
第75図	PL.44	405	4	1	607-608	216-217	方形	一边0.50		0.18		
第75図	PL.44	406	4	1	606	217-218	楕円形	0.56	0.43	0.24		
第75図	PL.45	407	4	1	605	219	方形	一边0.57		0.18	408 Pを掘り込む。	
第75図	PL.45	408	4	1	605-606	219	長方形	0.63	0.54	0.17	407 Pに掘り込まれる。	
第75図		409	4	1	605-606	221	長方形	0.45	0.40	0.22		
第75図	PL.45	410	4	1	604	221	長方形	0.50	0.43	0.09		
第75図	PL.45	411	4	1	607	214	楕円形	0.60	0.42	0.38		
第75図	PL.45	412	4	1	603-604	219	推定方形	0.48	0.42	0.19	413 Pを掘り込む。	
第75図	PL.45	413	4	1	604	218-219	方形	一边0.56		0.19	412 Pに掘り込まれる。	
第74図	PL.45	414	4	1	602	221	楕円形	0.50	0.33	0.30		
第75図	PL.45	415	4	1	608	217	長方形	0.79	0.63	0.33		
第74図	PL.45	416	4	1	600	219-220	楕円形	0.64	0.53	0.21		
第74図	PL.45	417	4	1	597-598	214	長方形	0.81	0.46	0.20		
第74図	PL.45	418	4	1	598	213	楕円形	0.38	0.30	0.15		
第75図	PL.45	419	4	1	607-608	215	楕円形	0.54	0.44	0.27		
第75図	PL.45	420	4	1	607	214-215	楕円形	0.45	0.33	0.21		
第74図		421	4	1	597	219-220	推定方形	0.56	(0.49)	0.13		
第95図		422	2	2	539-540	114	楕円形	0.92	0.46	0.31		
第96図	PL.53	423	2	2	539-540	108	方形	一边0.35	0.24	25溝に掘り込まれる。		
第96図	PL.53	424	2	2	540	108	長方形	0.40	0.34	0.25	25溝に掘り込まれる。	
第96図	PL.53	425	2	2	556	123-124	不整形	0.81	0.50	0.22	25溝に掘り込まれる。	
第96図	PL.53	426	2	2	538-539	107	円形	径0.41		0.49	25溝に掘り込まれる。	
第97図		32	3	2	568	181	楕円形	0.25	0.21	0.16		
第97図	PL.53	81	3	2	561	173	楕円形	0.39	0.29	0.49		
第97図	PL.53	155	3	2	582	183	楕円形	0.35	0.29	0.05		
第97図	PL.53	156	3	2	582	181	円形	径0.31		0.03		
第97図	PL.54	157	3	2	581	177	円形	径0.32		0.13		
第97図	PL.54	161	3	2	573-574	165-166	楕円形	0.55	0.47	0.15		
第97図	PL.54	162	3	2	573	164-165	楕円形	0.39	0.31	0.08		
第97図	PL.54	163	3	2	573	164	不整形	0.61	0.42	0.09		
第97図	PL.54	167	3	2	568	165	楕円形	0.49	0.42	0.11		
第97図	PL.54	194	3	2	588	184-185	楕円形	0.35	0.25	0.11		
第97図	PL.54	195	3	2	586-587	164-165	楕円形	0.50	0.45	0.18		
第97図	PL.54	196	3	2	587-588	165-166	円形	径0.38		0.09		
第97図		228	3	2	608-609	203	方形	一边0.24		0.07		
第97図	PL.54	231	3	2	605	201	楕円形	0.29	0.23	0.12		
第97図	PL.54	236	3	2	566	177	楕円形	0.21	0.19	0.15		
第97図	PL.54	238	3	2	610	201	長方形	0.24	0.20	0.07		
第97図	PL.54	239	3	2	610	204	不整形	0.21	0.16	0.09		
第97図	PL.54	242	3	2	613	204	不整形	0.26	0.18	0.11		
第97図	PL.54	264	3	2	604	204	円形	径0.28		0.11		
第98図	PL.54	265	3	2	605	203	楕円形	0.44	0.26	0.12		
第98図	PL.55	268	3	2	568-569	179-180	方形	一边0.22		0.04		
第98図	PL.55	270	3	2	570	179	楕円形	0.24	0.22	0.08		
第98図	PL.55	272	3	2	599-600	198-199	楕円形	0.27	0.19	0.07		
第98図	PL.55	274	3	2	585	199	方形	一边0.18		0.21		
第98図	PL.55	275	3	2	583	201	長方形	0.20	0.18	0.08		
第98図	PL.55	276	3	2	583	200	楕円形	0.26	0.21	0.10		
第98図	PL.55	277	3	2	580	197-198	楕円形	0.42	0.21	0.22		
第98図	PL.55	278	3	2	578	196	不整形	0.30	0.23	0.23		
第98図	PL.55	280	3	2	579	193-194	長方形	0.25	0.21	0.15		
第98図	PL.55	281	3	2	578-579	193	長方形	0.29	0.25	0.14		
第98図	PL.55	282	3	2	577	195	楕円形	0.24	0.16	0.12		

検出ピット一覧表

探洞	写真図版番号	区画	位置(座標値) X=61... Y=94...	平面形状	規模(m)			重複	備考	
					長軸	短軸				
						知軸	深さ			
第988回	PL.55	283	3	2	577	193	円形	径0.19	0.20	
第988回	PL.55	284	3	2	575	193	楕円形	0.44	0.41	0.24
第988回	PL.55	287	3	2	578	190	楕円形	0.35	0.30	0.14
第988回	PL.55	288	3	2	577	190	長方形	0.30	0.20	0.14
第988回	PL.56	290	3	2	576	191	不整形	0.39	0.21	0.15
第988回	PL.56	291	3	2	576	190	不整形	0.43	0.29	0.25
第988回	PL.56	294	3	2	575	188-189	不整形	0.27	0.18	0.19
第988回	PL.56	295	3	2	575	188	円形	径0.26	0.12	
第988回	PL.56	296	3	2	574	189	楕円形	0.34	0.20	0.13
第988回	PL.56	297	3	2	573-574	188	不整形	0.22	0.18	0.07
第988回	PL.56	298	3	2	573	187-188	楕円形	0.20	0.19	0.07
第988回	PL.56	299	3	2	572	186	不整形	0.32	0.22	0.13
第988回	PL.56	301	3	2	596	198-199	楕円形	0.30	0.23	0.24
第999回	PL.56	304	3	2	590	197	楕円形	0.31	0.28	0.28
第999回	PL.56	305	3	2	589-590	195	方形	一辺0.19	0.25	
第999回	PL.56	318	3	2	593	191	円形	径0.21	0.20	
第999回	PL.56	319	3	2	589	192	方形	一辺0.25	0.16	
第999回	PL.56	320	3	2	593	196	楕円形	0.27	0.21	0.19
第999回	PL.56	321	3	2	592-593	195	方形	一辺0.26	0.15	
第999回	PL.57	323	3	2	591	193	不整形	0.42	0.30	0.18
第999回	PL.57	326	3	2	588-589	189-190	不整形	0.32	0.25	0.10
第999回	PL.57	327	3	2	591	191	不整形	0.27	0.24	0.11
第999回	PL.57	330	3	2	582	195	楕円形	0.34	0.30	0.18
第999回	PL.57	332	3	2	583	190	長方形	0.26	0.19	0.15
第999回	PL.57	333	3	2	582	189-190	長方形	0.21	0.17	0.14
第999回	PL.57	334	3	2	580	190-191	円形	径0.13	0.16	
第999回	PL.57	336	3	2	581	190	方形	一辺0.30	0.22	
第999回	PL.57	337	3	2	580-581	190	円形	径0.19	0.18	
第999回	PL.57	338	3	2	580	190	楕円形	0.26	0.21	0.31
第999回	PL.57	339	3	2	579	189	楕円形	0.54	0.29	0.15
第999回	PL.57	340	3	2	579	186	不整形	0.31	0.30	0.23
第999回	PL.57	341	3	2	579	188	長方形	0.17	0.13	0.10
第999回	PL.57	342	3	2	578-579	187-188	方形	一辺0.23	0.12	
第999回	PL.57	343	3	2	580-581	189	長方形	0.28	0.20	0.11
第999回	PL.57	345	3	2	581	185	楕円形	0.28	0.23	0.15
第999回	PL.58	346	3	2	581	184	円形	径0.19	0.20	
第999回	PL.58	348	3	2	577	181	不整形	0.24	0.21	0.19
第999回	PL.58	349	3	2	579	187	楕円形	0.31	0.21	0.18
第999回	PL.58	350	3	2	579	186-187	不整形	0.39	0.33	0.17
第1000回	PL.58	351	3	2	581	181	楕円形	0.36	0.19	0.12
第1000回	PL.58	352	3	2	580	184-185	不整形	0.34	0.21	0.26
第1000回	PL.58	357	3	2	585-586	162	推定楕円形	(0.30)	(0.20)	0.20
第1000回	PL.58	358	3	2	585-586	162	推定楕円形	(0.27)	0.24	0.10
第1000回	PL.58	359	3	2	583	162	楕円形	0.56	(0.48)	0.20
第1000回	PL.58	360	3	2	584	162-163	楕円形	0.49	0.42	0.09
第1010回	PL.58	428	4	2	615	228	長方形	0.56	0.47	0.34
第1010回	PL.58	429	4	2	616	227	方形	一辺0.52	0.19	197土を掘り込む。
第1010回	PL.58	430	4	2	615	227	長方形	0.62	0.43	0.23
第1010回	PL.58	431	4	2	615-616	230	楕円形	0.53	0.34	0.27
第1010回	PL.58	432	4	2	611	221-222	楕円形	0.53	0.39	0.28
第1168回	PL.62	433	5	3	632	230	円形	径0.32	0.29	201土を掘り込む。
第1168回	PL.62	434	5	3	633	227-228	楕円形	0.49	0.39	0.22
第1168回	PL.62	435	5	3	632	227	長方形	0.47	0.27	0.16
第117・118回	PL.62	436	5	3	636	239-240	楕円形	0.47	0.41	0.13
第117・118回	PL.62	437	5	3	632	229	楕円形	(0.63)	0.43	0.13
第1168回	PL.62	438	5	3	632	228-229	楕円形	0.38	0.32	0.15
第1168回	PL.62	439	5	3	634	227	楕円形	0.36	0.29	0.33
第1168回	PL.62	440	5	3	635-636	226-227	楕円形	0.90	0.86	0.14
第1168回	PL.62	441	5	3	635-636	225-226	楕円形	0.47	0.37	0.12
第1177回	PL.62	442	5	3	634-635	235	楕円形	0.45	0.37	0.19
第1177回	PL.62	443	5	3	634	234	楕円形	0.45	0.40	0.17
第1177回	PL.62	444	5	3	637-638	231-232	円形	径0.52	0.24	445 Pを掘り込む。
第1177回	PL.62	445	5	3	637	231-232	長方形	0.46	(0.40)	0.26
第1177回	PL.63	446	5	3	637	228-229	楕円形	0.32	0.27	0.20
第1168回	PL.63	447	5	3	636	227-228	長方形	0.41	0.36	0.12
第1168回	PL.63	448	5	3	636	228	楕円形	0.63	0.37	0.82
第1177回	PL.63	449	5	3	640-641	235-236	長方形	0.60	0.45	0.21
第1168回	PL.63	450	5	3	632-633	227	方形	一辺0.34	0.31	23溝を掘り込む。

採種	写真図版	番号	区	面	位置(座標値) X=61... Y=94...	平面形状	規模(m)			重複	備考	
							長軸	短軸	深さ			
第116図	PL.63	451	5	3	632	226	長方形	0.30	0.23	0.31		
第116・118図	PL.63	452	5	3	632	226	方形	一辺0.34		0.44	467 Pを掘り込む。471 Pと重複するが新旧関係は不明。	須恵器短頸直土点
第116図	PL.63	453	5	3	633	226	楕円形	0.45	0.34	0.30		
第116図		454	5	3	632	225-226	方形	一辺0.27		0.45		
第116図		455	5	3	633	226-227	方形	一辺0.37		0.38		
第116図		456	5	3	630	226	楕円形	0.40	0.30	0.41	457 Pを掘り込む。	
第116図		457	5	3	630	226	楕円形	0.33	0.27	0.38	456 Pに掘り込まれる。	
第116・117図		458	5	3	630	226-227	楕円形	0.33	0.26	0.36		
第116・117図		459	5	3	633-634	226	楕円形	0.31	0.27	0.42	460 Pに掘り込まれる。	
第116・117図		460	5	3	633-634	226	長方形	0.35	0.30	0.39	459 Pを掘り込む。	
第116・117図		461	5	3	634	226	楕円形	0.45	0.34	0.65		
第116・117図		462	5	3	632-633	225	長方形	0.42	0.37	0.31	470 Pを掘り込む。	
第117図		463	5	3	635	240	長方形	0.47	0.44	0.24		
第117図		464	5	3	637-638	239	長方形	0.80	0.71	0.29	465 Pに掘り込まれる。	
第117図		465	5	3	637-638	238-239	長方形	0.53	0.47	0.11	464 Pを掘り込む。	
第116・117図		466	5	3	631	226	楕円形	0.38	0.28	0.31		
第116・117図		467	5	3	631-632	226	推定長方形(0.33)	0.24	0.25	0.25	452 Pに掘り込まれる。	
第116・117図		468	5	3	633	225-226	楕円形	0.38	0.30	0.47		
第116・117図		469	5	3	633	225	楕円形	0.31	0.26	0.29		
第116・117図		470	5	3	632	225	推定楕円形(0.35)	0.30	0.30	0.11	462 Pに掘り込まれる。	
第116・117図		471	5	3	632	225-226	長方形	0.32	0.29	0.38	452 Pと重複するが新旧関係は不明。	

第6表 遺物観察表

7号溝

採種 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第22図 PL.64	1	石製品 砥石	P1埋土 不明	長 幅	8.7 3.1 厚 重	0.5 24.2	珪質粘板岩	正面に砥面が認められ細かい線条痕が多数認められる。上下側面と左右側面は、いずれも長軸方向にはば並行する直線的な線条痕が多数認められ加工痕の可能性が有る。	

20号土坑

第61図 PL.64	1	剥片石器 石礫	埋土 完形	長 幅	1.8 1.4 厚 重	0.3 0.5	黒曜石	押圧剥離による内面加工が認められる。内側面はやや鋭角状を呈する。裏面の中央には素材剥片割裂の主要剥離面が認められる。	
---------------	---	------------	----------	--------	----------------------	------------	-----	--	--

31号土坑

第61図 PL.64	2	礫石器 磨石	埋土 完形	長 幅	12.1 8.4 厚 重	7.4 1227.7	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面に磨面が認められる。表面の上方と下方に敲打痕が認められる。	
第61図 PL.64	3	礫石器 敲石	埋土 完形	長 幅	18.0 6.8 厚 重	5.4 933.8	粗粒輝石安山岩	棒状の内礫を利用する。下側に敲打痕と剥離面が集まる。剥離面は敲打により形成されたと考えられる。	
第61図 PL.64	4	礫石器 石皿	埋土 完形	長 幅	27.9 24.9 厚 重	8.8 9600.0	粗粒輝石安山岩	扁平な大形内礫を利用する。表面に帯状に非常に滑らかな面が認められ、砥面の可能性がある。	
第61図 PL.64	5	石製品 砥石	埋土 不明	長 幅	10.0 6.8 厚 重	6.5 327.5	粗粒輝石安山岩	正面に砥面が認められる。石質は粗粒であり粗珪と判断できる。	

57号土坑

第61図 PL64	6	龍泉宮系内 磁 鬮蓋弁文碗	埋土 口縁部片				緻密/良好	外面輪蹄弁文碗。内外面青磁釉。粗い貫入入る。	13世紀
--------------	---	---------------------	------------	--	--	--	-------	------------------------	------

76号土坑

第61図 PL64	7	中国陶器 天目碗か	埋土 体部片				緻密/良好	胎土黒色で白色彫物微量含む。内外面天目釉で外面下位無釉。内面に暗文状の線が認められる。	中世か
--------------	---	--------------	-----------	--	--	--	-------	---	-----

1号住居

第77図 PL.64	1	赤生土器 甕	南東隅壁際床面直上 口縁部～胴上半 ほぼ完存	口	10.0		C	口縁部～胴部上位にかけて帯状波状文を4帯施文。施文員9面15mm。内外面共に著しい被熱風化・剥離。	樽式
第77図 PL.64	2	赤生土器 甕	埋土 底部1/2	底	8.5			多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や灰白色・黒灰色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや砂質/良好	樽式
第80図 PL.64	1	赤生土器 台付甕	埋土 脚台部欠損	口	14.1			多量の円磨度の進んだ灰白色・珪質乳白色・黒灰色岩片や輝石と少量の赤色岩片の粗・細砂を含みやや砂質/良好	樽式

2号住居

遺物観察表

採 掘 No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 数	計 測 値			胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口	底	高			
第80図 PL-64	2	赤生土器 甕	南半部東壁際床 面直上 口縁部～胴上半 ほぼ完存	口	15.6		少～中量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含み緻密/良好	口縁部～胴部上位にかけて縞縞波状文を6～7帯施す。施文具9歯15mm。外面胴部縦位段磨き。一部に煤炭灰化物付着。内面縦位段磨き、胴部中心位炭灰化物付着。	樽式
第80図 PL-64	3	赤生土器 甕	南半部東壁際床 面直上 口縁部～胴上半 ほぼ完存	口	12.4		中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や少量の赤色岩片・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含み緻密/良好	口縁部～胴部上位にかけて縞縞波状文を5帯施す。施文具6歯10mm。外面胴部縦位・内面縦位の段磨き。	樽式
第80図 PL-64	4	赤生土器 甕	埋上 底部完存	底	7.2		多量の円磨度の進んだ灰白色・珪質乳白色・黒灰色岩片や輝石と少量の赤色岩片の粗・細砂を含みやや粗雑/良好	外面縦位・内面縦位の段磨き。内面やや被熱風化、一部剥離。	樽式
第80図 PL-64	5	赤生土器 甕	埋上 口縁部1/3	口	14.5		中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や少量の赤色岩片・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含み緻密/良好	やや乱雑な縞縞波状文を複数帯施す。内外面共にやや被熱風化。	樽式
3号住居									
第81図 PL-64	1	赤生土器 甕	埋上 胴部片				中～多量の長石や円磨度の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	複合口縁から胴部にかけて縞縞波状文を複数帯施す。内外面共に被熱風化。	樽式
第81図 PL-64	2	赤生土器 甕	埋上 胴部片				多量の円磨度の進んだ灰白色・珪質乳白色・黒灰色岩片や輝石と少量の赤色岩片の粗・細砂を含みやや粗雑/良好	やや粗雑な縞縞波状文を施す。施文具10歯15mm。外面被熱風化、内面縦位段磨き。	樽式
第81図 PL-64	3	赤生土器 甕	埋上 頸部片				少量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石、石英の粗・細砂や赤色岩片・粗砂を含み緻密/良好	縞縞波状文を施す。内外面共に被熱風化。	樽式
4号住居									
第84図 PL-65	1	赤生土器 甕	床面直上 頸部2/3				多量の円磨度の進んだ灰白色・赤色・黒灰色岩片の礫・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや粗雑/良好	頸部から胴部にかけて縞縞T字文を施す。施文具18歯19mm。内外面共に風化。	樽式
第84図 PL-65	2	赤生土器 甕	貯蔵穴底面 底部完存	底	7.0		多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や灰白色・黒灰色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや砂質的/良好	外面縦位・内面縦位の段磨き。内外面共にやや被熱風化。内面縦位に煤炭灰化物付着。	樽式
第84図 PL-65	3	赤生土器 甕	貯蔵穴埋上 頸部完存	底	7.6		多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や灰白色・黒灰色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや砂質的/良好	外面縦位段磨き、内面縦位段磨き。内外面共にやや被熱風化。外面一部に煤炭灰化物付着。	樽式
5号住居									
第86図 PL-65	1	赤生土器 甕	中央部床面直上 頸部2/3	口 底	22.0 9.0	高 31.8	少量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片の礫・粗砂と珪質乳白色岩片・石英・輝石の粗・細砂を含み緻密/良好	口縁部から胴部上位にかけて縞縞波状文を7帯施す。施文具9歯14mm。外面胴部縦位・内面縦位の段磨き。内外面共に被熱風化、外面口縁部と内面胴部下平に煤炭灰化物付着。	樽式
第86図 PL-65	2	赤生土器 甕	埋上 口縁部～頸部 1/3	口	22.0		少量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片の礫・粗砂と珪質乳白色岩片・石英・輝石の粗・細砂を含み緻密/良好	括弧内に3連し縞縞連文を施し、同波状文を口縁部と胴部上位に各3・1帯施す。施文具13歯25mm。内外面共に被熱風化。	樽式
第86図 PL-65	3	赤生土器 甕	埋上 口縁部～頸部 1/2	口	14.8		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	口縁部から頸部にかけて縞縞波状文を3帯施す。内外面共に著しい被熱風化。	樽式
第86図 PL-65	4	赤生土器 甕	埋上 口縁部～胴部 1/3				中～多量の長石や円磨度の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	頸部から胴部上位にかけて縞縞波状文を4帯以上施すが、著しい被熱風化により詳細不明。内面縦位段磨き、被熱風化・剥離。	樽式
第86図 PL-65	5	赤生土器 甕	中央西寄床面 直上 頸部～胴部1/3				中～多量の長石や円磨度の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	頸部から胴部上位にかけて縞縞波状文を4帯以上施すが、著しい被熱風化により詳細不明。内面被熱風化・剥離。	樽式
第86図 PL-65	6	赤生土器 甕	中央部床面直上 胴部下半～底部 3/4	底	9.0		中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や少量の赤色岩片・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含み緻密/良好	外面縦位・内面縦位の段磨き。内外面共に著しい被熱風化。	樽式
第86図 PL-65	7	赤生土器 甕	中央東寄床面 直上 胴下半～底部完 存	底	9.4		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	外面縦位・内面縦位の段磨き。内外面共に被熱風化、一部剥離。内面煤炭灰化物付着。	樽式
第86図 PL-65	8	赤生土器 甕	北西付近床面 直上 口縁部～胴部上 位1/3	口	26.0		多量の円磨度の進んだ灰白色・赤色・黒灰色岩片の礫・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや粗雑/良好	口縁部～胴部上位にかけてやや乱雑な縞縞波状文を6～7帯施す。施文具17歯。内面縦位段磨き、外面やや被熱風化。	樽式

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第868Ⅸ PL.6	9	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部中 位2/3	口	14.5		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰 白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石 英・角閃石等の粗・細砂および微量 の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	括れ部に等間止帯縞連文を施し、同 波状文を口縁と胴部上位に各3、1帯 施文。外面著しい被熱風化により施文 の詳細不明。外面横位磨き、被熱風化。	構式	
第868Ⅸ PL.10	10	弥生土器 甕	埋土 頸部～胴部中位 1/3	口			中～多量の長石や円磨度の進んだ灰 白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石 英・角閃石等の粗・細砂および微量 の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	口縁部から胴部上位にかけて縞波状文 を6帯以上施す。被熱風化・割傷により 詳細不明。外面横位磨き、やや被熱 風化。	構式	
第868Ⅸ PL.11	11	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部 底完存	口	14.5		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰 白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石 英・角閃石等の粗・細砂および微量 の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	口縁部から胴部上位にかけて縞波状文 を4帯施す。施文具13箇17mm。外面縦位・ 内面横位の磨き。内外面共に被熱風化。 外面口縁部・内面胴部中位に僅かな煤状 炭化物付着。	構式	
第868Ⅸ PL.66	12	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部 中位1/3	口	16.4		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰 白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石 英・角閃石等の粗・細砂および微量 の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	口縁部から胴部上位にかけて縞波状文 を5帯施す。施文具9箇15mm。内外面 共にやや被熱風化。外面口縁部に煤状炭 化物付着。内面横位磨き。胴部中位煤状 炭化物付着。	構式	
第868Ⅸ PL.66	13	弥生土器 甕	伊予国床面直上 口縁部～胴部 中位2/3	口	13.5		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰 白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石 英・角閃石等の粗・細砂および微量 の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	口縁部から胴部上位にかけて縞波状文 を5帯施す。施文具9箇15mm。内外面 共にやや被熱風化。外面口縁部に煤状炭 化物付着。内面横位磨き。胴部中位煤状 炭化物付着。	構式	
第87Ⅸ PL.66	14	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部 中位	口	19.2		多量の円磨度の進んだ灰白色・珪質 乳白色・黒灰色岩片や輝石と少量の 赤色岩片の粗・細砂を含みやや粗 緻/良好	口縁部から胴部上位にかけてやや乱 雑な縞波状文を6～7帯施す。施文具9箇 15mm。内外面共に被熱風化。外面胴部上 位一部に煤状炭化物付着。	構式	
第87Ⅸ PL.66	15	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部 1/3	口	23.0		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰 白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石 英・角閃石等の粗・細砂および微量 の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	口縁部から胴部上位にかけてやや乱 雑な縞波状文を7～8帯施す。内外面共に 著しい被熱風化により施文具等詳細不 明。	構式	
第87Ⅸ PL.66	16	弥生土器 甕	埋土 底部完存	底	8.0		多量の円磨度の進んだ珪質乳白色・ 灰白色岩片および輝石の粗・細砂を 含みやや緻密/良好	内外面共に著しい被熱風化・割傷。	構式	
第87Ⅸ PL.66	17	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部 1/4	口	21.5		多量の円磨度の進んだ灰白色・珪質 乳白色・黒灰色岩片や輝石と少量の 赤色岩片の粗・細砂を含みやや粗 緻/良好	口縁部から胴部上位にかけてやや乱 雑な縞波状文を4帯施す。施文具8箇 16mm。内外面共に被熱風化。	構式	
第87Ⅸ PL.66	18	弥生土器 小型台付甕	伊予国床面直上 口縁部～胴部 1/3	口	10.0		少～中量の円磨度の進んだ灰白色岩 片・珪質乳白色岩片・輝石の粗・細 砂を含み緻密/良好	括れ部に縞波連文を、口縁部と胴部 に同波状文を各2、1帯施文。施文具5箇 10mm。外面著しい被熱風化。内面横位 磨き・被熱風化。	構式	
第87Ⅸ PL.66	19	弥生土器 小型台付甕	埋土 胴部1/3	口			少～中量の円磨度の進んだ灰白色岩 片・珪質乳白色岩片・輝石の粗・細 砂を含み緻密/良好	括れ部に縞波連文を施す。被熱風化 のため詳細不明。外面横位磨き・内面横 位の磨き。内外面共に被熱風化。	構式	
第87Ⅸ PL.66	20	弥生土器 台付甕	埋土 底部2/3	脚 柱	9.0		中～多量の長石や円磨度の進んだ灰 白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石 英・角閃石等の粗・細砂および微量 の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	外面縦位磨き。内面横位磨き。内外 面共に被熱風化。	構式	
第87Ⅸ PL.66	21	割片石器 石剣	埋土 2/3	長 幅	16.0 17.9	厚 重	1.1 502.9	細粒輝石安山岩	表裏面に節理面を大きく傾し石材を資源 から採取している可能性がある。表裏面 の先端部との二次加工は比較的激進であ り素材形態を大きく変化させることなく 刃部に利用する。	
第87Ⅸ PL.66	22	割片石器 石皿	埋土 完形	長 幅	39.9 28.2	厚 重	9.9 15700	粗粒輝石安山岩	扁平大形円盤を利用する。表面の全体 に滑らかな面が認められる。表面には縦 糸痕及び敲打痕が集中する。裏面には部 分的な滑らかな面が認められる。	
25号溝										
第90Ⅸ PL.66	1	割片石器 石剣	埋土 1/2	長 幅	9.0 12.2	厚 重	1.6 185.2	細粒輝石安山岩	先端部付近に部分的な節理が認められ 使用痕の可能性ある。上端部は折断面 であるが、わずかに折断後の加工が認め られる。	
142号土坑										
第92Ⅸ PL.66	1	縄文土器 深鉢	埋土 底部1/4	底	7.0			少～中量の円磨度の進んだ灰白色岩 片・珪質乳白色岩片・輝石の粗・細 砂を含み緻密/良好	外面丁寧な斜位磨き。内面やや被熱風化。	後期中葉
27号溝										
第104Ⅸ PL.67	1	石製品 砥石	埋土 1/2	長 幅	24.4 17.4	厚 重	9.2 2029.8	粗粒輝石安山岩	正面と右側面には、幅20mm程度の長方形 の浅くぼびが連続的に認められる。長 方形のくぼびは磨ぎの作業単位と想定さ れる。裏面にはやや内湾する滑らかな面 が認められる。本来はこの裏面を機能面 とする石鉢等であったものが砥石に転用 された可能性がある。多孔質で粗粒の石 質であり粗粒に分類される。	

遺物観察表

23号溝

採掘 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11009 PL.67	1	肥前陶器 陶胎染付碗	埋土 底部1/2	底径	4.0		緻密/良好	体部下面下位と高台外面1重圈線。高台 端部を除き貫入の入る透明線。	18世紀前半 ～中葉
第11009 PL.67	2	石製品 砥石	埋土 不明	長 幅	3.6 2.6	厚 重	2.0 25.0	風沢石	正面及び裏面に砥面に認められる。両面 面に磨きタガナ痕が認められる。

2号井戸

第11209 PL.67	1	土師器 鉢	埋土 口縁部～体部片	口 径	17.4			細砂粒/良好/ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部は縦方向のヘラ削り。 内面体部はヘラナデ。	
-----------------	---	----------	---------------	--------	------	--	--	------------	------------------------------------	--

209号土坑

第11509 PL.67	1	石製品 砥石	埋土 2/3	長 幅	7.2 1.4	厚 重	2.8 52.7	風沢石	正面と左右両面に砥面が認められる。 正面はやや片減りするが左右両面にはほ ぼ平削である。裏面は滑らかでなく砥面 とは想定されないが、縦から斜め方向の 線条痕が認められる。	
-----------------	---	-----------	-----------	--------	------------	--------	-------------	-----	---	--

436号ピット

第11809 PL.67	1	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部上 平1/3	口 径	22.0			多量の円磨度の進んだ灰白色・赤色・ 黒灰色岩片の塵・粗砂と中量の珪質 乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含み やや緻密/良好	口縁部～胴部上半に縞縞線文を多段に 施す。施文員5mm。内外面共にやや 被熱風化、外面炭状灰化物付着。	弥生中期
第11809 PL.67	2	弥生土器 甕	埋土 口縁部～胴部上 平1/3	口 径	15.5			中量の円磨度の進んだ灰白色岩片や 少量の赤色岩片塵・粗砂と中量の珪 質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含 み緻密/良好	口唇上に18縞文を横位施文。口縁部～ 胴部にかけて縞縞の波状文と横線文を交 互に多段に施す。施文員6mm。外面 被熱風化、一部に炭状灰化物付着。内面 横位施文。	弥生中期

437号ピット

第11809 PL.67	3	土師器 杯	埋土 口縁部～体部小 片	口 径 底径	9.6 9.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(底下)は手持ちヘ ラ削り。	蓄積散形壺
-----------------	---	----------	--------------------	--------------	------------	--	--	----------	-----------------------------	-------

452号ピット

第11809 PL.67	4	須恵器 短頸壺	埋土 2/3	口 径 胴 高	8.5 11.3	底 高	6.4 9.6	細砂粒/還元焼/灰白	口口整形。回転右回り。底部から体部 下半は手持ちヘラ削り。	
-----------------	---	------------	-----------	------------------	-------------	--------	------------	------------	----------------------------------	--

4区遺構外

第11909 PL.67	1	肥前磁器 染付猪口	表土～確認面 堆積土 3/2	口 径 底径	7.1 4.2	高	5.7	緻密/良好	外面に文差する草文を描く。高台端部無 輪。	18世紀前半 ～中葉
第11909 PL.67	2	瀬戸・美濃 磁器 染付磁蓋	表土～確認面 堆積土 1/3	口 径 幅	9.0 3.6	高	2.6	緻密/良好	天井部酸化コバルトによる手描きの菊菊 文。口縁部酸化コバルト。	近現代

2区遺構外

第11909 PL.67	3	縄文土器 粗製深鉢	表土～確認面 堆積土 口縁部～胴部 1/5					多量の円磨度の進んだ赤色岩片塵・ 粗砂や珪質乳白色岩片粗・細砂と中 量の黒色岩片・角閃石の粗・細砂を 含みやや粗雑/良好	口唇部が丸頭状に肥厚する無文の粗製深 鉢。内外面に被熱風化のため不詳だが 施文員または施文員による推定痕の整形 痕を残す。	後期後半
-----------------	---	--------------	--------------------------------	--	--	--	--	---	--	------

5区遺構外

第12009 PL.67	1	土師器 杯	表土～確認面 堆積土 4/5	口 径 最	10.9 9.5	高	3.4	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部は上位がナデ、中 位・下位から底部は手持ちヘラ削り。	
第12009 PL.67	2	土師器 杯	表土～確認面 堆積土 4/5	口 径 最	9.8 10.2	高	3.6	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上位がナデ、中 位・下位から底部は手持ちヘラ削り。	
第12009 PL.67	3	古瀬戸陶器 飯蓋	表土～確認面 堆積土 口縁部片					緻密/良好	口縁部屈曲した後外反。直径は27cm前後 と推定される。内外面薄く灰化。外面の 輪縞目跡著。	15世紀
第12009 PL.67	4	丹波陶器 すり鉢	表土～確認面 堆積土 口縁部片					緻密/良好	口縁部割厚し、端部上面は平坦。	17世紀後半 ～18世紀 前半
第12009 PL.67	5	滑片石器 石礮	表土～確認面 堆積土 4/5	長 幅	4.2 2.0	厚 重	0.6 0.8	黒曜石	押圧割離による内面加工が認められる。 基部欠損。	巴基有基礮
第12009 PL.67	6	滑片石器 打製石斧	表土～確認面 堆積土 1/4	長 幅	5.4 4.9	厚 重	0.9 24.5	黒色頁岩	表裏面の先端付近に僅かに摩滅が認めら れ使用痕の可能性はある。	
第12109 PL.67	7	礫石器 磨石	表土～確認面 堆積土 完形	長 幅	10.3 6.6	厚 重	3.3 246.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨 面が認められる。表面の中央やや上方に 穀打痕が認められる。	
第12109 PL.67	8	礫石器 磨石	表土～確認面 堆積土 完形	長 幅	10.6 8.9	厚 重	3.8 540.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全面に磨 面が認められる。	
第12109 PL.67	9	礫石器 磨石	表土～確認面 堆積土 完形	長 幅	14.9 8.4	厚 重	4.4 774.2	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面にほぼ平坦な磨 面が認められる。磨面には多方向の細かい 線条痕が認められる。	

採 掘 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計 測 値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第1219 PL.67	10	礮石器 敲石	表上～確認面 堆積土 完形	長 幅	14.8 6.2	厚 重	4.2 528.3	粗粒輝石安山岩	棒状の円鏝を利用する。正面と裏面のやや上方に敲打痕が集中する。表面の敲打痕の下方に細い縦条痕が認められる。	
第1219 PL.67	11	割片石器 石礮	表上～確認面 堆積土 4/5	長 幅	18.4 9.0	厚 重	2.3 535.1	粗粒輝石安山岩	裏表面に節理面を大きく残し石材を露頭から採取している可能性がある。裏面の先端部に部分的な摩滅があり使用痕の可能性はある。内側面のやや上方につぶれが認められる着柄痕の可能性はある。	
第1219 PL.68	12	割製品 キセル(吸い 口)	表上～確認面 堆積土 一部欠損	長 幅	5.5 1.3	厚 重	1.3 8.96		溶接痕あり。内部に刻みたばこ残存か。	
第1219 PL.68	13	割製品 キセル(煙 筒)	表上～確認面 堆積土 大面部分欠損	長 幅	5.3 1.2	厚 重	1.8 5.55		頸部で破損。溶接痕あり。潰れあり。	
第1219 PL.68	14	割製品 鉄貨	表上～確認面 堆積土 完形	縦 横	2.427 2.426	厚 重	0.121 2.44		開元通貨。背の影は浅い。背面上部に溝出あり。	
第1219 PL.68	15	割製品 鉄貨	表上～確認面 堆積土 完形	縦 横	2.462 2.463	厚 重	0.121 3.13		寛永通貨。古寛永。背はやや浅い。	
第1219 PL.68	16	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 口縁部片					多量の円磨部の進んだ灰白色・赤色・黒灰色岩片の礫・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	LR縄文を縦位施文し、胴部の区画文や渦巻文を施す。内外面共にやや被熱風化。	加曾利E3式
第1219 PL.68	17	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 胴部片					多量の円磨部の進んだ灰白色・赤色・黒灰色岩片の礫・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	縦帯状の条線文を縦位施文。内外面共にやや被熱風化。	加曾利E3式
第1219 PL.68	18	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 胴部片					多量の円磨部の進んだ灰白色・赤色・黒灰色岩片の礫・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	微隆起帯による区画文を施す。	称名寺1式併行
第1219 PL.68	19	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 口縁部～胴部 完形	口	34.3			多量の円磨部の進んだ灰白色・赤色・黒灰色岩片の礫・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	3単位の波状口縁。波頂部内外面口縁部に単沈線の渦巻文・横線文や円形竹管文と括弧部で2本の縦位波状隆帯文を施す。胴部集合沈線の渦巻文・横線文を施す。内外面共に被熱風化。	胴之内1式
第1220 PL.68	20	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 口縁部～胴部 1/3	口	30.0			多量の円磨部の進んだ灰白色・赤色・黒灰色岩片の礫・粗砂と中量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	4単位の波状口縁。波頂部に沈線渦巻文や円形刺突文を、胴部下に横線文を施す。胴部は横文や波頂部から垂下する顕状隆帯文の区画内に3本単沈線の渦巻文を施す。L縄文を充て紙施文。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化。	胴之内1式
第1220 PL.68	21	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 口縁部片					中量の円磨部の進んだ結晶片岩・黒灰色岩片・珪質乳白色岩片の粗・細砂と少量の雲母細砂を含む滑り感あり緻密/良好	波状口縁。口縁内部に凹線状の横線文を施す。頸部にかけて羽状沈線文を複数箇所に施文。内外面共に横位磨き。	加曾利B3式
第1219 PL.68	22	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 口縁部片					多量の円磨部の進んだ珪質乳白色岩片の礫・粗砂と中量の赤色岩片粗・細砂や繊維を含みやや粗雑/良好	半截竹管状肌連続彫形文・菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化。	有尾式
第1219 PL.68	23	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 胴部片					中量の長石や円磨部の進んだ赤色岩片と少量の灰白色岩片・石英・輝石の粗・細砂および繊維を含みやや粗雑/良好	L・R縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化。	有尾式
第1220 PL.68	24	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 胴部片					中量の長石や円磨部の進んだ赤色岩片と少量の灰白色岩片・石英・輝石の粗・細砂および繊維を含みやや粗雑/良好	LR縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第1220 PL.68	25	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 口縁部片					中～多量の円磨部の進んだ灰白色・黒灰色岩片と少量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含み緻密/良好	波状口縁。LR縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化。一部割離。	諸議a式
第1220 PL.68	26	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 口縁部片					中～多量の長石や円磨部の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	逆J字状の懸垂文やL縄文を縦位に施す。外面被熱風化。内面横位磨き。	加曾利E3式
第1220 PL.68	27	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 胴部片					中～多量の長石や円磨部の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	LR縄文を縦位施文し、沈線懸垂文を施す。内外面共に被熱風化。	加曾利E3式
第1220 PL.68	28	縄文土器 深鉢	表上～確認面 堆積土 胴部片					中～多量の長石や円磨部の進んだ灰白色・黒灰色・赤色岩片と少量の石英・角閃石等の粗・細砂および微量の雲母細砂を含み、やや砂質的/良好	胴部に沈線懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化。内面被炭化灰化物付着。	胴之内1式

遺物観察表

採 取 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第122図 PL.68	29	縄文土器 深鉢	表土～確認面 堆積土 口縁部片				多量の円磨度の進んだ灰白色岩片・礫・粗砂や中量の石英・細砂と少量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	外面に粗い歯状の整形痕を残す。外面一部に煤状炭化物付着。内面横位磨き。	屈之内式
第122図 PL.68	30	縄文土器 深鉢	表土～確認面 堆積土 口縁部片				少～中量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	外削ぎ状の口脣上端に刻み目。口縁部に横線文を、内面に凹線状の幅広横線文を施す。内外面共に被熱風化により詳細不明。	加曾利B1式
第122図 PL.68	31	縄文土器 注口土器	表土～確認面 堆積土 胴部片				少量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片の礫・粗砂と珪質乳白色岩片・石英・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	弧状の沈線区両文を横位・多段に施文。内面一部風化剥離。	加曾利B1式
第122図 PL.68	32	縄文土器 深鉢	表土～確認面 堆積土 口縁部片				中量の円磨度の進んだ結晶片岩・黒灰色岩片・珪質乳白色岩片の粗・細砂と少量の雲母細砂を含み滑り感あり緻密/良好	口縁部頂部に魚尾状の突起を付し、内面側を縁取るように沈線文・刺突文やL状横線文を施す。口縁部に2本の縦位縁状刺突文や横線文・刺突文を施し、L状横線文を充填的に施文。外面凹痕状の整形痕を残す。内面丁寧な横位磨き。	高井東式
第122図 PL.68	33	縄文土器 深鉢	表土～確認面 堆積土 胴部片				中～多量の円磨度の進んだ灰白色岩片・石英や少量の輝石・珪質乳白色岩片等の粗・細砂を含みやや緻密/良好	単沈線を斜位・斜方向に施文して羽状の意匠を構成。内外面共にやや被熱風化。煤状炭化物付着。	高井東式
第122図 PL.68	34	縄文土器 粗製深鉢	表土～確認面 堆積土 口縁部片				中量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片や少量の石英・輝石等の粗・細砂を含みやや緻密/良好	無文の粗製深鉢。内外面共に横位磨きによる擦痕状の整形痕を残す。内外面共にやや被熱風化。外面一部に煤状炭化物付着。	後期後半
第122図 PL.68	35	縄文土器 深鉢	表土～確認面 堆積土 胴部下位～底部 1/4	底	7.5		少～中量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含みやや緻密/良好	外底面に刺状痕。外面縦位磨き。内面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	後期後半
第122図 PL.68	36	縄文土器 深鉢	表土～確認面 堆積土 口縁部片				多量の輝石と中量の円磨度の進んだ灰白色岩片および少量の珪質乳白色岩片の粗・細砂を含みやや緻密/良好	頸部が括れる袋形の深鉢。小波状部の口脣上面や内面に短沈線文を施し、同下部に凹線状の幅広横線文を施文。口縁部に単沈線の入組文や三叉文を施し、胴部に鋸の手状の沈線文や口縁部との境界に連続刺突文を施す。内外面共にやや風化。	佐野式併行?

写真図版



1. 1区全景(北東から)



2. 2区全景(北西から)



1. 2区全景(北西から)



2. 2区全景(北西から)



3. 2区全景(北西から)



4. 2区全景(南東から)



5. 2区全景(東から)



6. 2区調査風景(北西から)



7. 3区東側全景(南西から)



8. 3区調査風景(東から)



1. 3区全景(東から)



2. 3区全景(東から)



1. 4区全景(北東から)



2. 4区全景(北東から)



3. 4区全景(北東から)



4. 4区全景(北西から)



5. 4区全景(北西から)



6. 4区調査風景(東から)



7. 4区調査風景(東から)



1. 5区全景(南から)



3. 5区西側全景(東から)



2. 5区西側全景(南東から)



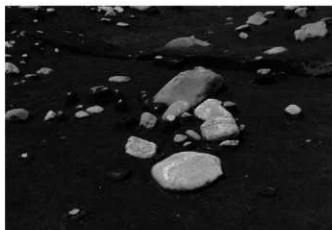
4. 5区北西側全景(東から)



5. 5区東側全景(東から)



6. 5区東側全景(東から)



7. 5区東側全景(東から)



1. 1(内側)・2(外側)号掘立柱建物全景(北から)



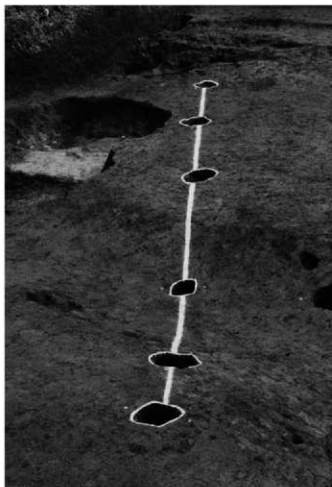
2. 10(右)・11(左)号掘立柱建物全景(北から)



3. 15(手前)・16(奥)号掘立柱建物全景(東から)



4. 16号掘立柱建物全景(東から)



5. 1号柵全景(西から)



6. 1号柵全景(東から)



7. 1号柵全景(南から)



1. 2・3号畑全景(南から)



2. 2・3号畑全景(南から)



3. 4号畑全景(南東から)



4. 7号畑全景(南から)



5. 9号畑全景(東から)



6. 10号畑全景(南から)



7. 16(奥)・17(手前)号畑全景(東から)



8. 1号道路全景(西から)



1. 1(左)・2(右)号溝全景(南から)



2. 3号溝全景(西から)



3. 4号溝全景(東から)



4. 6(左)・7(右)号溝全景(西から)



1. 9号溝全景(西から)



2. 11号溝全景(東から)



3. 1区15号畑、12～19号溝全景(東から)



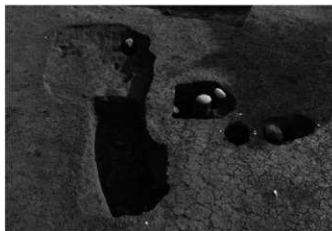
1. 20号溝全景(西から)



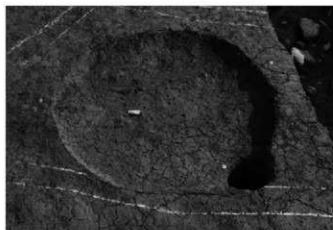
2. 21号溝全景(北東から)



3. 3号土坑全景(北から)



4. 6(奥)・7(手前)号土坑、40号ピット全景(北から)



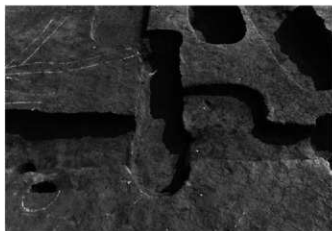
5. 8号土坑、9号ピット全景(北から)



6. 12号土坑全景(南から)



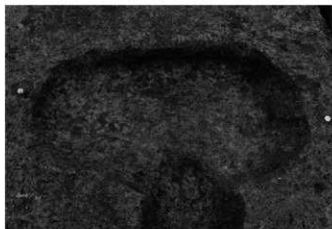
1. 13(奥)・15(手前)号土坑全景(南東から)



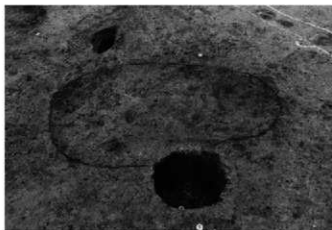
2. 13(右)・14(左)・15(中央)号土坑全景(北から)



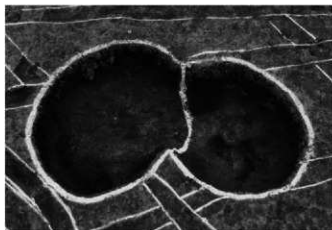
3. 16号土坑全景(南から)



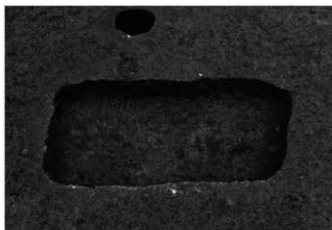
4. 16号土坑全景(北から)



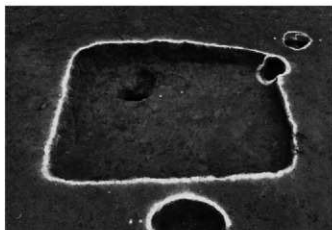
5. 17号土坑、2掘P3全景(東から)



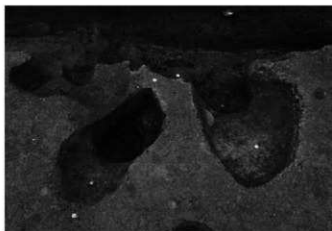
6. 18(右)・41(左)号土坑全景(南から)



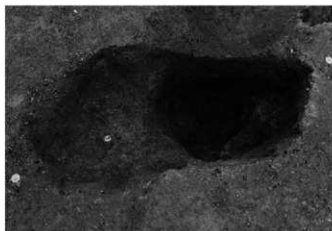
7. 19号土坑全景(西から)



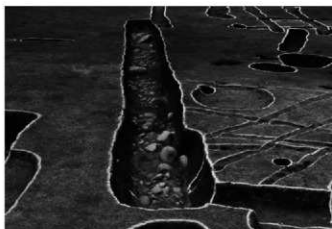
8. 20号土坑、122号ピット全景(南から)



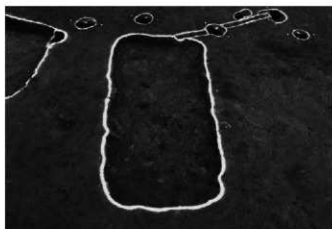
1. 21号土坑、1掘P 3(右)と2掘P 5・6(左)全景(北東から)



2. 2号掘立柱建物P 5(左)・6(右)全景(北から)



3. 22号土坑全景(南から)



4. 23号土坑全景(南から)



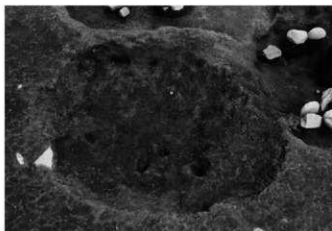
5. 24号土坑全景(西から)



6. 24(左)・25(右)号土坑全景(西から)



7. 26号土坑全景(東から)



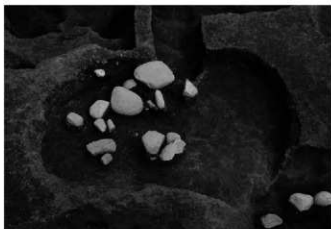
1. 27号土坑全景(西から)



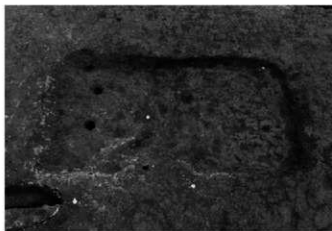
2. 28(左)・31(右)号土坑全景(北から)



3. 30号土坑全景(南から)



4. 31号土坑遺物出土状況(西から)



5. 33号土坑全景(北から)



7. 39・102号土坑(左)と79・83号土坑(右)全景(東から)



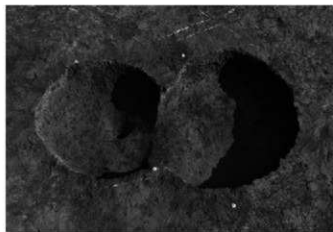
6. 35号土坑全景(北から)



1. 35(奥)・36(右)・37(左)号土坑全景(東から)



2. 40号土坑全景(東から)



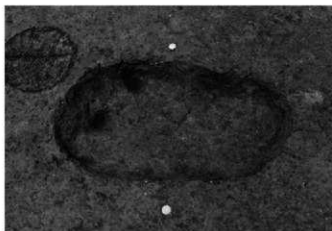
3. 41(右)・18(左)号土坑全景(北から)



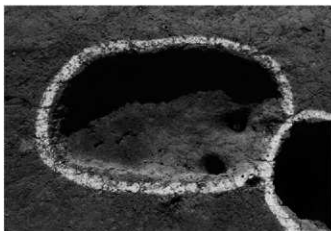
5. 42(奥・右)・77(奥・左)・78(手前)号土坑全景(東から)



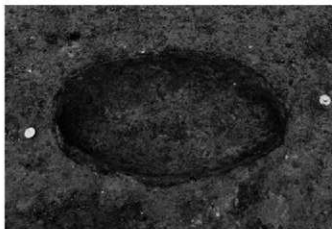
4. 42号土坑全景(東から)



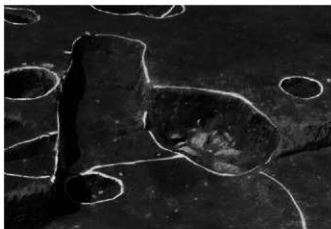
1. 43号土坑全景(東から)



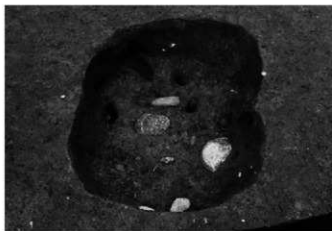
2. 43号土坑全景(西から)



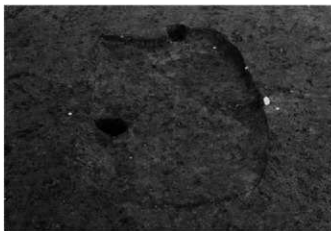
3. 44号土坑全景(南から)



4. 45(右)・58(左)号土坑(東から)



5. 46号土坑全景(西から)



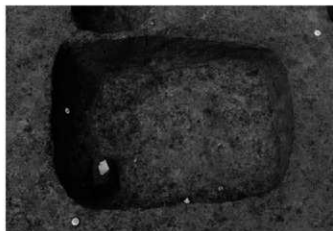
6. 47号土坑、10掘P1全景(西から)



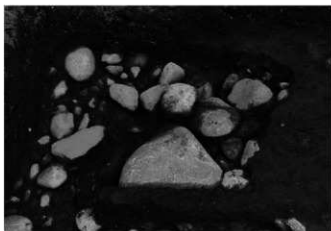
7. 48号土坑全景(南から)



8. 49号土坑全景(南から)



1. 51号土坑全景(東から)



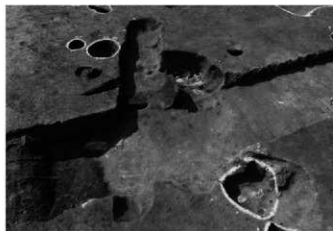
2. 55号土坑全景(南から)



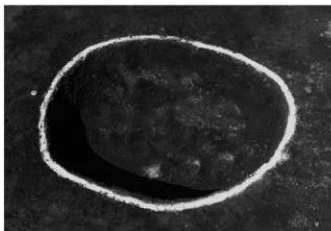
3. 56号土坑全景(南から)



4. 57号土坑全景(南から)



5. 58(奥・左)・45(奥・右)・59(手前)号土坑全景(東から)



6. 60号土坑全景(南から)



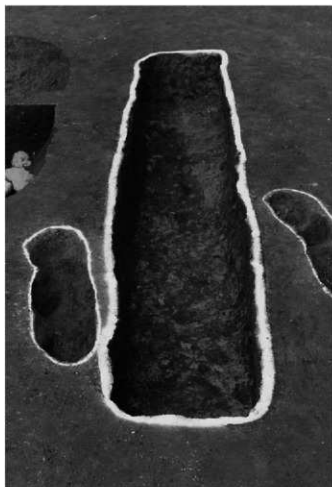
7. 61号土坑、129・212号ピット全景(東から)



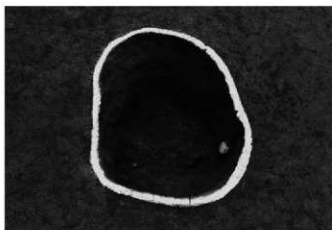
8. 62号土坑全景(南から)



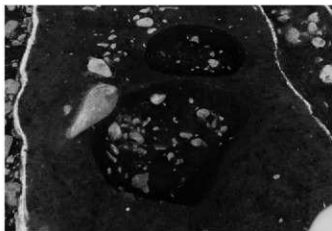
1. 63(手前・左)・64(手前・右)号土坑全景(南から)



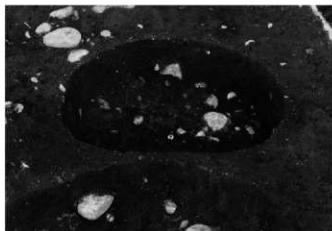
2. 65号土坑全景(南から)



3. 67号土坑全景(北から)



4. 68(手前)・69(奥)号土坑全景(南から)



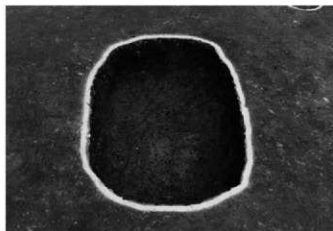
5. 69号土坑全景(南から)



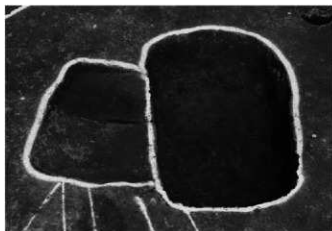
6. 70号土坑全景(南から)



7. 71号土坑全景(東から)



1. 74号土坑全景(南から)



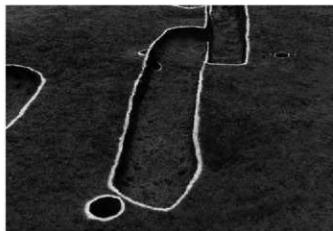
2. 75(左)・80(右)号土坑全景(南から)



3. 76号土坑全景(東から)



4. 76号土坑全景(東から)



5. 78号土坑、199号ピット全景(東から)



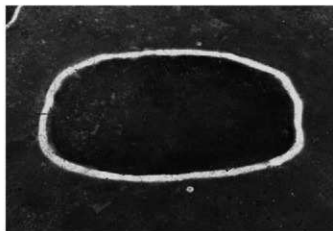
6. 79(左)・83(右)号土坑全景(東から)



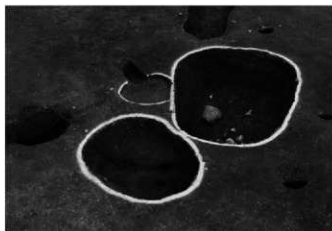
7. 82号土坑全景(南から)



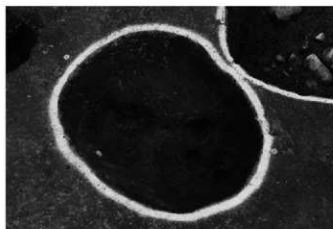
8. 83号土坑全景(東から)



1. 84号土坑全景(西から)



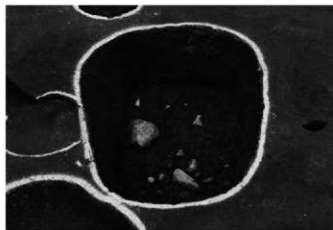
2. 85(手前)・86(奥・左)・87(奥・右)号土坑全景(南から)



3. 85号土坑全景(南から)



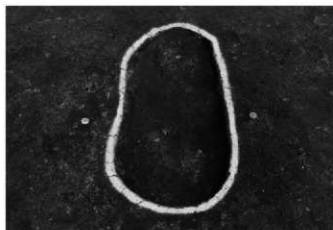
4. 86号土坑全景(南から)



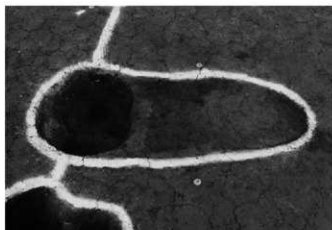
5. 87号土坑全景(南から)



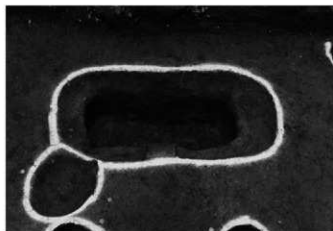
6. 88号土坑全景(南から)



7. 89号土坑全景(南から)



8. 90号土坑、9掘P1全景(西から)



1. 91号土坑全景(西から)



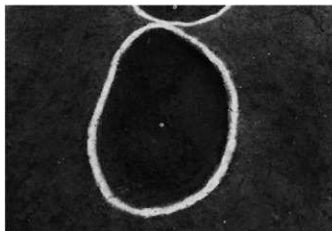
2. 92号土坑全景(南から)



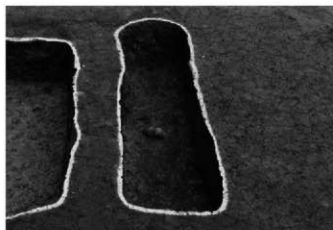
3. 93号土坑全景(南から)



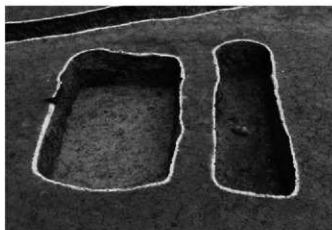
4. 94(手前)・62(奥)号土坑全景(南から)



5. 95号土坑全景(西から)



6. 97号土坑全景(北から)



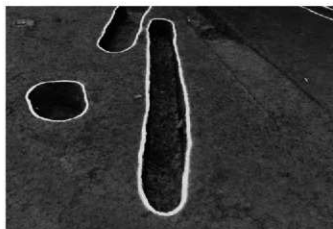
7. 98(左)・97(右)号土坑全景(北から)



1. 99号土坑全景(南から)



2. 100号土坑全景(南から)



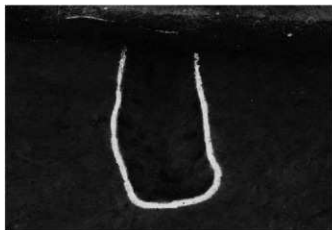
3. 101号土坑全景(南から)



4. 102号土坑全景(南から)



5. 103号土坑全景(南から)



6. 104号土坑全景(南から)



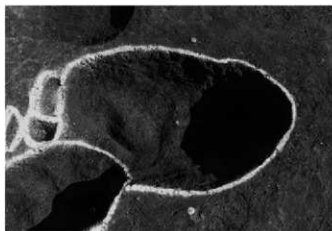
7. 106号土坑全景(西から)



8. 107(右)・108(左)号土坑全景(西から)



1. 109号土坑北側全景(南から)



2. 110号土坑全景(南から)



3. 111号土坑全景(西から)



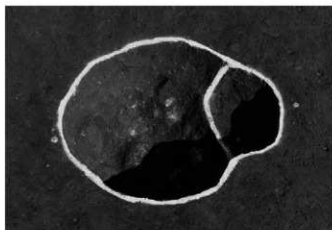
4. 112号土坑全景(西から)



5. 113(手前)・114(奥)号土坑全景(西から)



6. 115号土坑全景(西から)



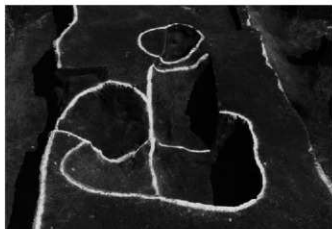
7. 116号土坑、198号ビット全景(南から)



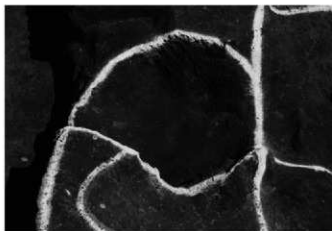
1. 117(左)・118(右)号土坑全景(北から)



2. 120号土坑全景(北から)



3. 121(奥・左)・107(手前・右)・108(手前・左)号土坑全景(西から)



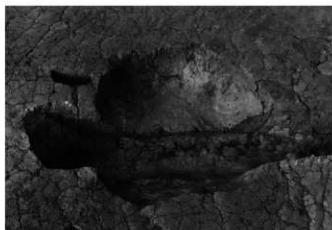
4. 121号土坑全景(西から)



5. 122号土坑全景(西から)



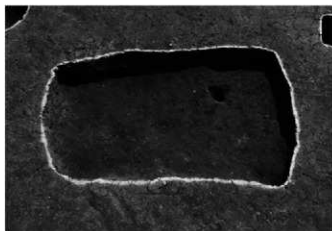
6. 123号土坑全景(西から)



7. 124号土坑全景(南から)



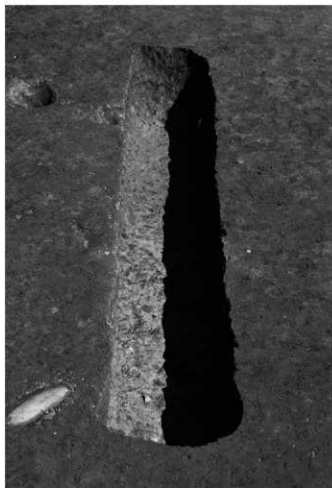
1. 127号土坑全景(北から)



2. 129号土坑全景(西から)



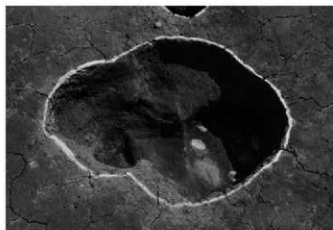
3. 134号土坑全景(南から)



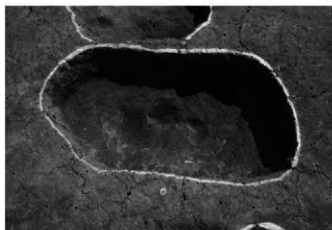
4. 135号土坑全景(南から)



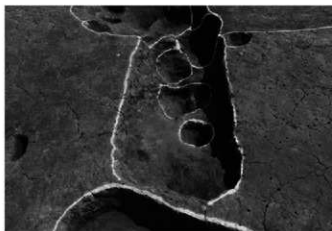
5. 136(手前)・137(中央)・138(奥)号土坑全景(西から)



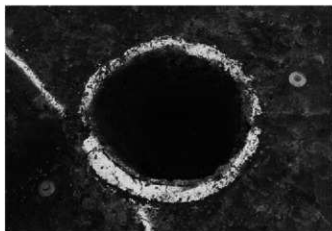
6. 136号土坑全景(西から)



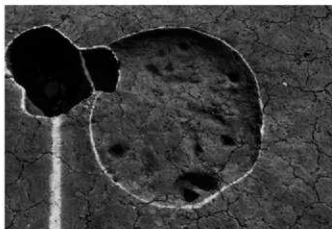
7. 137号土坑全景(西から)



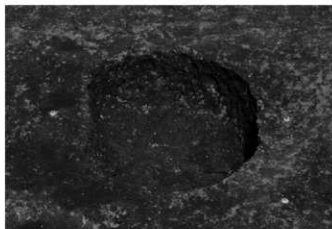
1. 138号土坑西側全景(西から)



2. 139号ピット全景(東から)



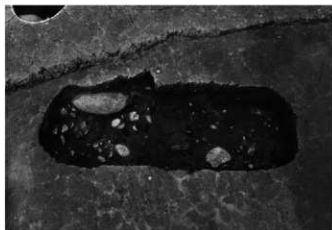
3. 139号土坑、7掘P2・15掘P8全景(北から)



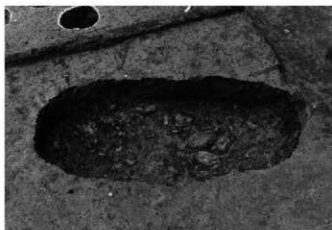
4. 141号土坑全景(南から)



5. 143号土坑全景(西から)



6. 144号土坑全景(東から)



7. 145号土坑全景(東から)



8. 149号土坑全景(南東から)



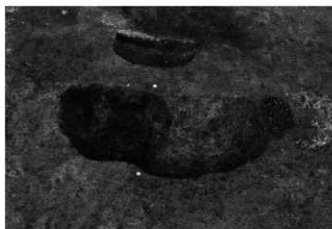
1. 151号土坑全景(南から)



2. 153号土坑全景(東から)



3. 154号土坑全景(南から)



4. 156号土坑全景(西から)



5. 157(右)・158(左)号土坑全景(西から)



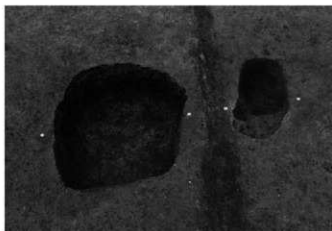
6. 158号土坑全景(西から)



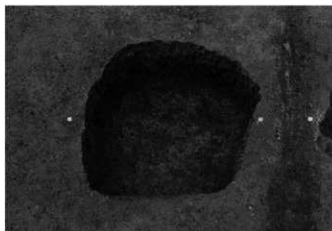
7. 159号土坑全景(西から)



8. 160号土坑全景(西から)



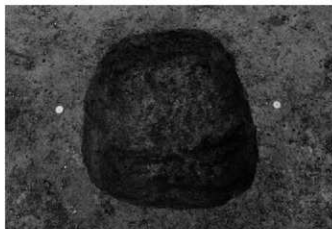
1. 161号土坑、379号ピット全景(南から)



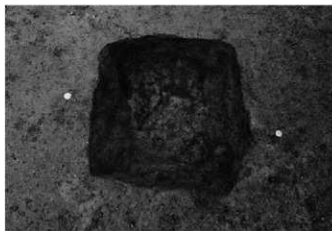
2. 161号土坑全景(南から)



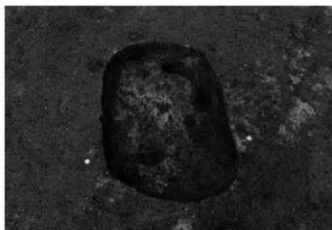
3. 162号土坑全景(東から)



4. 165号土坑全景(南から)



5. 166号土坑全景(南から)



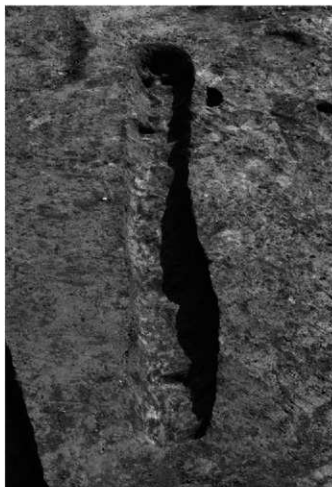
6. 167号土坑全景(南から)



7. 169号土坑全景(南から)



1. 170号土坑全景(南から)



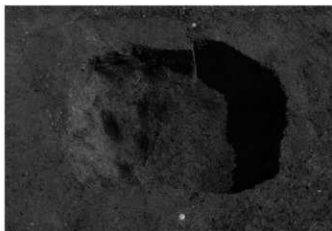
2. 171号土坑全景(西から)



3. 172号土坑全景(南から)



4. 173号土坑全景(南から)



1. 174号土坑全景(西から)



2. 175号土坑全景(南から)



3. 176号土坑全景(北から)



4. 177号土坑全景(南から)



5. 178号土坑全景(南西から)



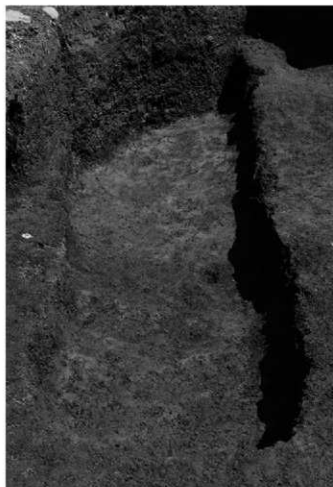
6. 179号土坑全景(西から)



7. 181号土坑全景(西から)



8. 183号土坑全景(北から)



1. 180号土坑全景(南から)



2. 182号土坑全景(北から)



3. 186号土坑全景(東から)



4. 189号土坑全景(東から)



1. 184号土坑全景(東から)



2. 185号土坑全景(東から)



3. 187号土坑全景(東から)



4. 188号土坑全景(南東から)



5. 190号土坑全景(南から)



6. 191号土坑全景(南西から)



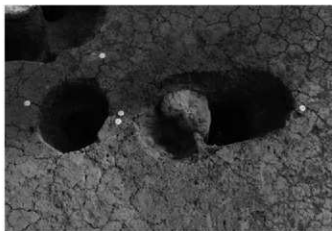
1. 192号土坑全景(南から)



2. 193号土坑全景(北西から)



3. 4区調査風景(東から)



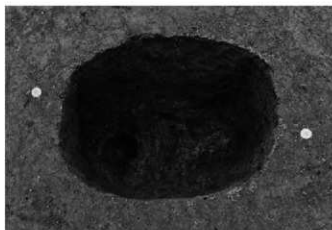
4. 1・2(右)・3(左)号ピット全景(北から)



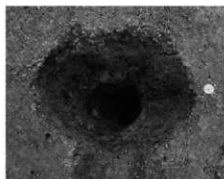
5. 2(右)・3(左)号ピット全景(北から)



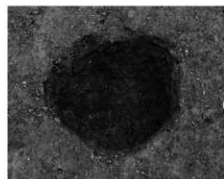
6. 5号ピット全景(北から)



7. 6号ピット全景(北から)



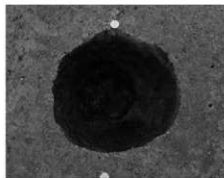
1. 7号ピット全景(東から)



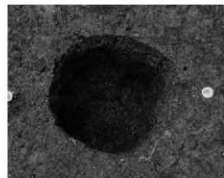
2. 8号ピット全景(南から)



3. 11号ピット全景(北から)



4. 13号ピット全景(東から)



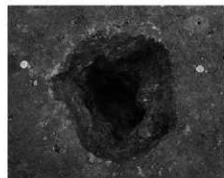
5. 17号ピット全景(北から)



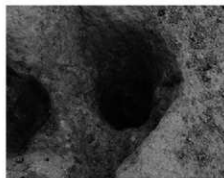
6. 19号ピット全景(南から)



7. 25号ピット全景(南から)



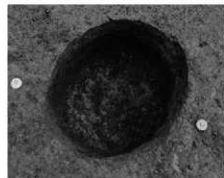
8. 26号ピット全景(南から)



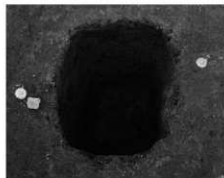
9. 31号ピット全景(南から)



10. 40号ピット全景(東から)



11. 61号ピット全景(南から)



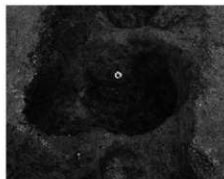
12. 66号ピット全景(南から)



13. 68～75号ピット全景(西から)



14. 68号ピット全景(西から)



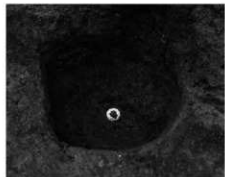
15. 69号ピット全景(西から)



1. 70号ビット全景(西から)



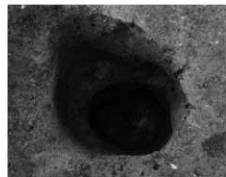
2. 73号ビット全景(西から)



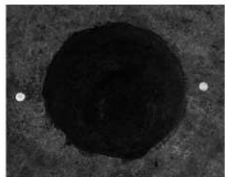
3. 78号ビット全景(南から)



4. 79号ビット全景(南から)



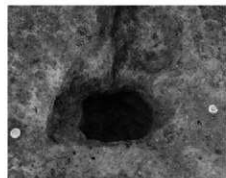
5. 80号ビット全景(南から)



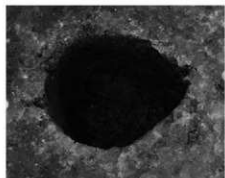
6. 82号ビット全景(南から)



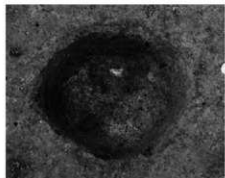
7. 83号ビット全景(南から)



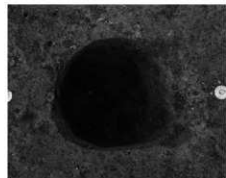
8. 84号ビット全景(南から)



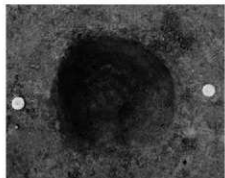
9. 85号ビット全景(南から)



10. 87号ビット全景(南から)



11. 88号ビット全景(南から)



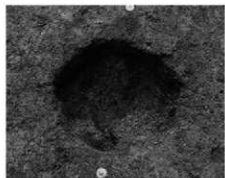
12. 90号ビット全景(南から)



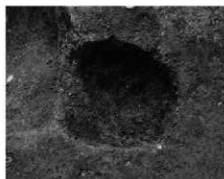
13. 93号ビット全景(東から)



14. 96号ビット全景(東から)



15. 97号ビット全景(東から)



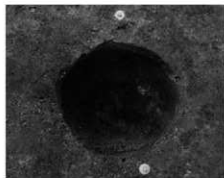
1. 98号ピット全景(東から)



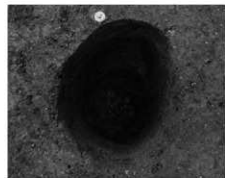
2. 99号ピット全景(東から)



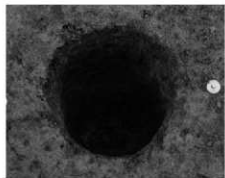
3. 102号ピット全景(東から)



4. 103号ピット全景(東から)



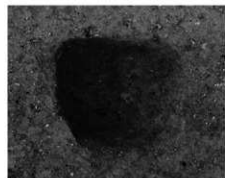
5. 104号ピット全景(東から)



6. 105号ピット全景(南から)



7. 107号ピット全景(南から)



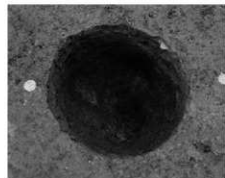
8. 109号ピット全景(南から)



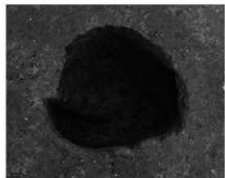
9. 110号ピット全景(南から)



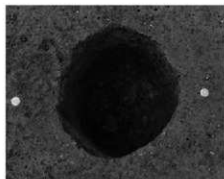
10. 112号ピット全景(南から)



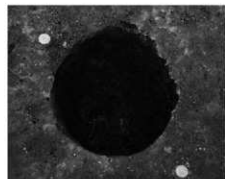
11. 113号ピット全景(南から)



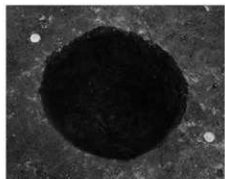
12. 114号ピット全景(南から)



13. 115号ピット全景(南から)



14. 116号ピット全景(南から)



15. 117号ピット全景(南から)



1. 118号ビット全景(南から)



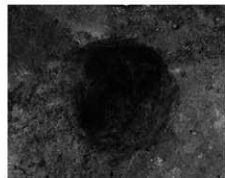
2. 119号ビット全景(南から)



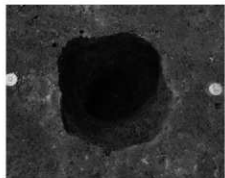
3. 120号ビット全景(南から)



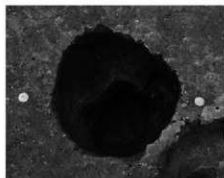
4. 121号ビット全景(南から)



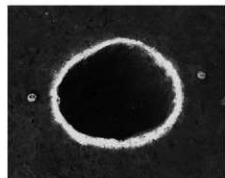
5. 122号ビット全景(南から)



6. 123号ビット全景(南から)



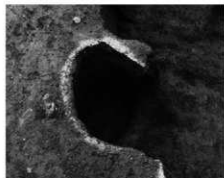
7. 124号ビット全景(東から)



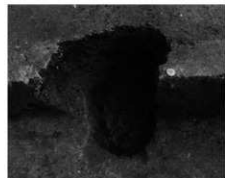
8. 127号ビット全景(南から)



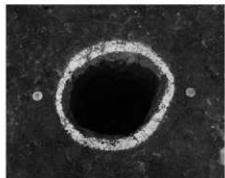
9. 128号ビット全景(東から)



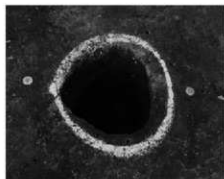
10. 129号ビット全景(東から)



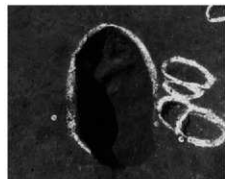
11. 131号ビット全景(西から)



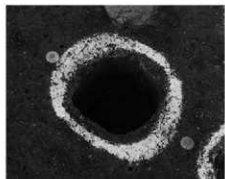
12. 132号ビット全景(東から)



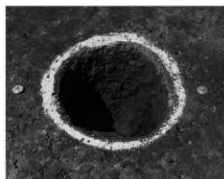
13. 133号ビット全景(東から)



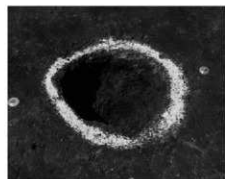
14. 134号ビット全景(東から)



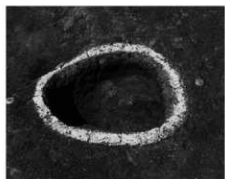
15. 135号ビット全景(東から)



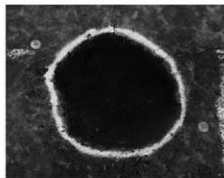
1. 136号ビット全景(東から)



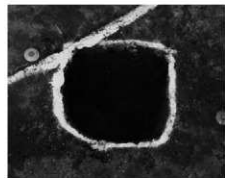
2. 137号ビット全景(東から)



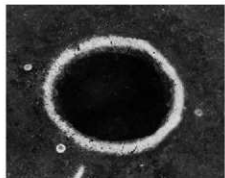
3. 138号ビット全景(東から)



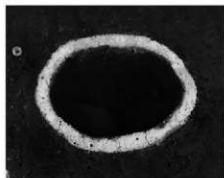
4. 141号ビット全景(南から)



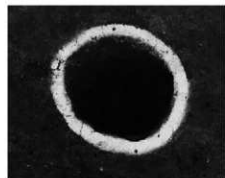
5. 142号ビット全景(東から)



6. 143号ビット全景(南から)



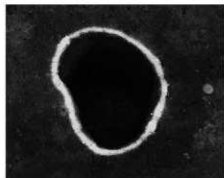
7. 146号ビット全景(南から)



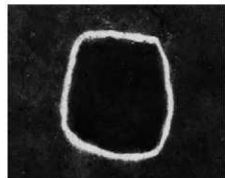
8. 147号ビット全景(南から)



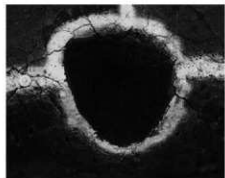
9. 148号ビット全景(東から)



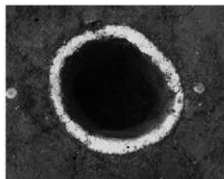
10. 152号ビット全景(西から)



11. 160号ビット全景(南から)



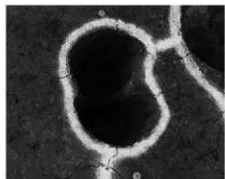
12. 164号ビット全景(南から)



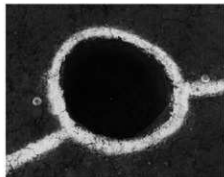
13. 172号ビット全景(南から)



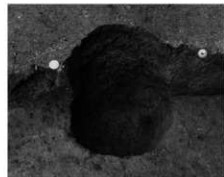
14. 178号ビット全景(南から)



15. 179号ビット全景(南から)



1. 181号ビット全景(南から)



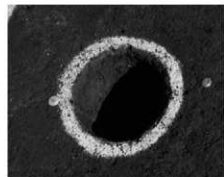
2. 185号ビット全景(東から)



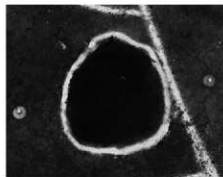
3. 188号ビット全景(西から)



4. 190号ビット全景(南から)



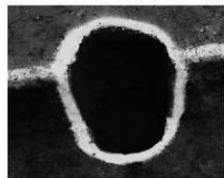
5. 191号ビット全景(南から)



6. 193号ビット全景(南から)



7. 197号ビット全景(東から)



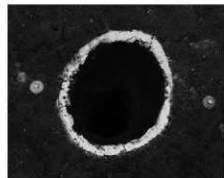
8. 199号ビット全景(北から)



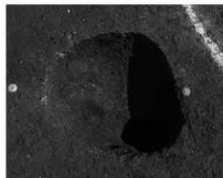
9. 200号ビット全景(東から)



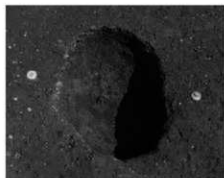
10. 200(手前)・212(奥)号ビット全景(東から)



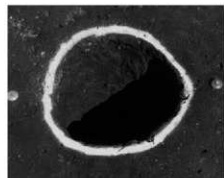
11. 201号ビット全景(東から)



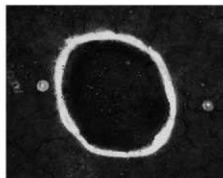
12. 202号ビット全景(南から)



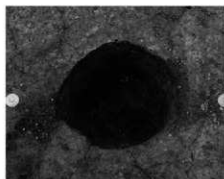
13. 203号ビット全景(南から)



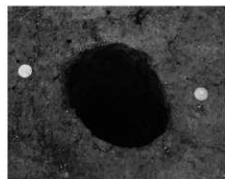
14. 204号ビット全景(南から)



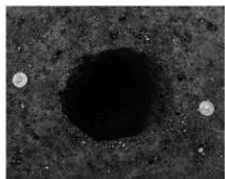
15. 205号ビット全景(南から)



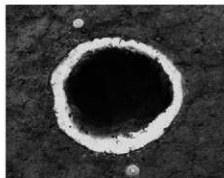
1. 207号ビット全景(南から)



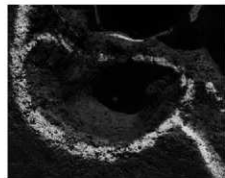
2. 209号ビット全景(南から)



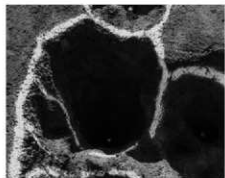
3. 210号ビット全景(南から)



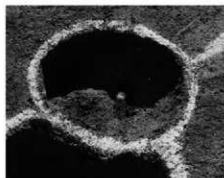
4. 213号ビット全景(東から)



5. 216号ビット全景(西から)



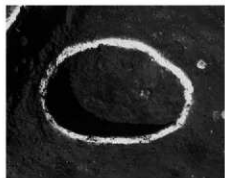
6. 217号ビット全景(西から)



7. 218号ビット全景(西から)



8. 219号ビット全景(東から)



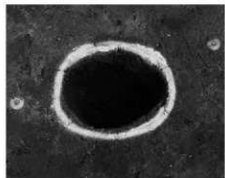
9. 220号ビット全景(東から)



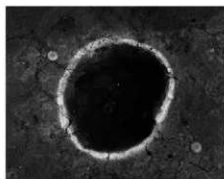
10. 222号ビット全景(東から)



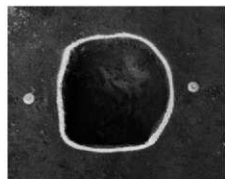
11. 225号ビット全景(東から)



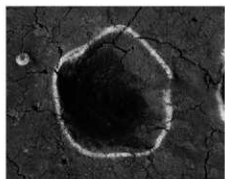
12. 226号ビット全景(南から)



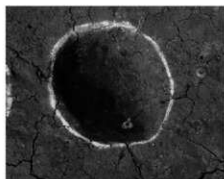
13. 227号ビット全景(南から)



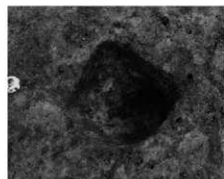
14. 230号ビット全景(東から)



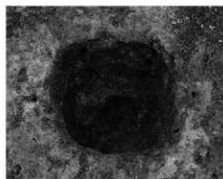
15. 232号ビット全景(東から)



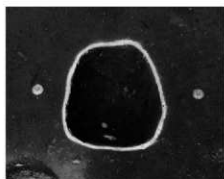
1. 233号ビット全景(東から)



2. 234号ビット全景(東から)



3. 235号ビット全景(東から)



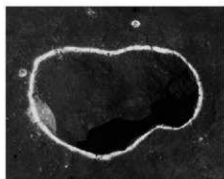
4. 237号ビット全景(東から)



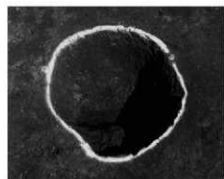
5. 240号ビット全景(南から)



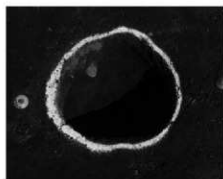
6. 241号ビット全景(南から)



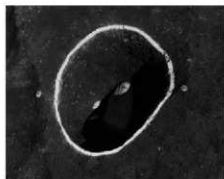
7. 244号ビット全景(南から)



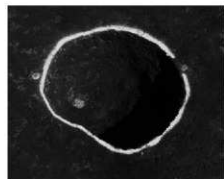
8. 245号ビット全景(南から)



9. 246号ビット全景(南から)



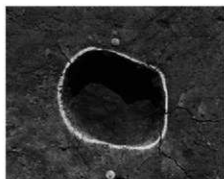
10. 247号ビット全景(南から)



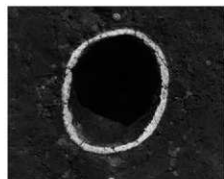
11. 248号ビット全景(南から)



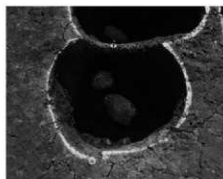
12. 250号ビット全景(南から)



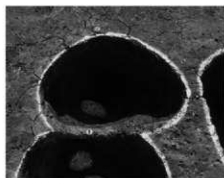
13. 251号ビット全景(西から)



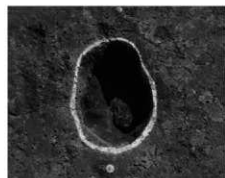
14. 252号ビット全景(西から)



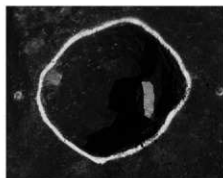
15. 255号ビット全景(西から)



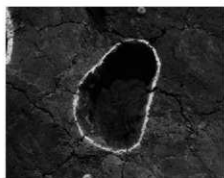
1. 256号ビット全景(西から)



2. 257号ビット全景(西から)



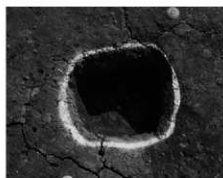
3. 262号ビット全景(南から)



4. 266号ビット全景(西から)



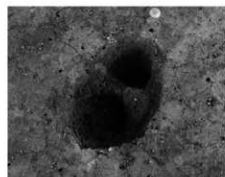
5. 269号ビット全景(南から)



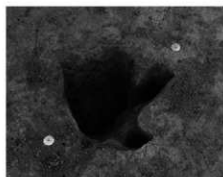
6. 273号ビット全景(西から)



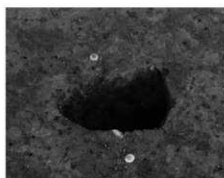
7. 279号ビット全景(南から)



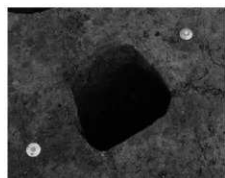
8. 286号ビット全景(南から)



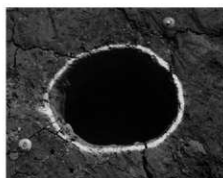
9. 289号ビット全景(南から)



10. 292号ビット全景(南から)



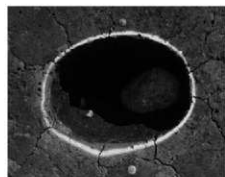
11. 300号ビット全景(南から)



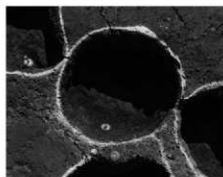
12. 308号ビット全景(西から)



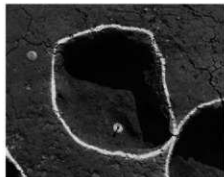
13. 309号ビット全景(西から)



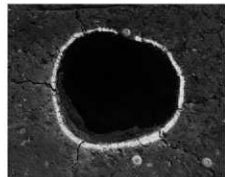
14. 310号ビット全景(西から)



15. 313号ビット全景(西から)



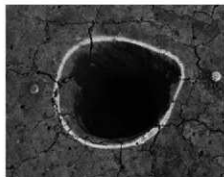
1. 314号ピット全景(西から)



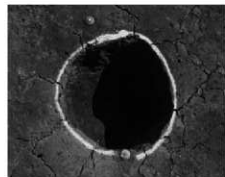
2. 316号ピット全景(西から)



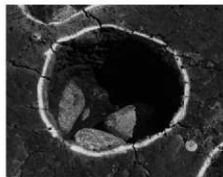
3. 317号ピット全景(西から)



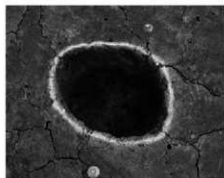
4. 322号ピット全景(西から)



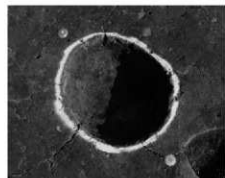
5. 325号ピット全景(西から)



6. 329号ピット全景(西から)



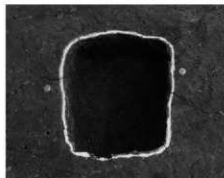
7. 331号ピット全景(西から)



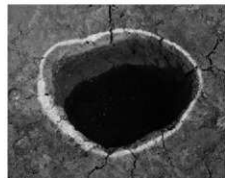
8. 335号ピット全景(西から)



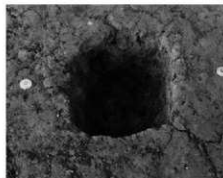
9. 344号ピット全景(西から)



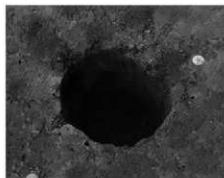
10. 347号ピット全景(西から)



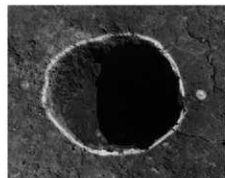
11. 353号ピット全景(西から)



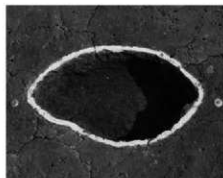
12. 354号ピット全景(南から)



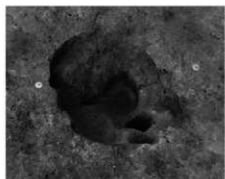
13. 355号ピット全景(東から)



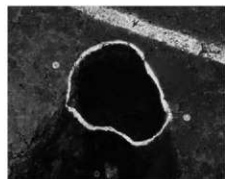
14. 356号ピット全景(西から)



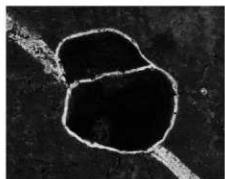
15. 361号ピット全景(西から)



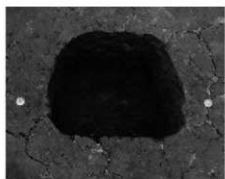
1. 362号ビット全景(東から)



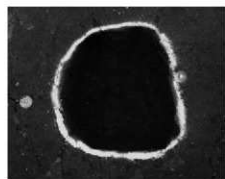
2. 363号ビット全景(南から)



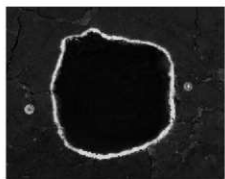
3. 364号ビット全景(南から)



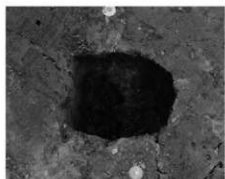
4. 365号ビット全景(南から)



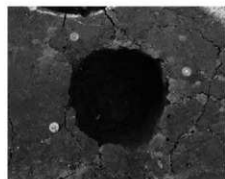
5. 366号ビット全景(南から)



6. 367号ビット全景(南から)



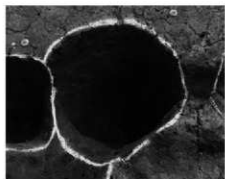
7. 368号ビット全景(東から)



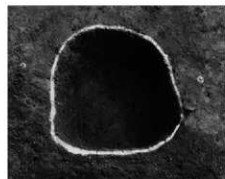
8. 369号ビット全景(東から)



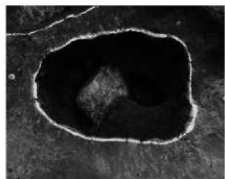
9. 370号ビット全景(南から)



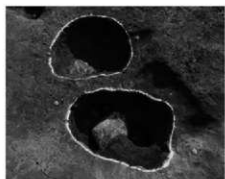
10. 371号ビット全景(北から)



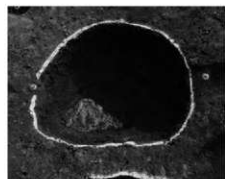
11. 372号ビット全景(北から)



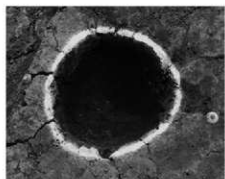
12. 373号ビット全景(北から)



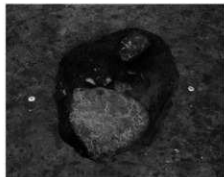
13. 373(手前)・374(奥)号ビット全景(北から)



14. 374号ビット全景(北から)



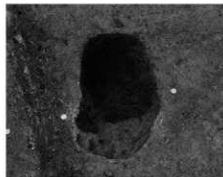
15. 376号ビット全景(北から)



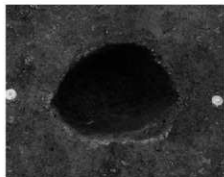
1. 377号ビット全景(南から)



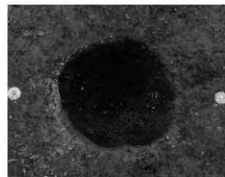
2. 378号ビット全景(南から)



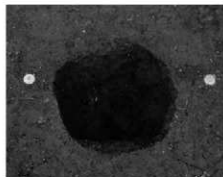
3. 379号ビット全景(南から)



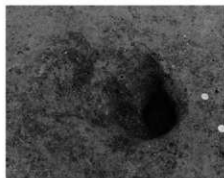
4. 380号ビット全景(南から)



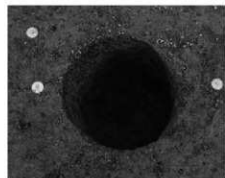
5. 381号ビット全景(南から)



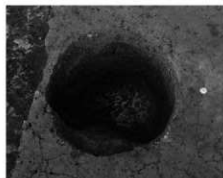
6. 382号ビット全景(南から)



7. 386号ビット全景(南から)



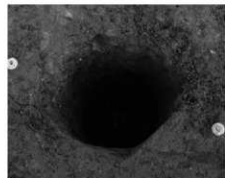
8. 387号ビット全景(南から)



9. 397号ビット全景(南から)



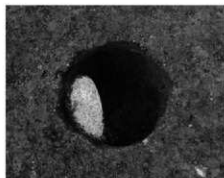
10. 398号ビット全景(南から)



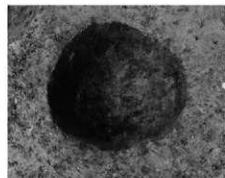
11. 399号ビット全景(西から)



12. 403号ビット全景(南から)



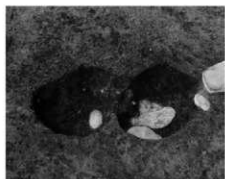
13. 404号ビット全景(南から)



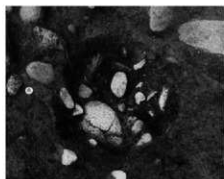
14. 405号ビット全景(南から)



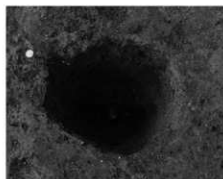
15. 406号ビット全景(南から)



1. 407(左)・408(右)号ピット全景(南から)



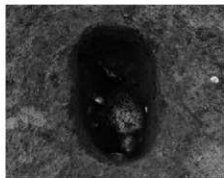
2. 410号ピット全景(南から)



3. 411号ピット全景(南から)



4. 412(左)・413(右)号ピット全景(南から)



5. 414号ピット全景(東から)



6. 415号ピット全景(南から)



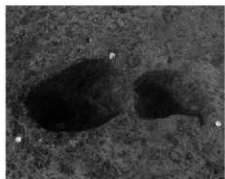
7. 416号ピット全景(東から)



8. 417号ピット全景(南から)



9. 418号ピット全景(南から)



10. 419(左)・420(右)号ピット全景(南から)



1. 1号住居全景(南から)



2. 1号住居掘方全景(南から)



3. 1号住居跡全景(南から)



4. 1号住居遺物(№1)出土状況(北西から)



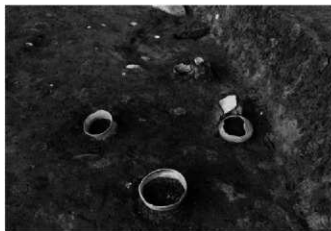
5. 1号住居遺物(№1)出土状況(西から)



1. 2号住居全景(南から)



2. 2号住居掘方全景(南から)



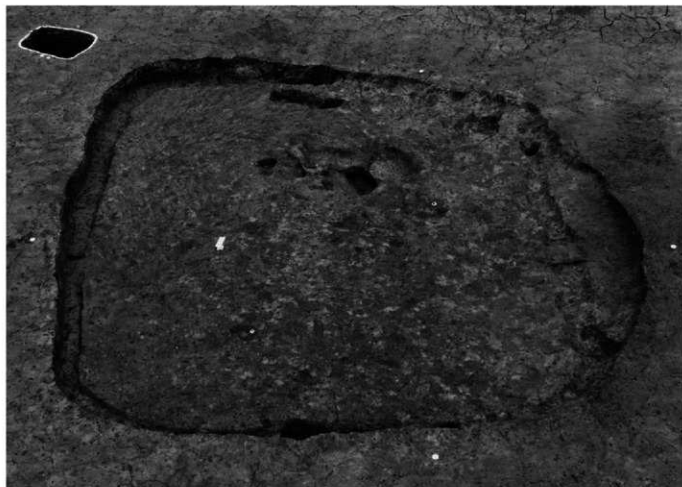
3. 2号住居遺物(№1~4)出土状況(南から)



4. 2号住居炉全景(南から)



5. 3号住居掘方全景(南から)



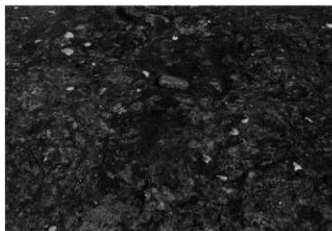
1. 3号住居全景(南から)



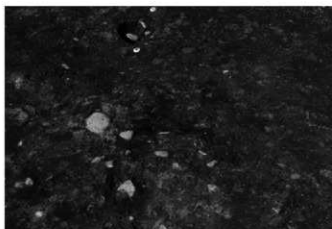
2. 4号住居全景(南から)



1. 4号住居掘方全景(南から)



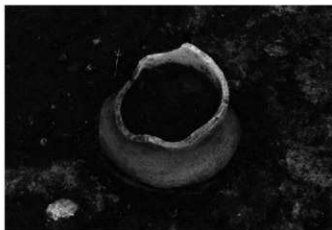
2. 4号住居1号跡全景(南から)



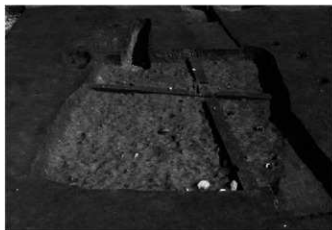
3. 4号住居2号跡全景(東から)



4. 4号住居遺物(No.1)出土状況(南から)



5. 4号住居遺物(No.1)出土状況(南から)



6. 5号住居掘方全景(南から)



7. 5号住居跡全景(南から)



8. 5号住居遺物出土状況(南から)



1. 5号住居全景(南から)



2. 5号住居上面礫出土状況1(東から)



3. 5号住居上面礫出土状況2(東から)



4. 5号住居上面礫・遺物等出土状況(東から)



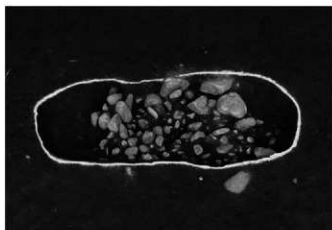
5. 5号溝全景(南から)



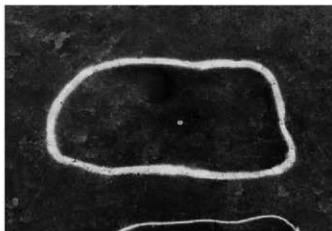
1. 22号溝全景(東から)



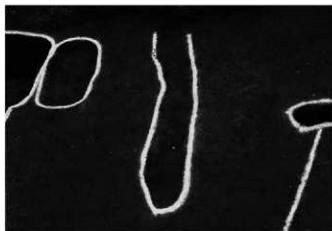
2. 44号土坑全景(北から)



3. 72号土坑全景(南から)



4. 81号土坑全景(西から)



5. 96号土坑全景(西から)



6. 119号土坑全景(北から)



7. 125号土坑全景(西から)



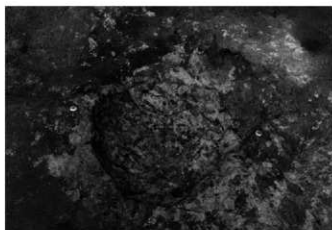
1. 133号土坑全景(西から)



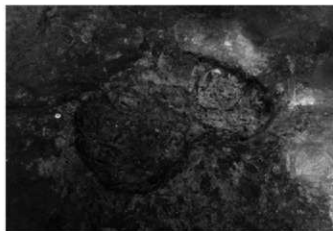
2. 140号土坑全景(北から)



3. 142号土坑全景(南から)



4. 152号土坑全景(南から)



5. 155号土坑全景(南から)



6. 194号土坑全景(南から)



7. 195号土坑全景(南から)



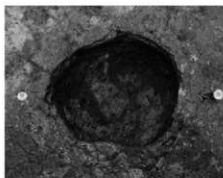
8. 196号土坑全景(北から)



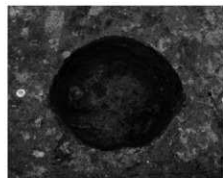
1. 197号土坑全景(南から)



2. 198号土坑全景(北から)



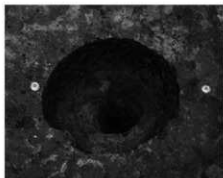
3. 423号ピット全景(南西から)



4. 424号ピット全景(南西から)



5. 425号ピット全景(北西から)



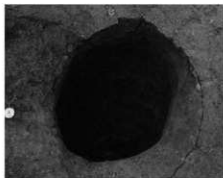
6. 426号ピット全景(南西から)



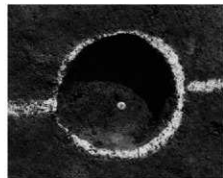
7. 1区調査風景(西から)



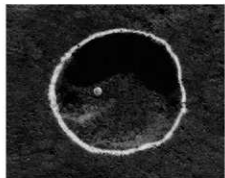
8. 1区調査風景(北西から)



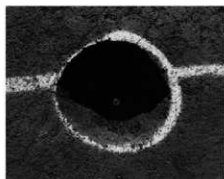
9. 81号ピット全景(東から)



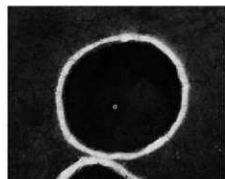
10. 155号ピット全景(西から)



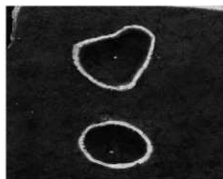
11. 156号ピット全景(西から)



1. 157号ピット全景(西から)



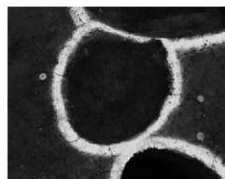
2. 161号ピット全景(西から)



3. 162(手前)・163(奥)号ピット全景(西から)



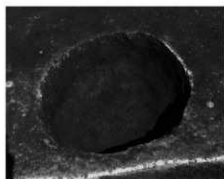
4. 163号ピット全景(西から)



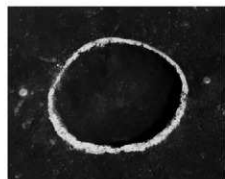
5. 167号ピット全景(西から)



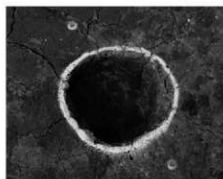
6. 194号ピット全景(西から)



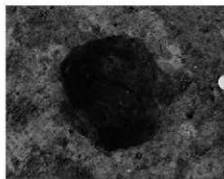
7. 195号ピット全景(南から)



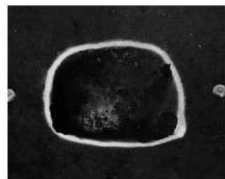
8. 196号ピット全景(南から)



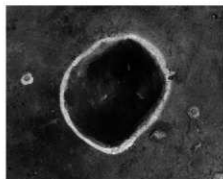
9. 231号ピット全景(東から)



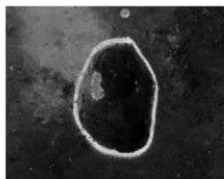
10. 236号ピット全景(東から)



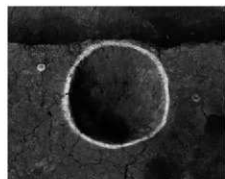
11. 238号ピット全景(東から)



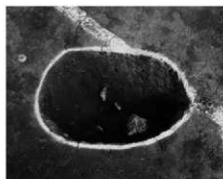
12. 239号ピット全景(南から)



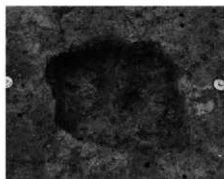
13. 242号ピット全景(南から)



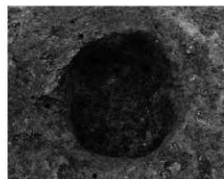
14. 264号ピット全景(東から)



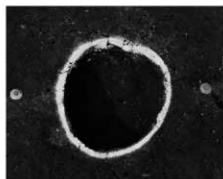
15. 265号ピット全景(南から)



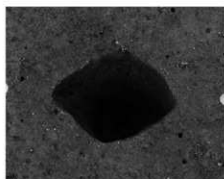
1. 268号ビット全景(南から)



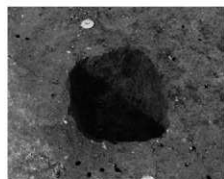
2. 270号ビット全景(南から)



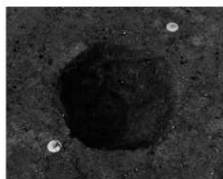
3. 272号ビット全景(南から)



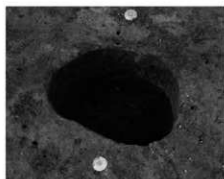
4. 274号ビット全景(南から)



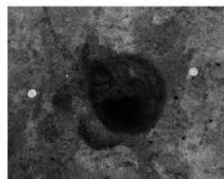
5. 275号ビット全景(南から)



6. 276号ビット全景(南から)



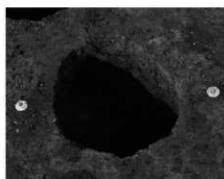
7. 277号ビット全景(南から)



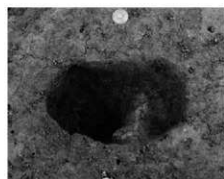
8. 278号ビット全景(南から)



9. 280号ビット全景(南から)



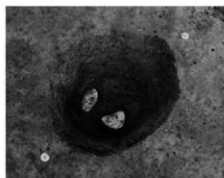
10. 281号ビット全景(南から)



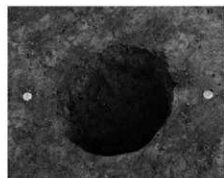
11. 282号ビット全景(南から)



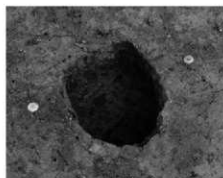
12. 283号ビット全景(南から)



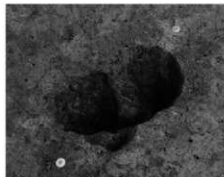
13. 284号ビット全景(南から)



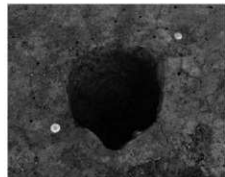
14. 287号ビット全景(南から)



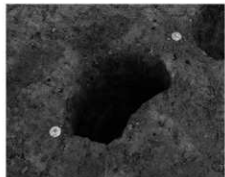
15. 288号ビット全景(南から)



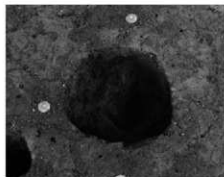
1. 290号ビット全景(南から)



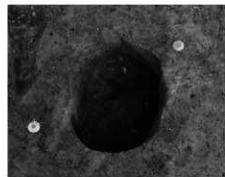
2. 291号ビット全景(南から)



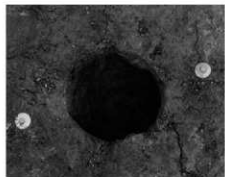
3. 294号ビット全景(南から)



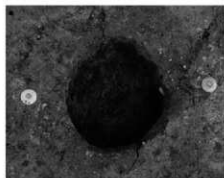
4. 295号ビット全景(南から)



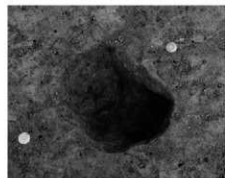
5. 296号ビット全景(南から)



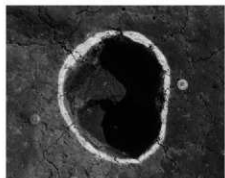
6. 297号ビット全景(南から)



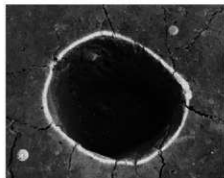
7. 298号ビット全景(南から)



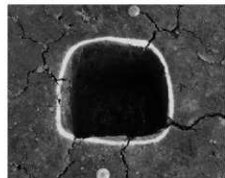
8. 299号ビット全景(南から)



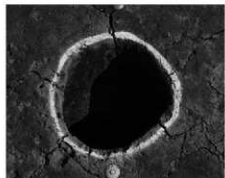
9. 301号ビット全景(西から)



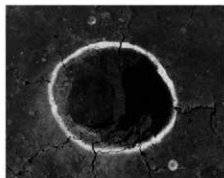
10. 304号ビット全景(西から)



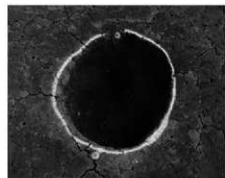
11. 305号ビット全景(西から)



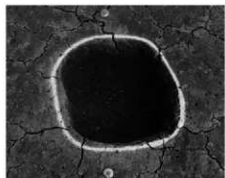
12. 318号ビット全景(西から)



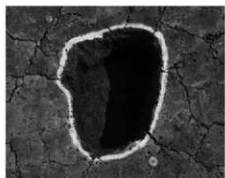
13. 319号ビット全景(西から)



14. 320号ビット全景(西から)



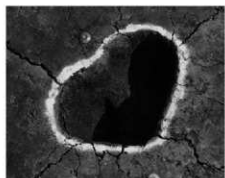
15. 321号ビット全景(西から)



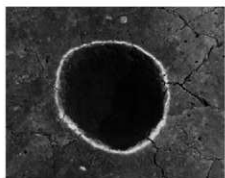
1. 323号ビット全景(西から)



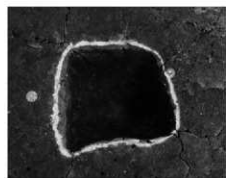
2. 326号ビット全景(西から)



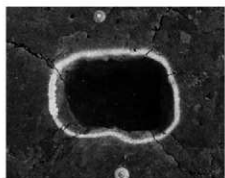
3. 327号ビット全景(西から)



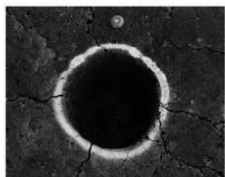
4. 330号ビット全景(西から)



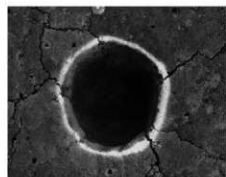
5. 332号ビット全景(西から)



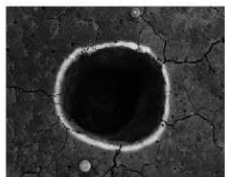
6. 333号ビット全景(西から)



7. 334号ビット全景(西から)



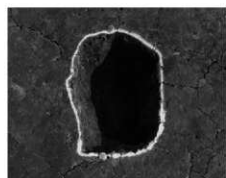
8. 337号ビット全景(西から)



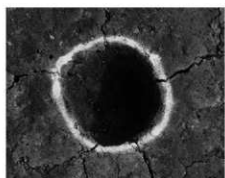
9. 338号ビット全景(西から)



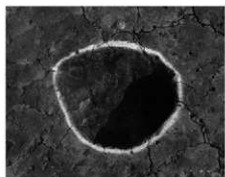
10. 339号ビット全景(西から)



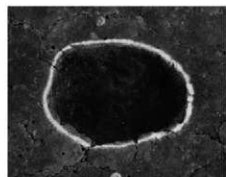
11. 340号ビット全景(西から)



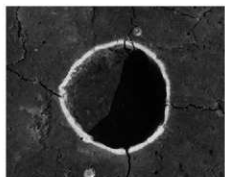
12. 341号ビット全景(西から)



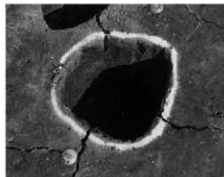
13. 342号ビット全景(西から)



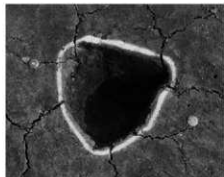
14. 343号ビット全景(西から)



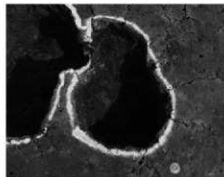
15. 345号ビット全景(西から)



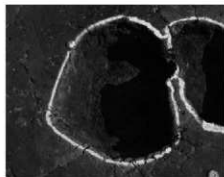
1. 346号ピット全景(西から)



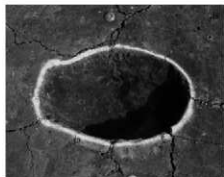
2. 348号ピット全景(西から)



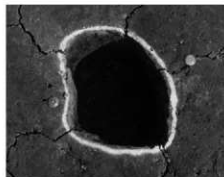
3. 349号ピット全景(西から)



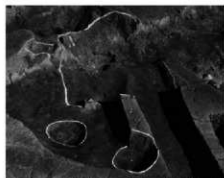
4. 350号ピット全景(西から)



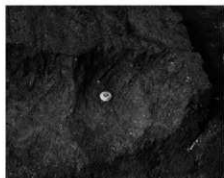
5. 351号ピット全景(西から)



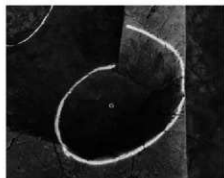
6. 352号ピット全景(西から)



7. 359(手前・右)360(手前・左)号ピット
全景(南から)



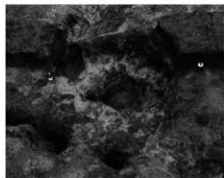
8. 358号ピット全景(南から)



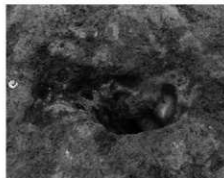
9. 359号ピット全景(南から)



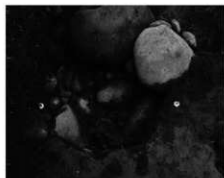
10. 360号ピット全景(南から)



11. 428号ピット全景(西から)



12. 431号ピット全景(東から)



13. 429号ピット全景(西から)



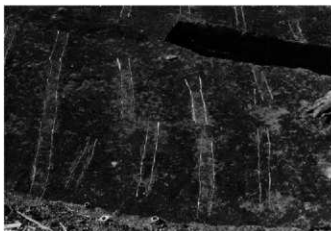
14. 430号ピット全景(南東から)



15. 432号ピット全景(東から)



1. 18~20号畑全景(南から)



2. 18号畑全景(南から)



3. 19号畑全景(南から)



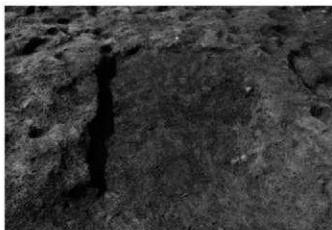
4. 20号畑全景(南から)



5. 200号土坑全景(北から)



6. 200号土坑遺物出土状況(北から)



7. 199号土坑全景(南東から)



8. 2号配石東側遺物出土状況(南から)



1. 23号溝全景(東から)



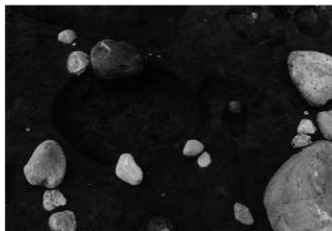
2. 2号井戸全景(北から)



3. 201号土坑全景(西から)



4. 202号土坑全景(南から)



5. 203(左)・204(右)号土坑全景(南から)



6. 206号土坑全景(東から)



7. 207号土坑全景(西から)



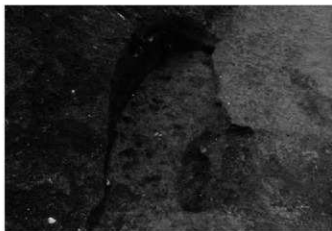
1. 207号土坑遺物出土状況(西から)



2. 208号土坑全景(南から)



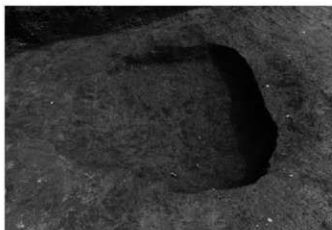
3. 209号土坑全景(東から)



4. 210号土坑全景(東から)



5. 210号土坑遺物出土状況(東から)



6. 211号土坑全景(西から)



7. 211号土坑遺物出土状況(西から)



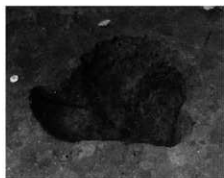
1. 212号土坑全景(西から)



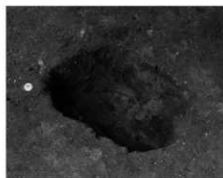
2. 212号土坑遺物出土状況(北から)



3. 433号ピット全景(東から)



4. 434号ピット全景(東から)



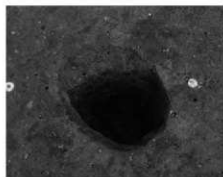
5. 435号ピット全景(東から)



6. 436号ピット全景(東から)



7. 437(左)・438(右)号ピット全景(南から)



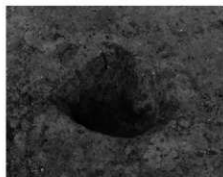
8. 439号ピット全景(西から)



9. 440号ピット全景(南西から)



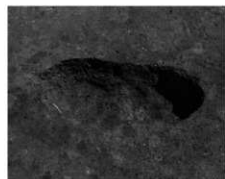
10. 441号ピット全景(南西から)



11. 442号ピット全景(南西から)



1. 443号ピット全景(西から)



2. 444号ピット全景(南西から)



3. 445号ピット全景(南西から)



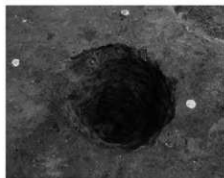
5. 446号ピット全景(南から)



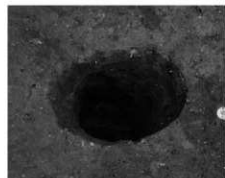
6. 447(左)・448(右)号ピット全景(西から)



7. 449号ピット全景(西から)



8. 450号ピット全景(西から)



9. 451号ピット全景(西から)



10. 452号ピット全景(西から)



11. 453号ピット全景(南から)



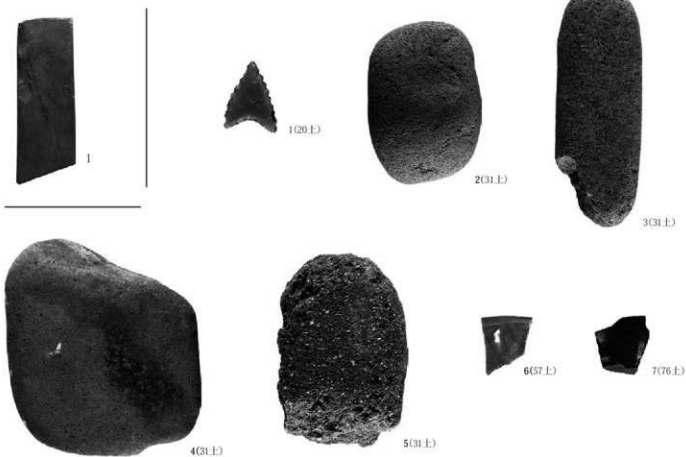
12. 5区調査風景(東から)



13. 5区調査風景(東から)

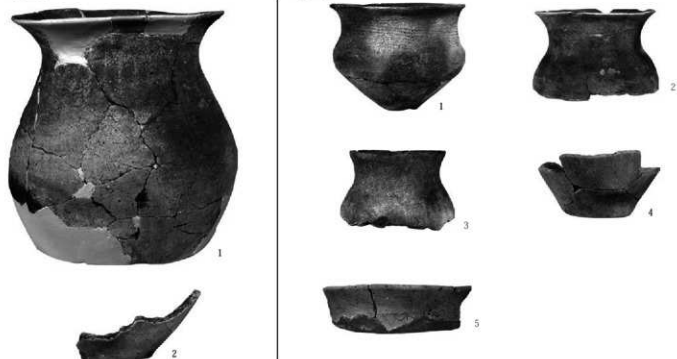
7号棚

土坑出土遺物



1号住居

2号住居



3号住居



4号住居



5号住居(1)



4・5号住居出土遺物(1)

5号住居(2)



11



12



13



14



15



16



18



17



19



20



21



22

25号溝



1

142号土坑



1

27号溝



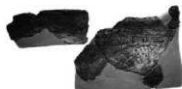
23号溝



209号土坑



5区3面ビット



2・4区道構外出土遺物



5区道構外出土遺物(1)



PL.68

5区遺構外出土遺物(2)



5区遺構外出土遺物(2)

報告書抄録

書名ふりがな	からほりびーいせき
書名	唐堀B遺跡
副書名	上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	630
編著者名	高島英之・田村博
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2017
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	からほりびーいせき
遺跡名	唐堀B遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんあがつまくんひがしがつたままちおおあざみしまあざからほり
遺跡所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町大字三島字唐堀
市町村コード	10429
遺跡番号	121
北緯(世界測地系)	36331.24
東経(世界測地系)	1384653.28
調査期間	20140801-20141031/20150601-20151231
調査面積	7,745.5
調査原因	道路建設
種別	集落、畑
主な時代	弥生/近世
遺跡概要	弥生時代後期集落—竪穴住居5—土器+石製品/近世集落・耕地—掘立柱建物13 + 櫓7 + 畑16 + 道路1 + 溝26 + 井戸1 + 配石2 + 土坑200 + ビット362—土器+陶磁器+石製品+鉄製品+銅銭
特記事項	遺跡所在地周辺ではじめて発見された弥生時代後期の住居群
要約	北を吾妻川、東を温川に囲まれた河岸段丘の最下位段丘面上に立地する弥生時代後期の竪穴住居群と、近世を主体とする掘立柱建物群・畑・土坑群などの遺構が検出された。住居や建物など、集落を構成する中心的な遺構の検出数は決して多くはなく、また、弥生時代後期の竪穴住居と近世以降の掘立柱建物のみであり、時期的にも極めて限定されている。この地域における人々の生活の根拠である居住域の中心部分には本遺跡の調査範囲外であったとみられる。検出された遺構の種類としては、土坑、ビットの類が非常に多い。畑など、耕作地としての生活の痕跡は存在するものの、人々が生活の根拠である居住地としての集落の中心部は、より安定的に平坦地が確保できる場所にあったとみられる。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第630集

唐堀B遺跡

上信自動車道吾妻西バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成29(2017)年10月11日 印刷

平成29(2017)年10月17日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

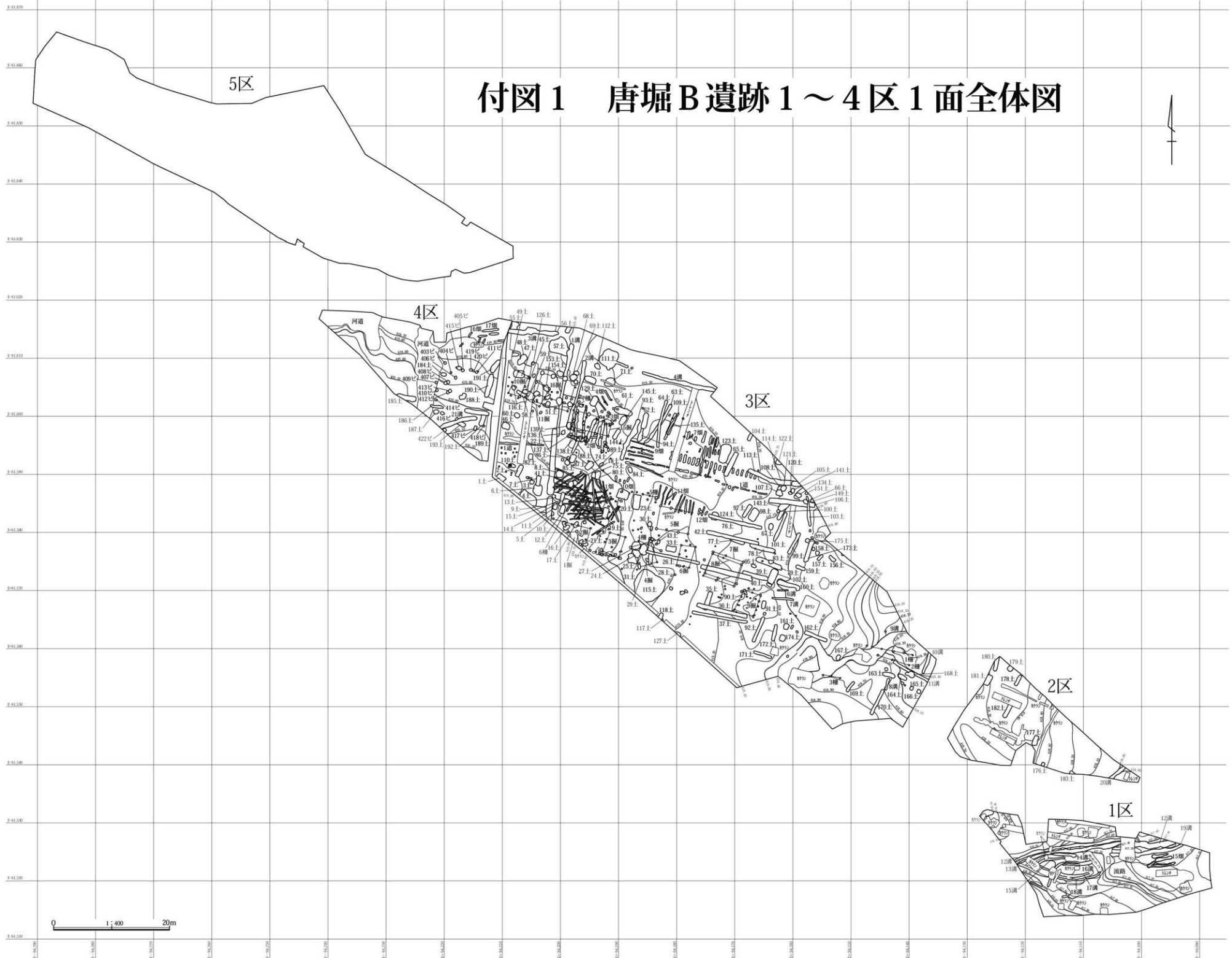
〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田1784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社大塚カラー 群馬事業所

付図1 唐堀B遺跡1～4区1面全体図



付図2 唐堀B遺跡1～4区2面全体図



0 1:400 20m

付図3 唐堀B遺跡5区1～3面全体図

